

令和2年度
「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」
調査報告書

長野市

目 次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計 報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的なこと	21
	女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関することについて	41
	仕事と生活の調和に関することについて	85
	地域社会に関することについて	119
	旧姓使用に関することについて	129
	男女の人権に関することについて	135
	性の多様性に関することについて	143
	男女共同参画施策に関することについて	155
	資 料	161
	単純集計	163
	調 査 票	187

I 調査の概要

1 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象

令和2年9月1日現在で長野市に在住する18歳以上75歳未満の男女各1,000人
(計:2,000人)

3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒(料金受取人払)により調査票を返送してもらう郵送調査法による(調査票は別紙のとおり)。

5 調査時期

令和2年9月10日(木) ~ 令和2年9月30日(水)

6 送付・回収状況

送付数:2,000票

回収数: 863票 (回収率:43.2%)

【男性票: 370票、女性票: 487票 性別無回答: 6票】

7 調査事項

● 回答者の属性

A性別 B年齢 C職業 D家族 E配偶者の有無

F子の有無 G配偶者またはパートナーの就業の有無

(1) 一般的な質問

(2) 女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関する質問

(3) 仕事と生活の調和に関する質問

(5) 地域社会に関する質問

(6) 旧姓使用に関する質問

(7) 男女の人権に関する質問

(8) 性の多様性に関する質問

(9) 男女共同参画施策に関する質問

(10) 自由記入

8 調査票の集計

電子計算機による集計(委託)

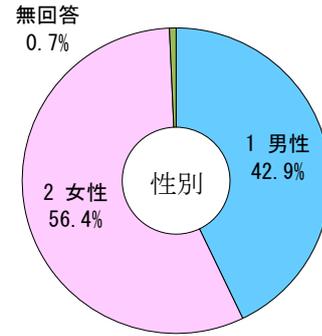
報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。従って、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。
- ⑤回答者数が少ない場合参考値として掲載。データの精度が低くなる為その分析は行わないものとする。

II 回答者の属性

A 性別

	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	370	42.9
2 女性	487	56.4
無回答	6	0.7
合計	863	100.0



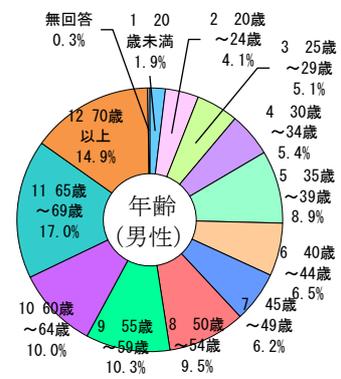
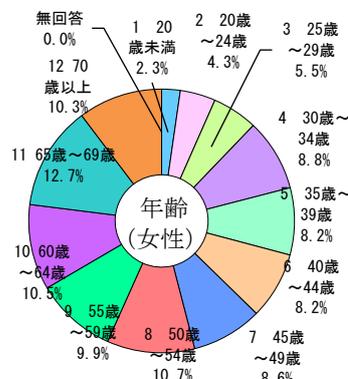
B 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 20歳未満	18	11	7	0	2.1	2.3	1.9	0.0
2 20歳～24歳	36	21	15	0	4.2	4.3	4.1	0.0
3 25歳～29歳	46	27	19	0	5.3	5.5	5.1	0.0
4 30歳～34歳	63	43	20	0	7.3	8.8	5.4	0.0
5 35歳～39歳	74	40	33	1	8.6	8.2	8.9	16.7
6 40歳～44歳	64	40	24	0	7.4	8.2	6.5	0.0
7 45歳～49歳	65	42	23	0	7.5	8.6	6.2	0.0
8 50歳～54歳	87	52	35	0	10.1	10.7	9.5	0.0
9 55歳～59歳	86	48	38	0	10.0	9.9	10.3	0.0
10 60歳～64歳	88	51	37	0	10.2	10.5	10.0	0.0
11 65歳～69歳	125	62	63	0	14.5	12.7	17.0	0.0
12 70歳以上	105	50	55	0	12.2	10.3	14.9	0.0
無回答	6	0	1	5	0.7	0.0	0.3	83.3
合計	863	487	370	6	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



【男女別】

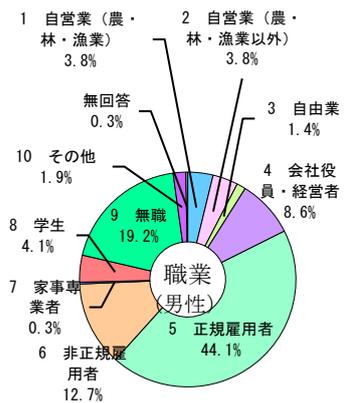
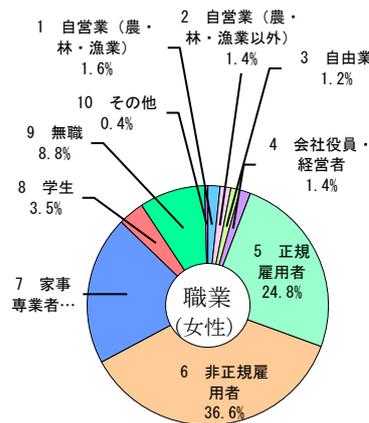
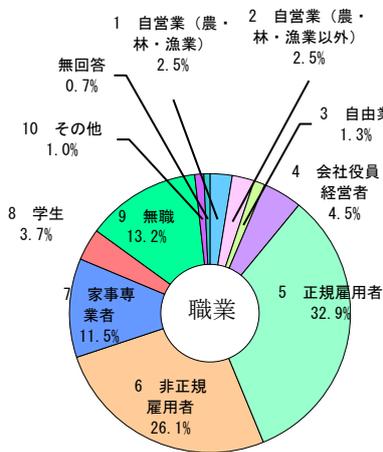


C 職業

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 自営業 (農・林・漁業)	22	8	14	0	2.5	1.6	3.8	0.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	22	7	14	1	2.5	1.4	3.8	16.7
3 自由業	11	6	5	0	1.3	1.2	1.4	0.0
4 会社役員・経営者	39	7	32	0	4.5	1.4	8.6	0.0
5 正規雇用者	284	121	163	0	32.9	24.8	44.1	0.0
6 非正規雇用者	225	178	47	0	26.1	36.6	12.7	0.0
7 家事専業者	99	98	1	0	11.5	20.1	0.3	0.0
8 学生	32	17	15	0	3.7	3.5	4.1	0.0
9 無職	114	43	71	0	13.2	8.8	19.2	0.0
10 その他	9	2	7	0	1.0	0.4	1.9	0.0
無回答	6	0	1	5	0.7	0.0	0.3	83.3
合計	863	487	370	6	100.0	100.0	100.0	100.0

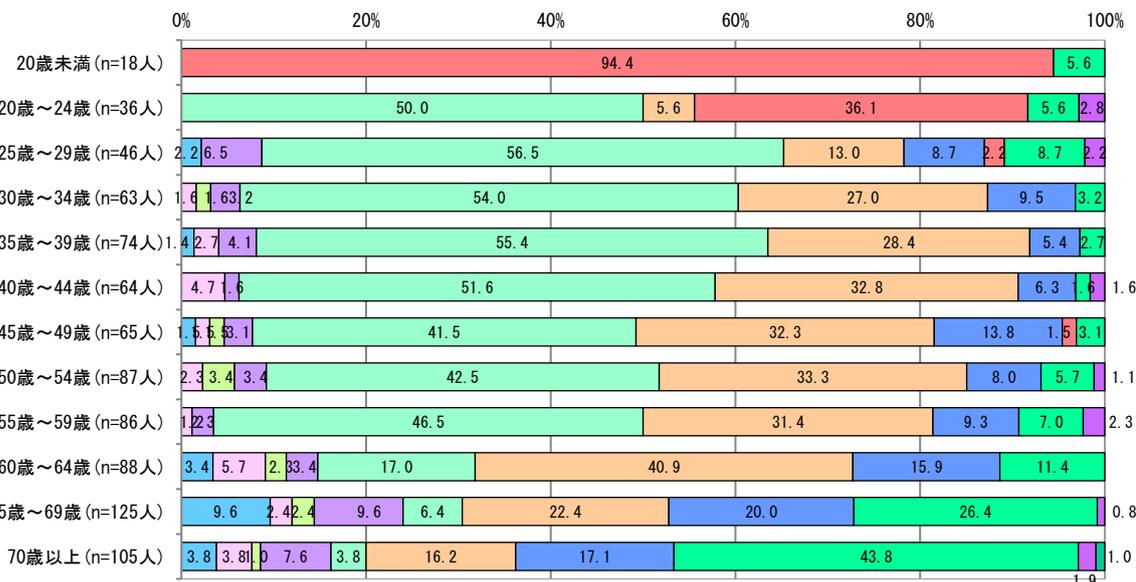
【年代別】

【男女別】



【全体】

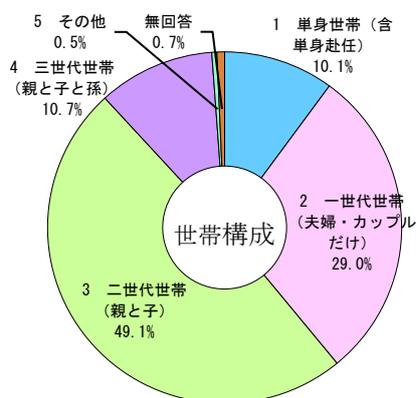
- 自営業 (農・林・漁)
- 正規雇用者
- 自営業 (農・林・漁以外)
- 会社役員・経営者
- 自由業
- 家事専業者
- 非正規雇用者
- 学生
- 無職
- その他
- 無回答



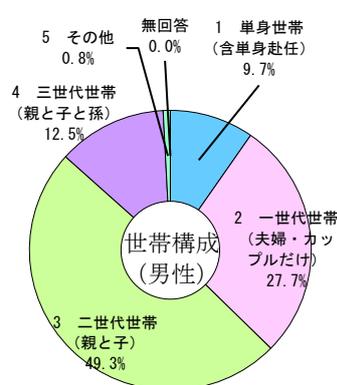
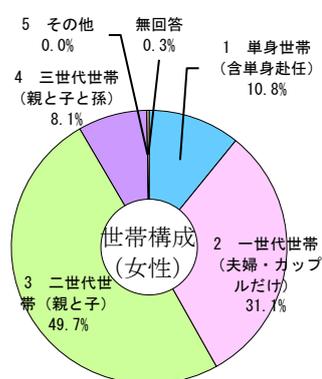
D あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 単身世帯（含単身赴任）	87	40	47	0	10.1	10.8	9.7	0.0
2 一世代世帯（夫婦・カップルだけ）	250	115	135	0	29.0	31.1	27.7	0.0
3 二世世代世帯（親と子）	424	184	240	0	49.1	49.7	49.3	0.0
4 三世世代世帯（親と子と孫）	92	30	61	1	10.7	8.1	12.5	16.7
5 その他	4	0	4	0	0.5	0.0	0.8	0.0
無回答	6	1	0	5	0.7	0.3	0.0	83.3
合計	863	370	487	6	100.0	100.0	100.0	100.0

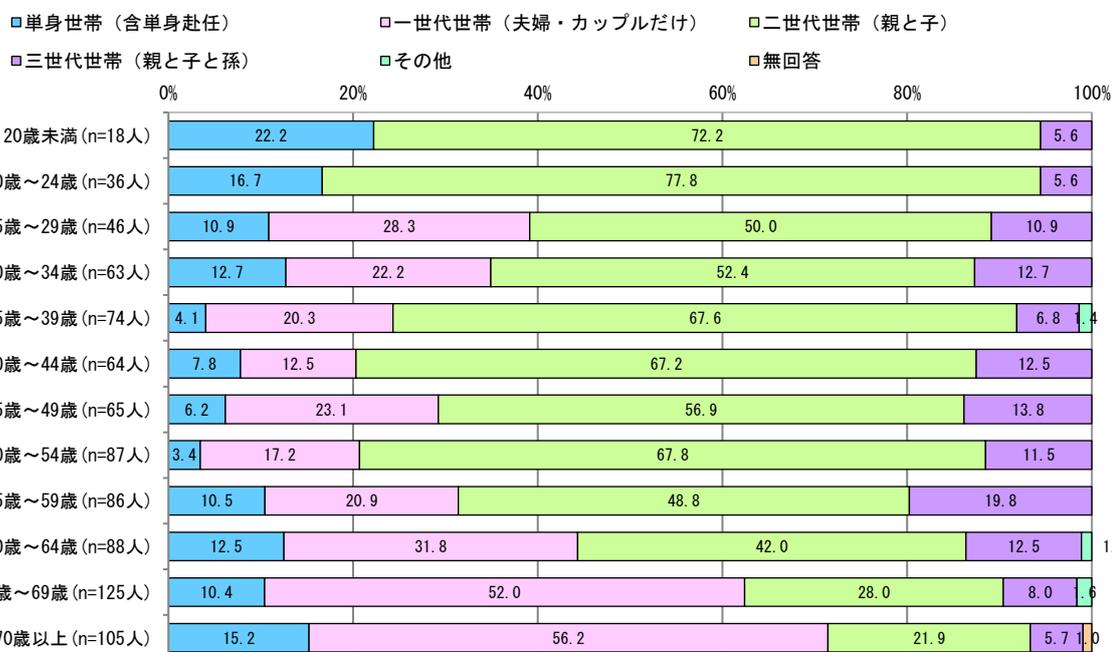
【全体】



【男女別】



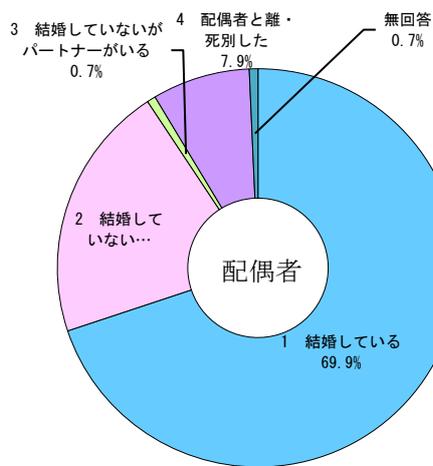
【年代別】



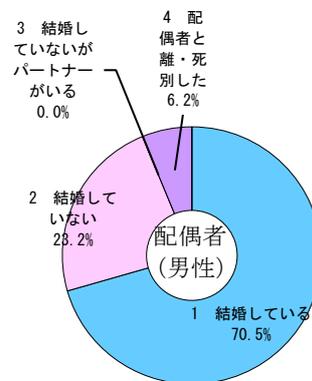
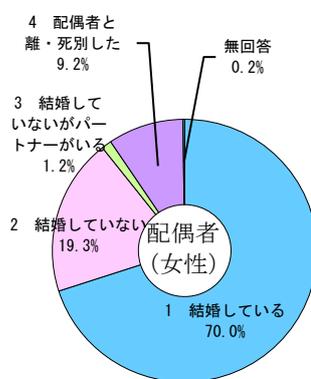
E あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 結婚している	603	341	261	1	69.9	70.0	70.5	16.7
2 結婚していない	180	94	86	0	20.9	19.3	23.2	0.0
3 結婚していないがパートナーがいる	6	6	0	0	0.7	1.2	0.0	0.0
4 配偶者と離・死別した	68	45	23	0	7.9	9.2	6.2	0.0
無回答	6	1	0	5	0.7	0.2	0.0	83.3
合計	863	487	370	6	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

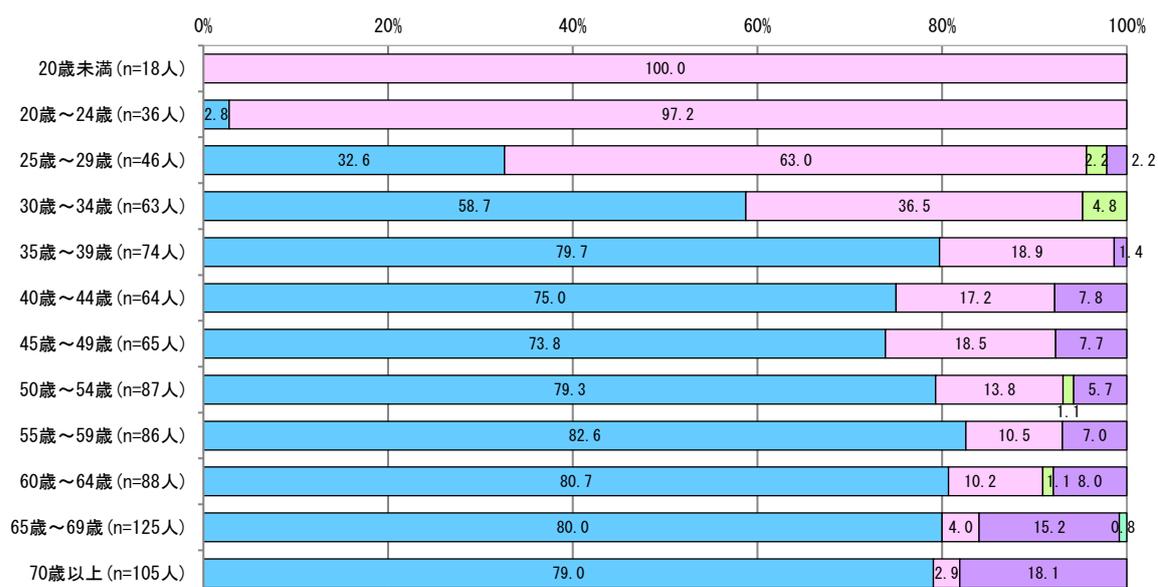


【男女別】



【年代別】

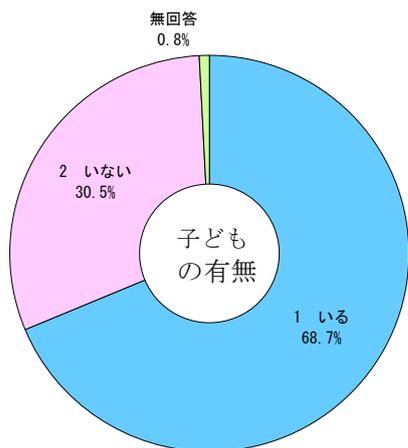
■結婚している □結婚していない ■結婚していないがパートナーがいる ■配偶者と離・死別した ■無回答



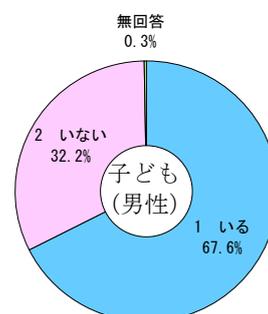
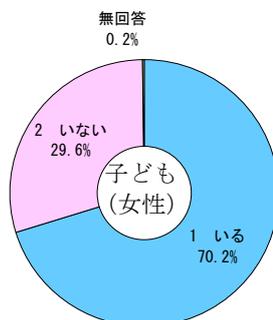
F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる	593	342	250	1	68.7	70.2	67.6	16.7
2 いない	263	144	119	0	30.5	29.6	32.2	0.0
無回答	7	1	1	5	0.8	0.2	0.3	83.3
合計	863	487	370	6	100.0	100.0	100.0	100.0

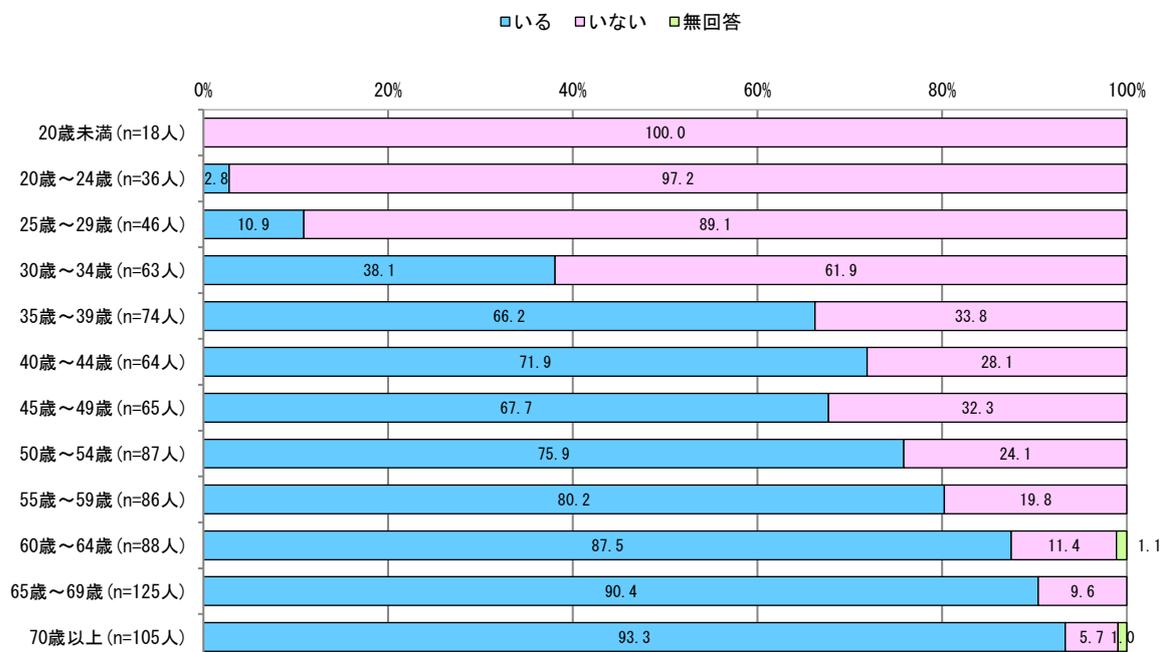
【全体】



【男女別】



【年代別】

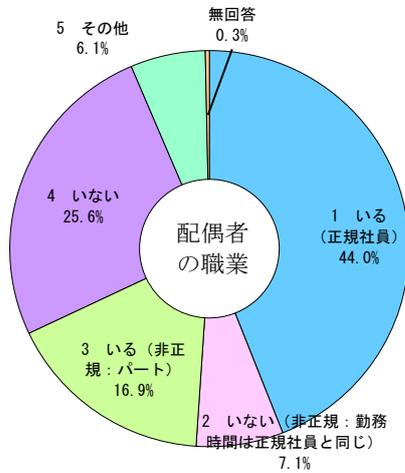


結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

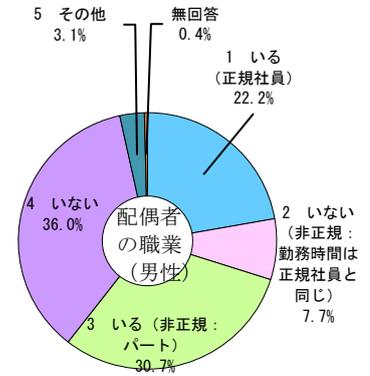
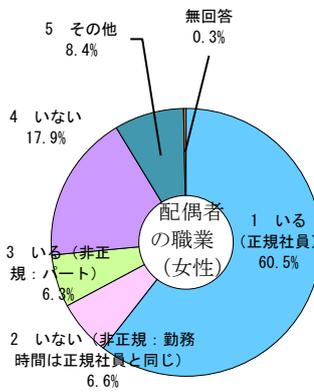
G 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる (正規社員)	268	210	58	0	44.0	60.5	22.2	0.0
2 いる (非正規：勤務時間は正規社員と同じ)	43	23	20	0	7.1	6.6	7.7	0.0
3 いる (非正規：パート)	103	22	80	1	16.9	6.3	30.7	100.0
4 いない	156	62	94	0	25.6	17.9	36.0	0.0
5 その他	37	29	8	0	6.1	8.4	3.1	0.0
無回答	2	1	1	0	0.3	0.3	0.4	0.0
合計	609	347	261	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

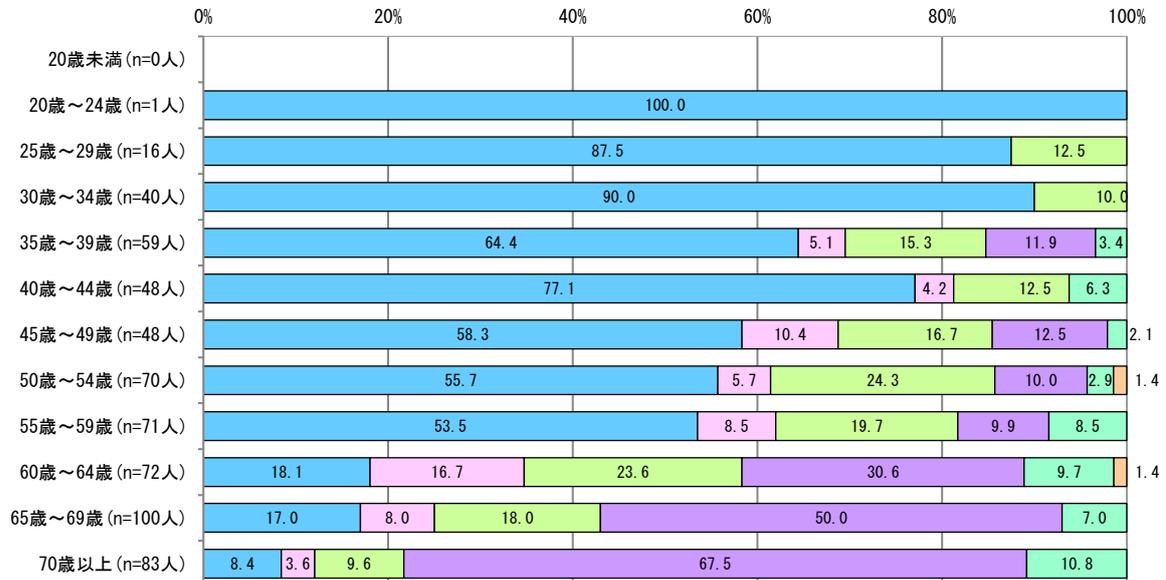


【男女別】



【年代別】

■いる (正規社員) □いる (非正規：勤務時間は正規社員と同じ) □いる (非正規：パート) □いない □その他 □無回答



Ⅲ 結果の概要

1 一般的なこと

(1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「家庭」(46.1%)、「学校教育」(49.8%)の2分野であった。それ以外の分野では「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に「慣習・しきたり」、「政治」では「男性が優位」という回答が7割を超えている。

分野別でみると、「家庭」においては、全体では「平等である」(46.1%)という回答が最も多かったが、「男性が優位」という回答は、男性が22.2%、女性が38.6%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性が優位」という回答は、男性が29.7%なのに対し、女性は45.6%と最も多い回答となっている。また、「地域社会」、「職場」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性が優位」という回答が多く、男女とも約5割～8割となっている。

(2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」、「長野市男女共同参画推進条例」、「女性活躍推進法」、「候補者男女均等法」の4つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「男女共同参画社会」(80.1%)となっている。それ以外の用語の認知度は、いずれも5割を下回っている。

用語別では、いずれの用語においても性別による認知度の差は少ない。「男女共同参画社会」は20歳未満の男性、20歳～24歳の女性、35歳～39歳の男性を除く全ての年代、性別においても6割以上の認知度となっている。

(3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は31.5%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は66.9%となっている。前年に比べ、前者は5.1ポイント減少し、後者は5.4ポイント増加した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答の合計が、半数を上回っている。年代別でみると、20歳未満、25歳～39歳、60歳～64歳の女性と、20歳～29歳、35歳～39歳、45歳～49歳、55歳～59歳の男性で「賛成」がない結果となっている。

(4) 女性が職業をもつことについて

女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多い回答となっている。

2 女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関することについて

(1) 方針決定の場などへの女性活躍の必要性について

方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大、女性の活躍の必要性に関しては、男女ともに「必要だと思う」という回答が最も多い回答となっている。

(2) 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多い。「女性の方が優遇されている」という回答が最も多いのは、「仕事の内容」9.6%となっているが、この項目における「男性の方が優遇されている」は22.7%と女性を上回っている。

(3) 職場における女性の活躍推進について

職場において女性の活躍推進について尋ねたところ、男女ともに「積極的とは言えないが推進している」という回答が最も多くなっている。

女性が活躍するために企業が取り組むべきは何かと尋ねたところ、「とても重要だと思う」と考えている割合が高いのは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(63.7%)、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(60.1%)、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(53.8%)、「非正規労働者の正社員転換・待遇改善」(51.6%)の4分野であった。

(4) 女性の就労意識について

職業についている女性の方に尋ねたところ、「そう思う」と考えている割合が高いのは、「女性が社会で働くには不利な点が多い」(33.9%)、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(27.5%)、「あなた自身は活躍したい」(27.5%)の3分野であった。「思わない」と考えている割合が高いのは、「退職して仕事に就かない」(49.5%)、「管理職への打診があれば受けてみたい」(34.9%)の2分野であった。

(5) 女性の再就職について

離職されている女性に、再就職の際の雇用形態の希望を尋ねたところ、「パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)」(41.8%)という回答が最も多くなっている。次いで「正規社員」(14.9%)、「非正規社員」(6.4%)となっている。

「非正規社員」、「パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)」を回答した方に理由を尋ねたところ、「仕事より家庭生活を優先したいから」(57.4%)が最も多い回答となっており、次いで「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」(45.6%)、「配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから」(30.9%)となっている。

(6) 離職の原因(理由)について

離職の原因(理由)について尋ねたところ、「結婚」という回答が全体で30.6%、「出産」が全体で29.3%となっているが、「結婚」では男性が3.8%なのに対し、女性は41.5%、「出産」では男性が5.4%なのに対し、女性は38.7%となり、性別により差がある。

(7) 女性の就労について

女性の活躍を進めるうえでの問題について尋ねたところ、「家事・育児との両立が難しい」(84.1%)という回答が最も多くなっており、次いで「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(58.5%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(46.2%)となっている。また、女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「育児・介護に関する制度の充実」(42.5%)が最も多い回答となっており、次いで「職場の理解や協力」(41.6%)、「働き方改革の推進」(30.8%)と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(88.4%)が最も多い回答となっており、次いで「保育所などの保育施設の充実」(70.1%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(64.2%)と続いている。

3 仕事と生活の調和に関することについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の36.4%となっており、認知度は依然として低い。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が40.0%と女性の33.7%より多くなっている。

(2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となった。現実の生活では、『仕事』優先」が最も多い回答となっている。男性は36.8%と多く回答しており、女性は20.5%となっている。全体では『仕事』優先」が『仕事』と『家庭生活』をともに優先」より若干多くなっている。

(3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」(37.1%)、女性では、「食事のしたく」(70.0%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「食事のしたく」(43.2%)で、女性では、「ごみ捨て」(17.9%)であった。

また、男性は、「掃除」については、「自分は手伝い程度している」という回答割合が4割を超えている。

家事従事時間に関しては、平日では「0～1時間未満」という回答は、男性59.5%、女性11.1%と差が大きくなっている。休日では「0～1時間未満」という回答が男性38.4%、女性7.6%となっており、平日に比べて差が小さくなっている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、男性は17.8%、女性は57.8%と差が大きいが、介護に関しては男性が13.4%、女性が20.3%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(68.9%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(65.4%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(58.1%)、「昇給、昇格に影響すると考えるから」(34.2%)といった理由で利用が進まない状況となっている。

4 地域社会に関することについて

自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAで、性別によって決められている事例があるか尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」で、48.2%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」(39.2%)、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」(35.2%)となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、約3割(26.4%)となっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」(24.0%)と「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること」(15.8%)と続いている。

5 「旧姓使用」に関することについて

(1) 名字(姓)が変わったとした場合の働く際の旧姓使用について

結婚して戸籍上の名字(姓)が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思うか尋ねたところ、「旧姓を通称として使用したいと思わない」が41.0%と最も多く、「旧姓を通称として使用したい」の28.7%よりも多くなっている。

(2) 旧姓の記載を希望する対象について

旧姓を通称として使用することを希望する対象は、「勤務先の社員証、社内資格など」(81.9%)という回答が最も多くなっている。次いで、「銀行口座」(66.1%)、「運転免許証など公的な身分証」(57.3%)、「各種国家資格」(55.2%)の順となる。

6 男女の人権に関することについて

DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が25.8%に対し、女性は46.7%となっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が23.5%、女性では4.7%、女性では「受けたことがある」という回答が21.6%、男性は3.8%となっている。

DVにあったときの相談窓口として、知っているという回答が最も多かったのは、「県警（警察安全相談窓口）」で約5割(48.8%)となっている。次いで、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」(23.1%)、「女性の人権ホットライン」(20.0%)の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約6割(57.1%)をととなっている。

7 「性」の多様性に関することについて

「性的少数者」（セクシュアル・マイノリティ）について

性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）または「LGBT」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が70.7%となっている。

あなたの周りに、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）の方がいるかについては、「いる」は9.4%となっている。あなたの周りの性的少数者は、「あまり親しくない友人や知り合い」(69.1%)が約7割となっている。

性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）についてどのような考えや、イメージについては、「性の多様性として認めるべきである」(67.2%)が最も多くなっている。次いで、「テレビ等マスコミでも取り上げられており、理解に努めようと思う」(49.0%)、「個人の趣味、趣向の問題である」(26.1%)、「身近な存在だと思う」(18.9%)の順となる。

性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）の人権を守るために必要なことは、「社会全体での教育や啓発」(52.4%)が最も多くなっている。次いで、「学校等、子どものころからの教育や啓発」(39.3%)、「社会制度（法制度や条例制定等）の整備」(29.0%)、「性的少数者に関する相談や支援の充実」(24.8%)の順となる。

8 男女共同参画施策に関することについて

(1) 「長野市男女共同参画センター」の利用状況について

「長野市男女共同参画センター」については、「知らない」(74.3%)が約7割と、最も多くなっている。次いで、「知っているが、利用したことはない」(23.2%)、「利用したことがある」(1.4%)の順となる。

(2) 男女共同参画社会実現へ向けた行政に期待することについて

行政に期待することについては、「男女性が働き続けその能力を十分発揮できる職場環境の整備」(56.4%)が最も多くなっている。次いで、「男性の家事育児への参画促進及び介護休業・休暇の取得促進」(56.0%)の順となる。

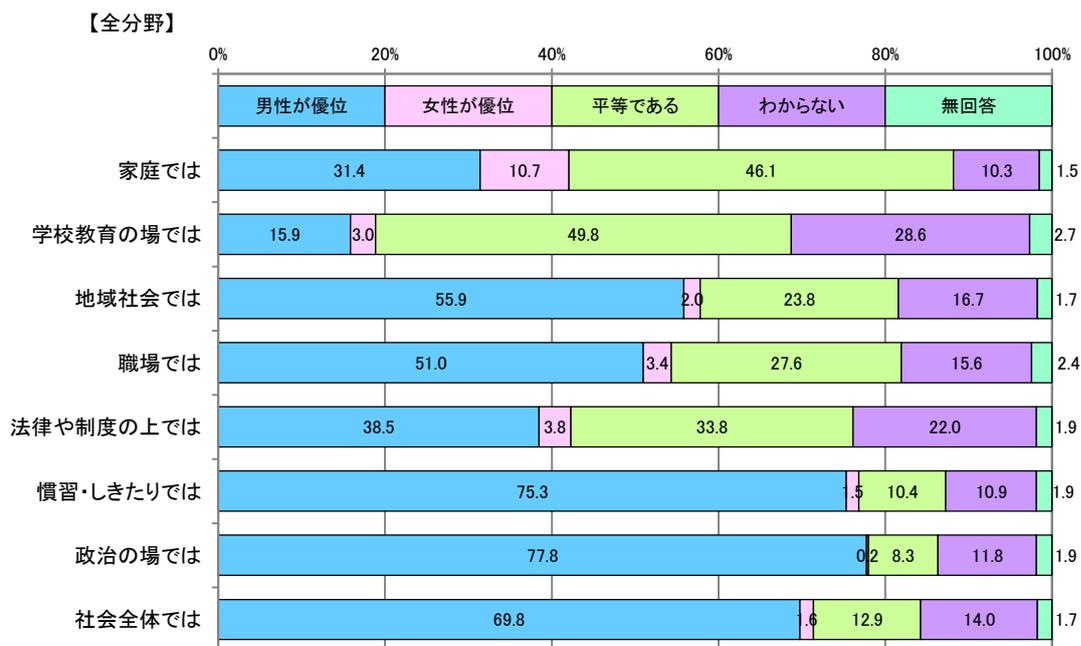
IV 調査の結果

一般的なこと

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
 あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

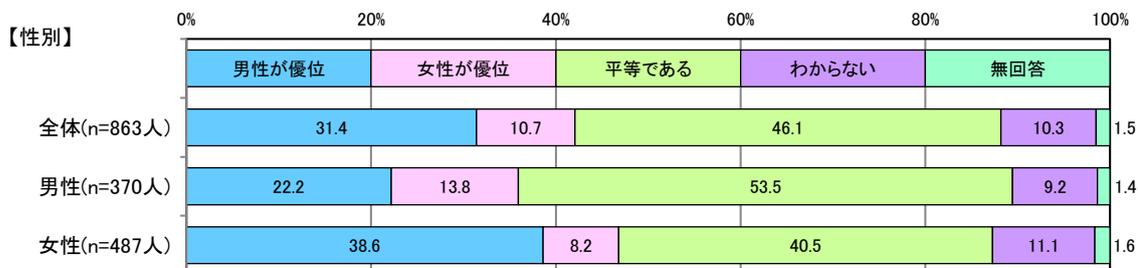
- ・「平等である」と考えている割合が多いのは、「学校教育」(49.8%)、「家庭」(46.1%)の2分野となっている。
- ・一方、「政治」(77.8%)、「慣習・しきたり」(75.3%)、「社会全体」(69.8%)では、「男性が優位」という回答がいずれも約7割以上で最も多い回答となっている。

全体 (n=863人)

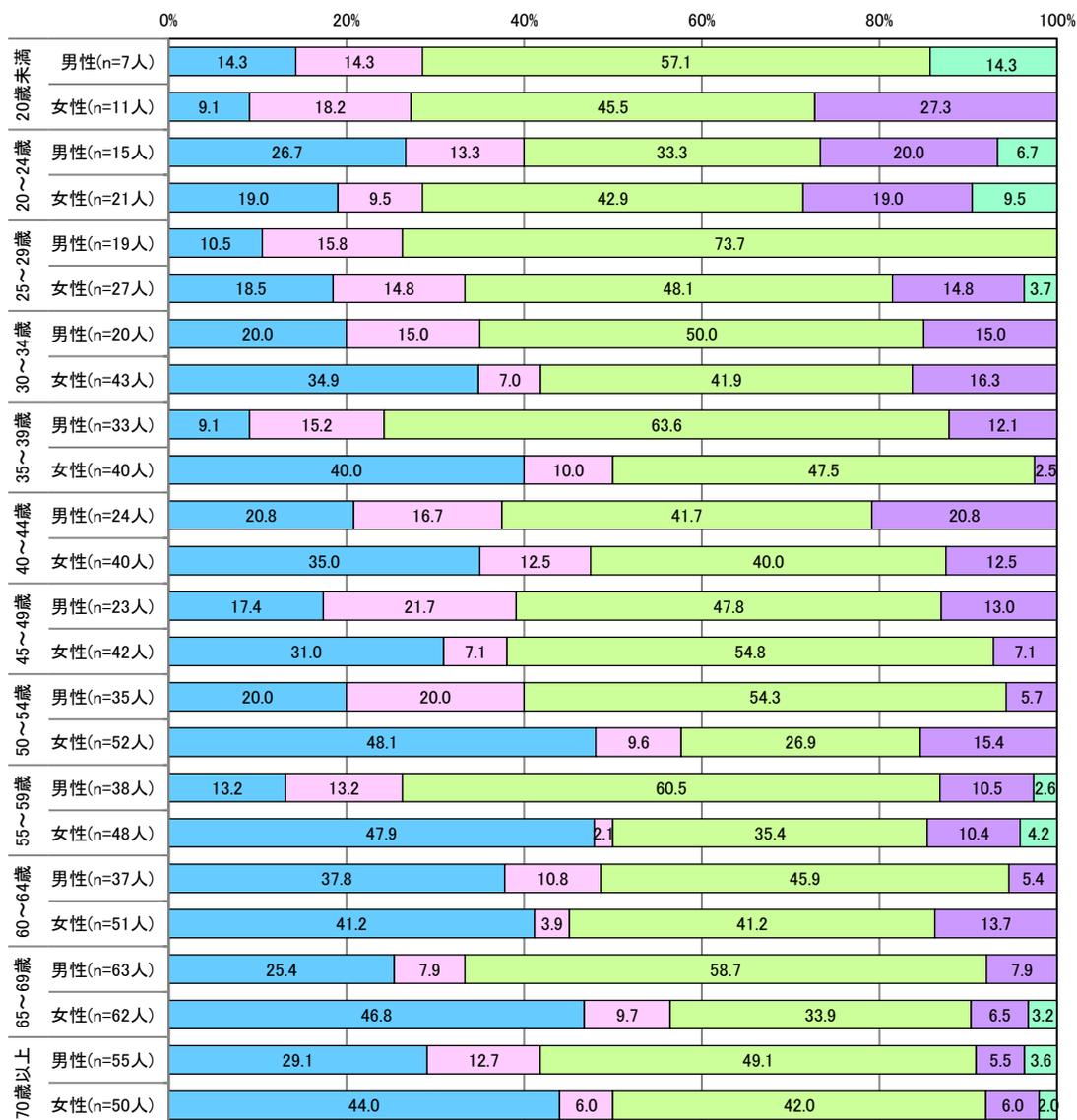


1 家庭では

- ・性別でみると、男性は、「平等である」(53.5%)という回答が最も多く、約5割となっている。女性は「男性が優位」(38.6%)と「平等である」(40.5%)が約4割とほぼ同じ割合となっている。「男性が優位」という回答は、男性では約2割(22.2%)となっているが、女性では約4割(38.6%)となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性が優位」という回答は、女性では50歳代が最も多く、回答割合が約5割となっている。男性では、全ての年代で「平等である」という回答が最も多い。

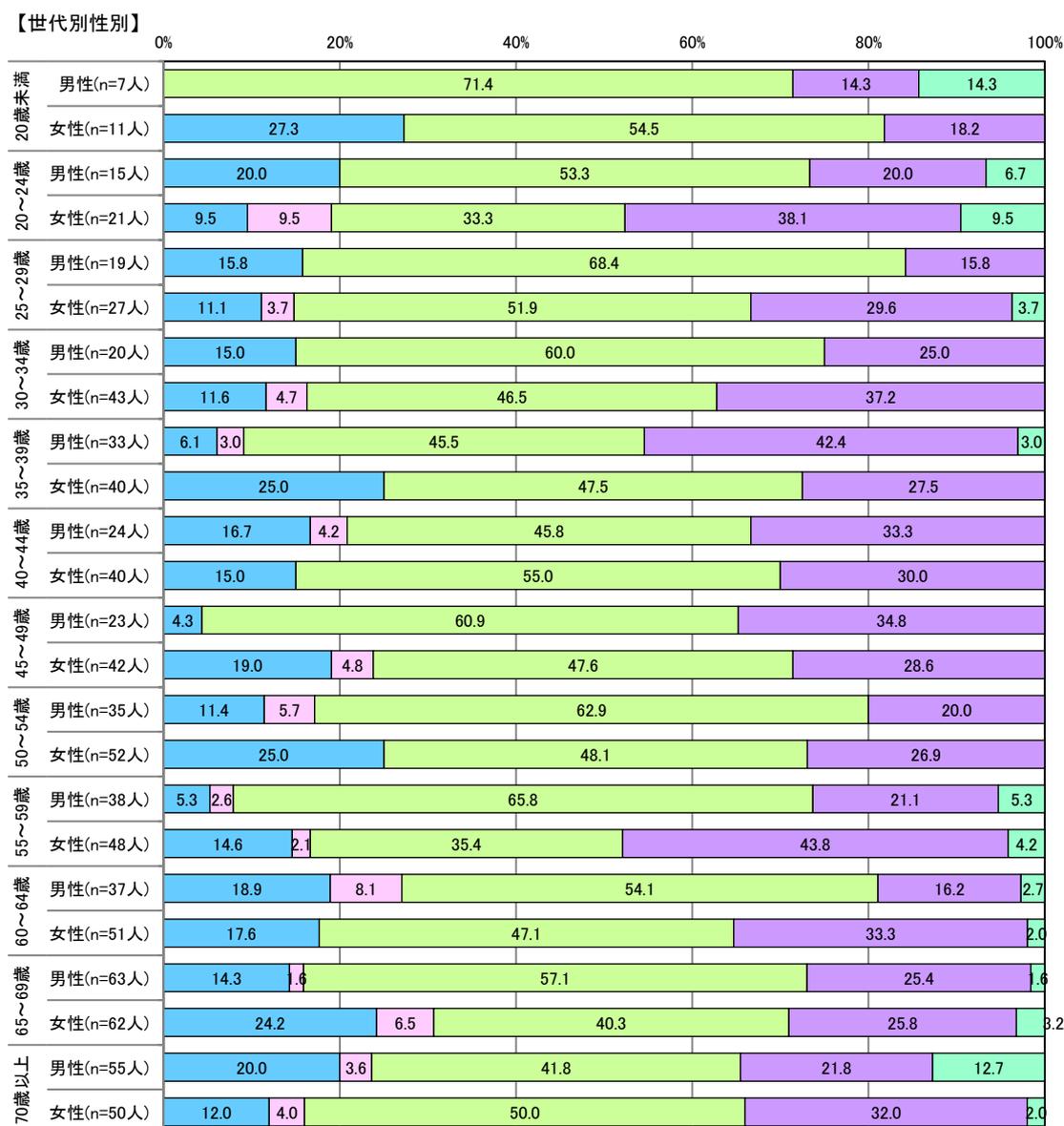


【世代別性別】



2 学校教育の場では

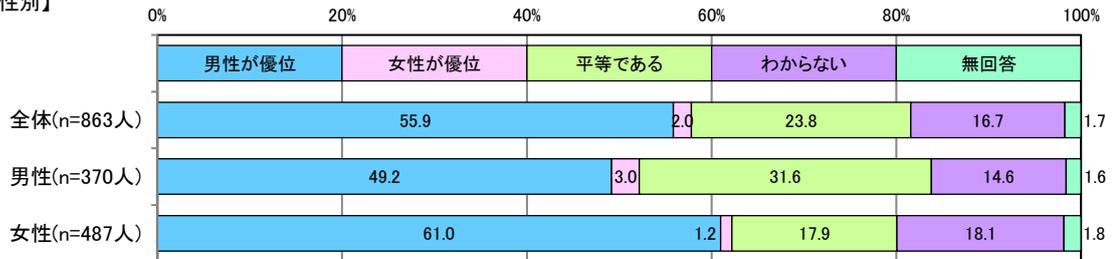
- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性（55.1%）は約6割、女性（46.0%）は約5割となっている。「男性が優位」という回答は、男性よりも女性の方がやや多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性、55歳～59歳の女性を除いた各世代で「平等である」という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答が2割以上となる世代は、20歳未満の女性、20歳～24歳の男性、35歳～39歳の女性、50歳～54歳の女性、65歳～69歳の女性、70歳以上の男性となっている。



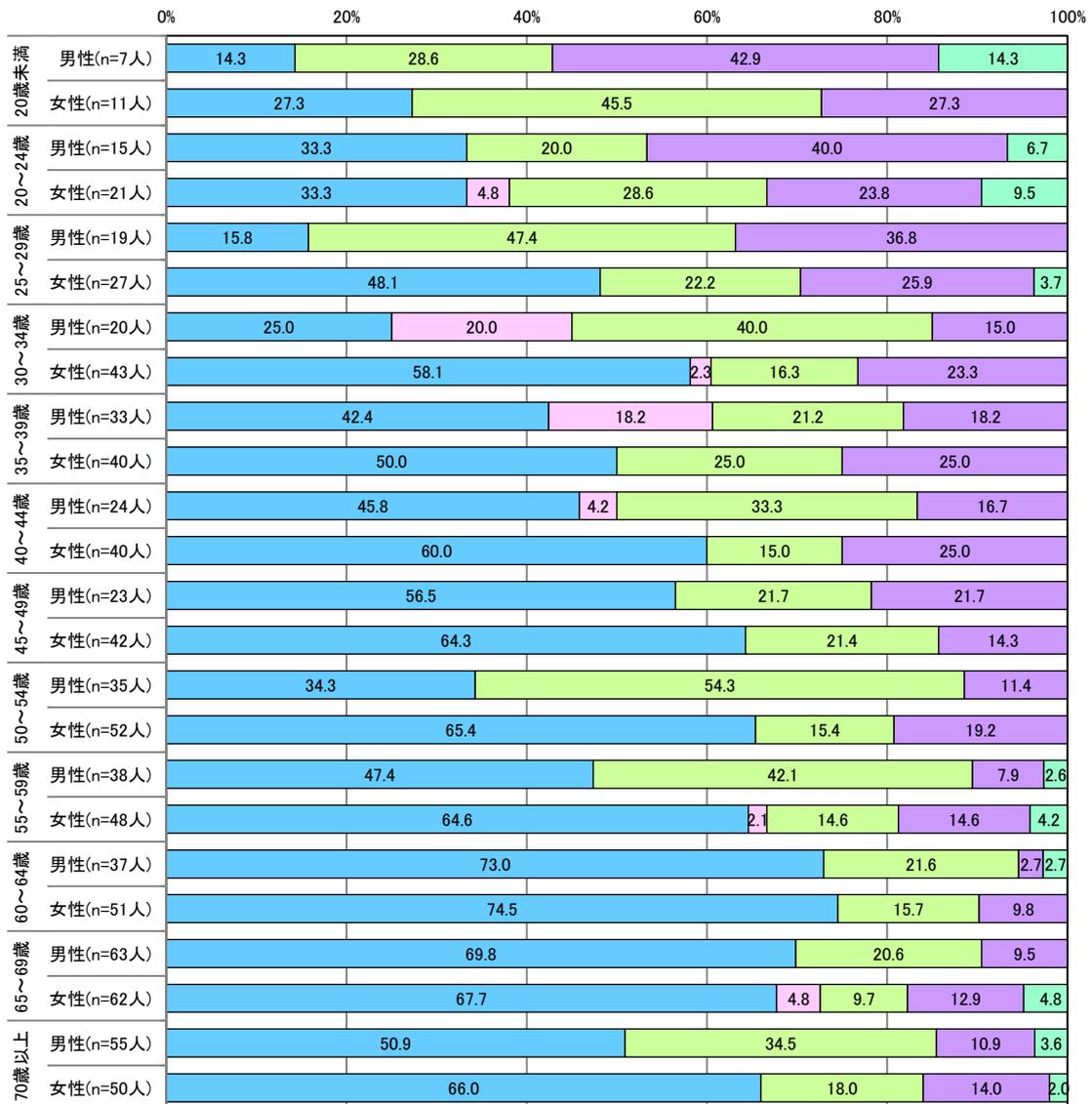
3 地域社会では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性は約5割（49.2%）、女性は約6割（61.0%）となっている。一方、「平等である」という回答は男性が約3割（31.6%）であるのに対し、女性は約2割（17.9%）となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男女、20歳～24歳の男性、30歳～34歳の男性、50歳～54歳の男性を除いて、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い回答となっている。なかでも60歳～64歳の男女においては「男性が優位」という回答が7割を超えている。

【性別】

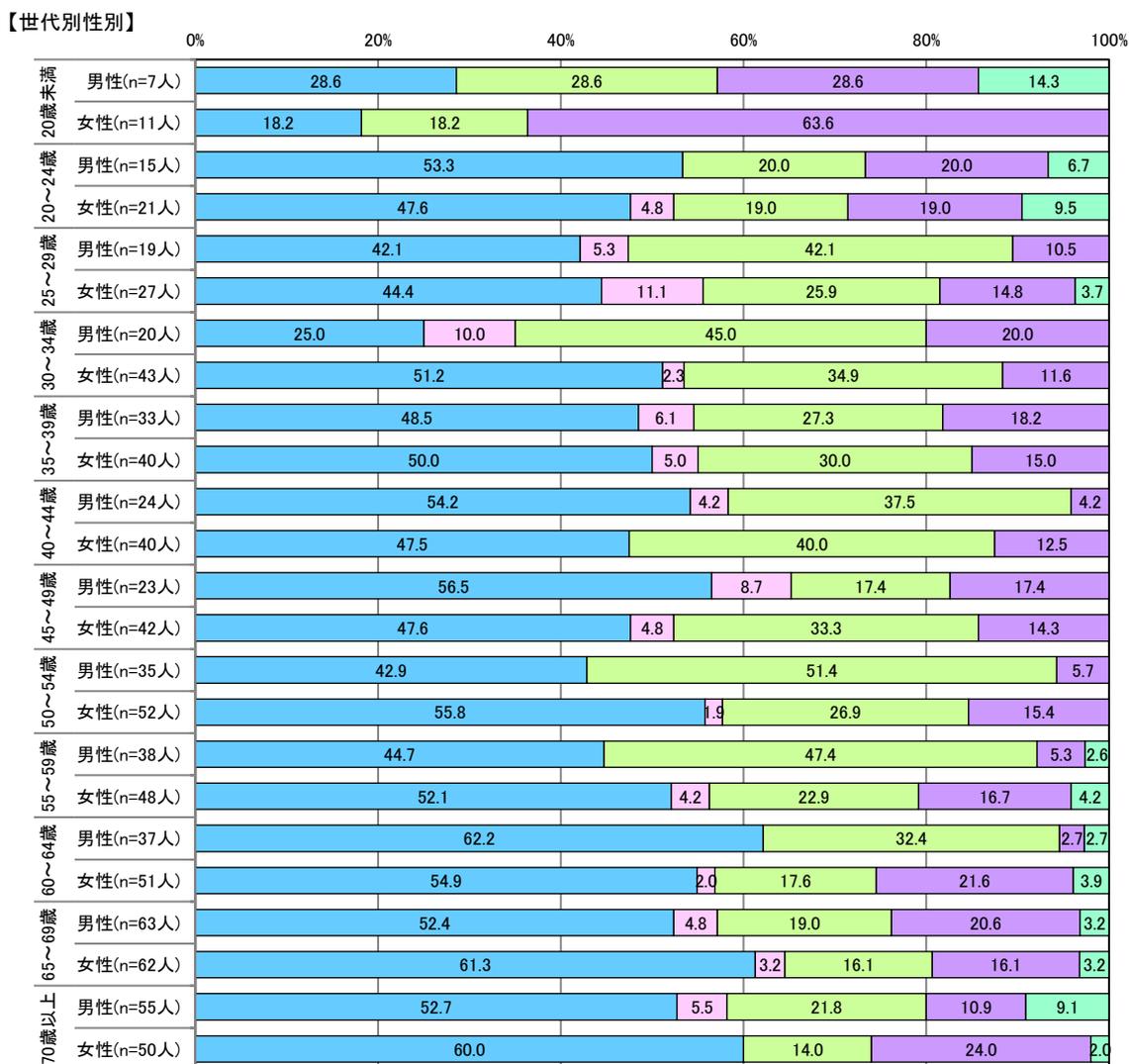


【世代別性別】



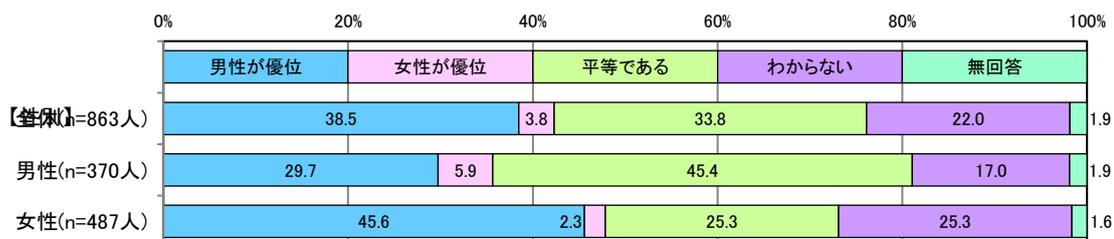
4 職場では

- ・性別で見ると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性(49.5%)、女性(52.4%)とも約5割となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳未満、30歳～34歳、50歳～59歳の男性を除きいずれも「男性が優位」という回答が最も多くなっている。

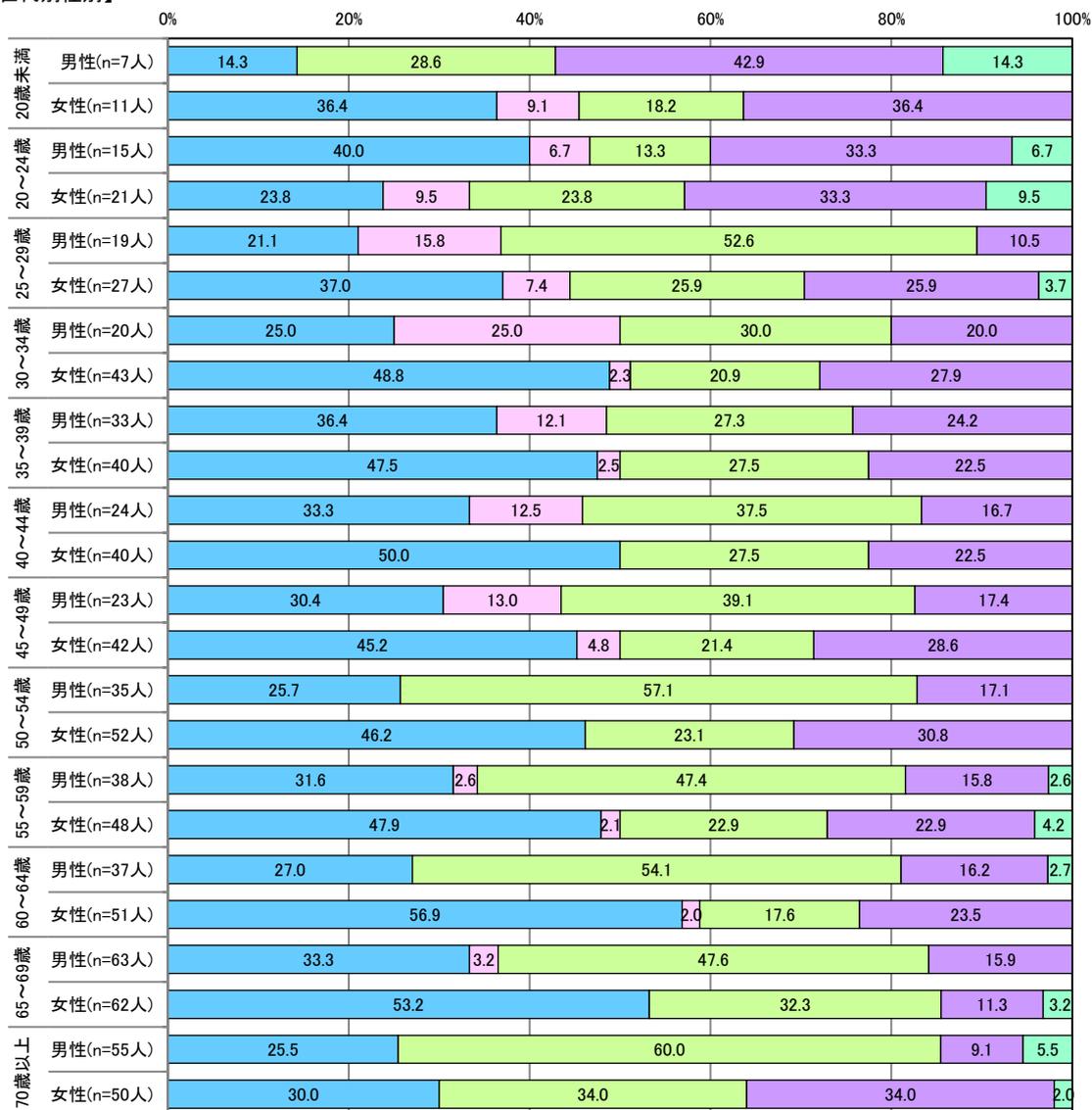


5 法律や制度の上では

- ・性別で見ると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約5割（45.4%）となっている。一方、女性は「男性が優位」（45.6%）という回答が、「平等である」（25.3%）という回答を上回っている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別で見ると、男性では、25歳～34歳、40歳以上の世代で、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・女性においては、20歳～24歳、70歳以上の年代を除き、いずれの年代も「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に、40歳～44歳と60歳代では5割以上となっている。

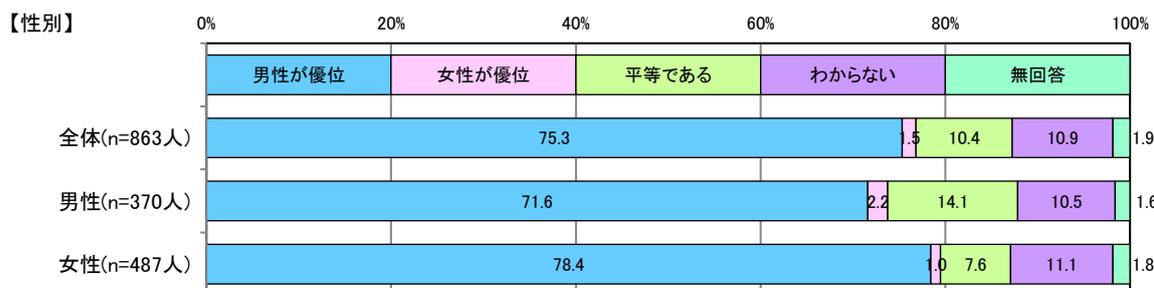


【世代別性別】

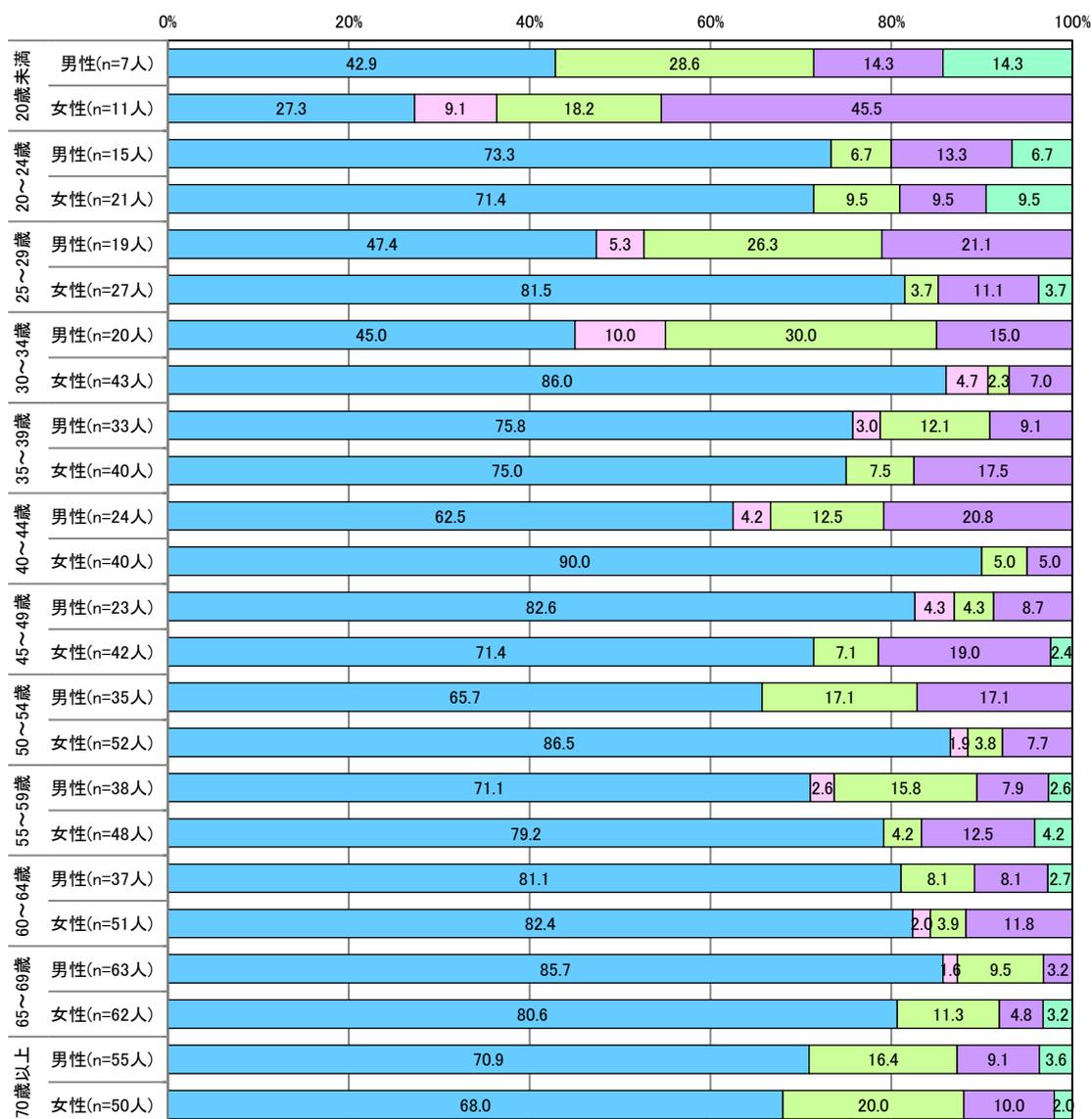


6 慣習・しきたりでは

- ・性別では、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性（71.6%）、女性（78.4%）となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳未満を除き、女性では、「男性が優位」が6割を超えている。特に、40歳～44歳で、9割（90.0%）をとっている。
- ・男性においては、20歳未満、25～34歳を除き、「男性が優位」という回答が6割を超えている。



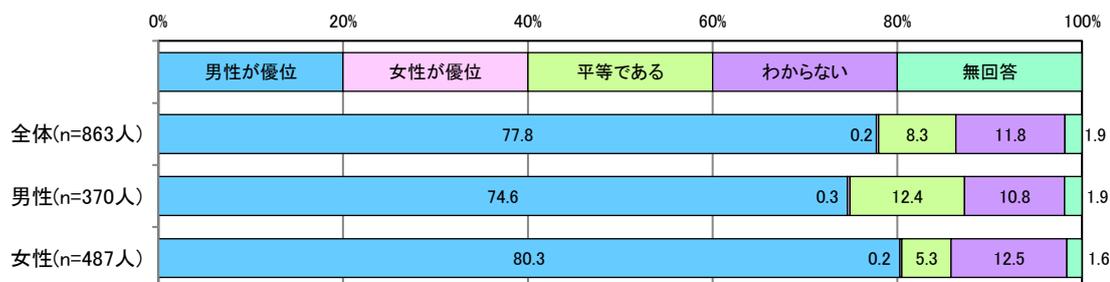
【世代別性別】



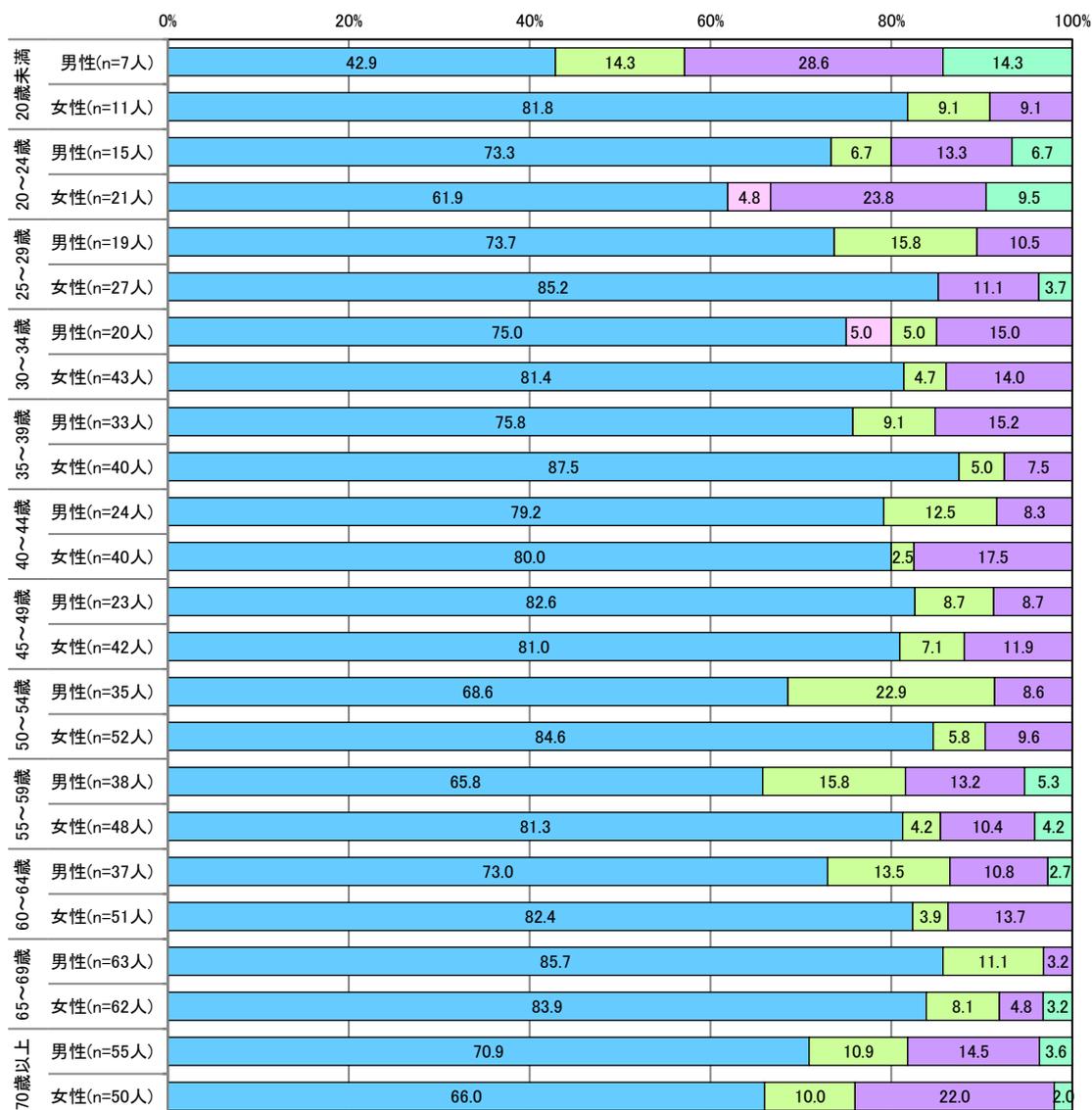
7 政治の場では

- ・性別でみると、男性は約7割（74.6%）、女性は約8割（80.3%）の方が、「男性が優位」と回答している。「平等である」という回答は、男性が約2割（12.4%）なのに対して、女性は1割未満（5.3%）となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多くなっている。

【性別】

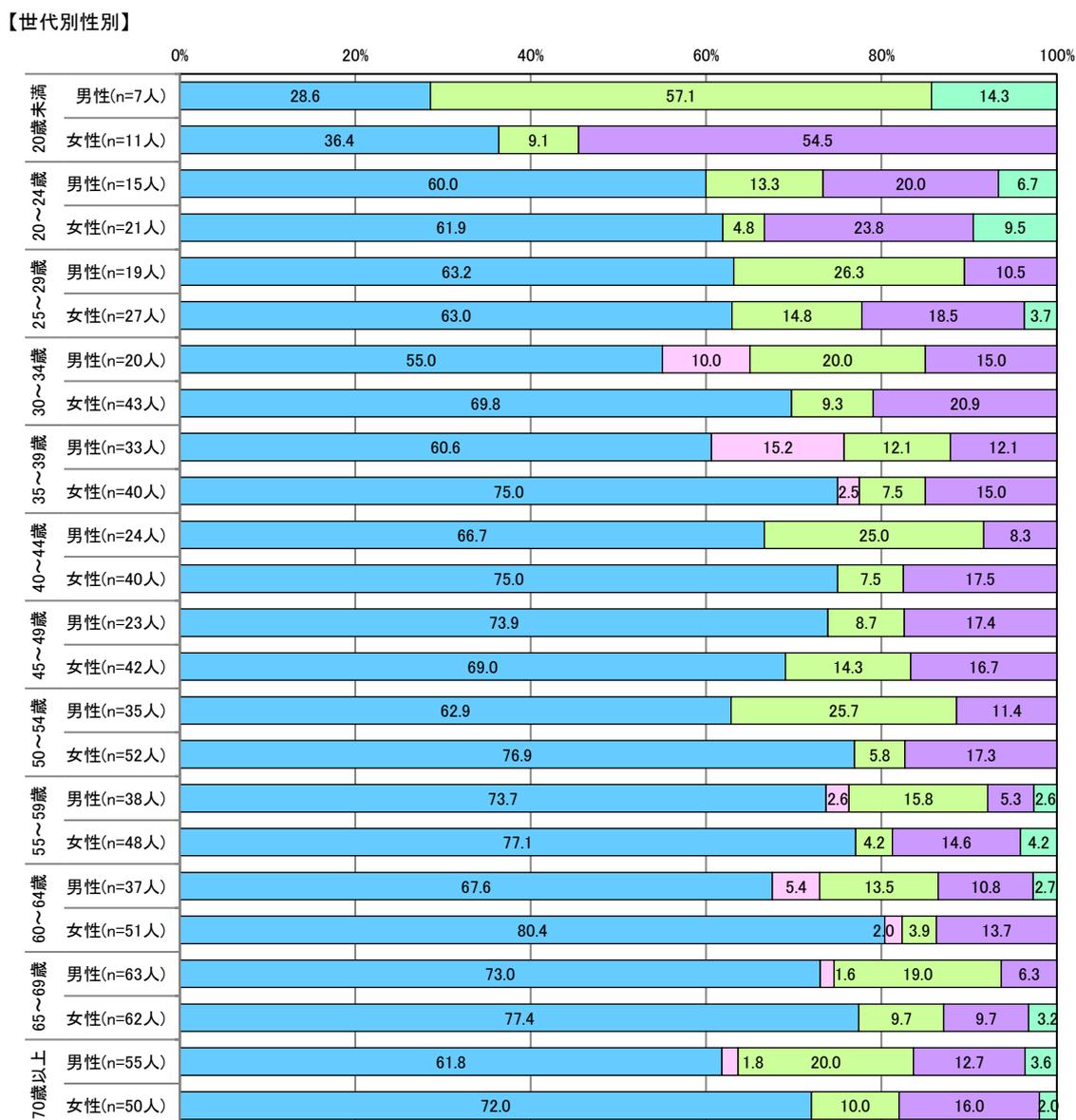
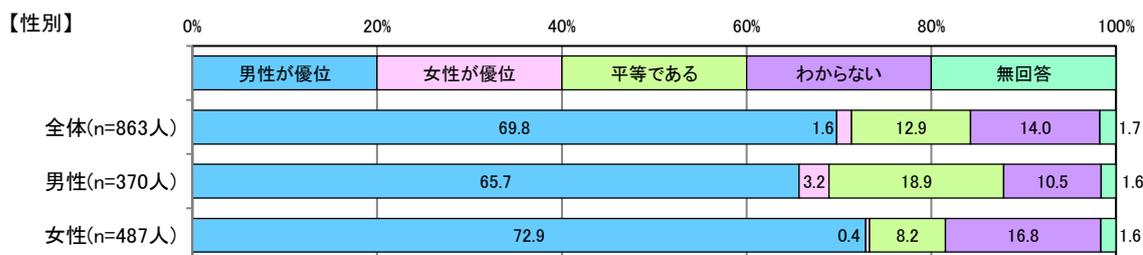


【世代別性別】



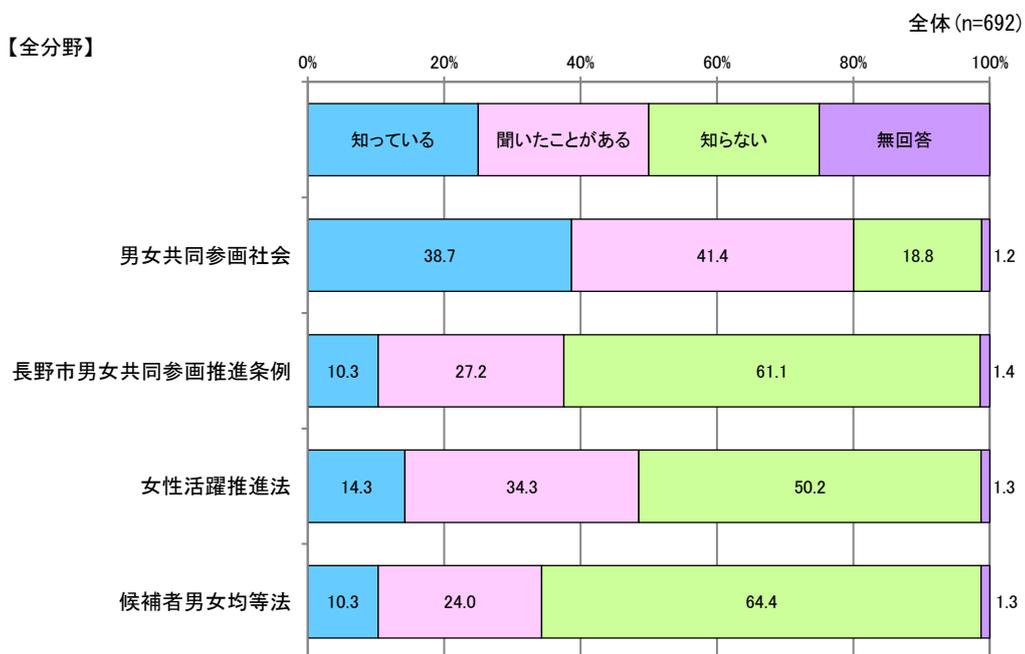
8 社会全体では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性(65.7%)、女性(72.9%)とも約7割となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割(18.9%)、女性が約1割(8.2%)となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男女を除き、全ての年代において「男性が優位」という回答が最も多く、5割を超えている。



問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

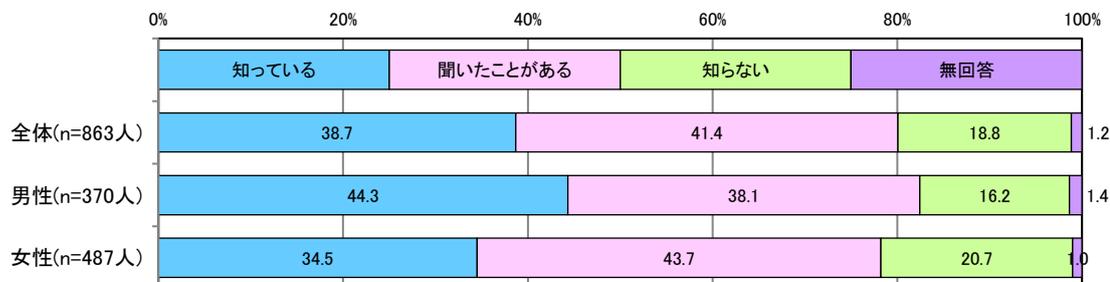
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合を合計すると、「男女共同参画社会」が約8割（80.1%）と認知度が高い。次に、「女性活躍推進法」（48.6%）、「長野市男女共同参画推進条例」（37.5%）が約4割、「候補者男女均等法」（34.3%）が約3割となっている。



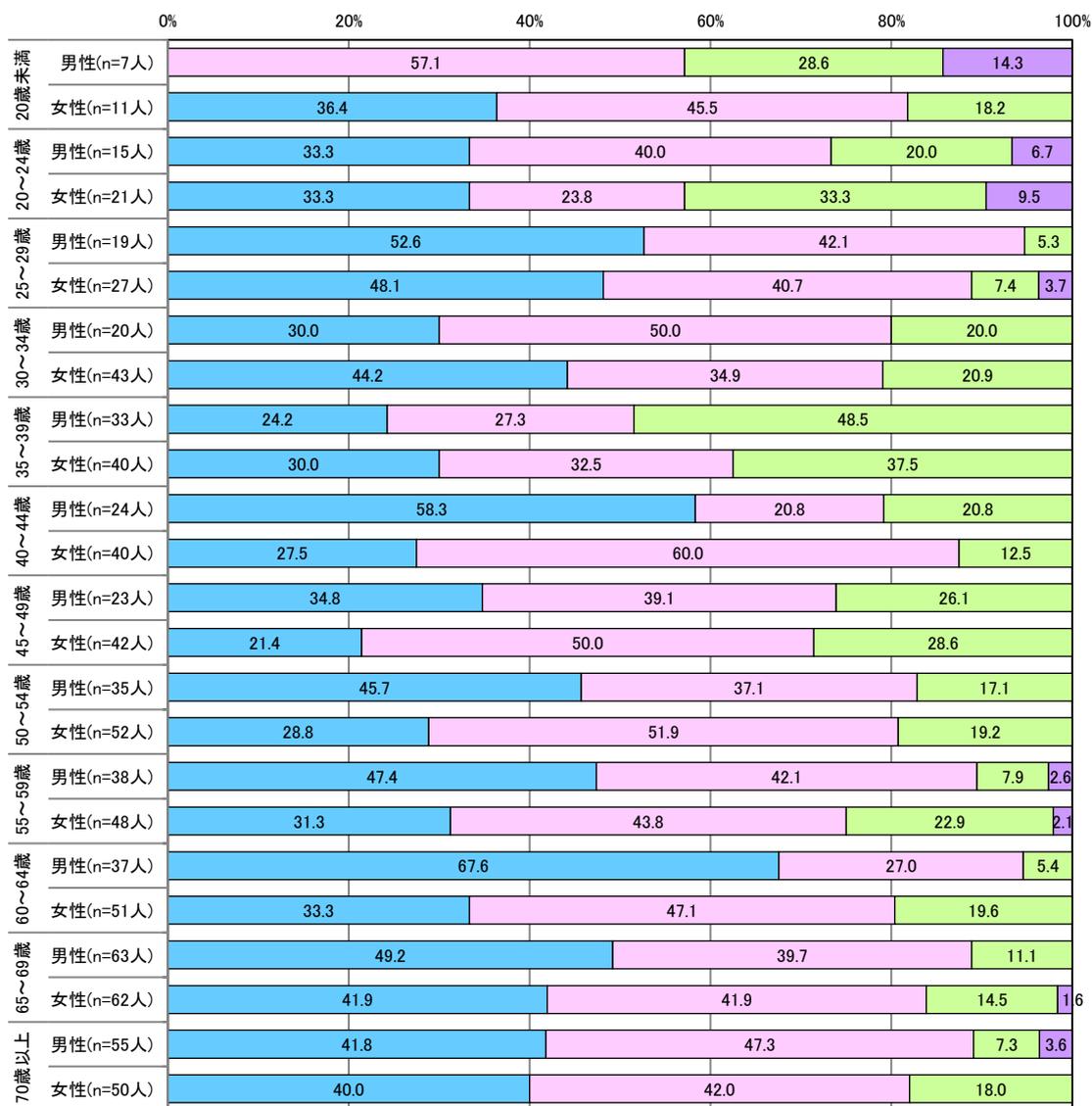
1 男女共同参画社会

- ・性別では、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合の合計が、約8割となっている。
- ・世代別性別で見ると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が9割を超えているのは、25歳～29歳の男性、60歳～64歳の男性となっている。一方、35歳～39歳の男性で、「知らない」という回答が、4割（48.5%）を超えている。

【性別】



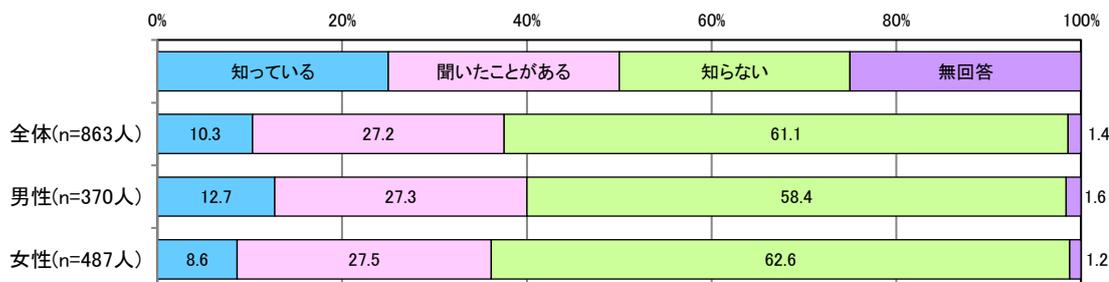
【世代別性別】



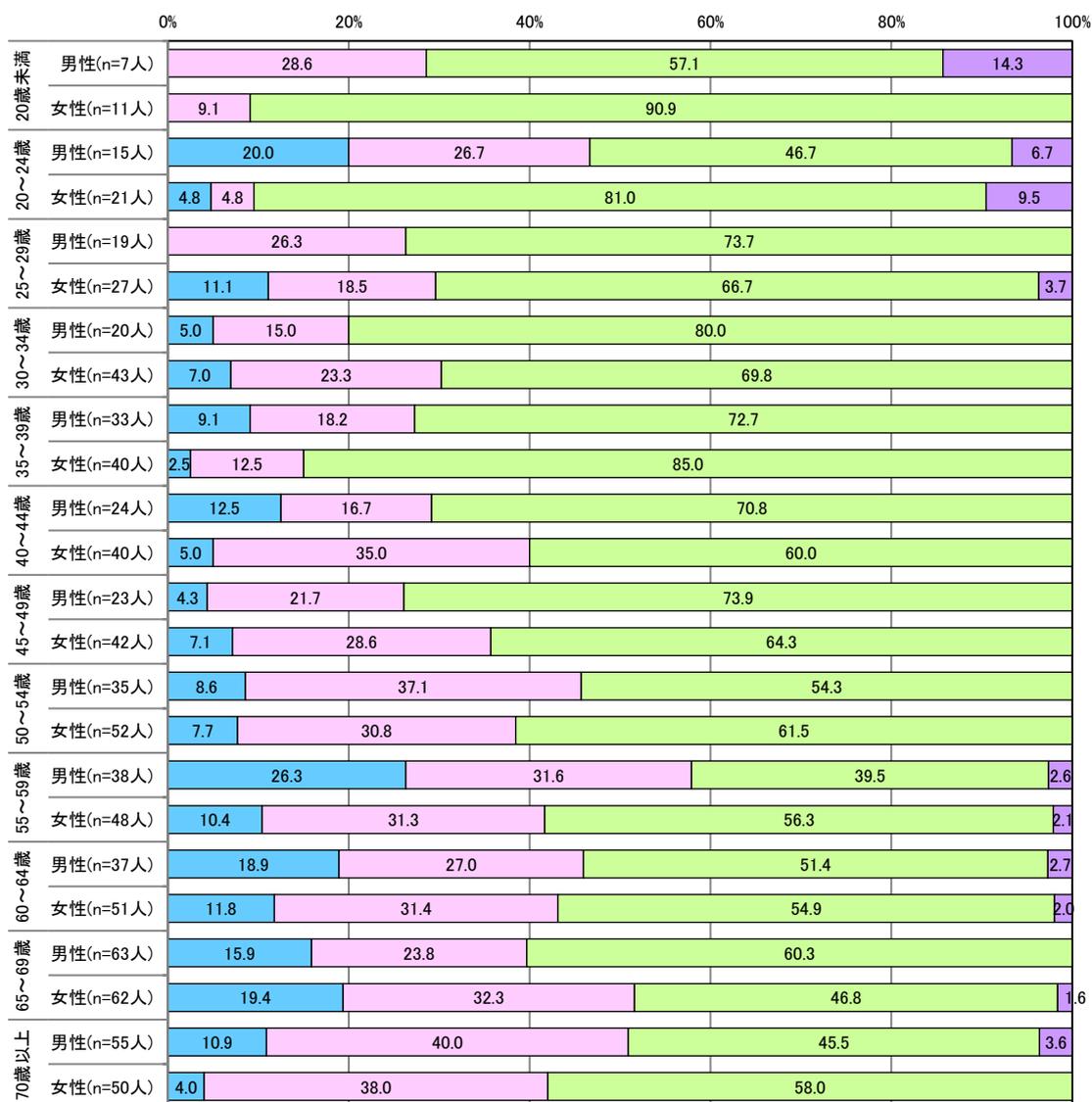
2 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は 58.4%、女性は 62.6% となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 40.0%、女性が 36.1%となっている。
- ・世代別性別でみると、24 歳以下の女性、30 歳～34 歳の男性で、35 歳～39 歳の女性で、「知らない」という回答が 8 割以上となっている。

【性別】



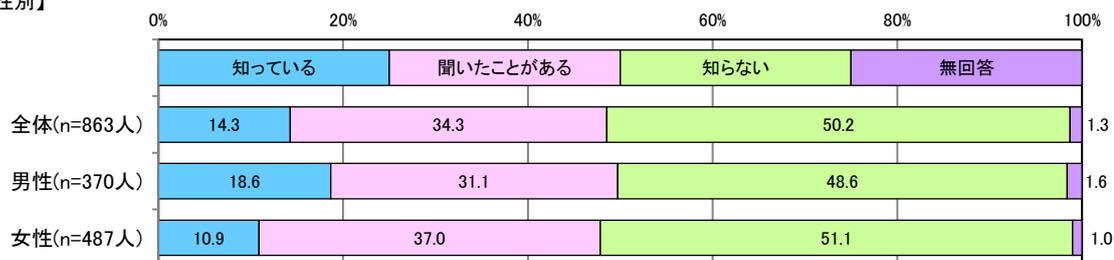
【世代別性別】



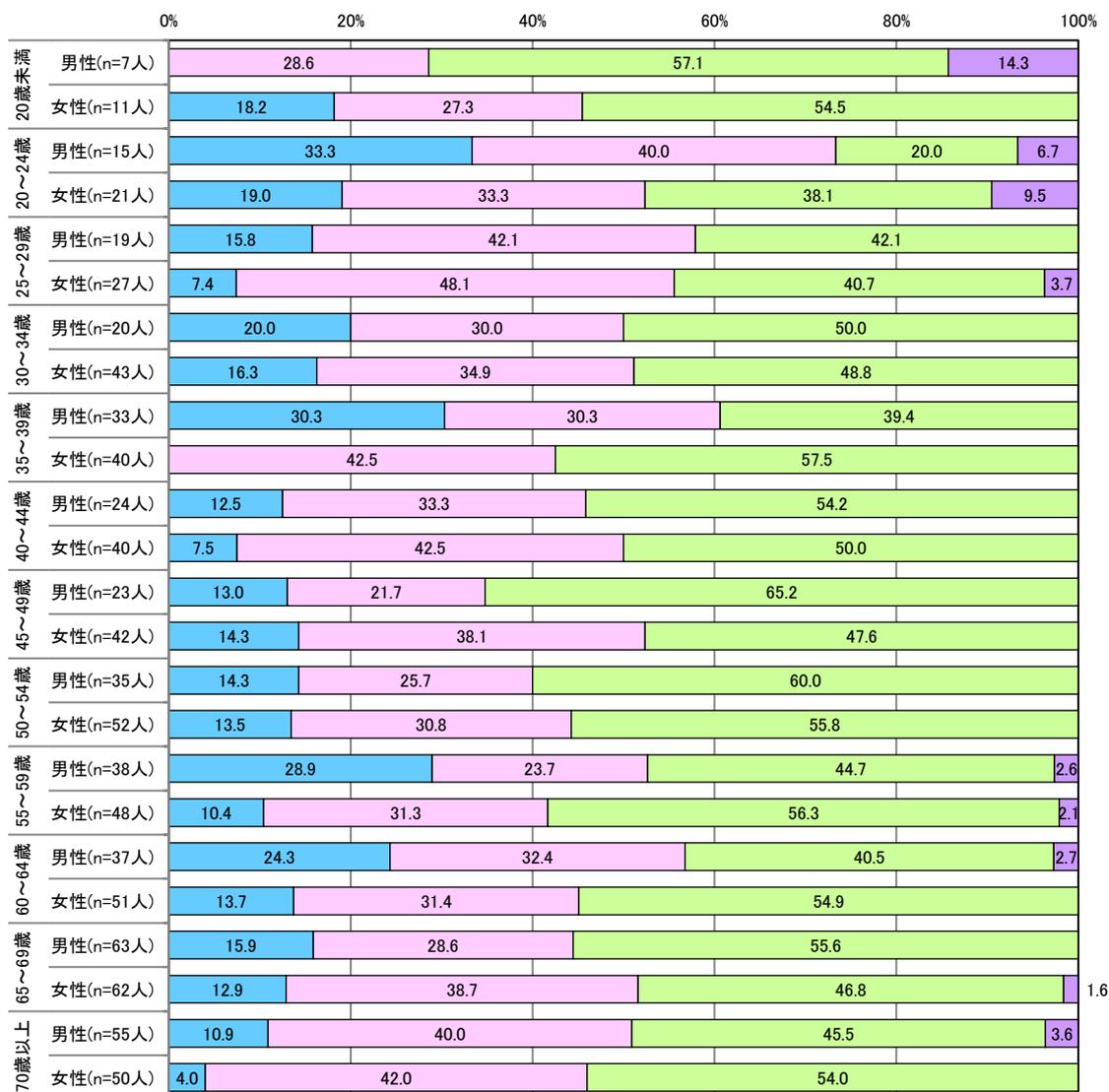
3 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が48.6%、女性が51.1%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が49.7%、女性が47.9%となっている。
- ・世代別性別でみると、「知らない」という回答割合が6割を以上となっているのは、45歳～54歳の男性となっており、「知っている」という回答割合が2割以上は、20歳～24歳の男性、30歳代の男性、55歳～64歳の男性となっている。

【性別】



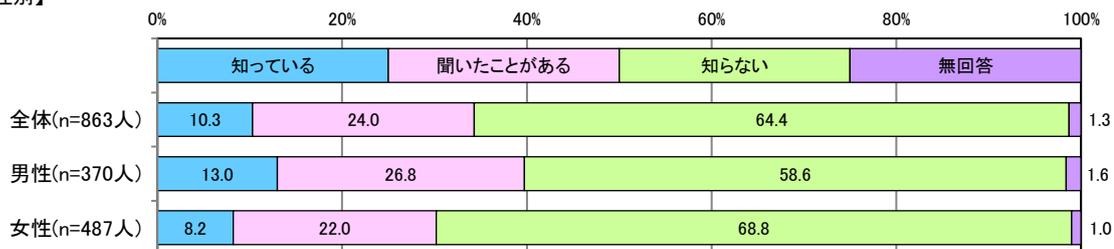
【世代別性別】



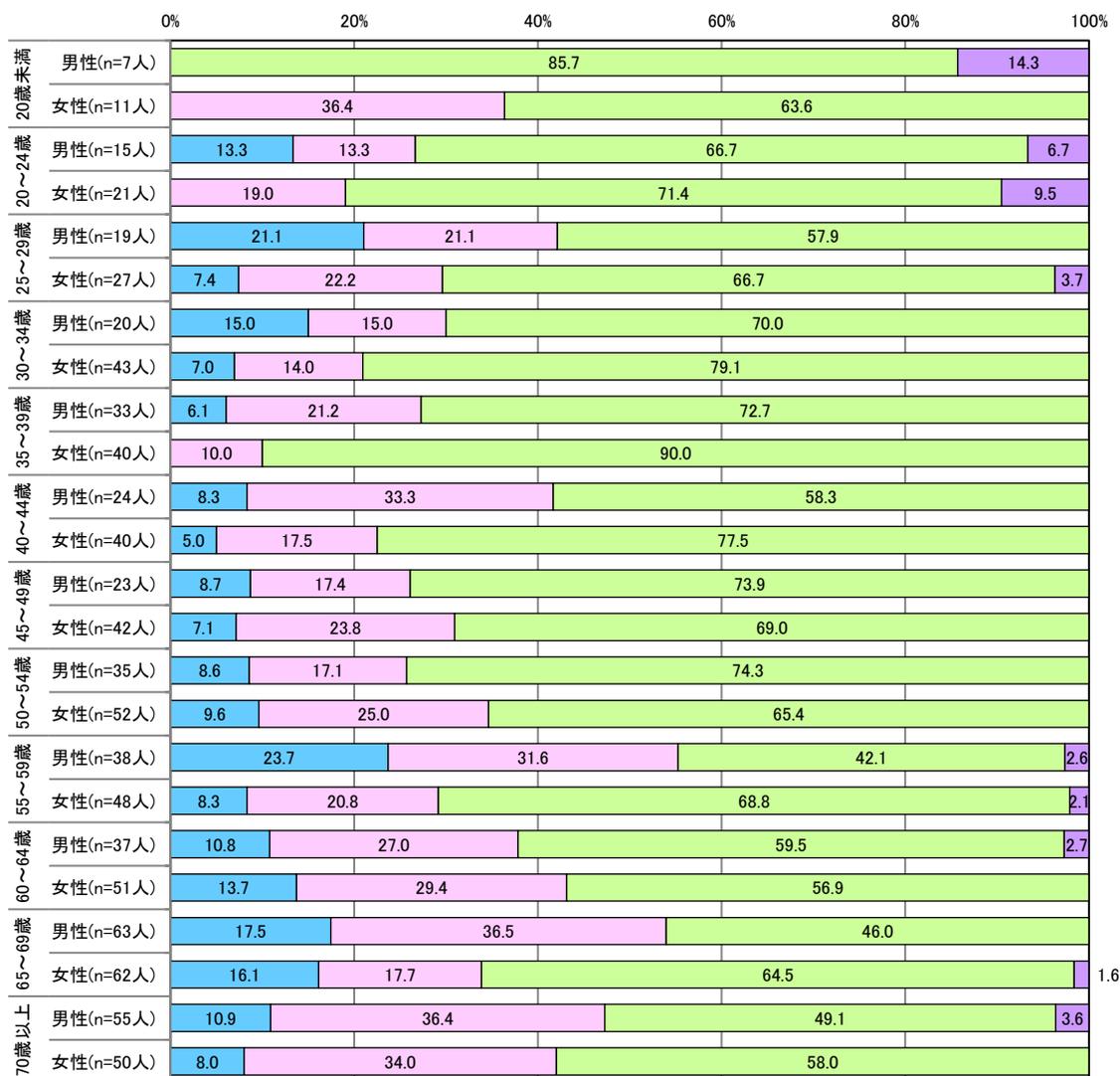
4 候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)

- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が 58.6%、女性が 68.8% となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 39.8%、女性が 30.2%と、やや男性の方が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、「知らない」という回答割合が 8 割を超えているのは、20 歳未満の男性、35 歳～39 歳の女性となっている。一方、「知っている」という回答割合が 2 割を超えているのは、25 歳～29 歳の男性、55 歳～59 歳の男性となっている。

【性別】

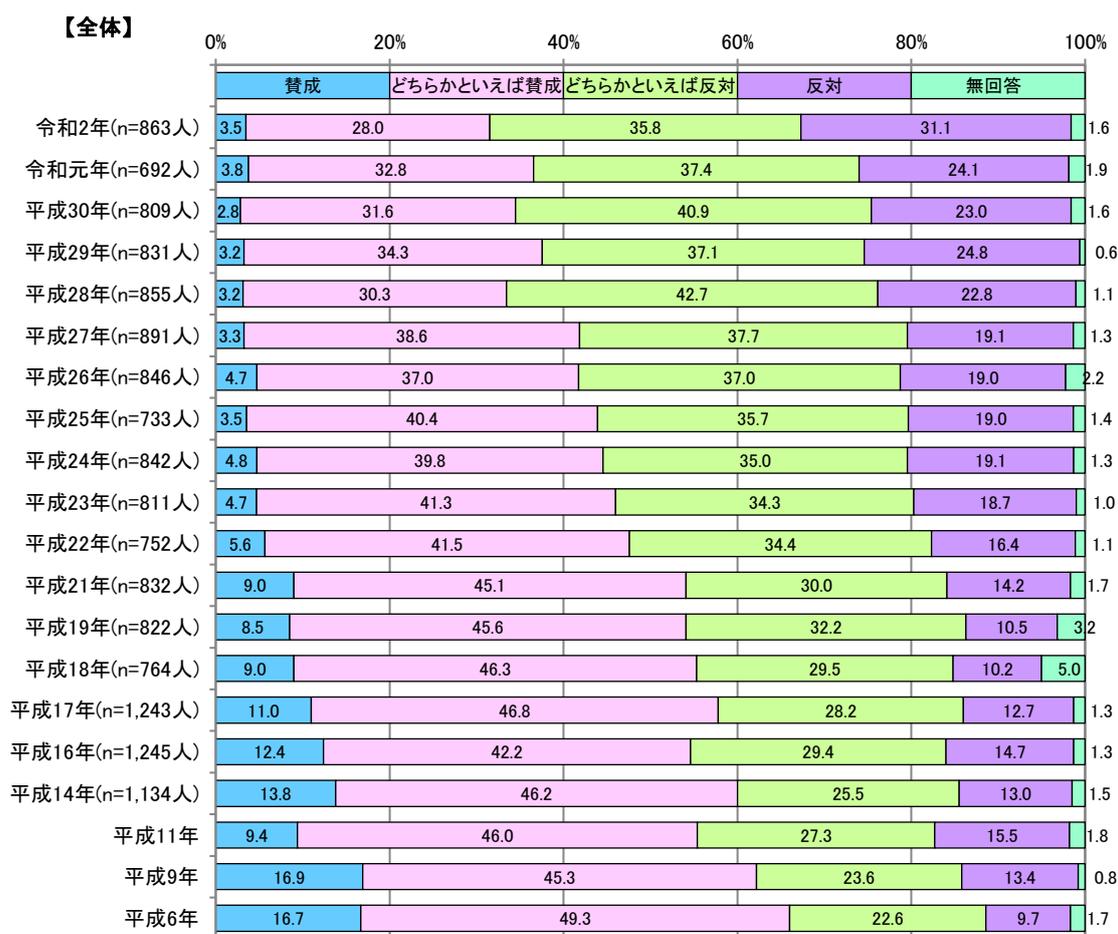


【世代別性別】

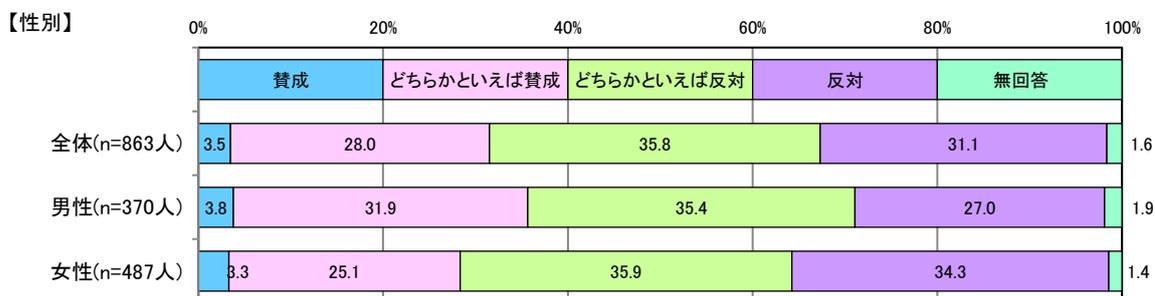


問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について
 どう思いますか。次の中から1つお選びください。

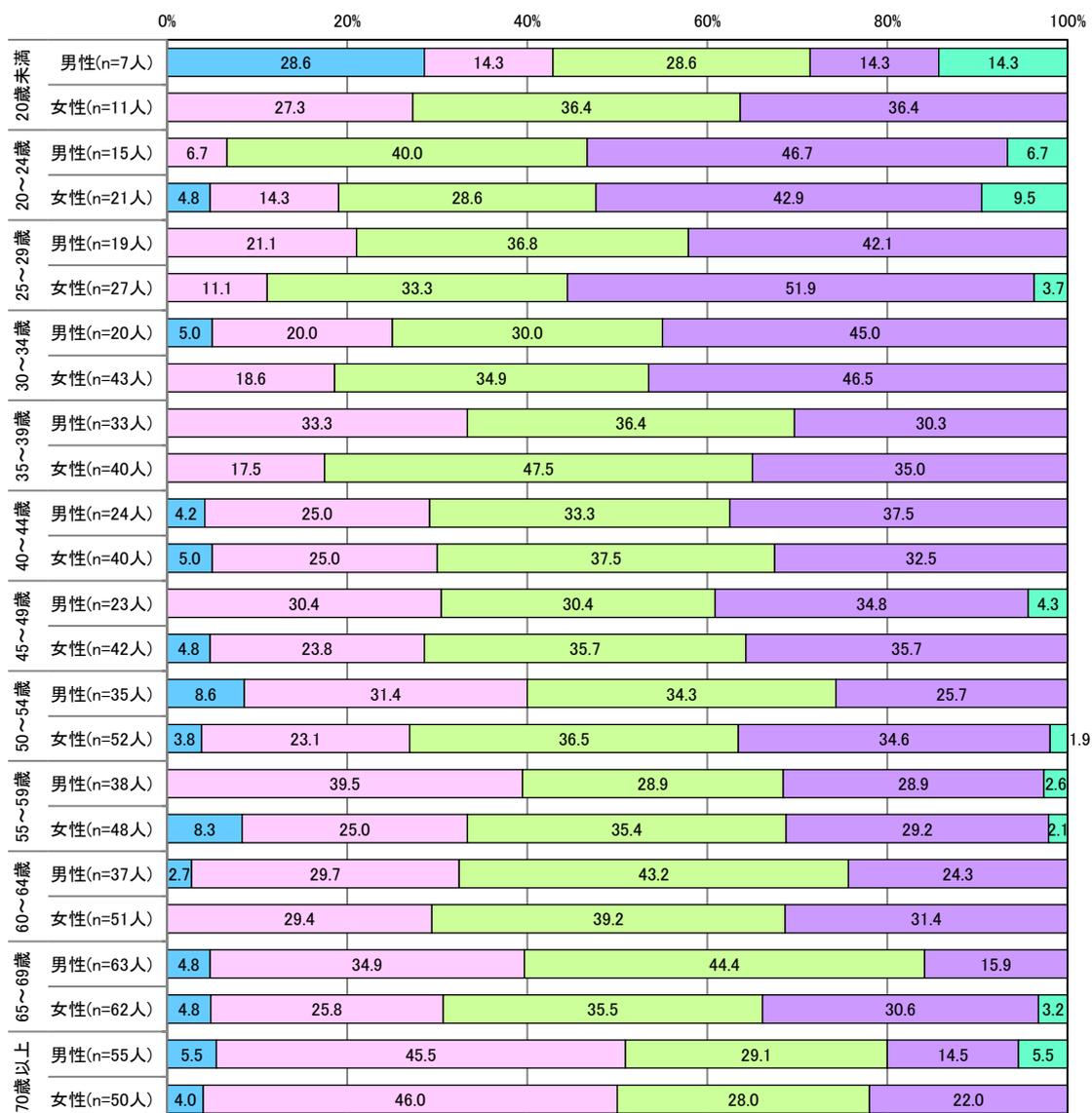
- ・令和元年の調査結果は、「賛成」が3.5%「どちらかといえば賛成」が28.0%、「どちらか
 といえば反対」が35.8%、「反対」が31.1%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少
 傾向にあるものの、平成28年以降は横ばい傾向にある。令和2年は令和元年と比べて、「賛
 成」が0.3ポイント、「どちらかといえば賛成」は4.8ポイント減少となった。「どちらか
 といえば反対」と「反対」の回答割合の合計は5.4ポイントの増加となった。



- ・性別で見ると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は、男性が 62.4%、女性が 70.2%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答割合の合計は、20歳未満の男性、70歳以上の男女を除いて、いずれの年代も5割を超えている。

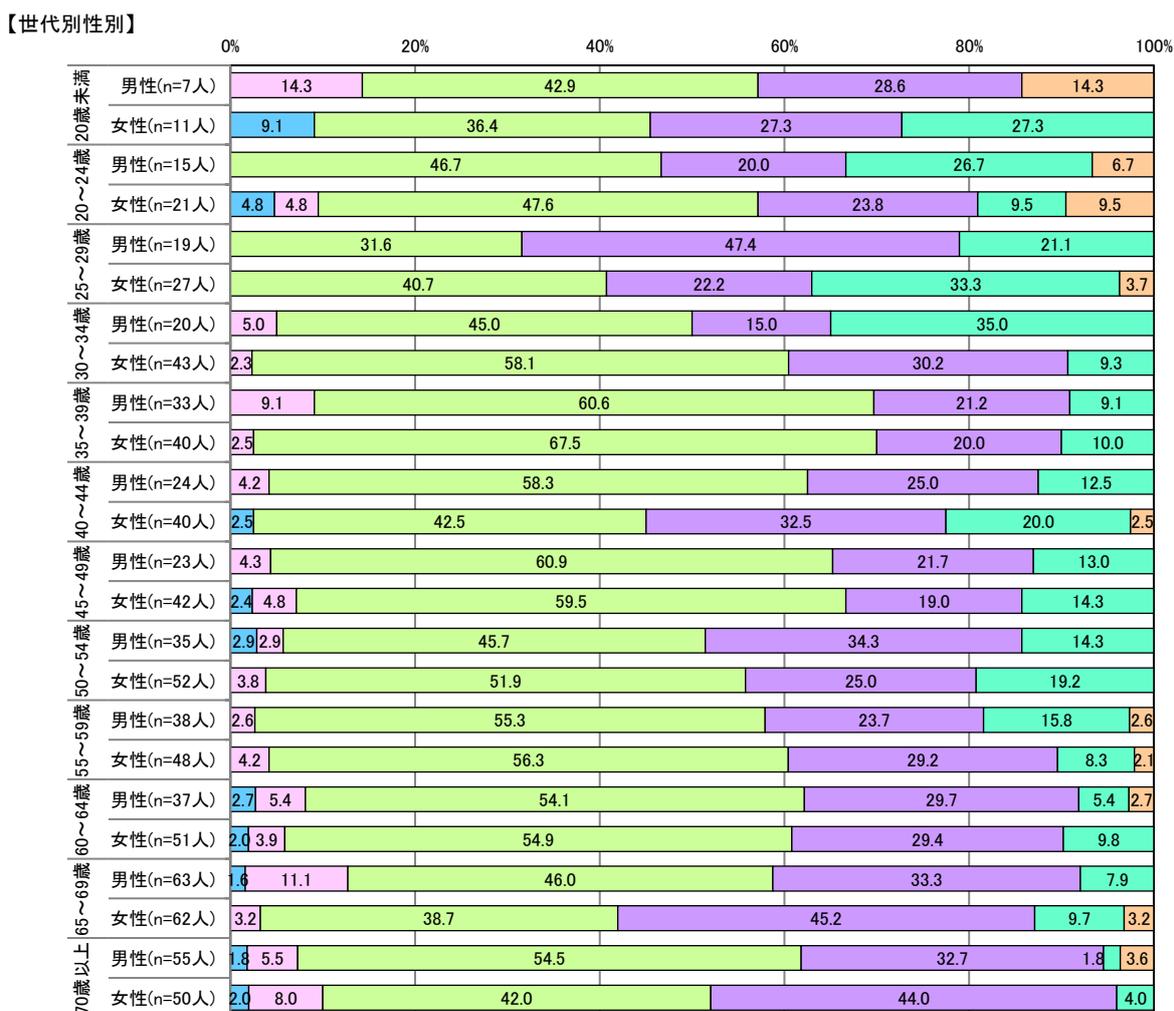
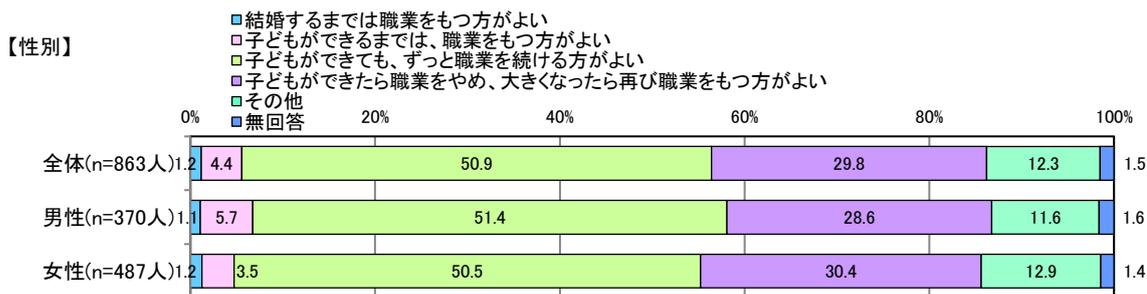


【世代別性別】



問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別で見ると、25歳～29歳の男性、65歳以上の女性を除き、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。特に、35歳～39歳の男女、45歳～49歳の男性では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が6割を超えている。

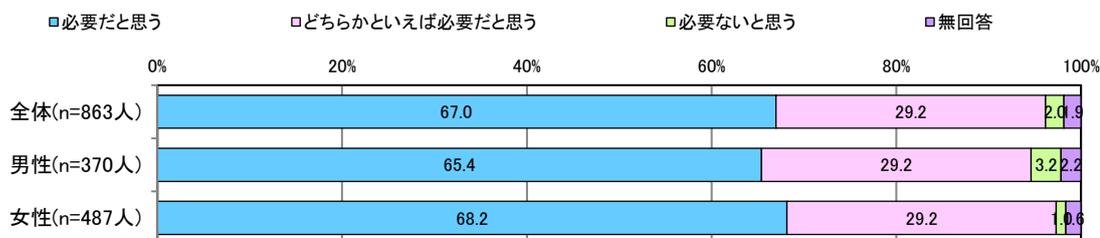


女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関すること
について

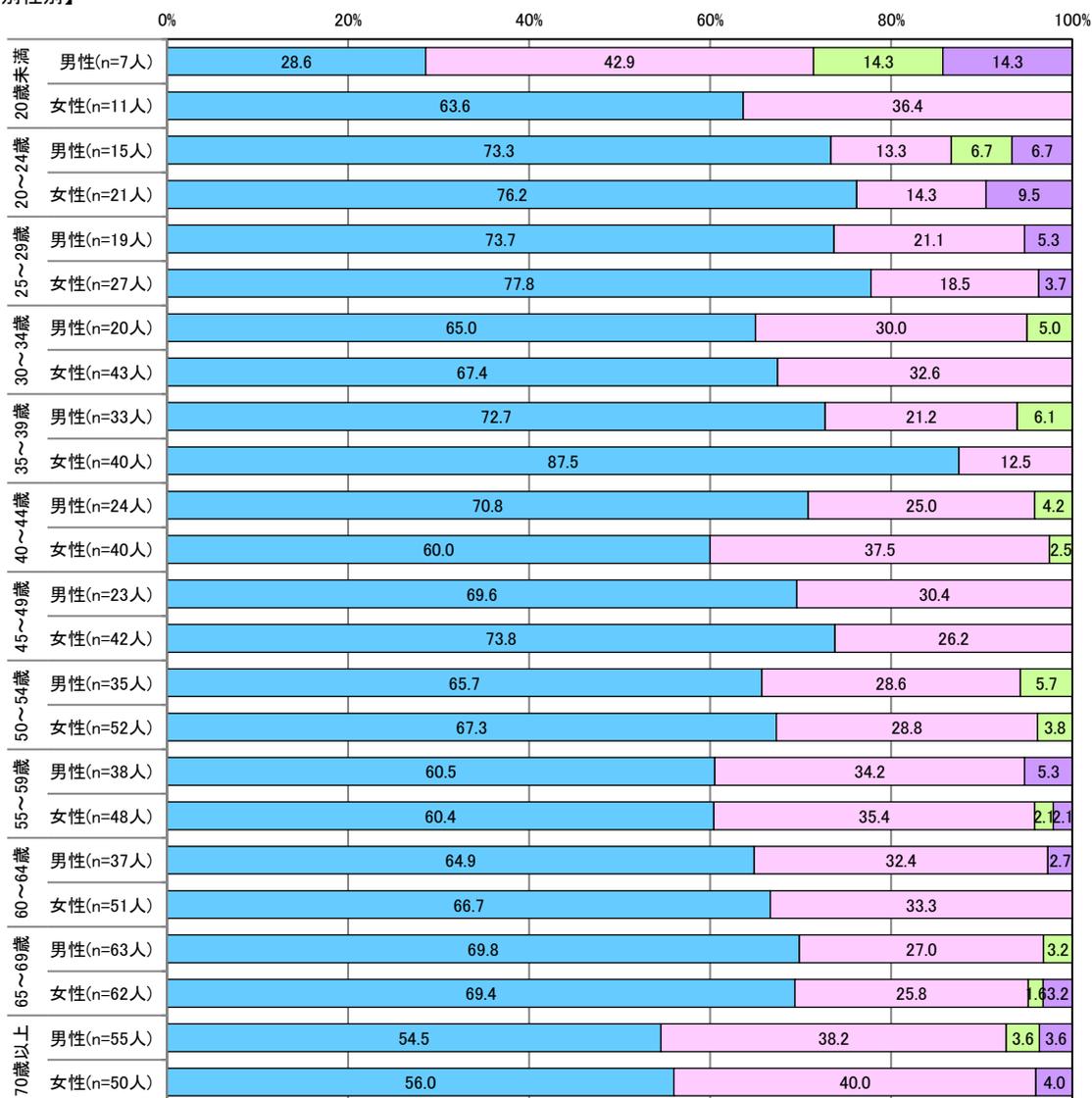
問5 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男女ともに、「必要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男女を除き、いずれの世代でも「必要だと思う」が最も多くなっている。特に、35～39歳の女性では8割を超えている。一方、20歳未満の男性では、「どちらかといえば必要だと思う」が最も多い回答となっている。

【性別】



【世代別性別】

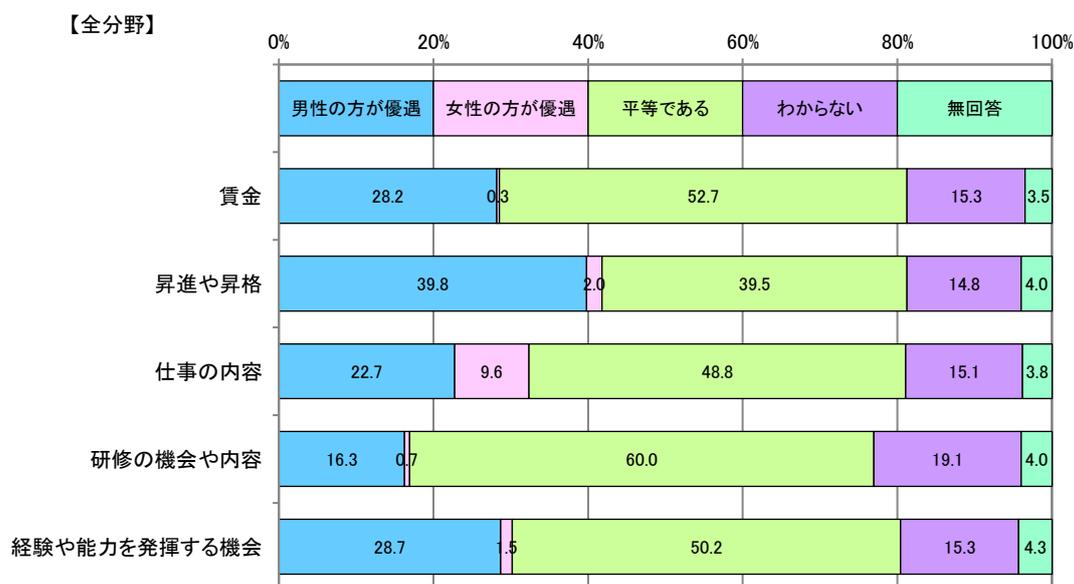


問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。

あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

- ・「昇進や昇格」を除き、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答でみると、「昇進や昇格」が約4割（39.8%）で、最も多くなっている。次いで、「経験や能力を発揮する機会」（28.7%）、「賃金」（28.2%）、「仕事の内容」（22.7%）、「研修の機会や内容」（16.3%）の順に続いている。一方、「女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（9.6%）となっている。それ以外の分野では、2%以下となっている。

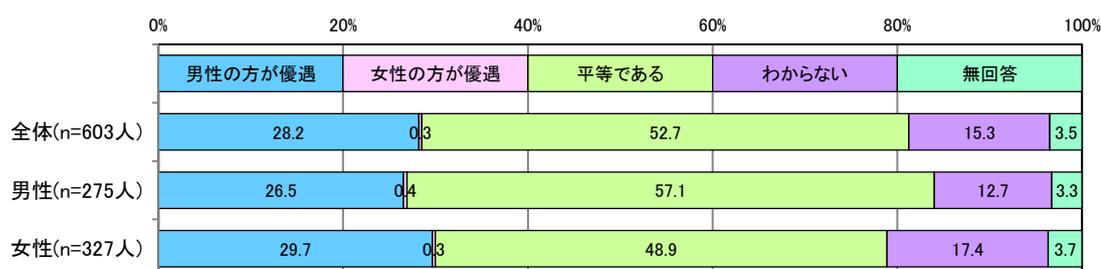


（全体 n=603 人）

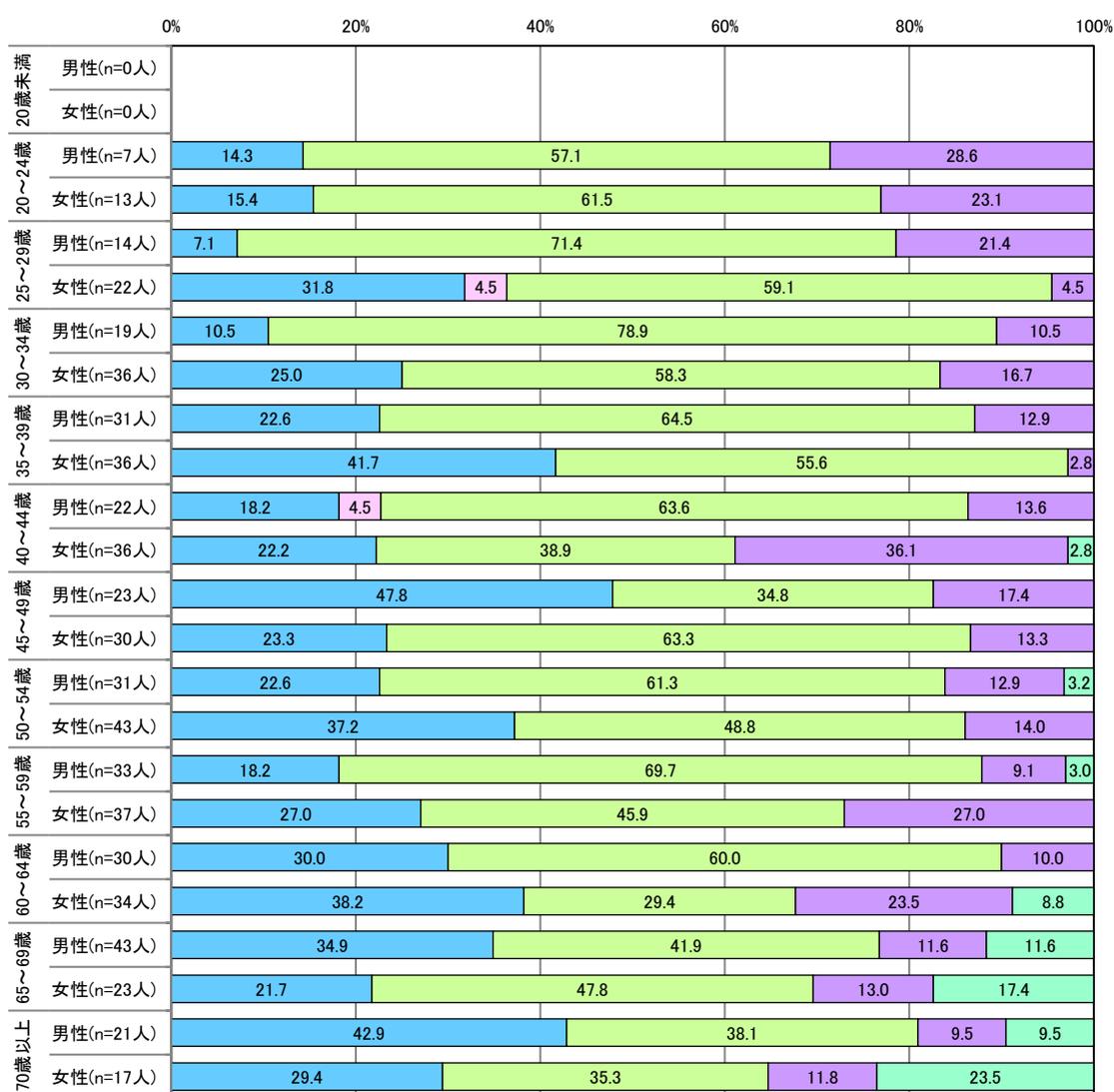
1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は57.1%で、女性は48.9%となっている。
- ・世代別性別でみると、ほとんどの世代別性別で「平等である」という回答の割合最も多くなっている。一方、45歳～49歳の男性、35歳～39歳の女性、70歳以上の男性では「男性の方が優遇されている」が、40歳～44歳の女性では「平等である」と「わからない」がほぼ同じ割合で、最も多くなっている。

【性別】

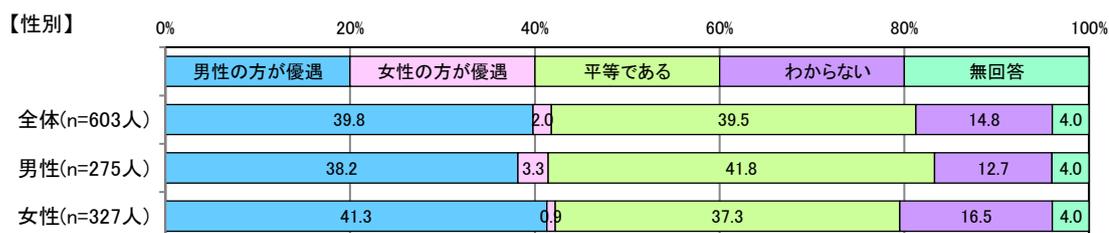


【世代別性別】

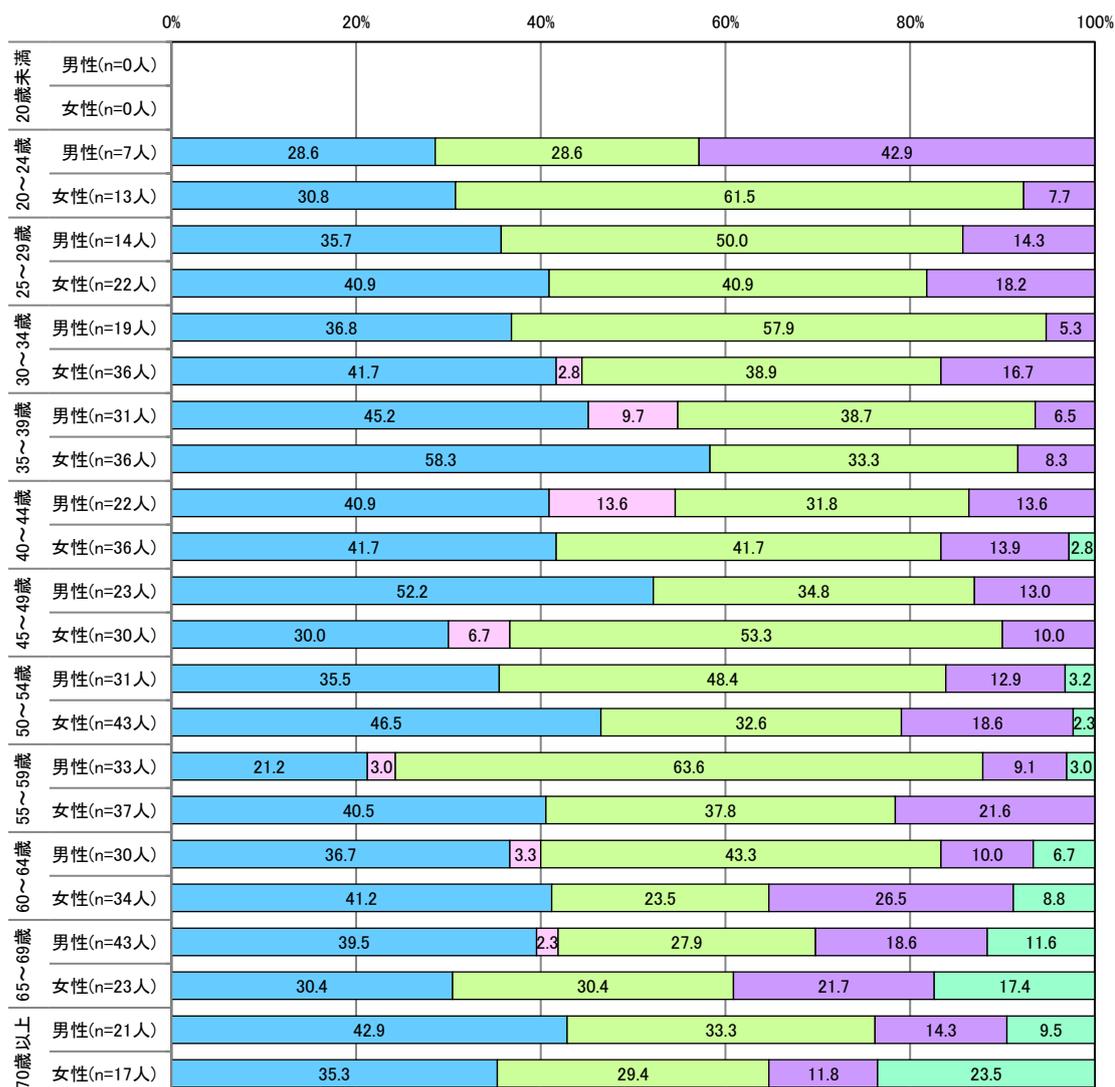


2 昇進や昇格

- ・性別でみると、男女とも、「男性の方が優遇されている」が約4割、「平等である」も約4割と拮抗している。
- ・世代別性別でみると、30歳代の女性、35歳～49歳の男性、50歳～64歳の女性、65歳以上の男性、70歳以上の女性では、「男性の方が優遇されている」が最も多くなっている。一方、20歳～24歳の女性、25歳～34歳の男性、45歳～49歳の女性、50歳～64歳の男性では、「平等である」が最も多くなっている。また、25歳～29歳の女性、40歳～44歳の女性、65歳～69歳の女性では、「男性の方が優遇されている」と「平等である」が同じ回答割合で最も多くなっている。



【世代別性別】

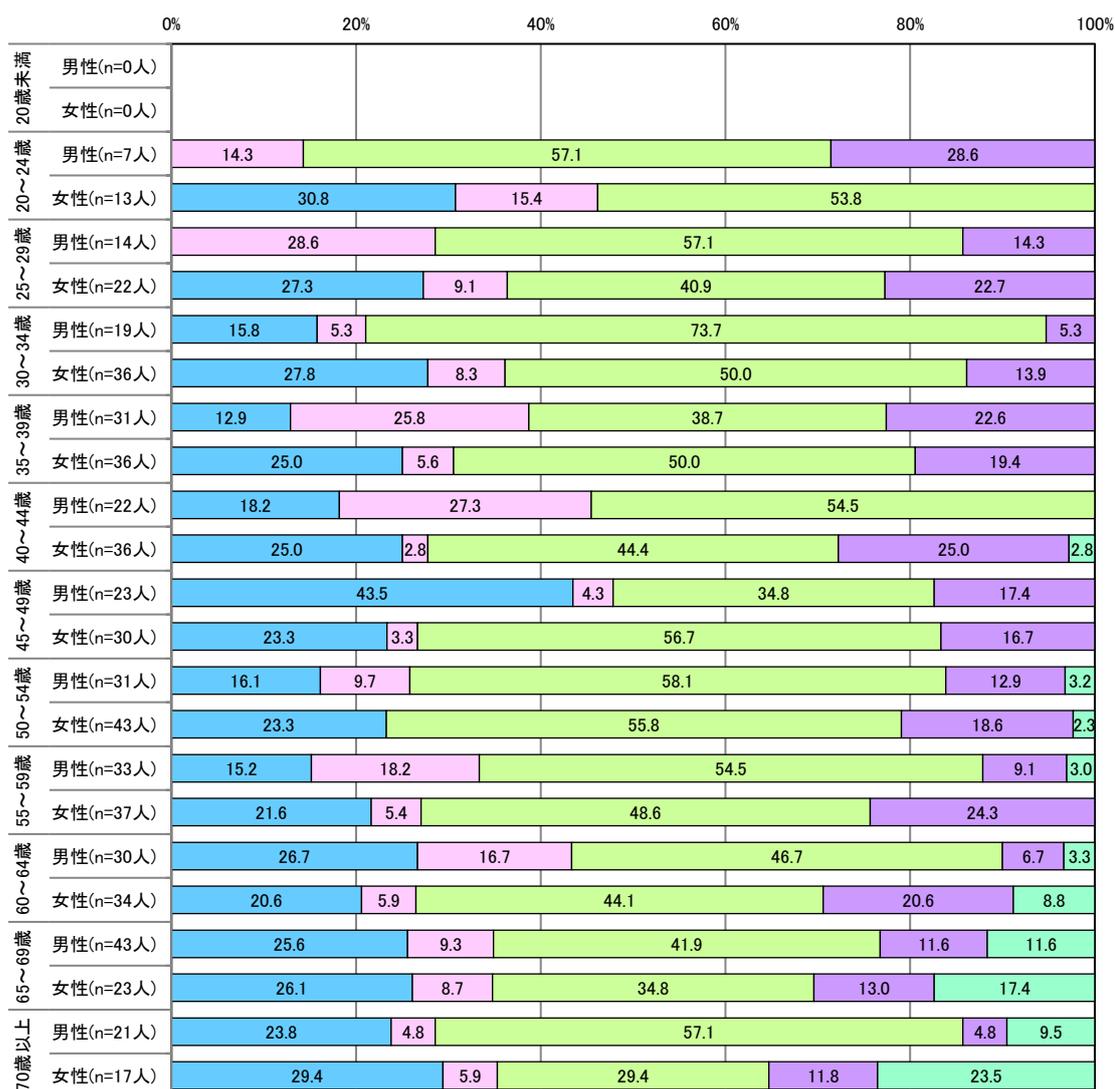


3 仕事の内容

- ・性別で見ると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が 50.2%、女性が 47.4% となっている。
- ・「女性の方が優遇されている」という回答は、男性が 14.5%、女性が 5.5%で、男性の回答割合が高く、男女間に意識の差がみられる。
- ・世代別性別では、45 歳～49 歳の男性では、「男性の方が優遇されている」が最も多く、70 歳以上の女性では、「男性の方が優遇されている」と「平等である」という回答が同じ割合となっている。一方、その他のいずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。

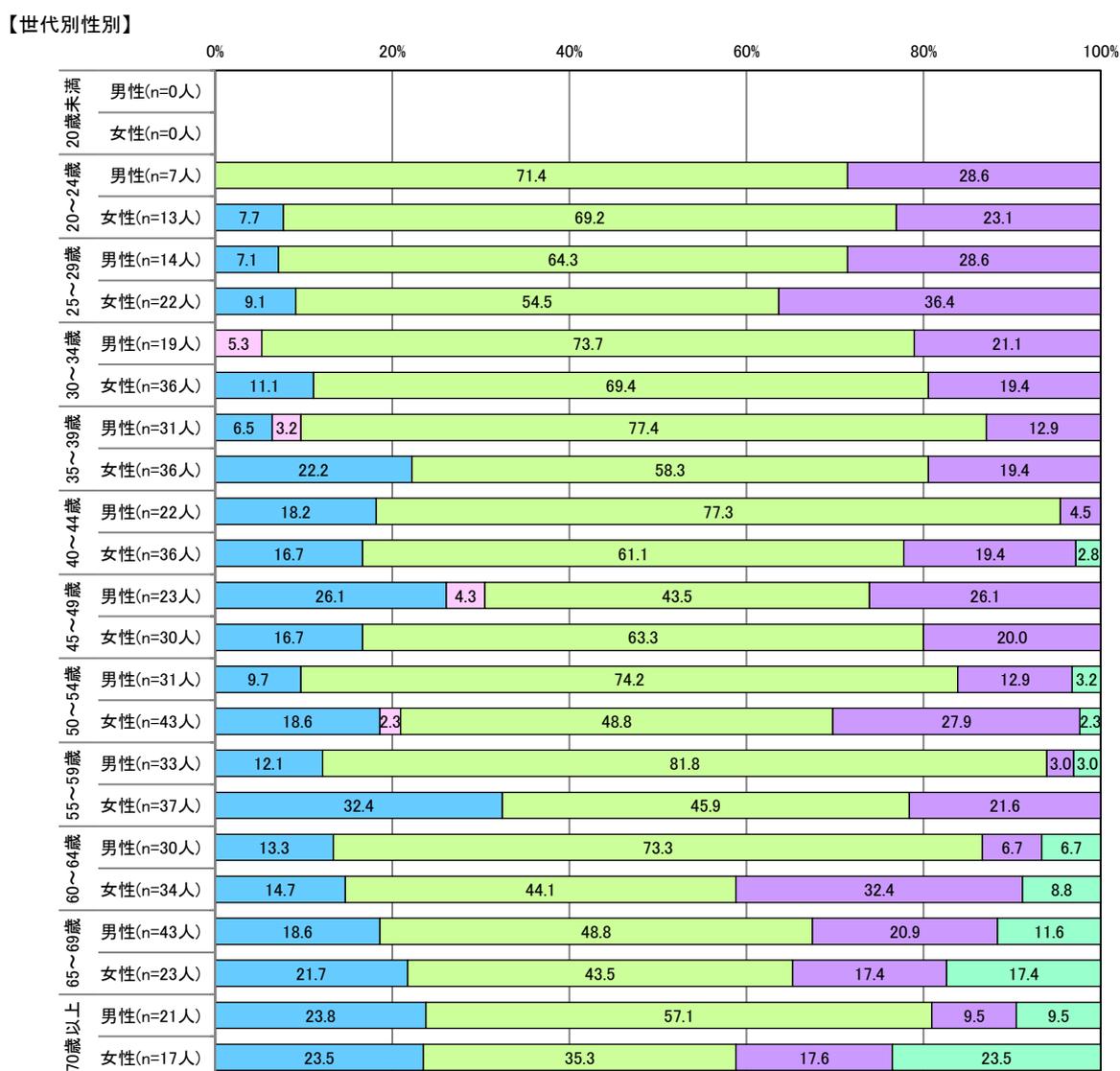
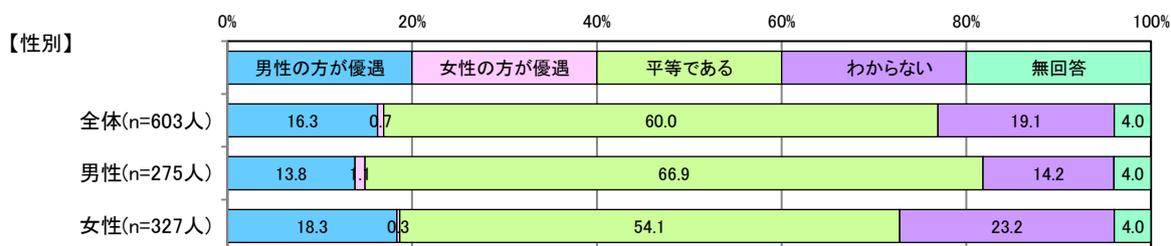


【世代別性別】



4 研修の機会や内容

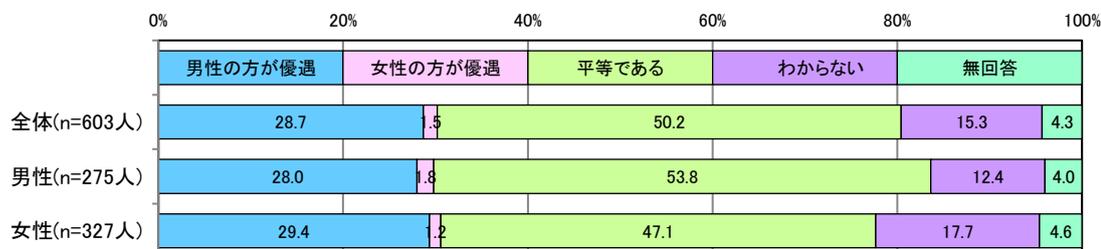
- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が66.9%、女性が54.1%となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



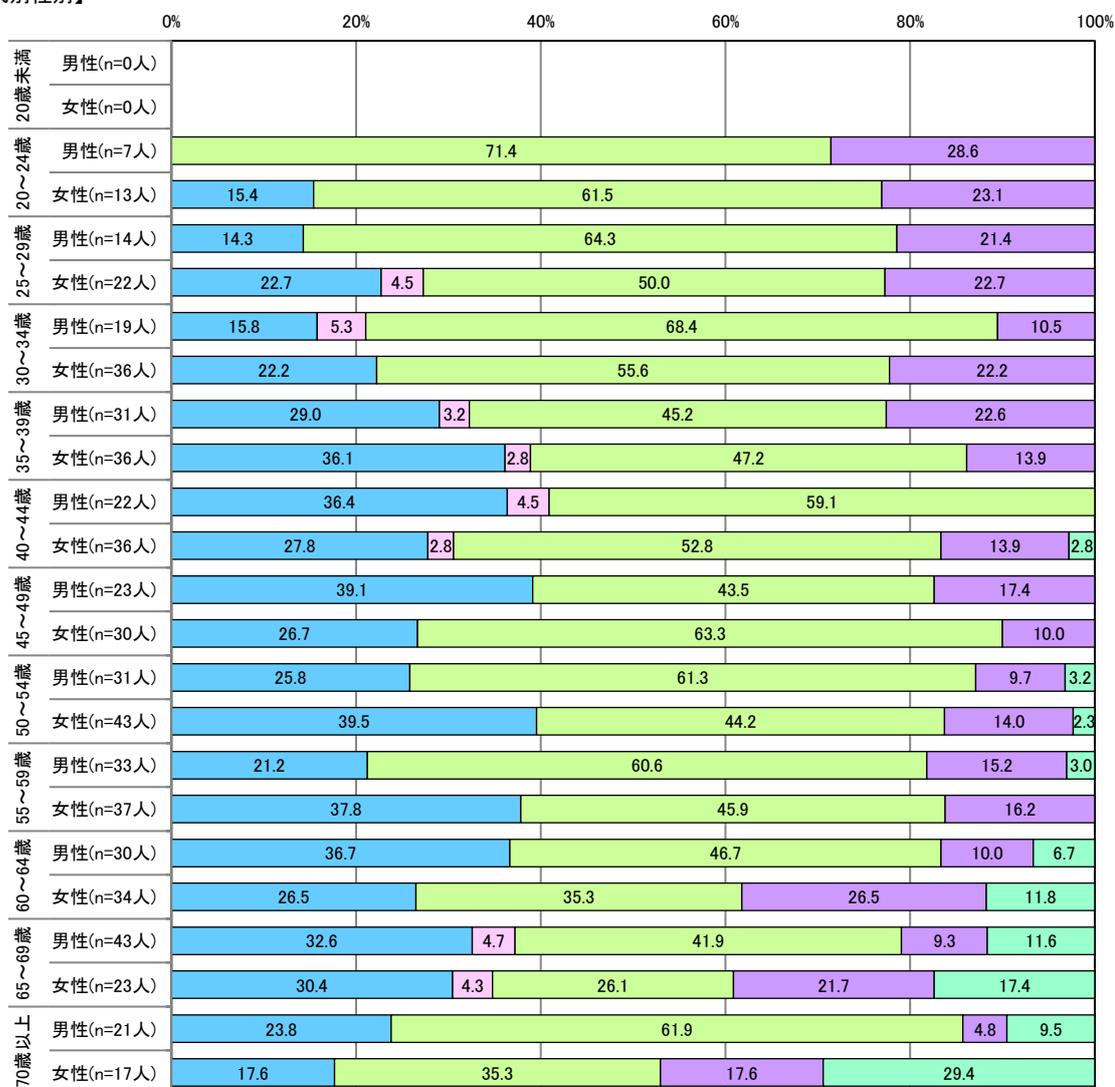
5 経験や能力を発揮する機会

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が53.8%、女性が47.1%となっている。
- ・世代別性別でみると、65歳～69歳の女性を除く、いずれの年代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。

【性別】



【世代別性別】



問7 現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

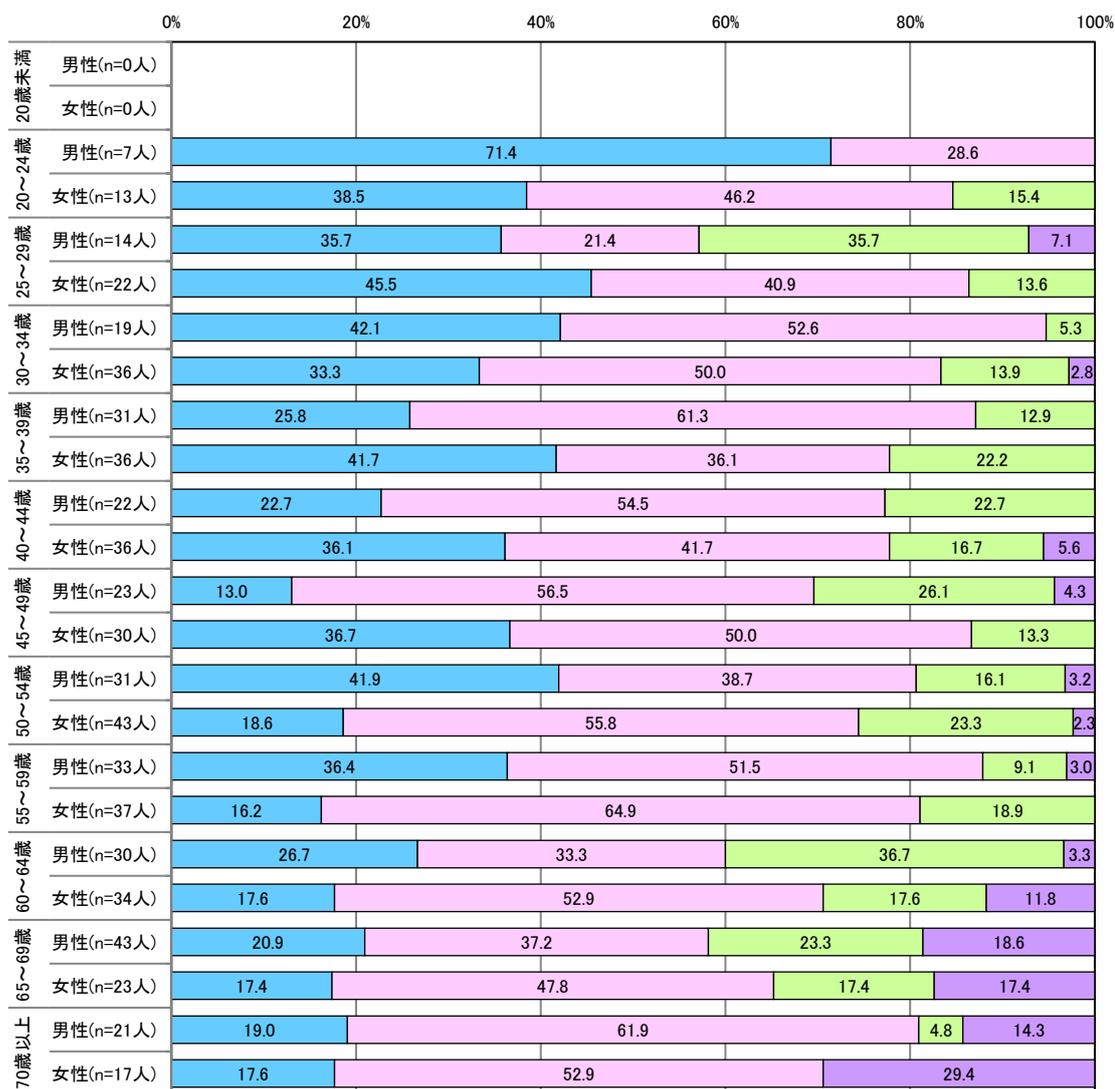
あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。
次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男女ともに、「積極的とは言えないが推進している」という回答が最も多く、次いで、「積極的に推進している」となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳～24歳の男性、25歳～29歳の女性、35歳～39歳の女性、50歳～54歳の男性では、「積極的に推進している」の回答が最も多い。また、25～29歳の男性では、「積極的に推進している」と「推進しているとは言えない」が同率となっている。その他の世代では、いずれも「積極的とは言えないが推進している」の回答が最も多くなっている。

【性別】



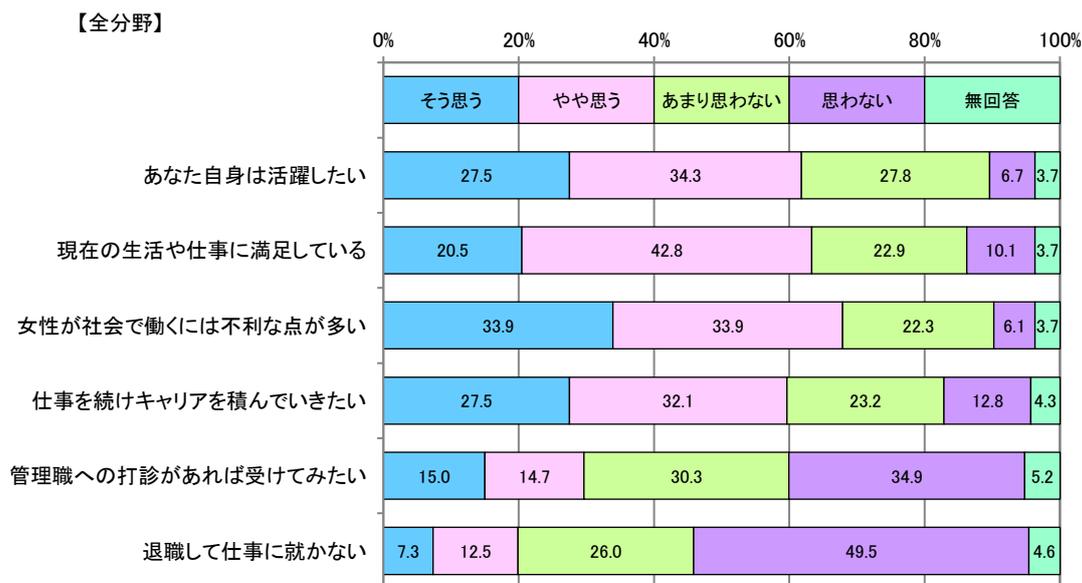
【世代別性別】



問8 現在、職業に就いていらっしゃる女性の方におたずねします。

今の職場について、あなたのお考えに近い番号を1つずつお選びください。

- ・「そう思う」という回答でみると、「女性が社会で働くには不利な点が多い」が約3割(33.9%)で、最も多くなっている。次いで、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(27.5%)、「あなた自身は活躍したい」(27.5%)が同率となり、「現在の生活や仕事に満足している」(20.5%)の順が続いている。一方、「思わない」という回答の割合は、「退職して仕事に就かない」が約5割(49.5%)と最も多くなっている。次いで、「管理職への打診があれば受けてみたい」が約3割(34.9%)となっている。

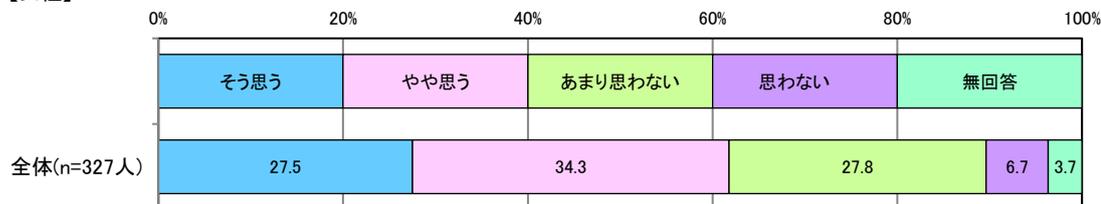


(女性のみ n=327人)

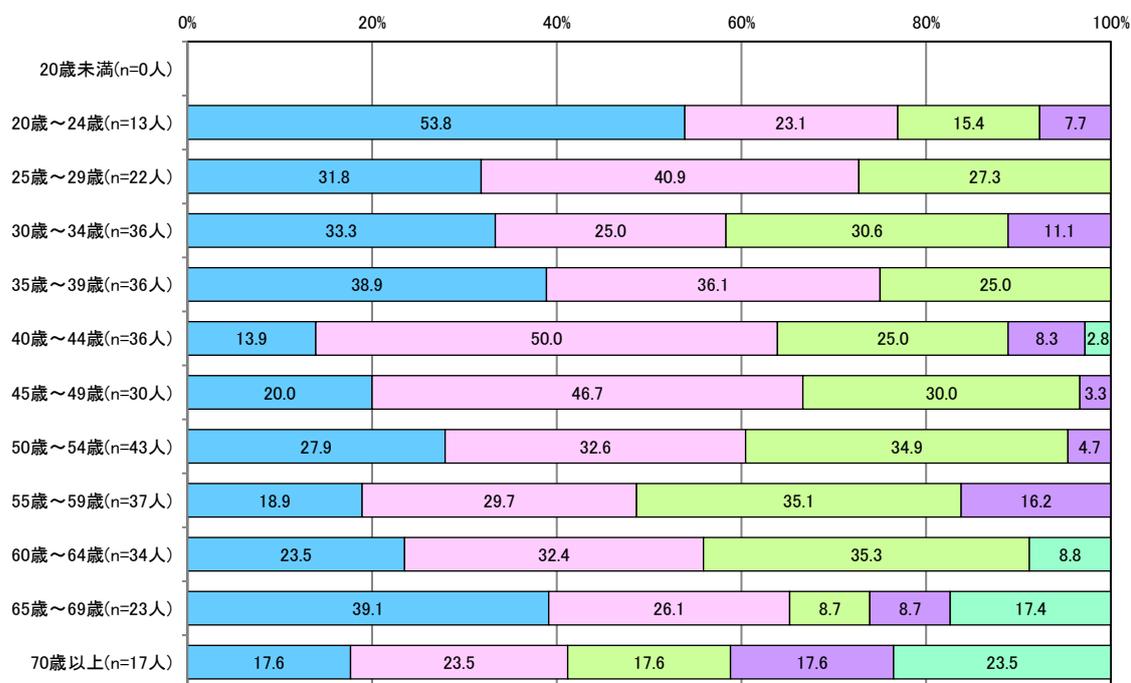
1 あなた自身は活躍したい

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、約3割（34.3%）となっている。
- ・世代別でみると、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計でみると、20歳～29歳、35歳～39歳で7割を超えている。
- ・配偶者の有無でみると、「そう思う」という回答が最も多いのは、「結婚していない」（37.3%）、で約4割となっている。

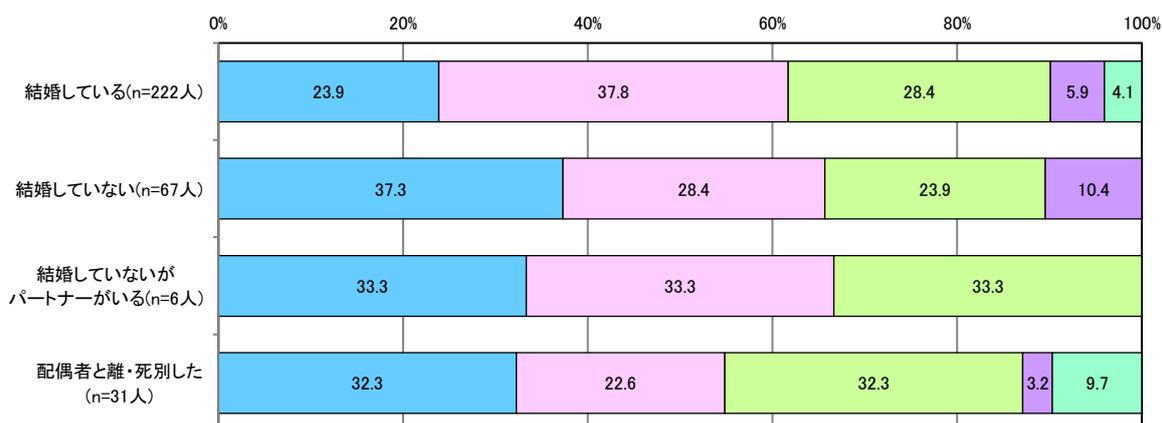
【女性】



【女性世代別】

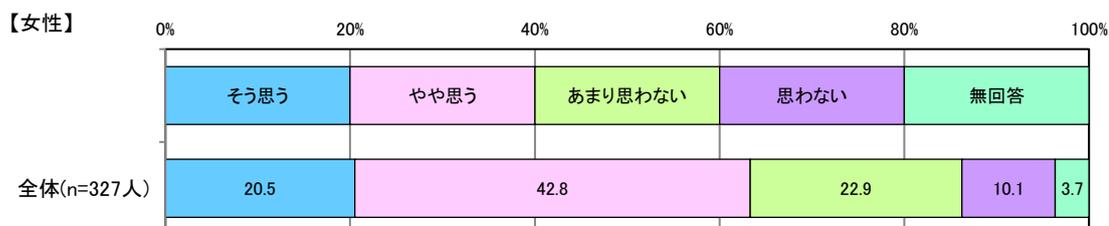


【配偶者の有無】

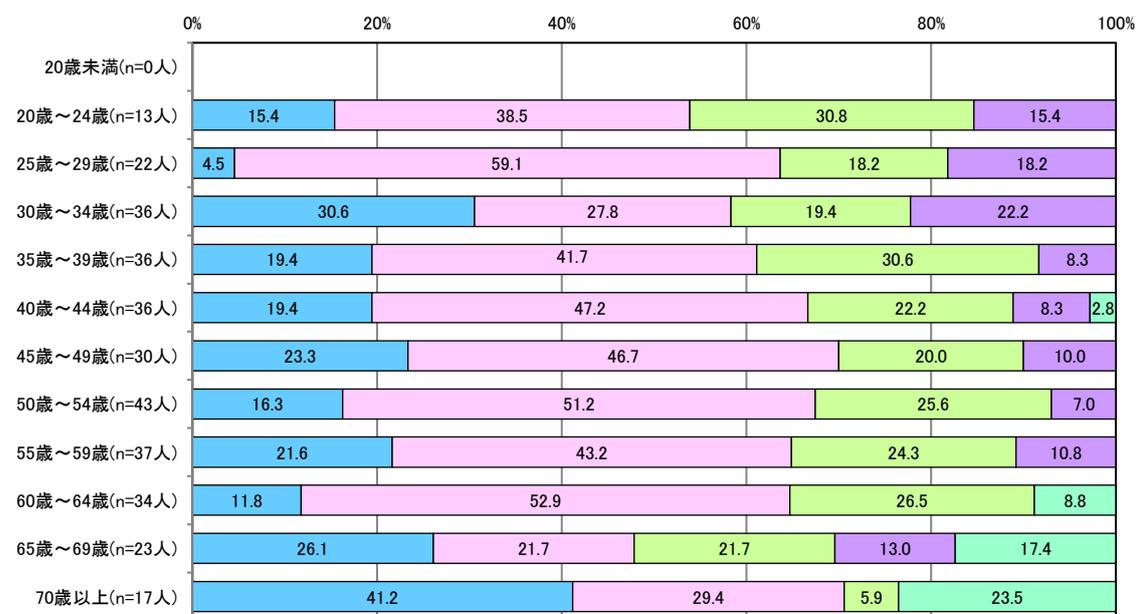


2 現在の生活や仕事に満足している

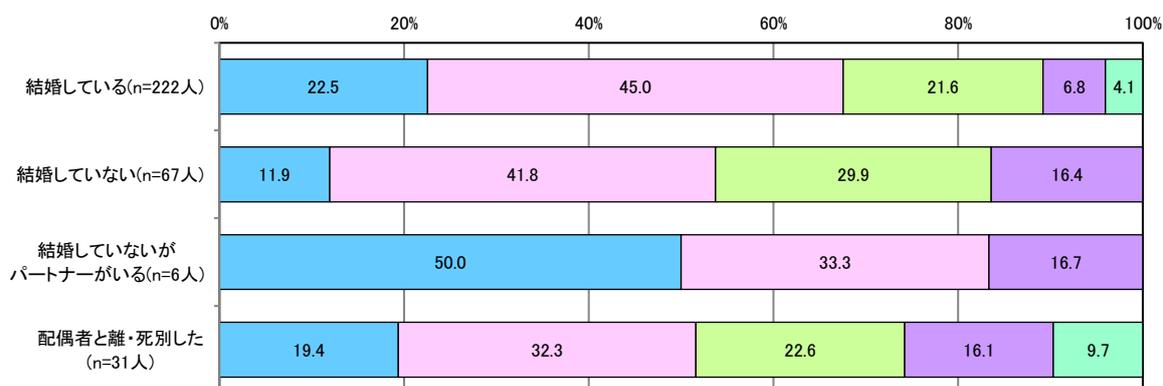
- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、42.8%となっている。
- ・世代別でみると、45歳～49歳、70歳以上で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が7割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」という回答が、「結婚している」において回答割合が2割を超えているのに対し、「結婚していない」では11.9%と回答割合が約1割となっている。



【女性世代別】



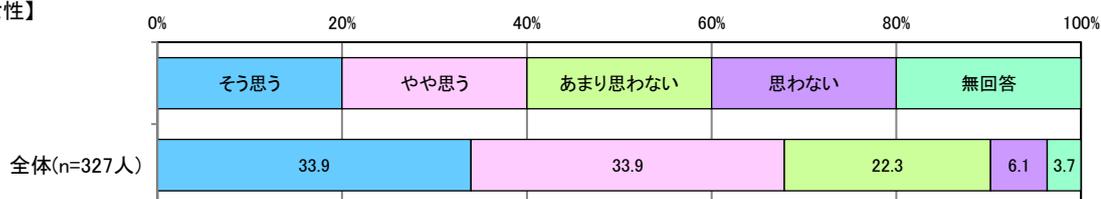
【配偶者の有無】



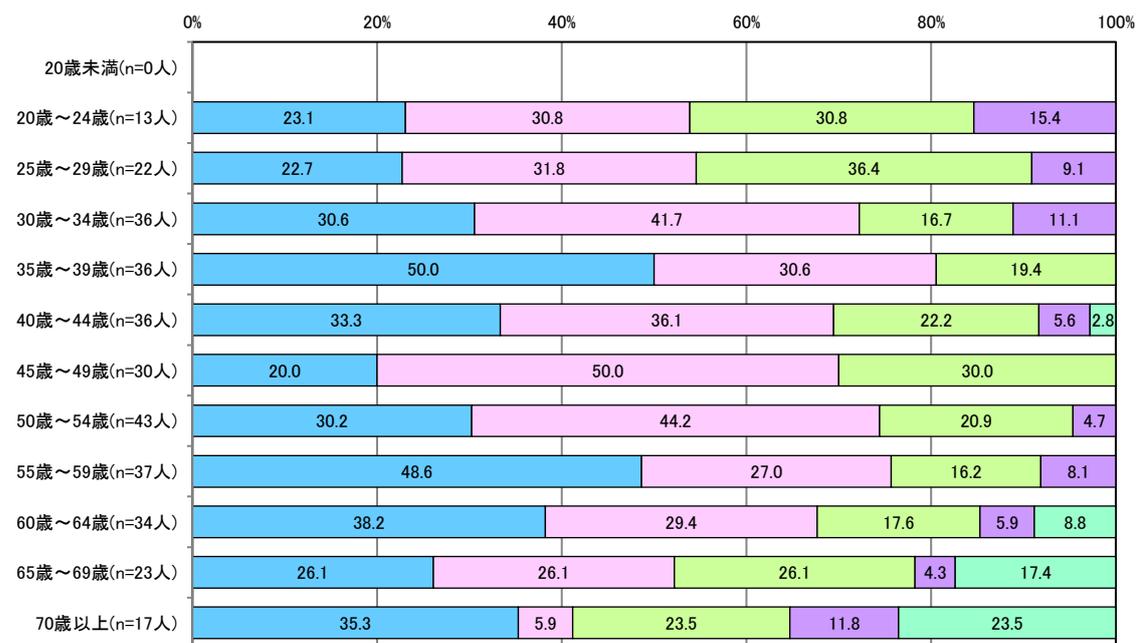
3 女性が社会で働くには不利な点が多い

- ・全体でみると、「そう思う」という回答が 33.9%、「ややそう思う」が 33.9%と同じ割合で最も多くなっている。
- ・世代別では、30～39 歳、45～59 歳の年代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が、7 割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」という回答が「結婚していないがパートナーがいる」(50.0%) で最も多い回答となっている。一方、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、「結婚していない」を除きいずれも 6 割以上となっている。

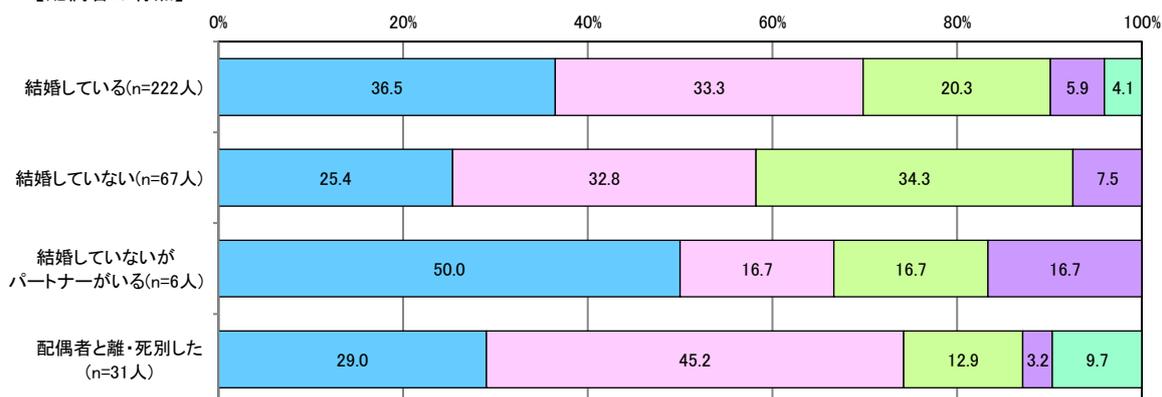
【女性】



【女性世代別】

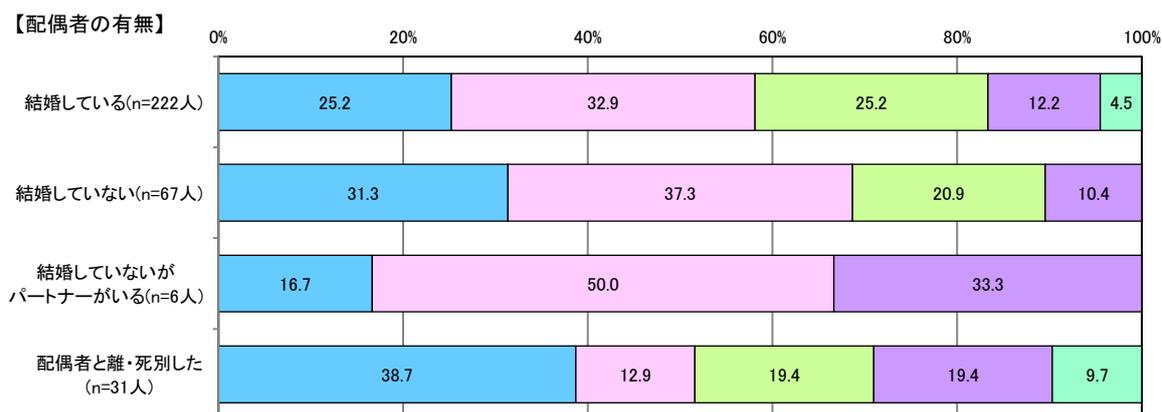
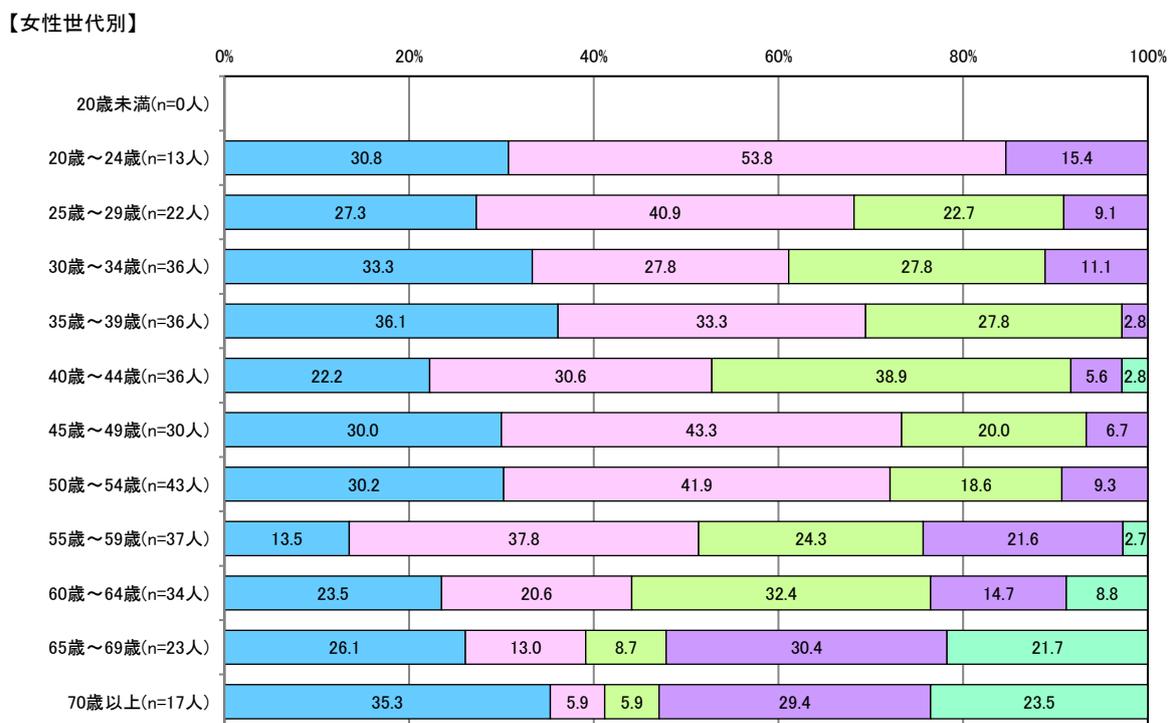
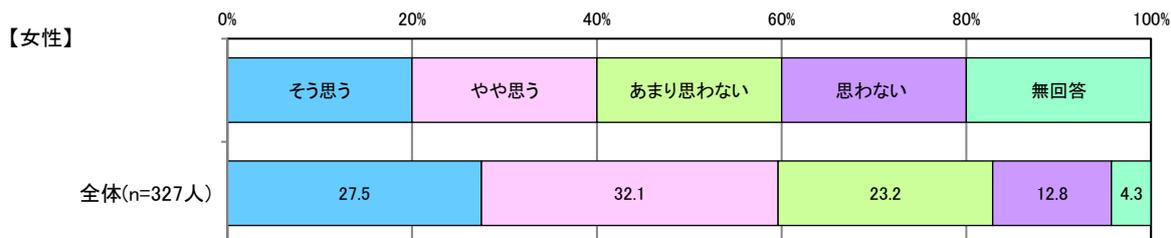


【配偶者の有無】



4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

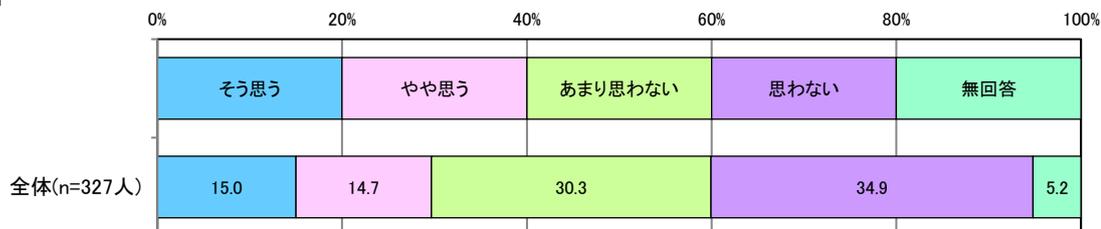
- ・全体でみると、「やや思う」という回答が32.1%で最も多く、次いで「そう思う」が27.5%となっている。
- ・世代別でみると、60歳未満では、いずれの世代においても「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が5割を超えている。特に、20歳～24歳で8割を、25歳～29歳、30歳～39歳、45歳～54歳では、6割を超えている。
- ・配偶者の有無でみると、「結婚していない」、「配偶者と離・死別した」で、「そう思う」という回答割合が、3割を超えている。



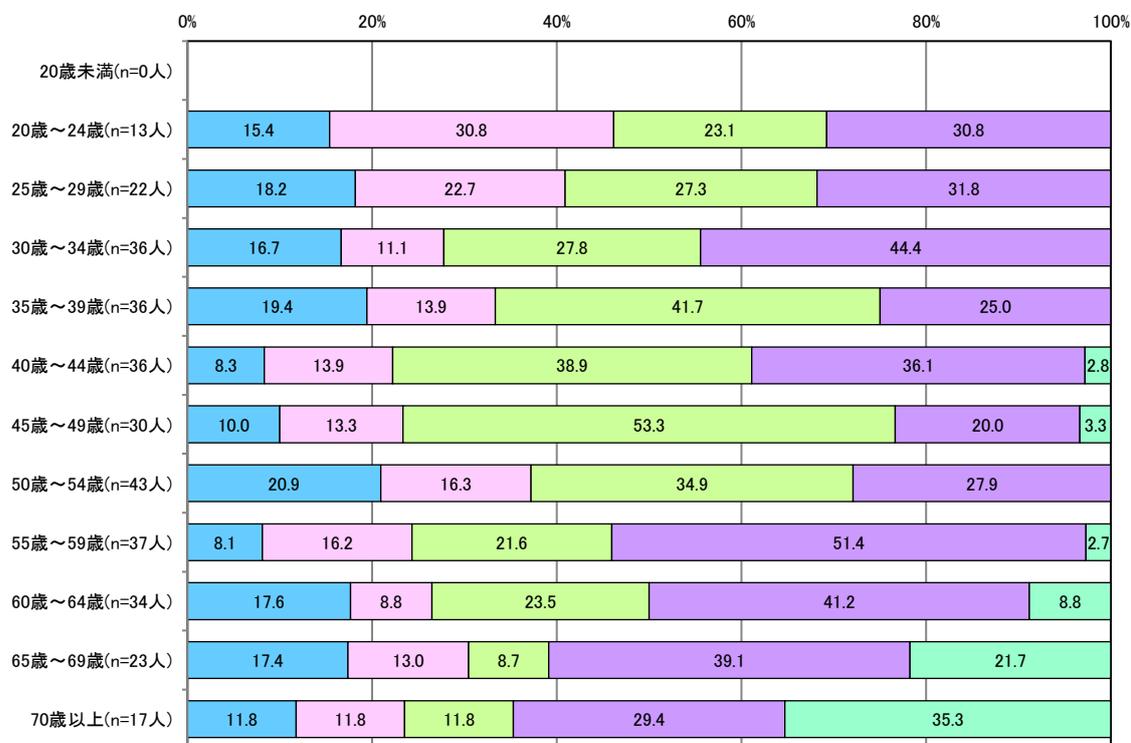
5 管理職への打診があれば受けてみたい

- ・全体でみると、「思わない」という回答が34.9%で最も多くなっている。
- ・世代別でみると、65歳未満で、「思わない」「あまり思わない」という回答合計が5割を超えている。
- ・配偶者の有無でみると、「思う」の回答が、「配偶者と離・死別した」(22.6%)で2割を超えている。

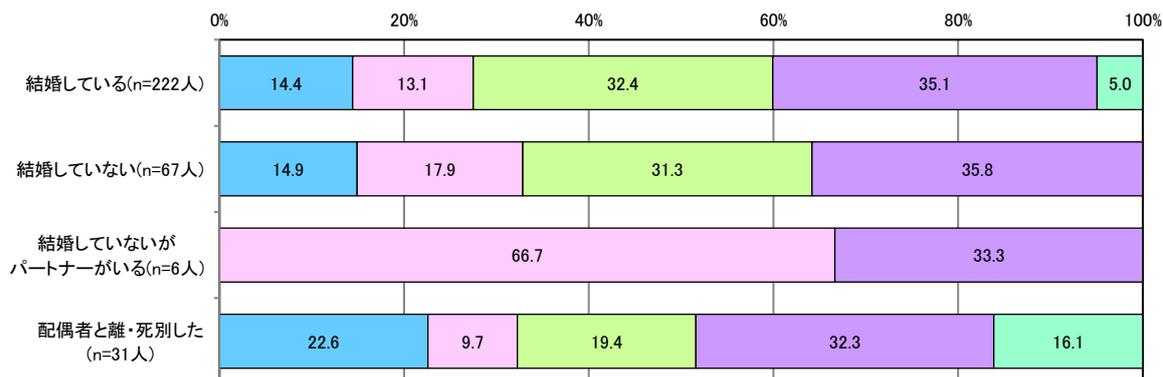
【女性】



【女性世代別】



【配偶者の有無】



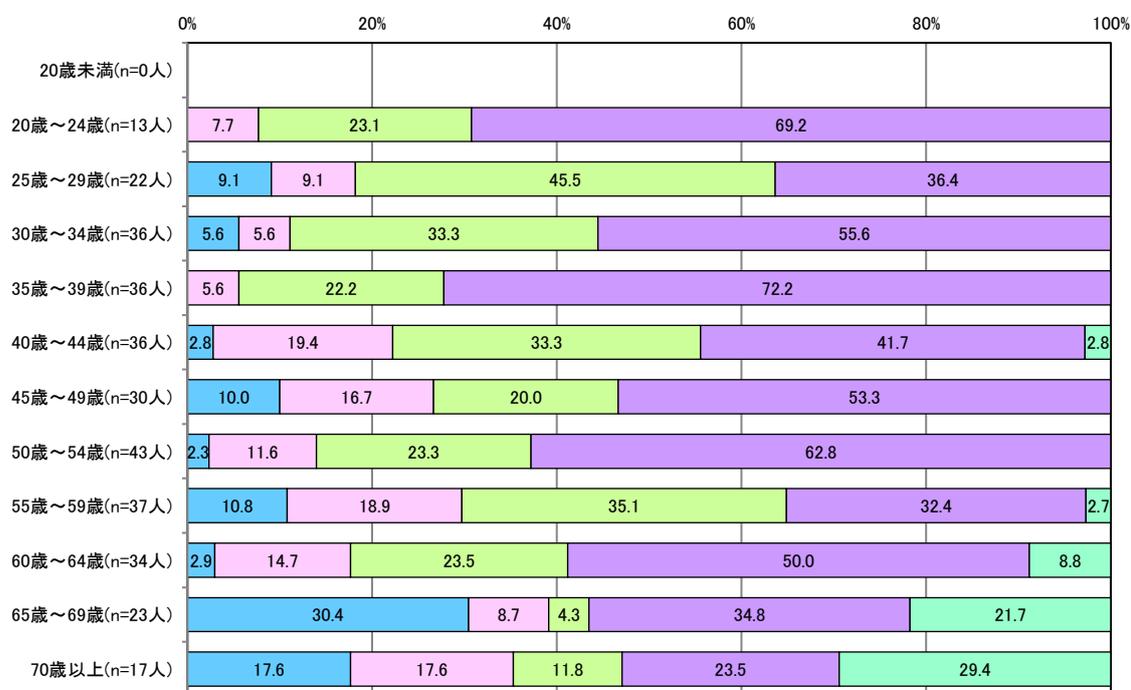
6 退職して仕事に就かない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が49.5%と約5割となっている。
- ・世代別でみると、25歳～29歳、55歳～59歳、70歳以上の年代を除き、いずれの年代においても「思わない」という回答が最も多くなっている。
- ・配偶者の有無でみると、「結婚していないがパートナーがいる」を除き、「思わない」という回答が、最も多い回答割合となっている。

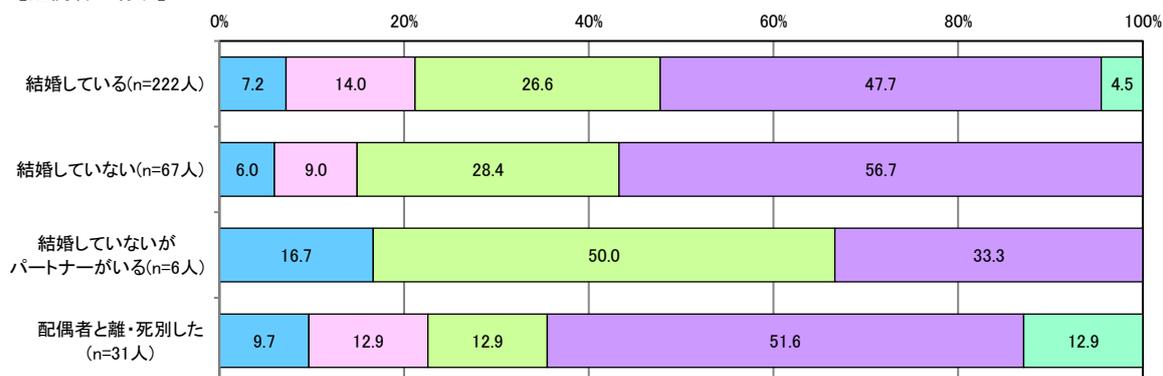
【女性】



【女性世代別】



【配偶者の有無】

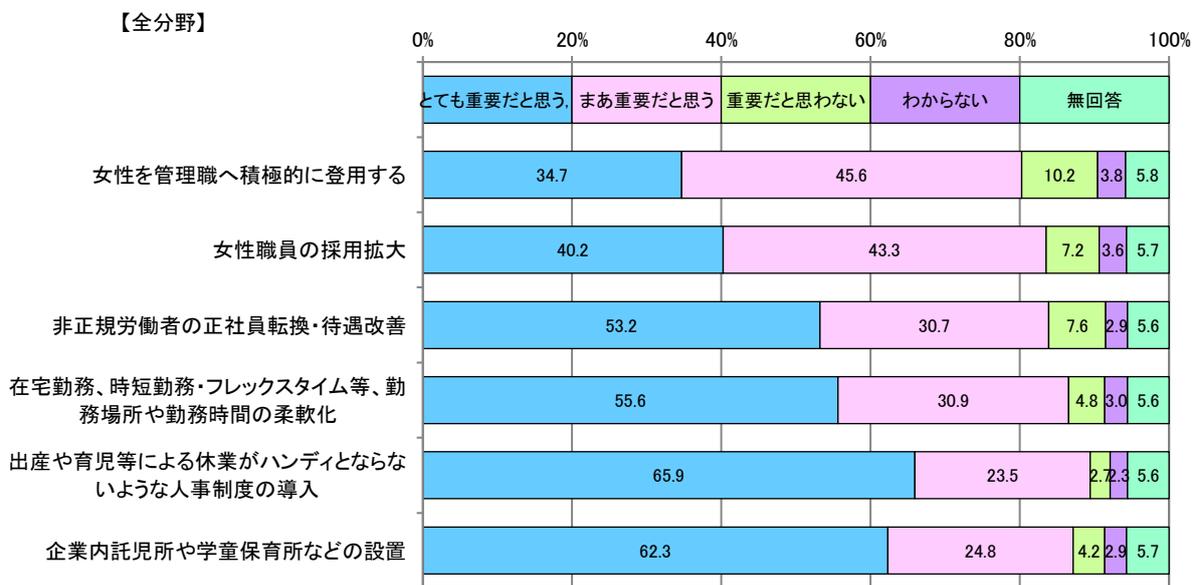


現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問9 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんでしょうか。

あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

- ・「女性を管理職へ積極的に登用する」、「女性職員の採用拡大」以外で、「とても重要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・「とても重要だと思う」という回答でみると、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」（65.9%）が約7割と最も多くなっている。次いで、「企業内託児所や学童保育所などの設置」（62.3%）、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」（55.6%）、「非正規労働者の正社員転換・待遇改善」（53.2%）と続いている。一方、「まあ重要だと思う」という回答は、「女性を管理職へ積極的に登用する」（45.6%）、「女性職員の採用拡大」（43.3%）で、4割を超えている。

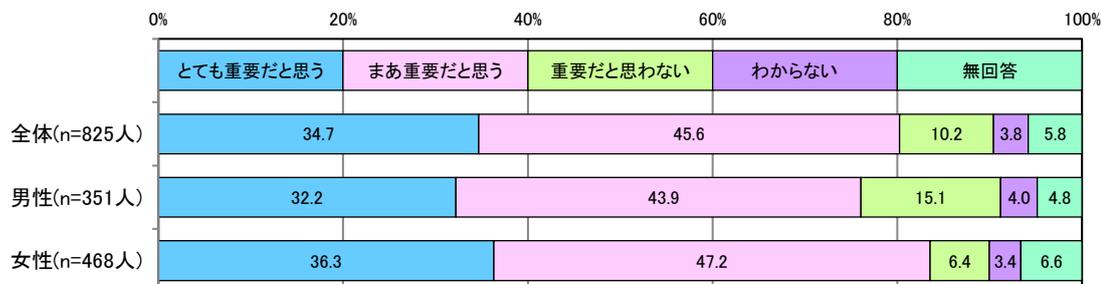


(全体 n=825 人)

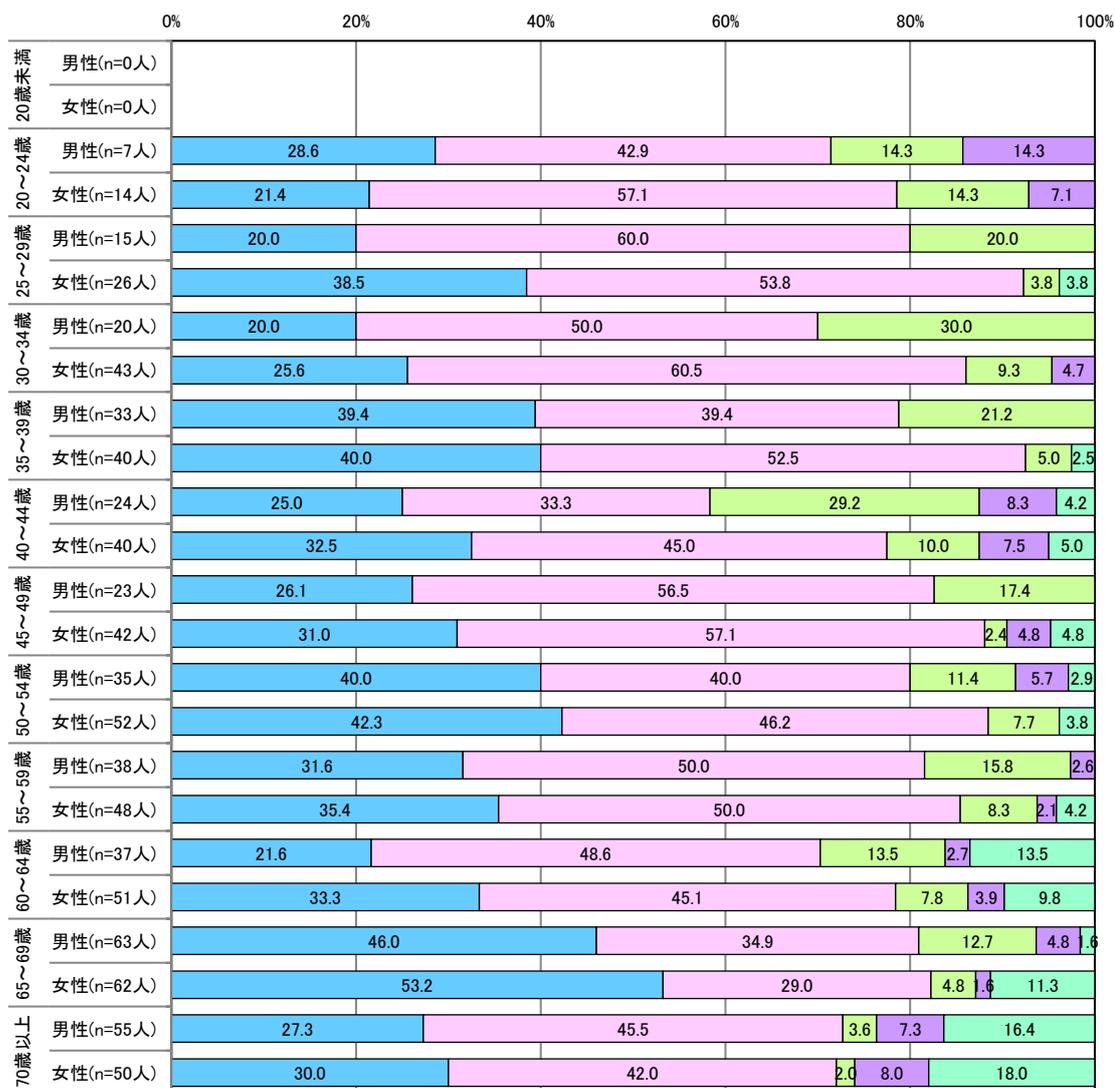
1 女性を管理職へ積極的に登用する

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は43.9%で、女性は47.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、25歳～39歳の女性、45歳～59歳の男女、65歳～69歳の男女では8割を超え、他の年代に比べて高くなっている。

【性別】

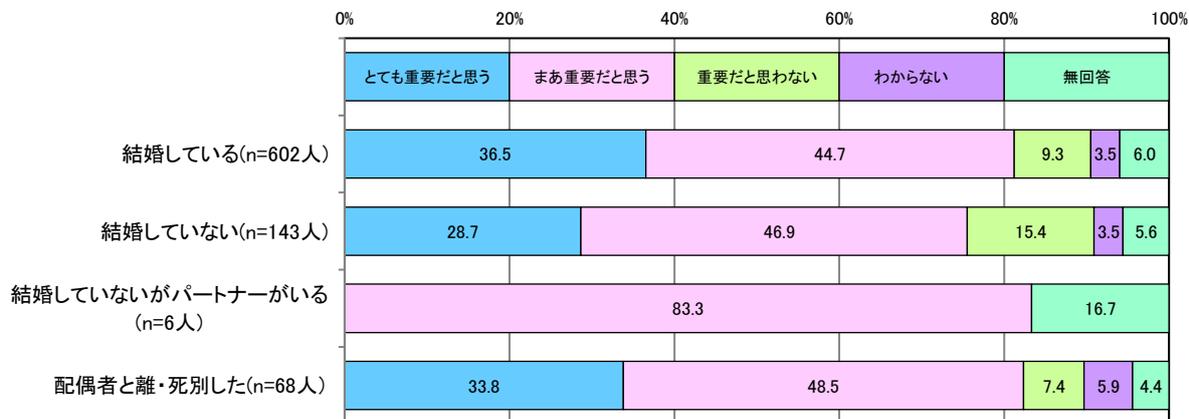


【世代別性別】



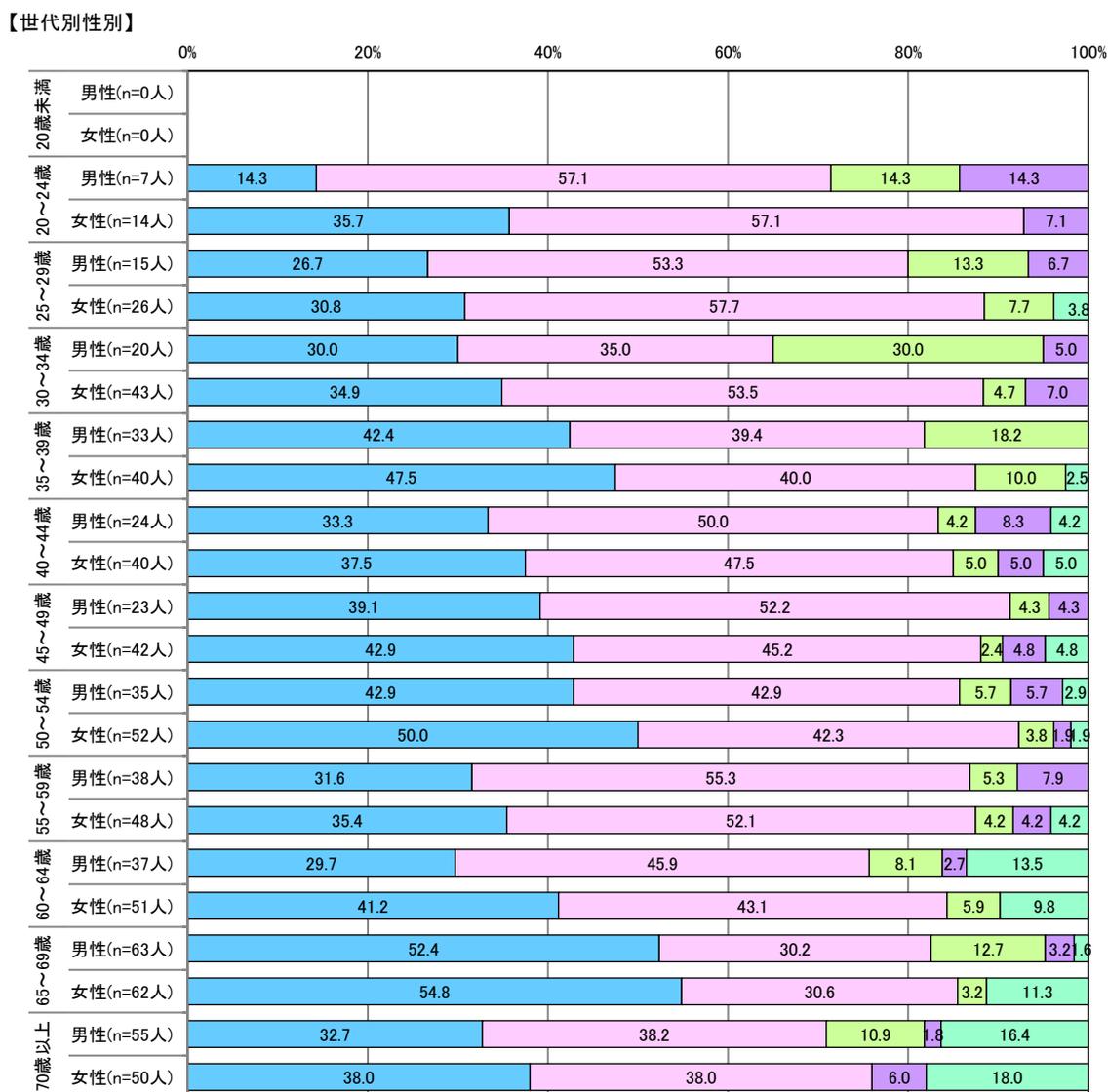
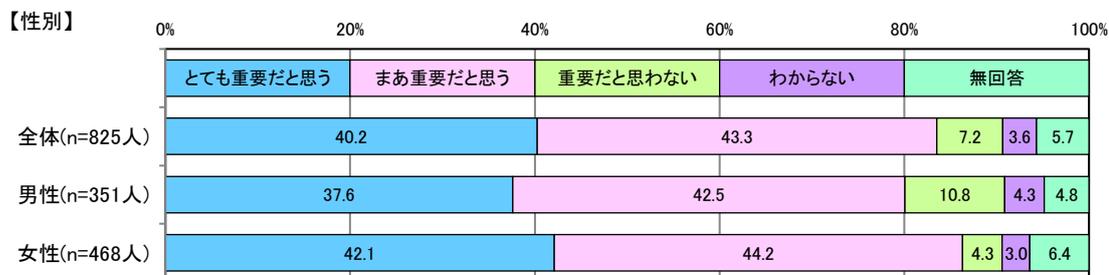
・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「結婚している」、「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」で8割を超えている。一方、「結婚していない」では7割台となっている。

【配偶者の有無】



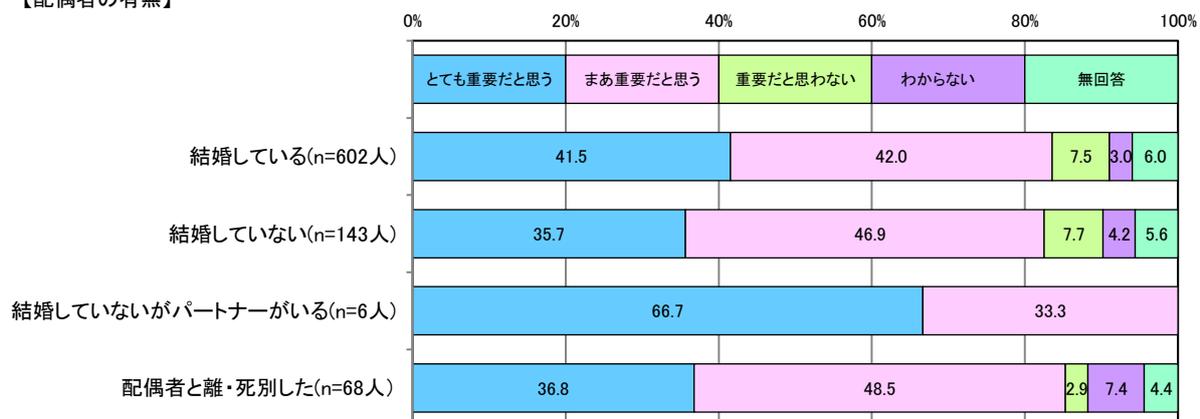
2 女性職員の採用拡大

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は42.5%で、女性は44.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の女性、30歳～34歳の女性、35歳～59歳の男女、60歳～64歳の女性、65歳～69歳の男女で、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、8割を超えている。



・配偶者の有無でみると、いずれも、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が8割を超えている。

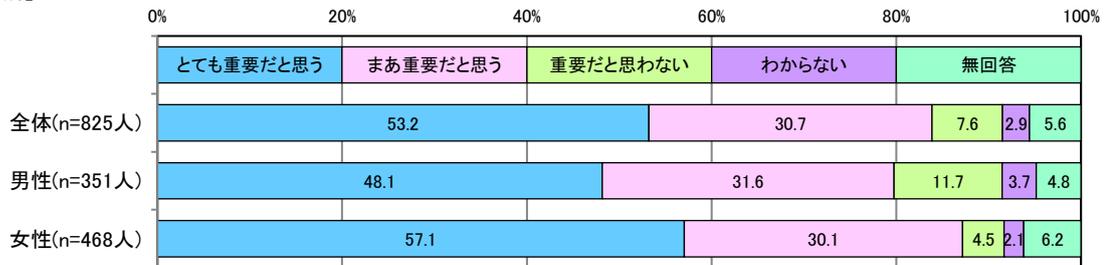
【配偶者の有無】



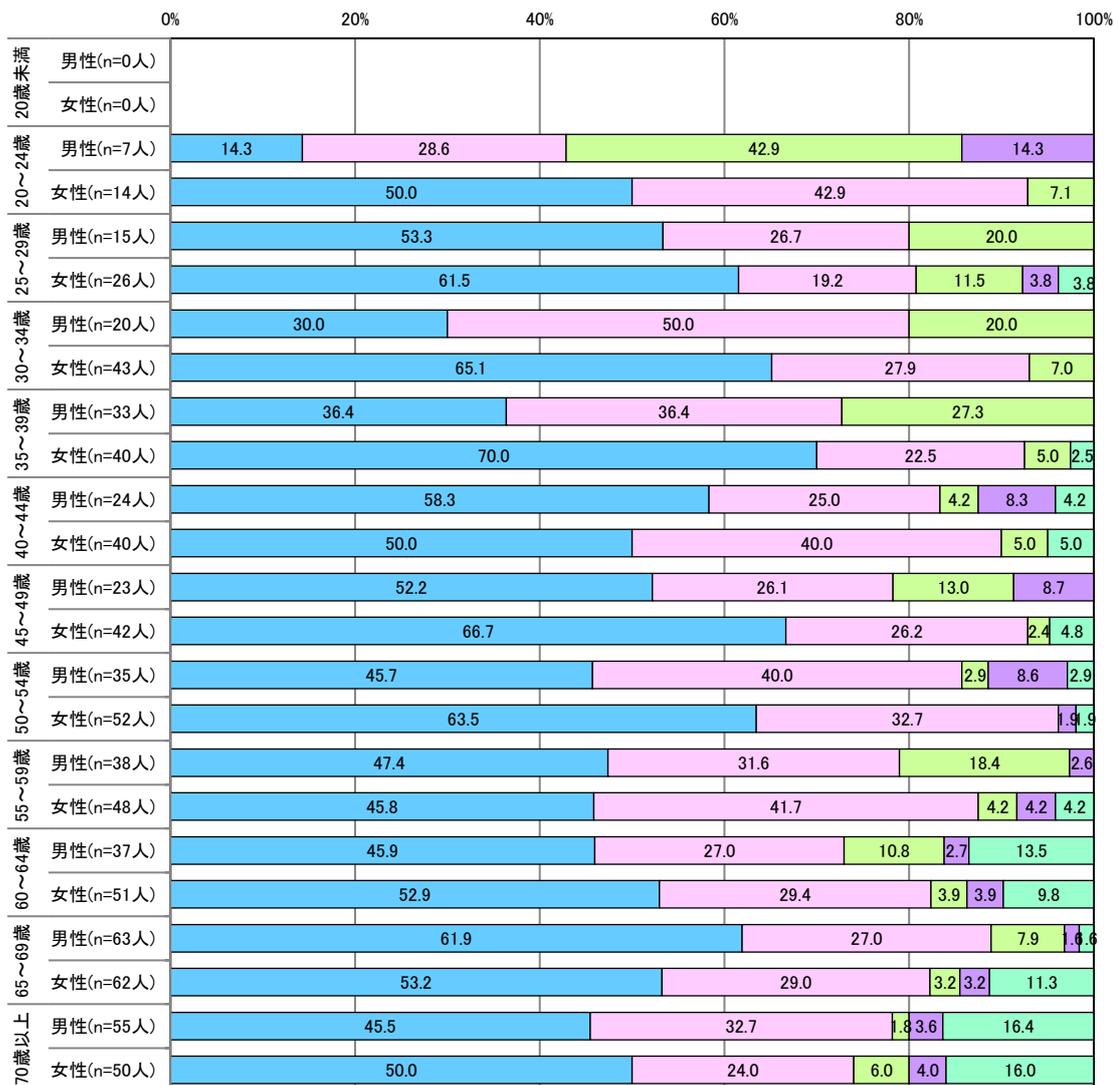
3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善

- ・性別でみると、男女とも「とても重要だと思う」という回答が最も多く、男性が 48.1%、女性が 57.1%となっている。
- ・世代別性別では、20 歳～24 歳の男性を除き、いずれの世代別性別でも、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、6 割を超えている。

【性別】

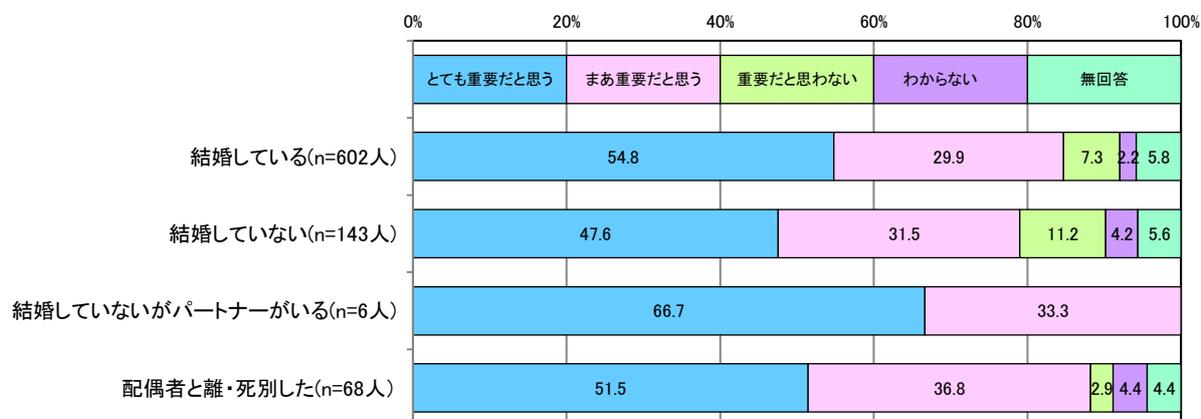


【世代別性別】



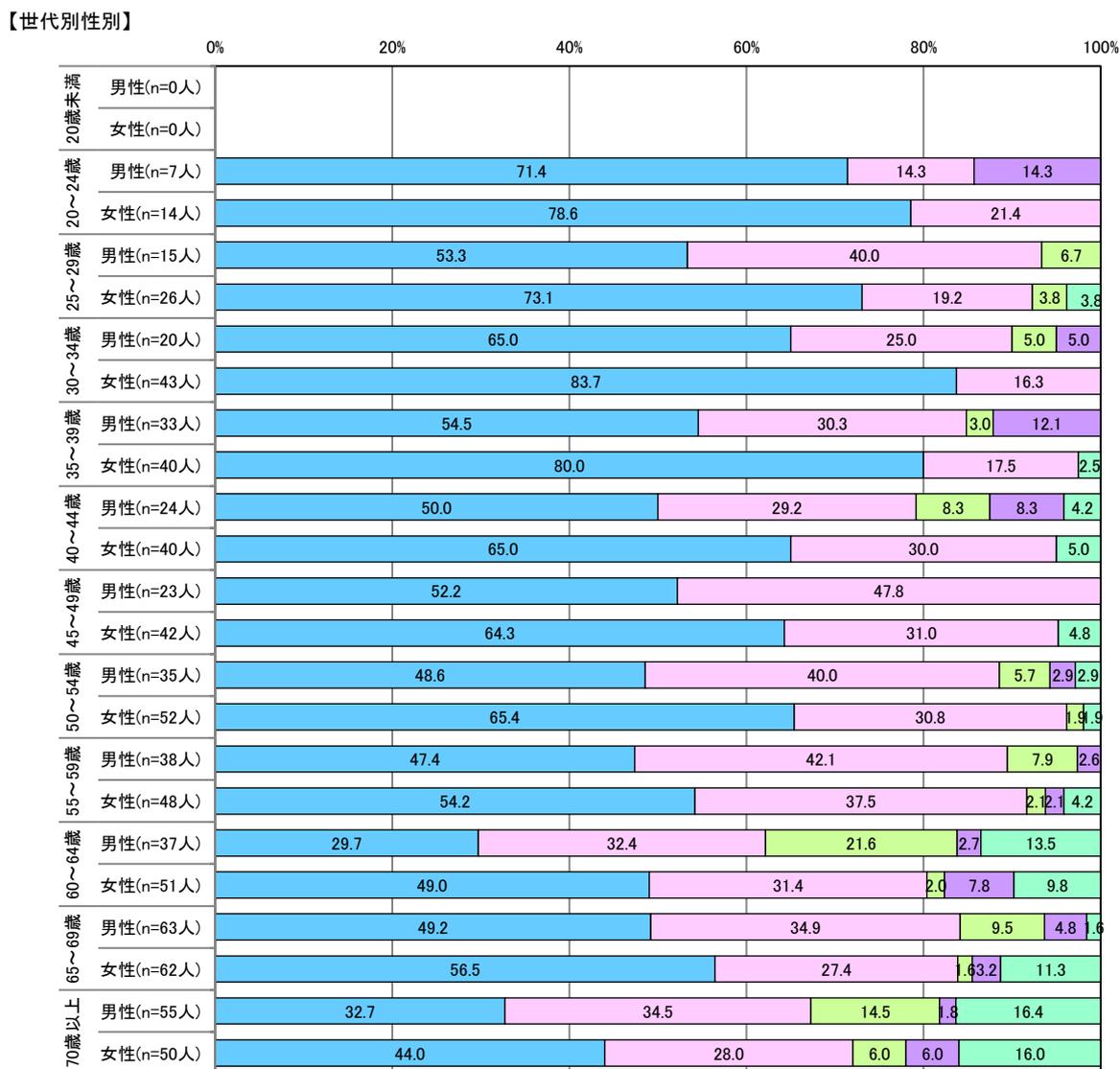
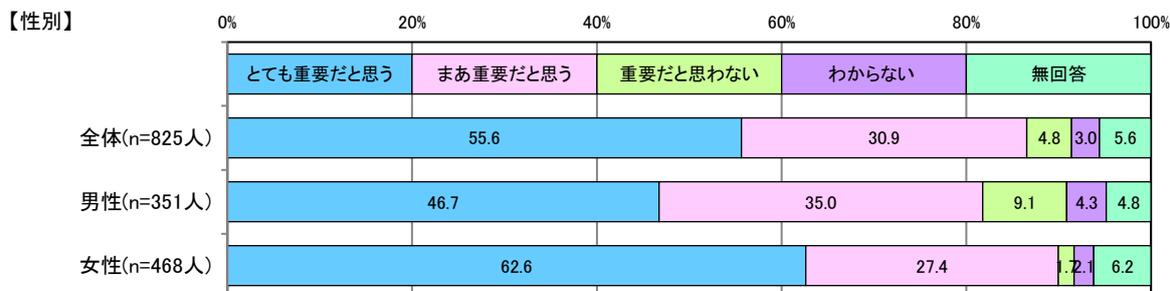
・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」という回答は、「結婚している」で 54.8%、「結婚していないがパートナーがいる」で 66.7%、「配偶者と離・死別した」で 51.5%と回答割合が5割を超えている。

【配偶者の有無】



4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が46.7%、女性が62.6%となっている。
- ・世代別性別でみると、40歳～44歳の男性、60歳～64歳の男性、70歳以上の男女を除き、いずれの年代で、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が8割を超えている。



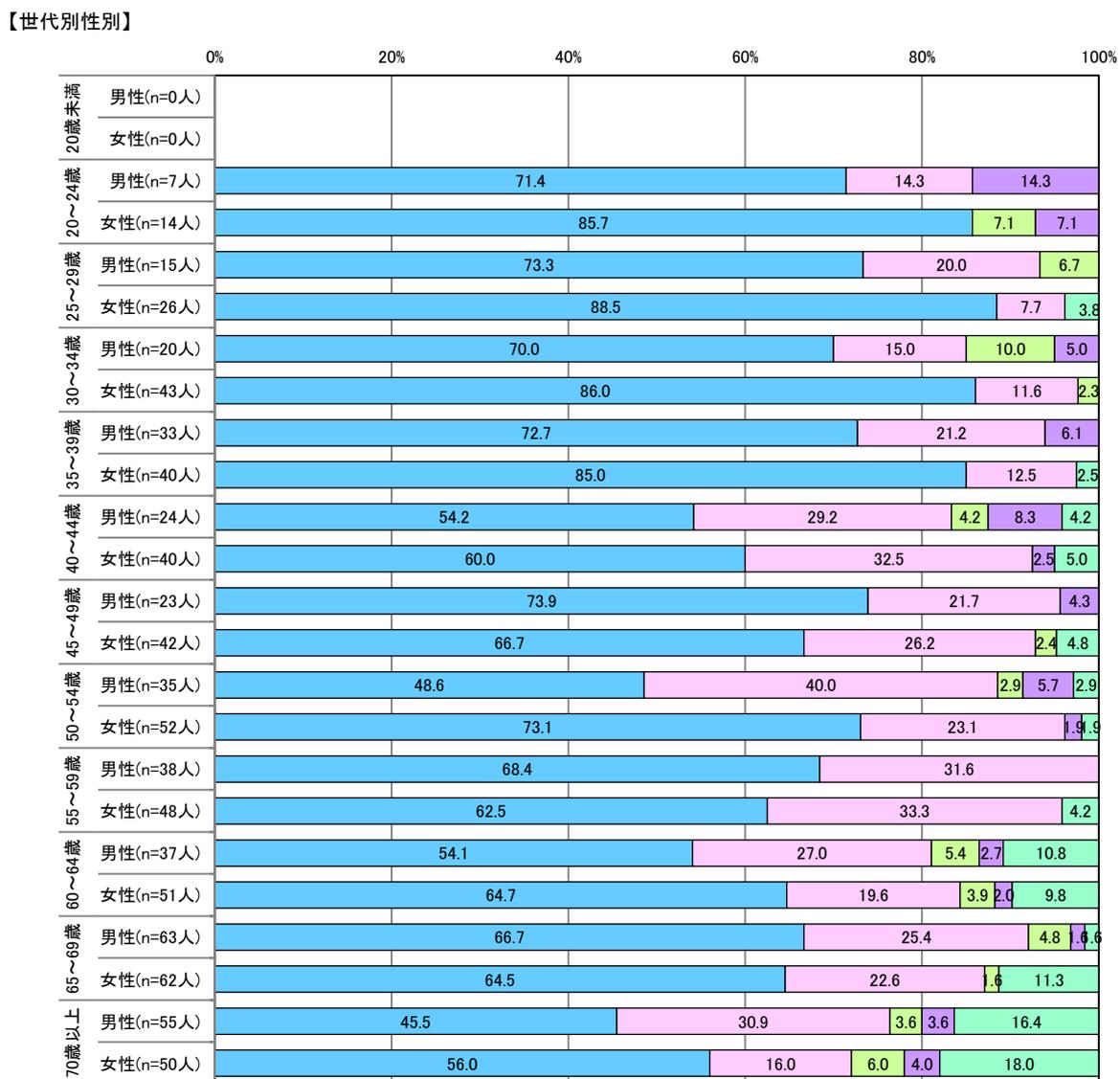
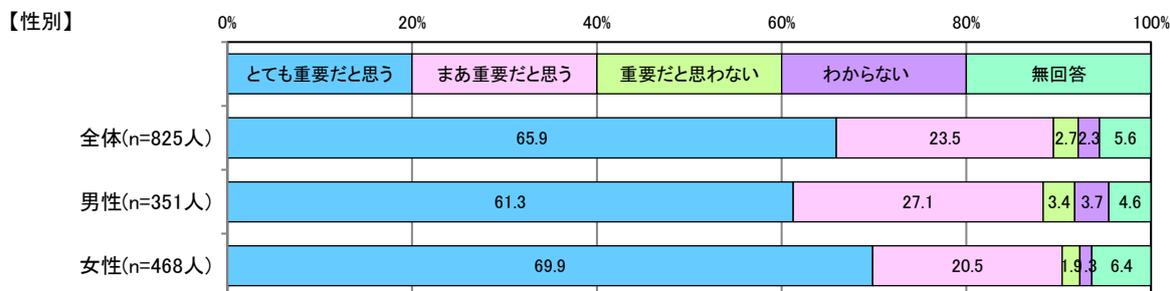
・配偶者の有無でみると、いずれも、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計がと8割を超えている。

【配偶者の有無】



5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が61.3%、女性が69.9%となっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の男女を除き、いずれの年代で「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答合計が8割以上となっている。



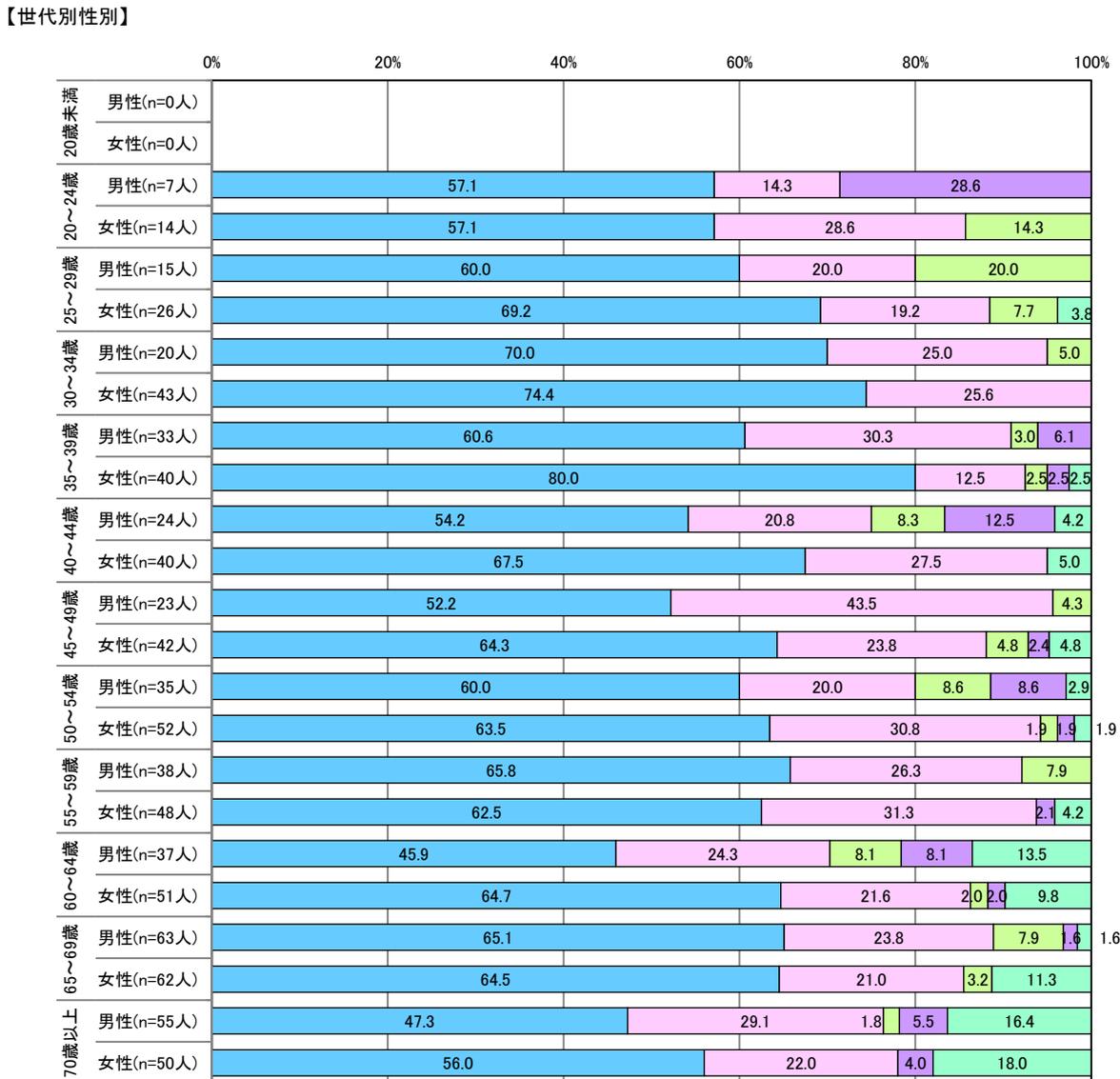
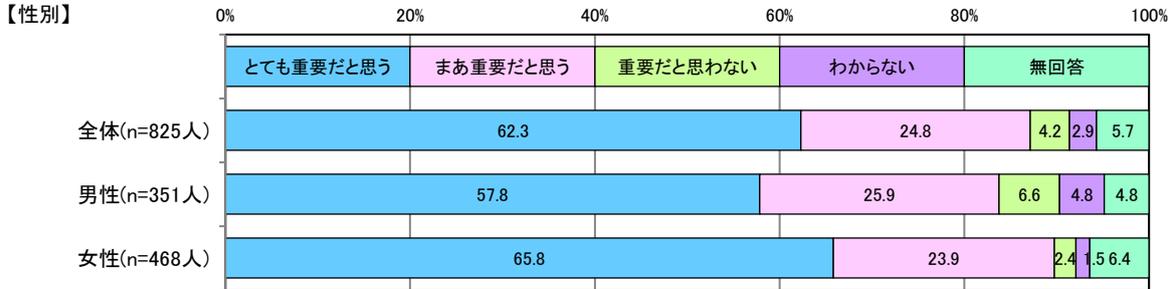
・配偶者の有無でみると、いずれも、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が8割を超えている。

【配偶者の有無】



6 企業内託児所や学童保育所などの設置

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が57.8%、女性が65.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、24歳以下の男性、40歳～44歳の男性、60歳～64歳の男性、70歳以上の男女を除き、いずれの年代においても「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答合計が8割以上となっている。



・配偶者の有無でみると、いずれも、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が8割を超えている。

【配偶者の有無】



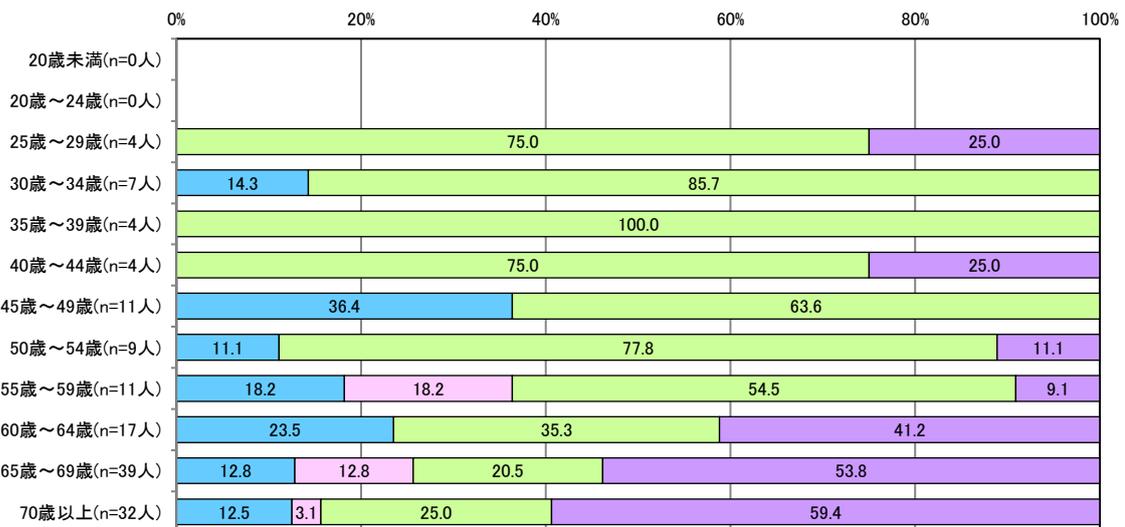
離職されている女性の方におたずねします。

問 10 再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

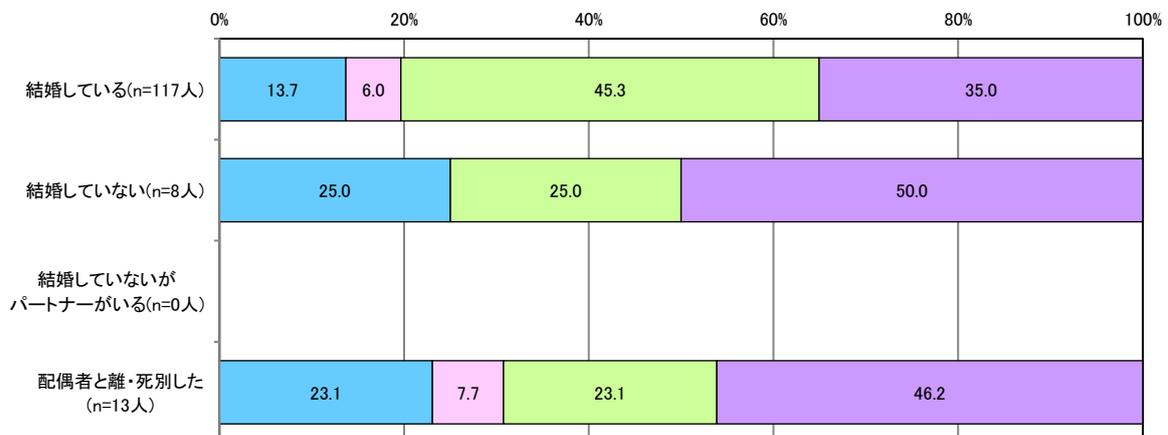
- ・全体で見ると、「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」（42.0%）という回答が約4割と最も多く、次いで、「正規社員」（15.2%）となっている。
- ・世代別で見ると、25歳～44歳、50歳～54歳で、「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」という回答が7割を超え、多い傾向にある。
- ・配偶者の有無で見ると、「正規社員」という回答が、「結婚していない」で25.0%、「配偶者と離・死別した」で23.1%と2割以上となっている。



【女性世代別】

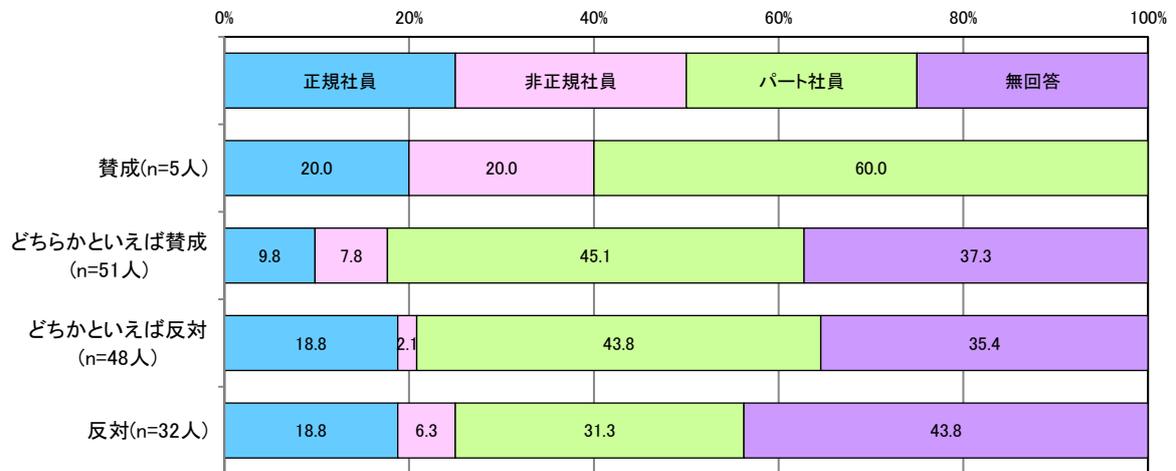


【配偶者の有無】



- ・男女の役割の固定についてみると、「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」という回答が「反対」で 33.3%と他に比べて回答割合がやや低い傾向になっている。

【男女の役割の固定について】

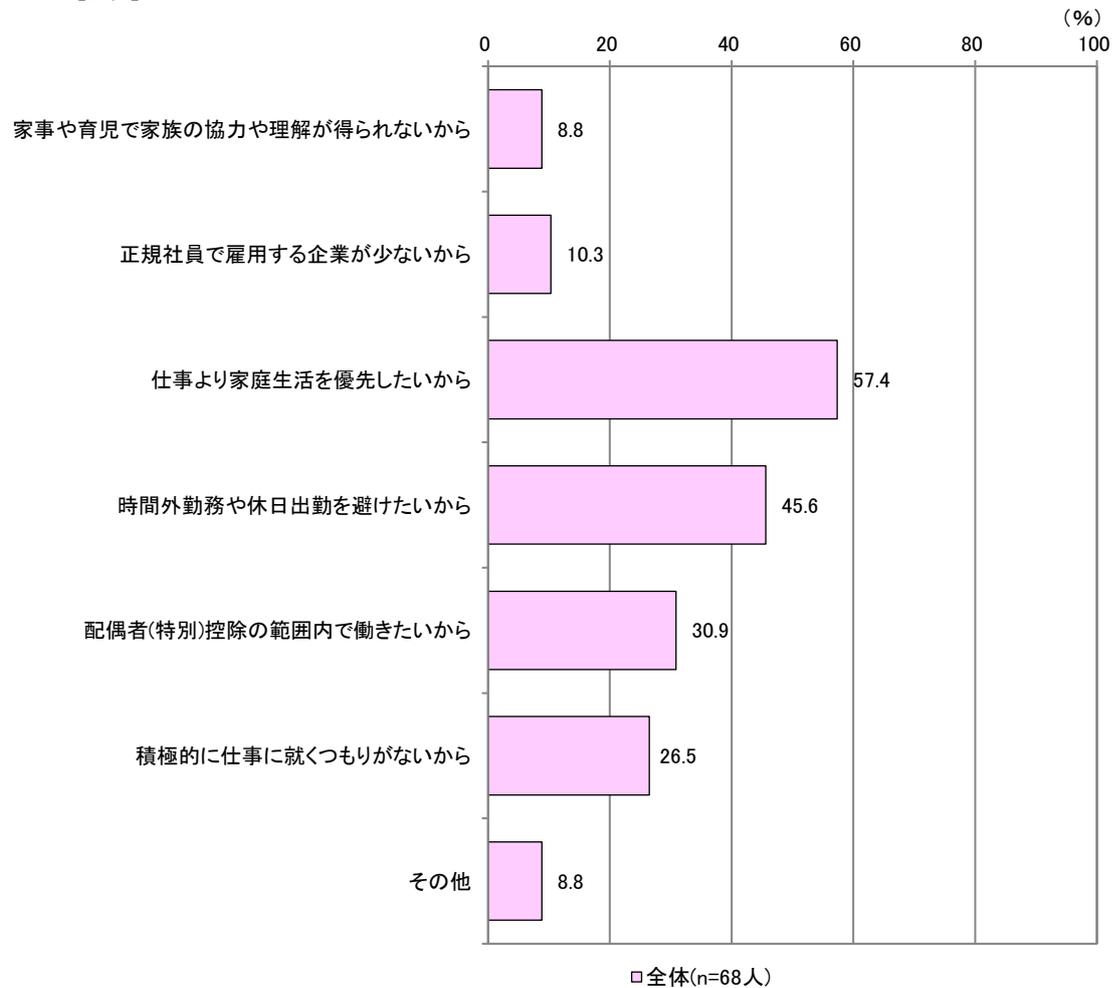


問10で「2」または「3」を選ばれた方におたずねします。

問11 その理由を次の中からあてはまるものを2つまでお選びください。

- ・全体でみると、「仕事より家庭生活を優先したいから」(57.4%)が最も多い回答となっている。次いで、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」(45.6%)、「配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから」(30.9%)、「積極的に仕事に就くつもりがないから」(26.5%)の順で続いている。

【女性】

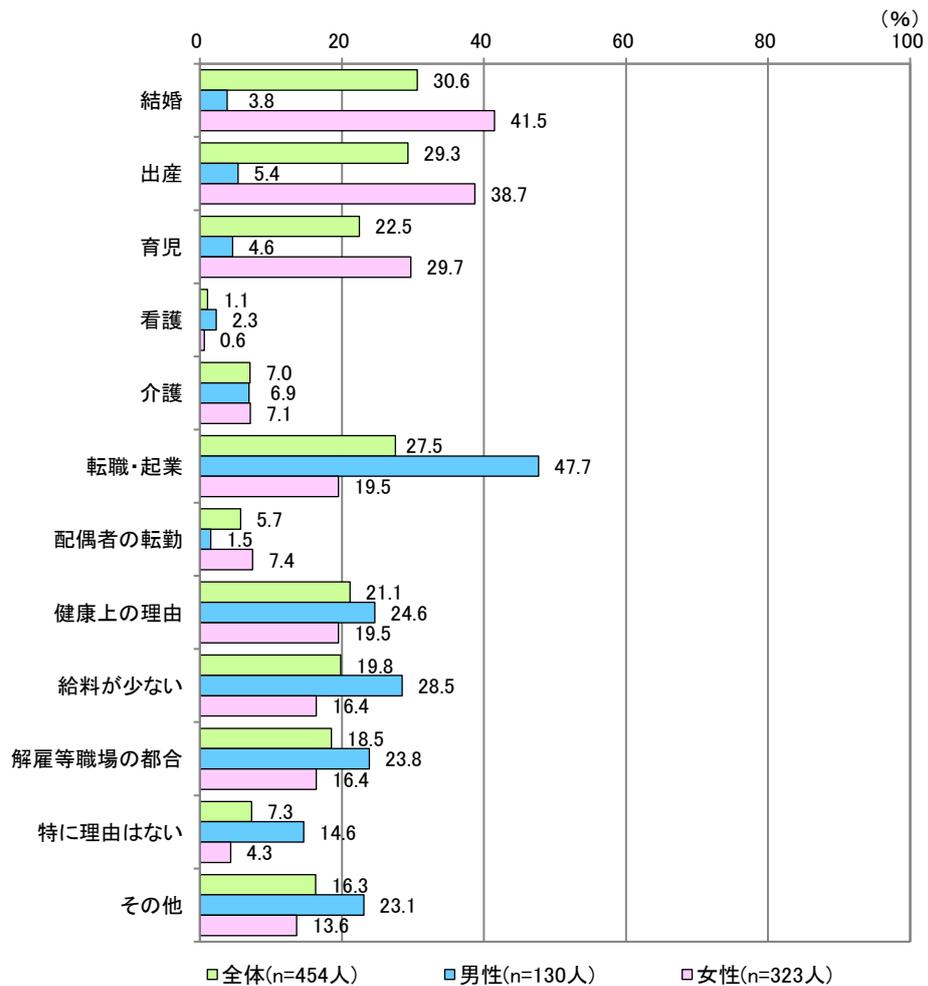


離職経験のある方におたずねします。

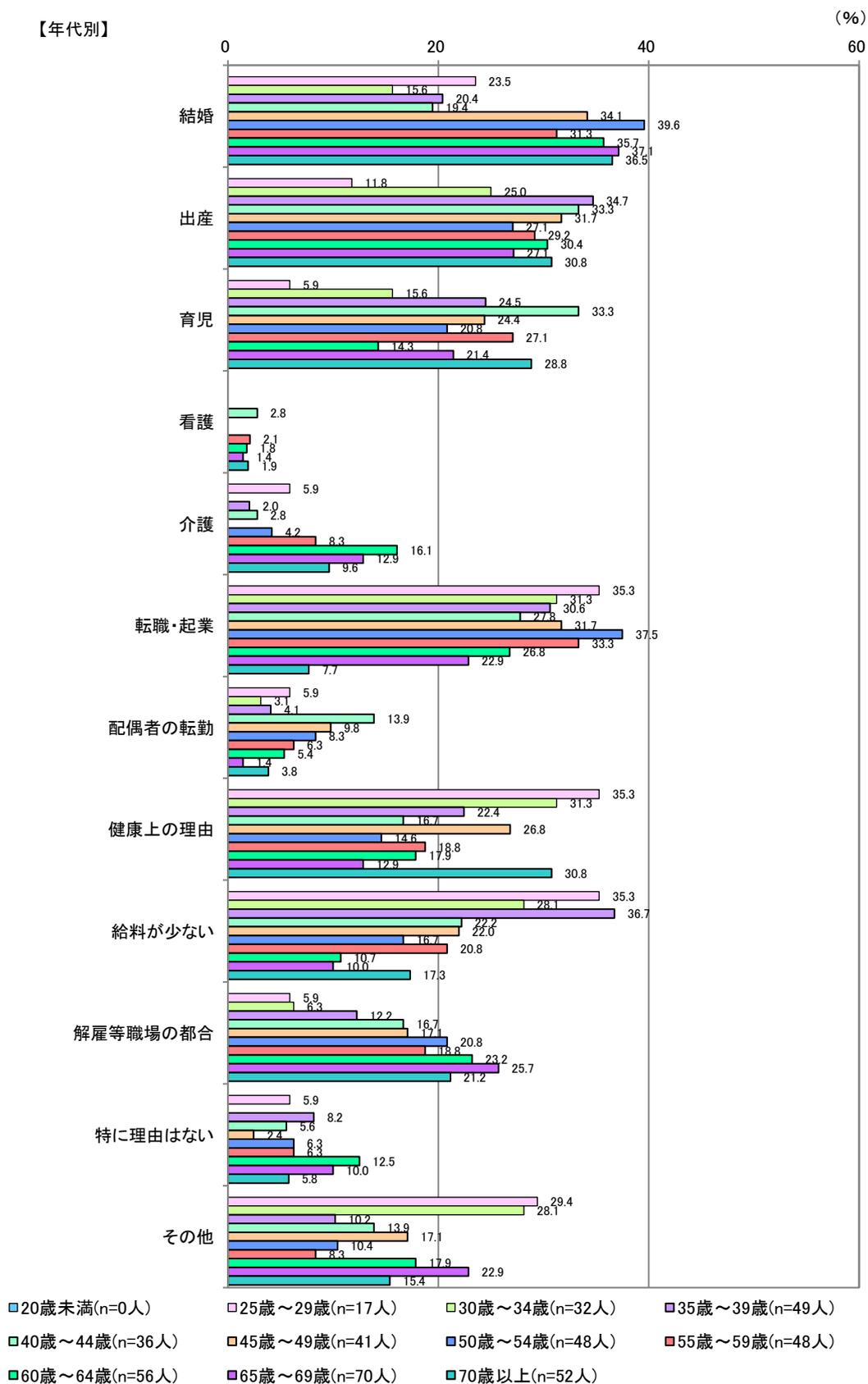
問 12 離職の原因（理由）としてあてはまるものを3つまでお選びください。

- ・全体で見ると、「結婚」(30.6%) が最も多い回答となっている。次いで、「出産」(29.3%)、「転職・起業」(27.5%) の順で続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「転職・起業」(47.7%)、「給料が少ない」(28.5%)、「健康上の理由」(24.6%) の順となっている。女性は、「結婚」(41.5%)、「出産」(38.7%)、「育児」(29.7%) の順となっている。
(※無回答は、離職経験のない方として集計している)。

【性別】

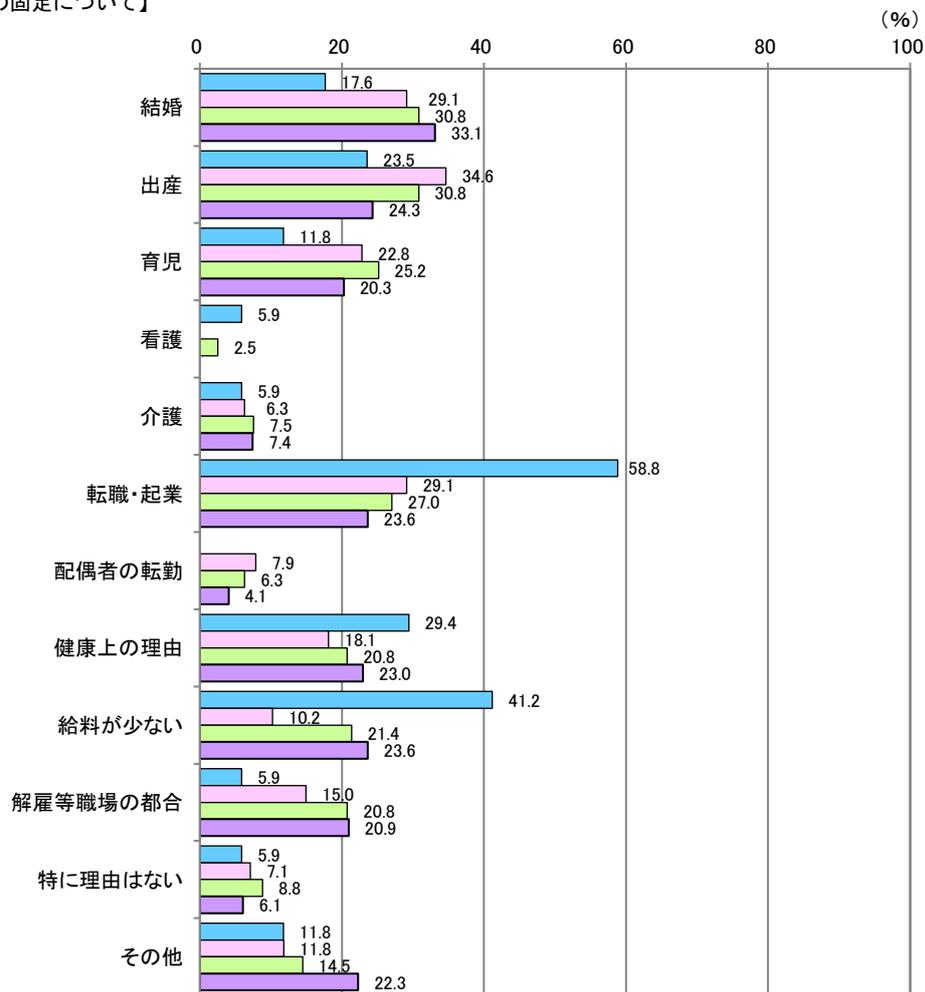


・年代別でみると、いずれの回答でも、年代による増減の波がみられる。



- ・男女の役割の固定についてみると、「賛成」で、「転職・起業」（58.8%）、「給料が少ない」（41.2%）が、他よりも回答割合が高くなっている。
- ・その他の離職の原因については、項目ごとに一定の差はあるものの、その差はあまり大きくないといえる。

【男女の役割の固定について】



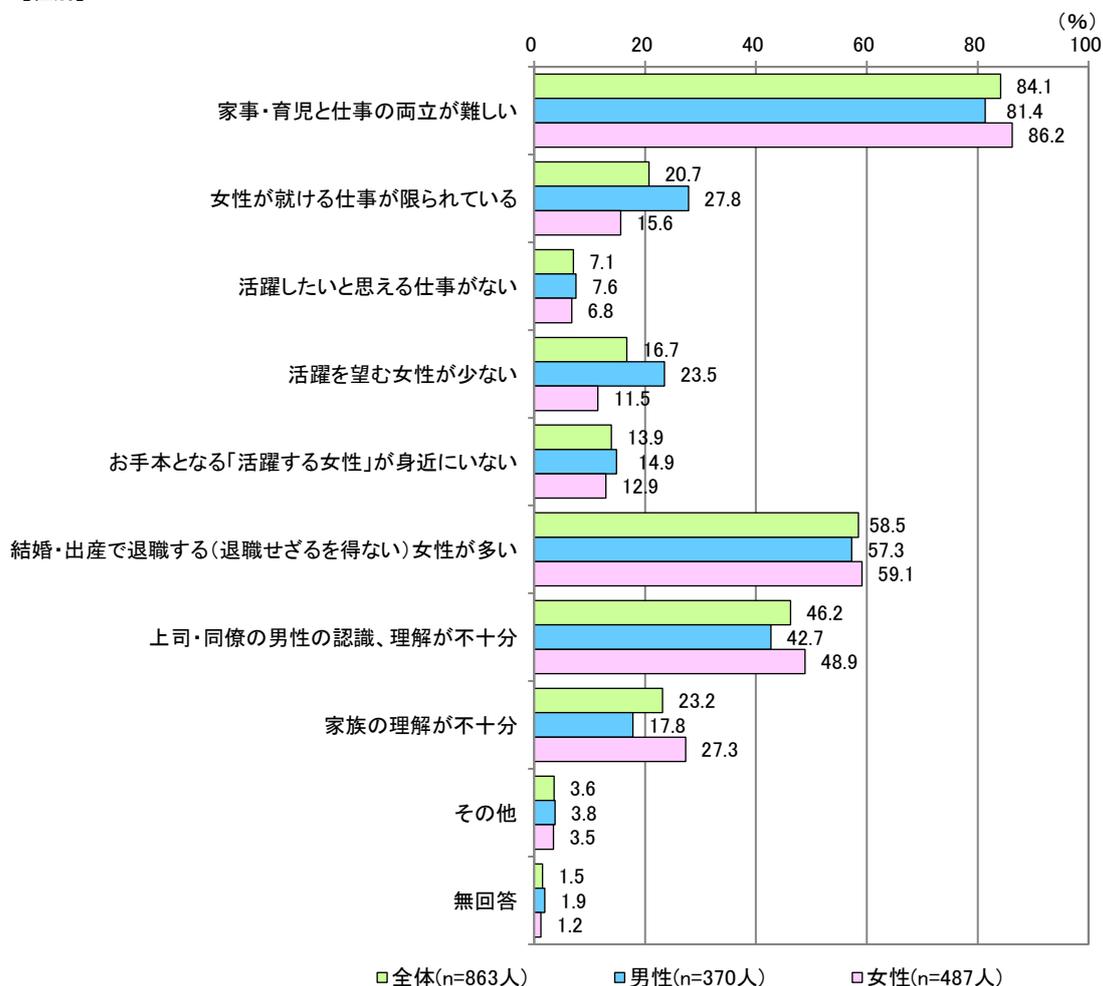
■賛成(n=17人) □どちらかといえば賛成(n=127人) □どちらかといえば反対(n=159人) ■反対(n=148人)

問 13 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。

あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

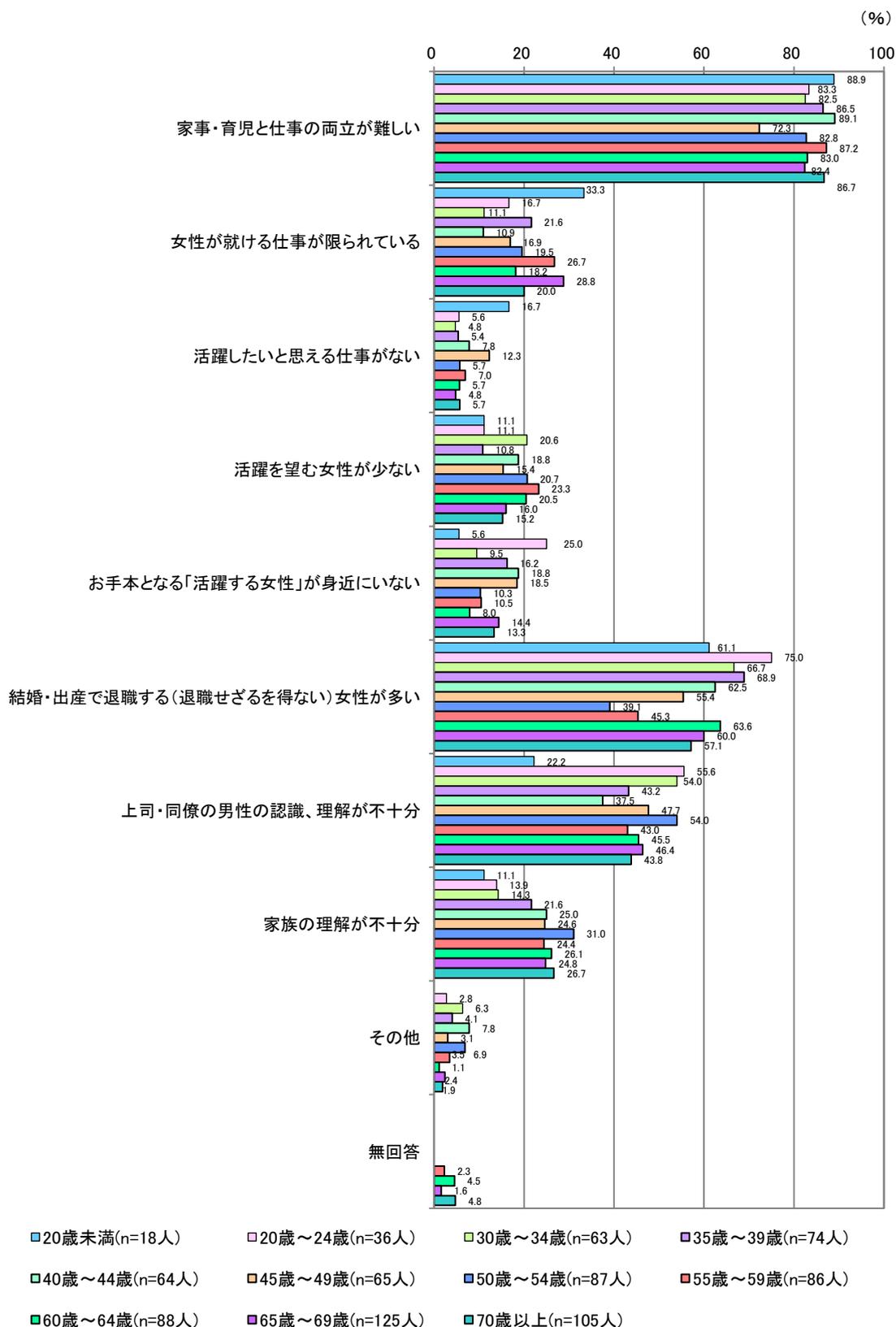
- ・全体でみると、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(84.1%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(58.5%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(46.2%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(81.4%)、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(57.3%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(42.7%)、「女性が就ける仕事に限られている」(27.8%)、「活躍を望む女性が少ない」(23.5%)の順となっている。女性は、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(86.2%)、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(59.1%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(48.9%)、「家族の理解が不十分」(27.3%)の順となっている。

【性別】

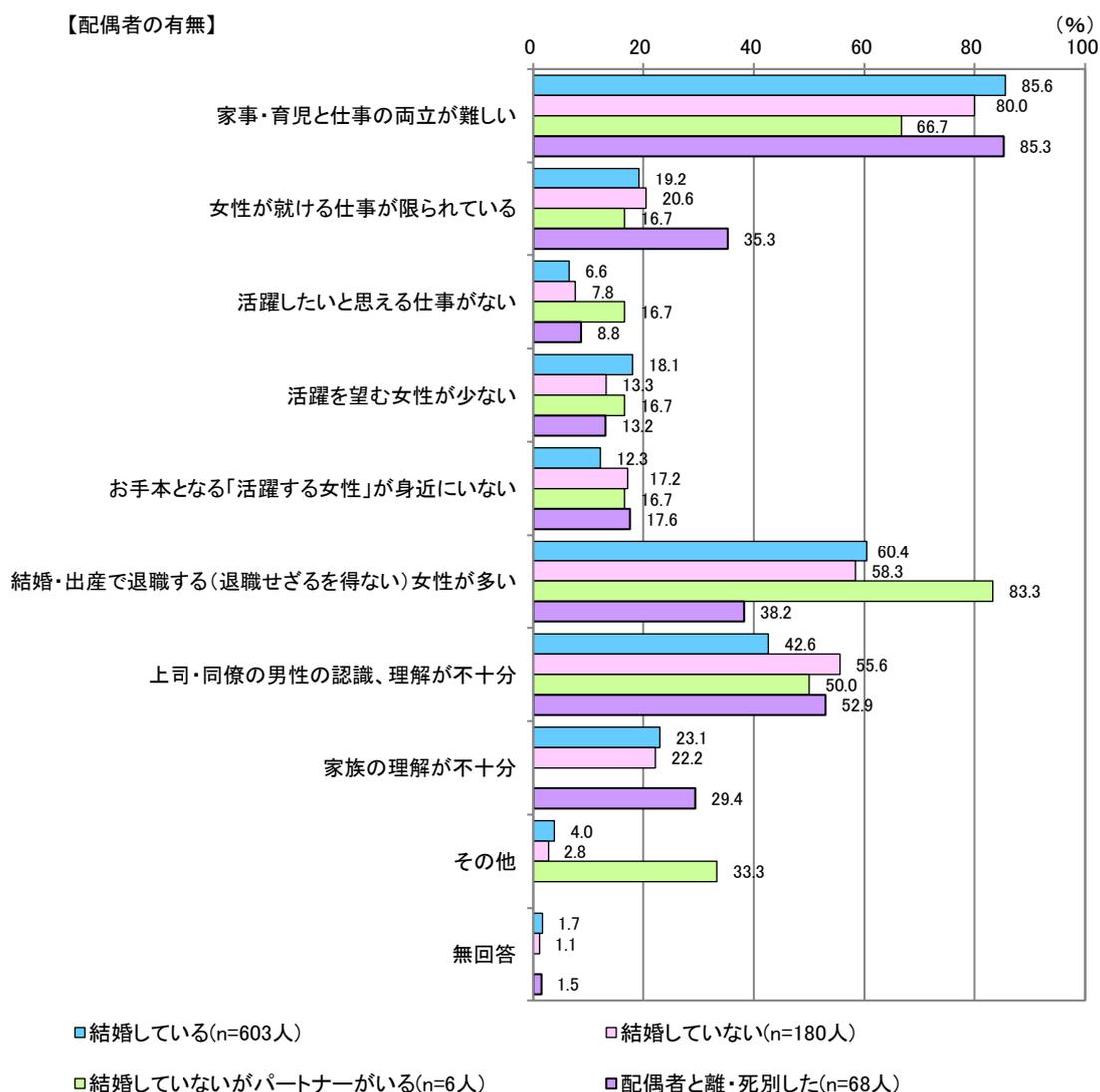


・年代別でみると、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」という回答では、20歳～24歳で他の年代に比べ回答割合がやや高くなっている。「家族の理解が不十分」という回答では、50歳～54歳の年代で3割を超えている。

【年代別】



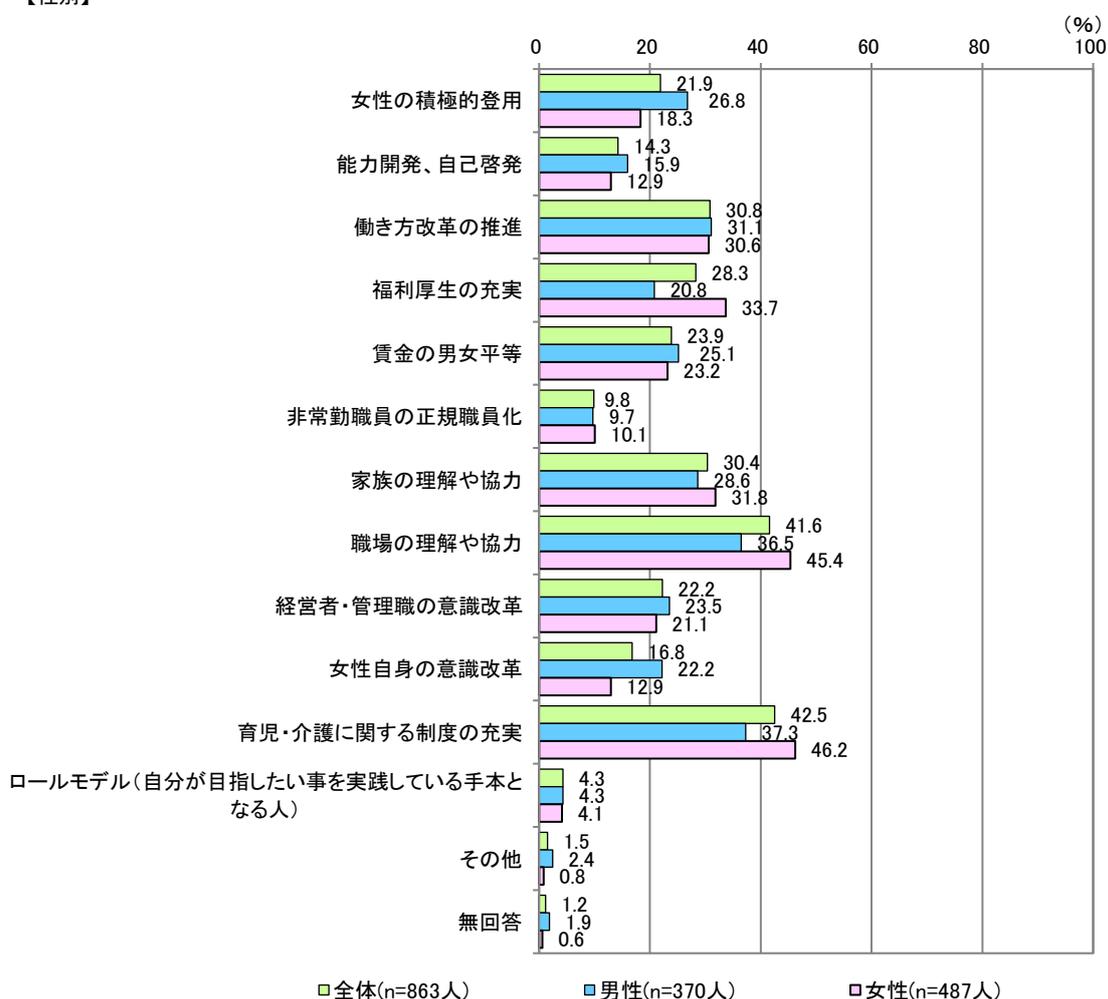
・配偶者の有無でみると、いずれも「家事・育児と仕事の両立が難しい」が6割を超え、「結婚していないがパートナーがいる」を除き、最も多くなっている。次いで、「結婚している」、「結婚していない」では、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。一方、「配偶者と離・死別した」では、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」が「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」よりもやや多くなっている。また、「結婚していないがパートナーがいる」では、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」が最も多く、次に、「家事・育児と仕事の両立が難しい」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。



問 14 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

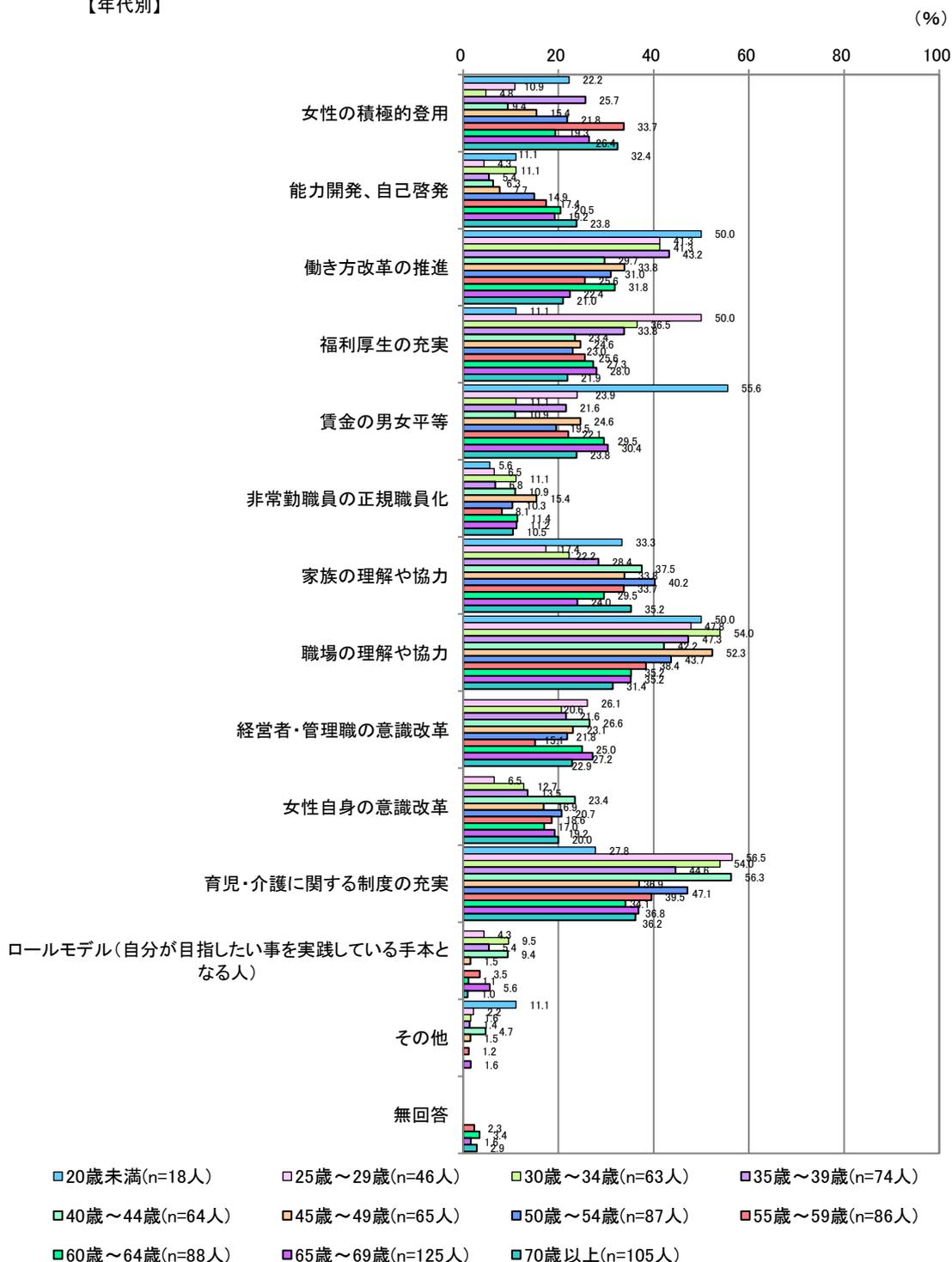
- ・全体でみると、「育児・介護に関する制度の充実」(42.5%) が最も多い回答となっている。次いで、「職場の理解や協力」(41.6%)、「働き方改革の推進」(30.8%)、「家族の理解や協力」(30.4%) の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「育児・介護に関する制度の充実」(37.3%)、「職場の理解や協力」(36.5%)、「働き方改革の推進」(31.1%)、「家族の理解や協力」(28.6%) の順となっている。女性は、「育児・介護に関する制度の充実」(46.2%)、「職場の理解や協力」(45.4%)、「福利厚生の実施」(33.7%)、「家族の理解や協力」(31.8%)、「働き方改革の推進」(30.6%) の順となっている。

【性別】



・年代別でみると、ほとんどの年代で、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。一方、20歳未満では「賃金の男女平等」が、20歳～24歳、30歳～39歳、45歳～49歳、60歳～64歳では、「職場の理解や協力」が最も多いか、同率で最も多くなっている。「働き方改革の推進」、「賃金の男女平等」では、20歳未満で5割以上となり、他の年代に比べ回答割合が高い傾向となっている。「育児・介護に関する制度の充実」では25歳～44歳、50歳～54歳で4割を超え、他の年代に比べ回答割合が高い傾向となっている。

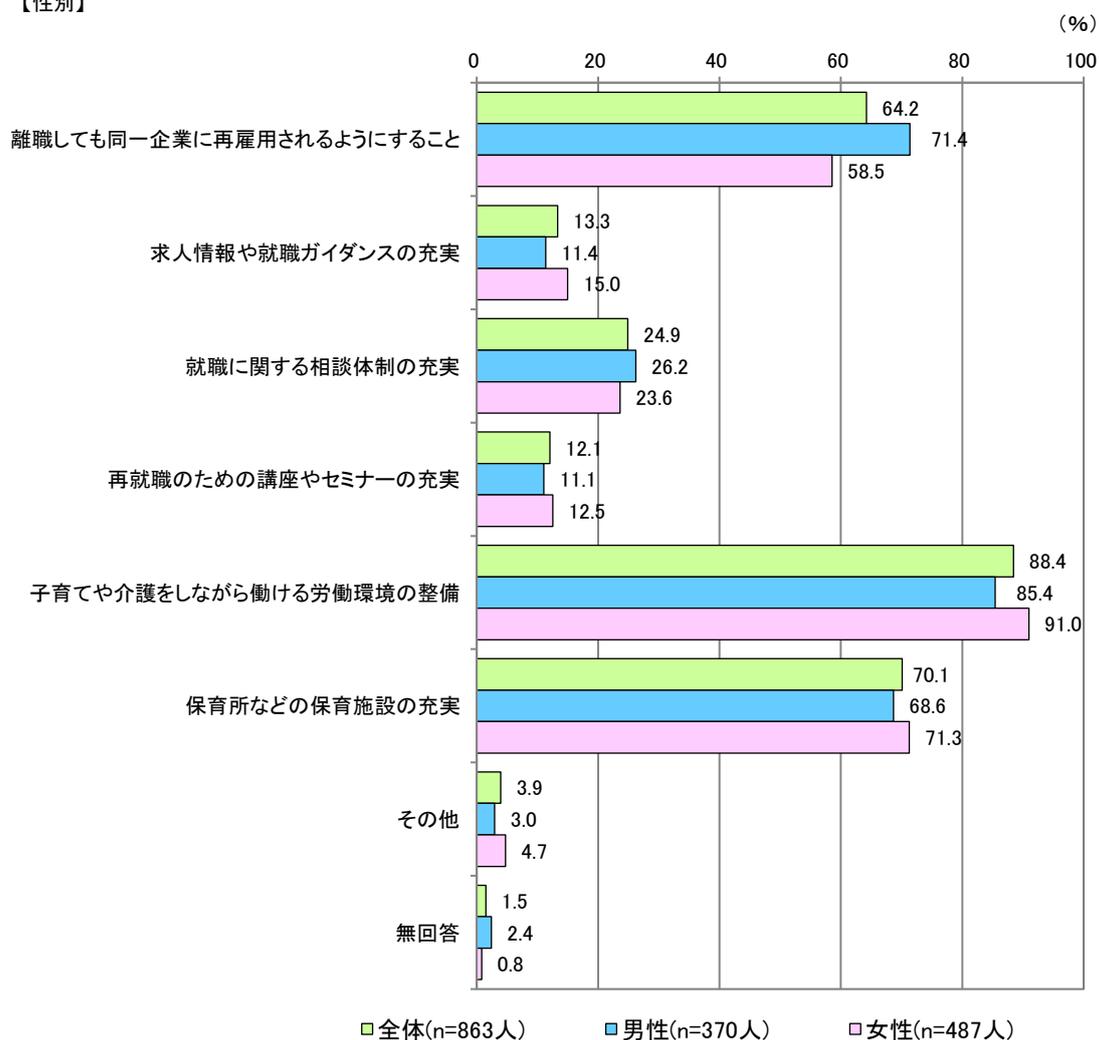
【年代別】



問 15 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だ
 だと思いますか。あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(88.4%)が最も多い回答となっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」(70.1%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(64.2%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が最も多くなっている。次いで、男性では、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」、「保育所などの保育施設の充実」と続いている。一方、女性では「保育所などの保育施設の充実」、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」と続いている。

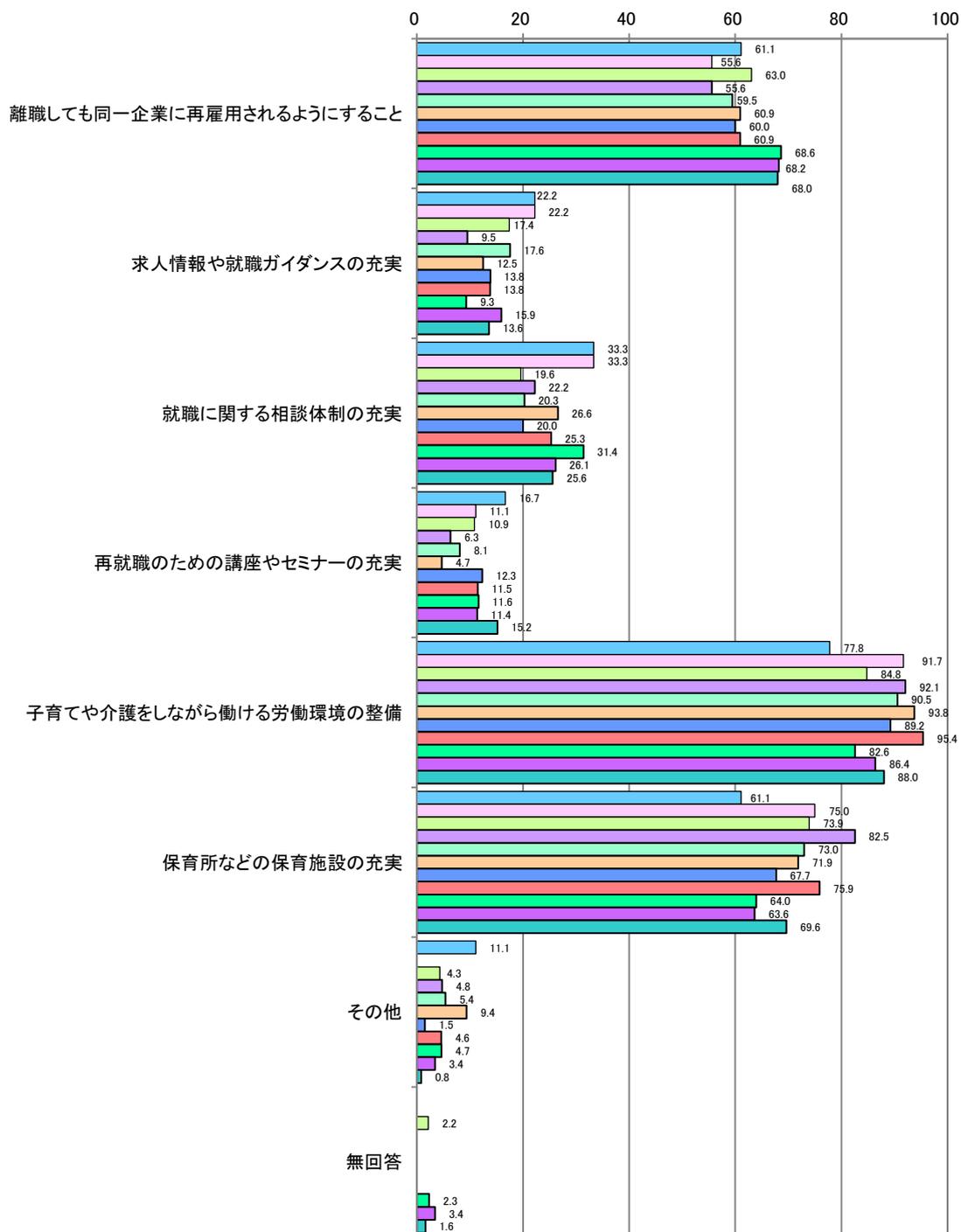
【性別】



・年代別でみると、いずれの年代でも、上位3項目は一致している。「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」という回答では、20歳未満を除き、いずれの年代でも回答割合が8割を超えている。また、「保育所などの保育施設の充実」という回答では、30歳～34歳で8割を超えている。

【年代別】

(%)



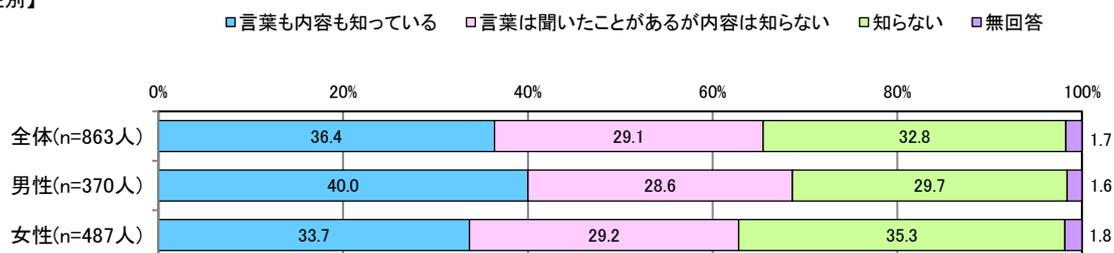
- 20歳未満(n=18)
- 20歳～24歳(n=36)
- 25歳～29歳(n=46)
- 30歳～34歳(n=63)
- 35歳～39歳(n=74)
- 40歳～44歳(n=64)
- 45歳～49歳(n=65)
- 50歳～54歳(n=87)
- 55歳～59歳(n=86)
- 60歳～64歳(n=88)
- 65歳～69歳(n=125)

仕事と生活の調和に関することについて

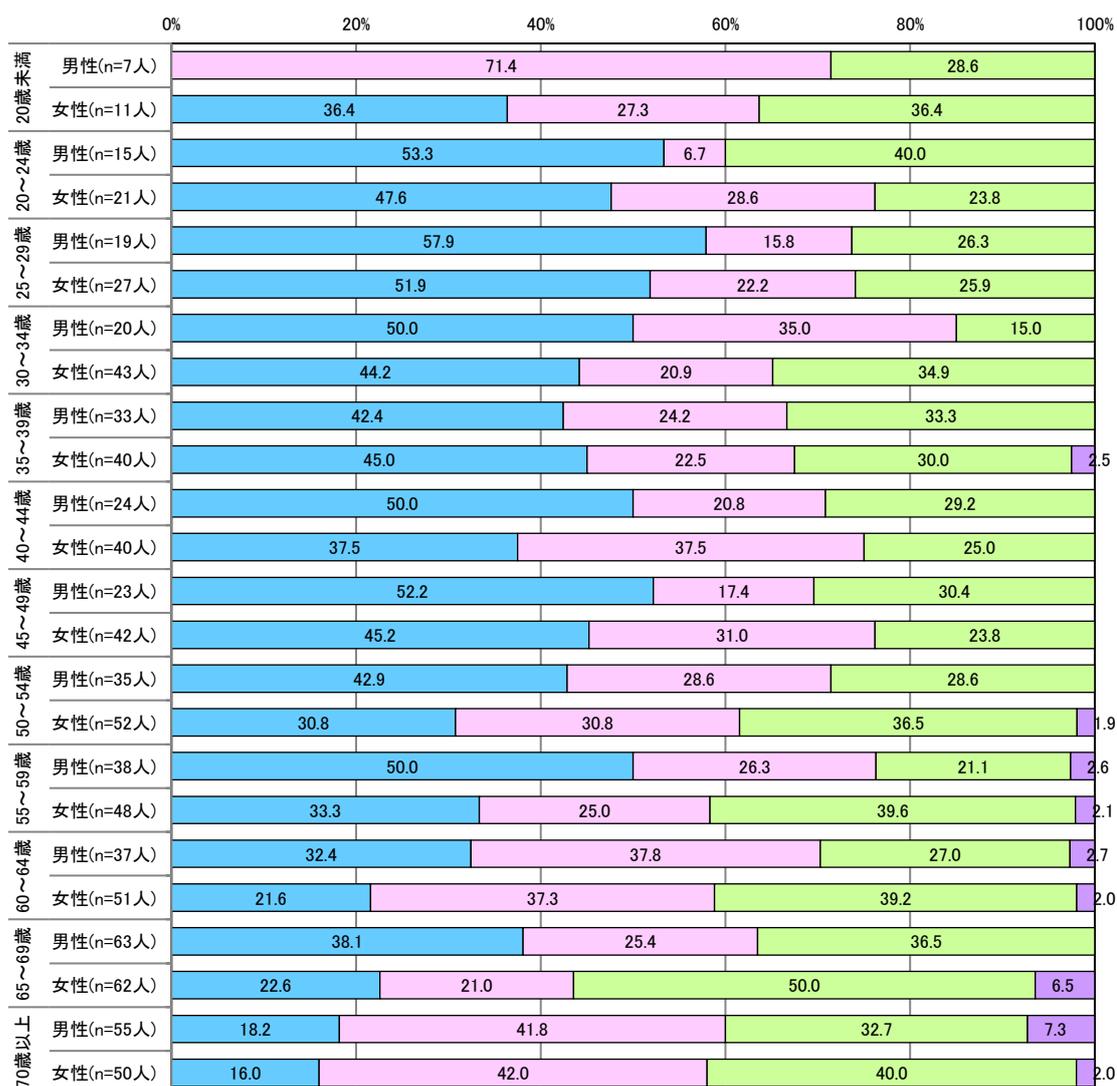
問 16 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男性では、「言葉も内容も知っている」という回答が最も多く、4割(40.0%)であるのに対し、女性では「知らない」が約4割(35.3%)となっている。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が40.0%、女性が33.7%で、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳～34歳の男性、40歳～49歳の男性、55歳～59歳の男性で、「言葉も内容も知っている」という回答割合が5割以上となっている。

【性別】



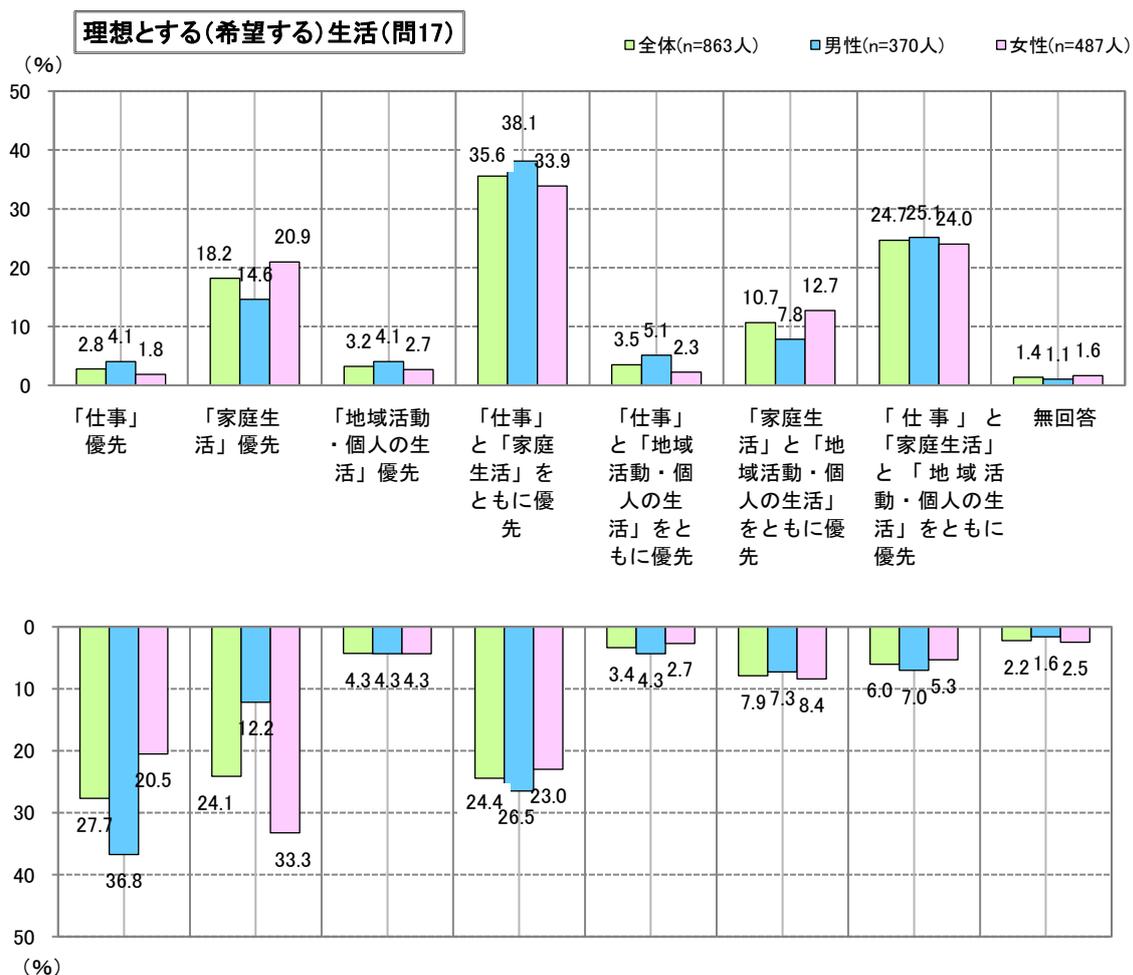
【世代別性別】



問17 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度についてあなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- ・全体でみると、問17の理想とする生活については『仕事』と『家庭生活』をともに優先という回答が最も多く、約4割（35.6%）となっている。次に、『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先（24.7%）、『家庭生活』優先（18.2%）の順に続いている。
- ・一方、問18の現実の生活では、『仕事』優先（27.7%）という回答が最も多く、次いで、『仕事』と『家庭生活』をともに優先（24.4%）、『家庭生活』優先（24.1%）となっている。
- ・理想の生活では1番目であった『仕事』と『家庭生活』をともに優先が、現実の生活では2番目となっている。また、理想の生活で2番目に多かった『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先という回答は、現実の生活では5番目となっている。
- ・性別でみると、理想の生活においては『家庭生活』優先以外男女の回答に大きな差は見られないが、現実の生活においては、男性は『仕事』優先、女性は『家庭生活』優先が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。



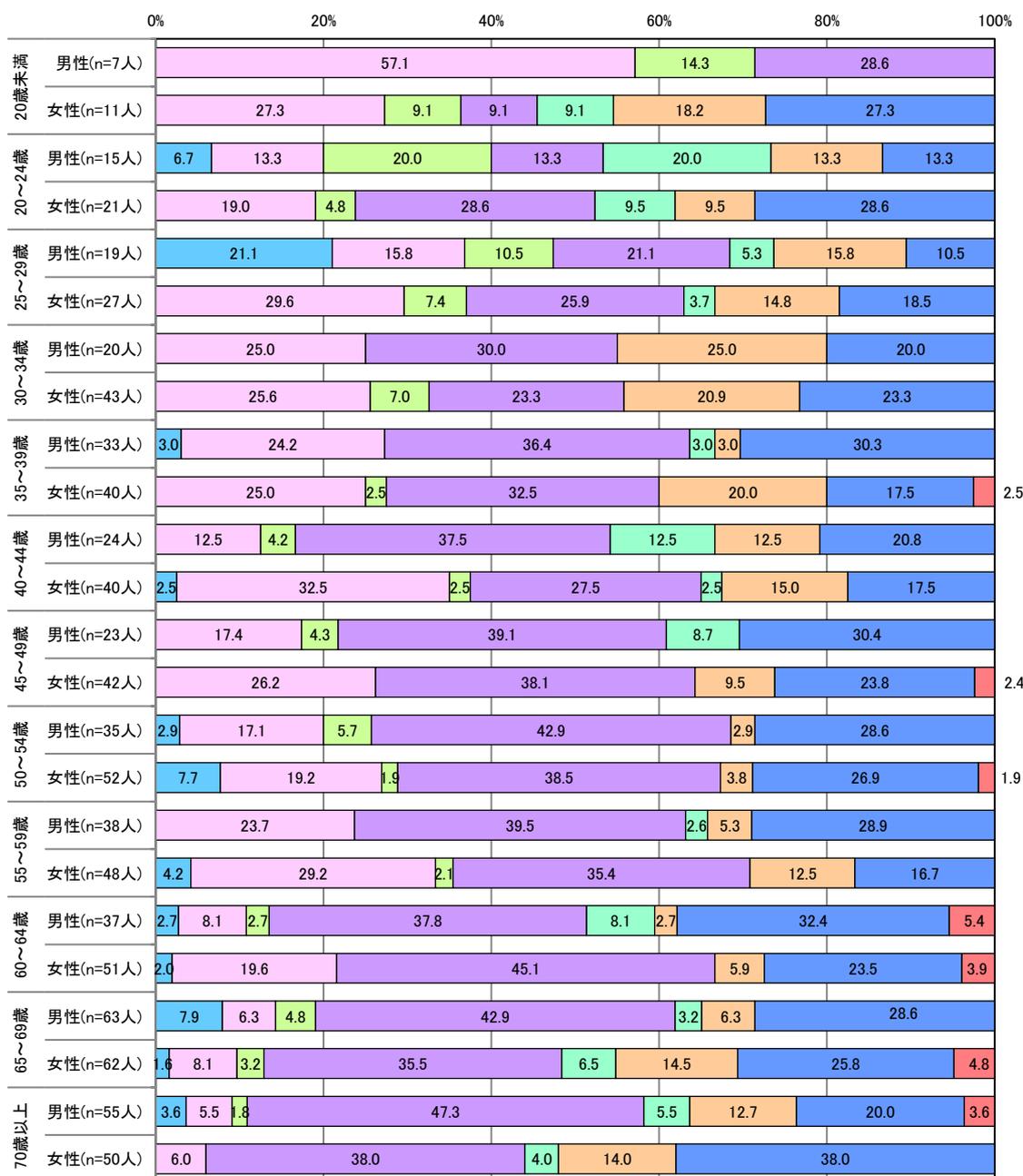
現実(現状)の生活(問18)

問 17 理想とする（希望する）生活 世代別性別

- ・ 世代別性別でみると、35歳以上の年代では、男女ともに「『仕事』と『家庭生活』ともに優先」という回答が3割を超えている。一方、20歳未満の男性、25歳～29歳の女性、40歳～44歳の女性では、「『家庭生活』優先」という回答が最も多くなっている。

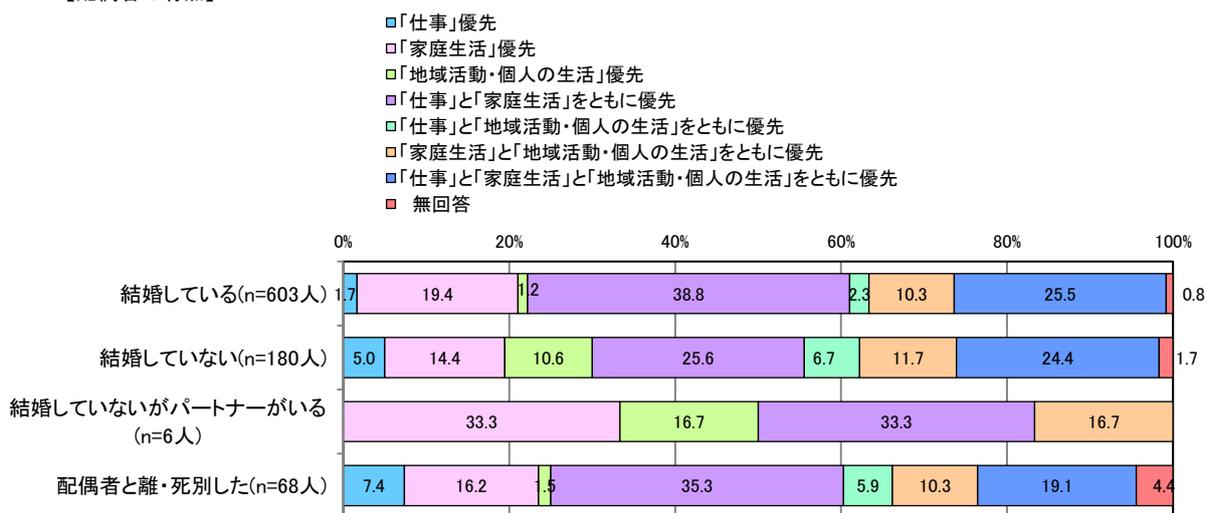
【世代別性別】

- 「仕事」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答

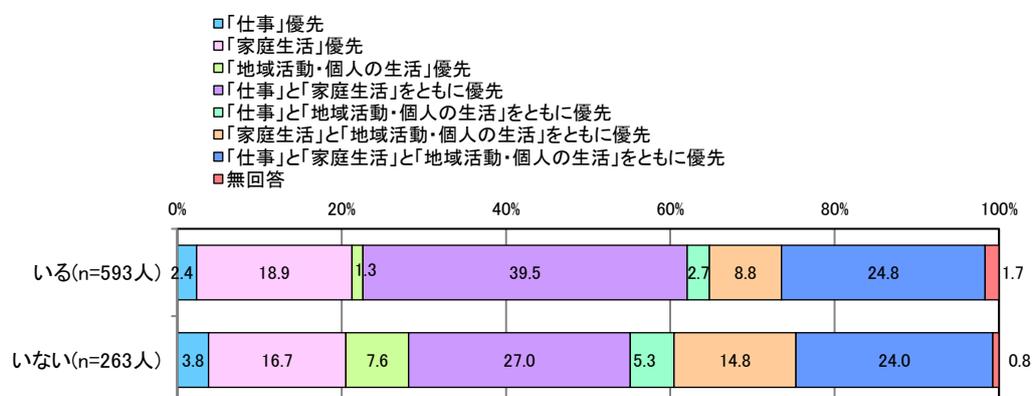


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(38.8%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(25.5%)、「『家庭生活』優先」(19.4%)となっている。「結婚していない」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(25.6%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(24.4%)、「『家庭生活』優先」が(14.4%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『家庭生活』優先」(33.3%)と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(33.3%)が最も多い回答となっており、次いで「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(16.7%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(35.3%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(19.1%)、「『家庭生活』優先」(16.2%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(39.5%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(24.8%)、「『家庭生活』優先」(18.9%)となっている。「いない」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(27.0%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(24.0%)、「『家庭生活』優先」(16.7%)となっている。

【配偶者の有無】



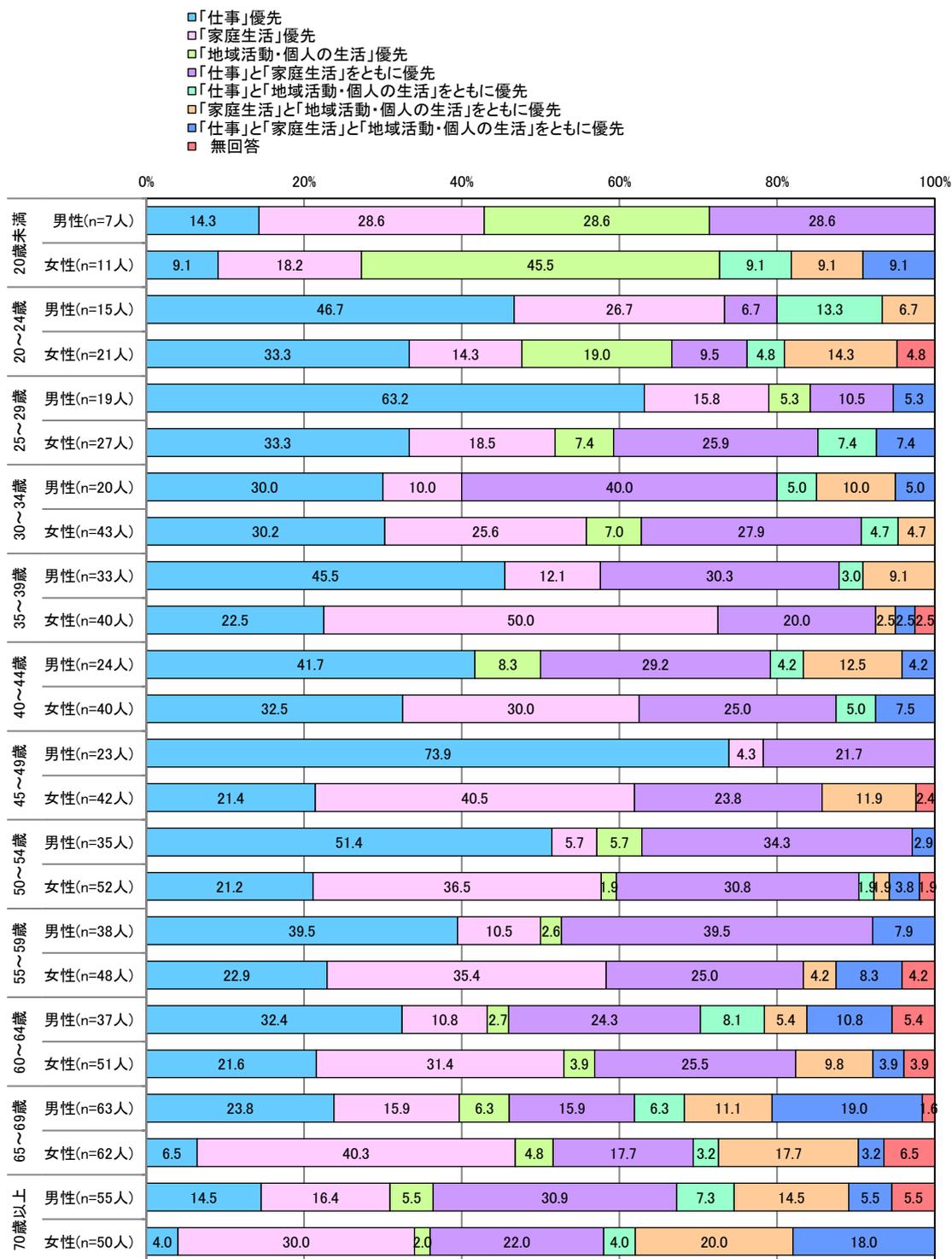
【子の有無】



問 18 現実（現状）の生活 世代別性別

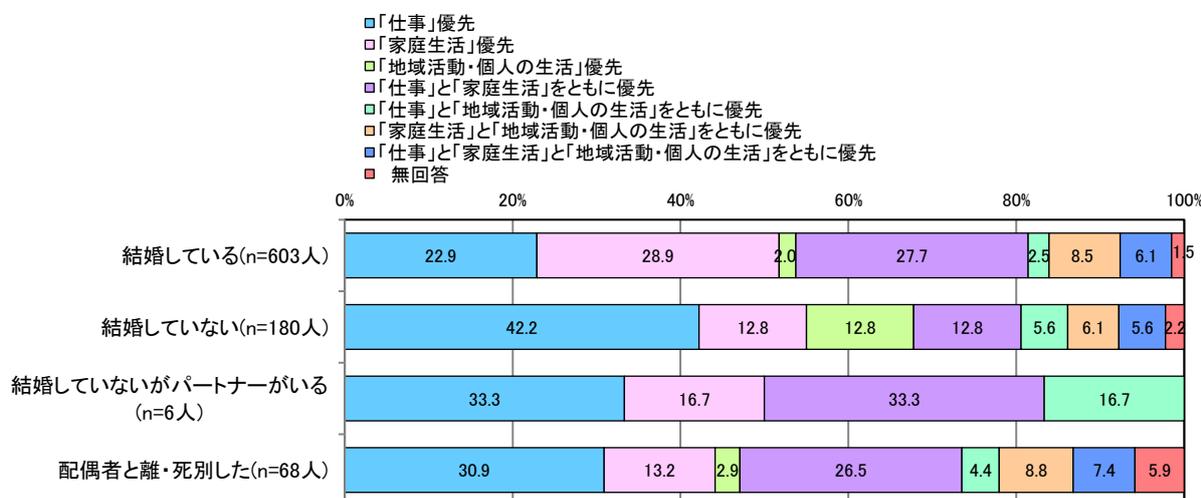
- ・ 世代別性別で見ると、25 歳～29 歳の男性、45 歳～54 歳の男性では、「『仕事』優先」という回答が 5 割を超え最も多くなっている。一方、35 歳～39 歳の女性、45 歳以上の女性で「『家庭生活』優先」という回答が最も多くなっている。
- ・ 「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、65 歳以上の女性で約 2 割となっている。

【世代別性別】

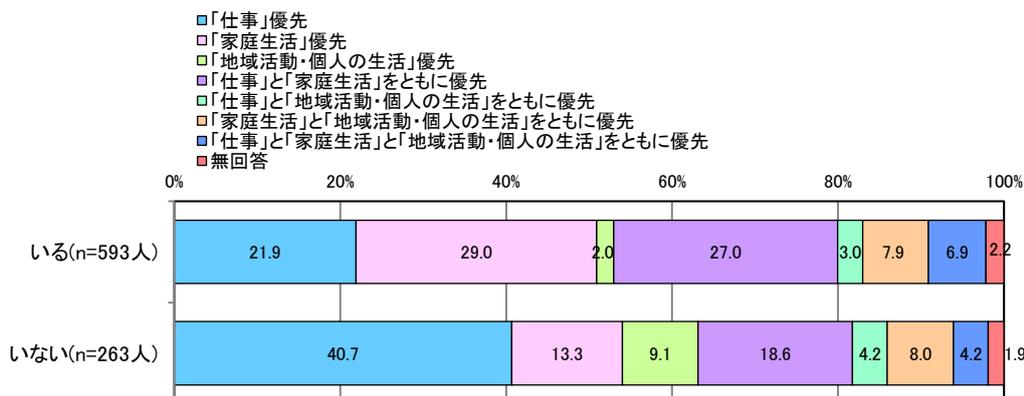


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「『家庭生活』優先」(28.9%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(27.7%)、「『仕事』優先」(22.9%)となっている。「結婚していない」では、「『仕事』優先」(42.2%)が最も多い回答となっており、次いで「『家庭生活』優先」(12.8%)、「『地域活動・個人の生活』優先」(12.8%)、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(12.8%)が同じ回答割合となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』優先」(33.3%)と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(33.3%)が同率で、最も多い回答となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』優先」(30.9%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(26.5%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「『家庭生活』優先」(29.0%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(27.0%)、「『仕事』優先」(21.9%)となっている。「いない」では、「『仕事』優先」(40.7%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(18.6%)、「『家庭生活』優先」(13.3%)となっている。

【配偶者の有無】



【子の有無】



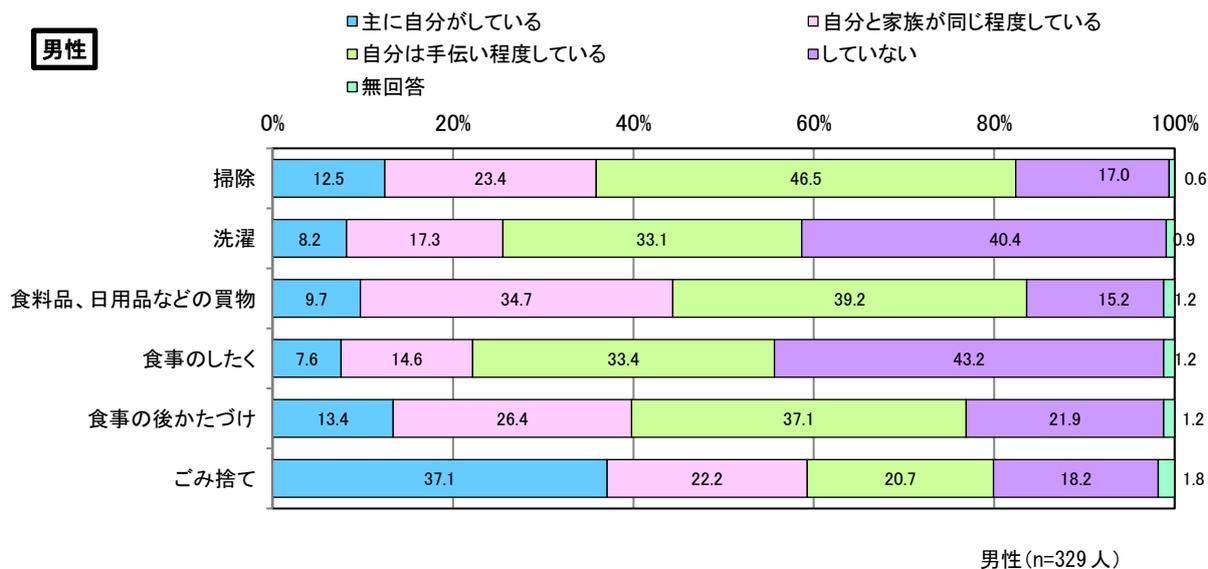
問 19 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

(※集計対象は世帯構成で、「単身世帯」、「その他」、「無回答」を除く 766 人とする)

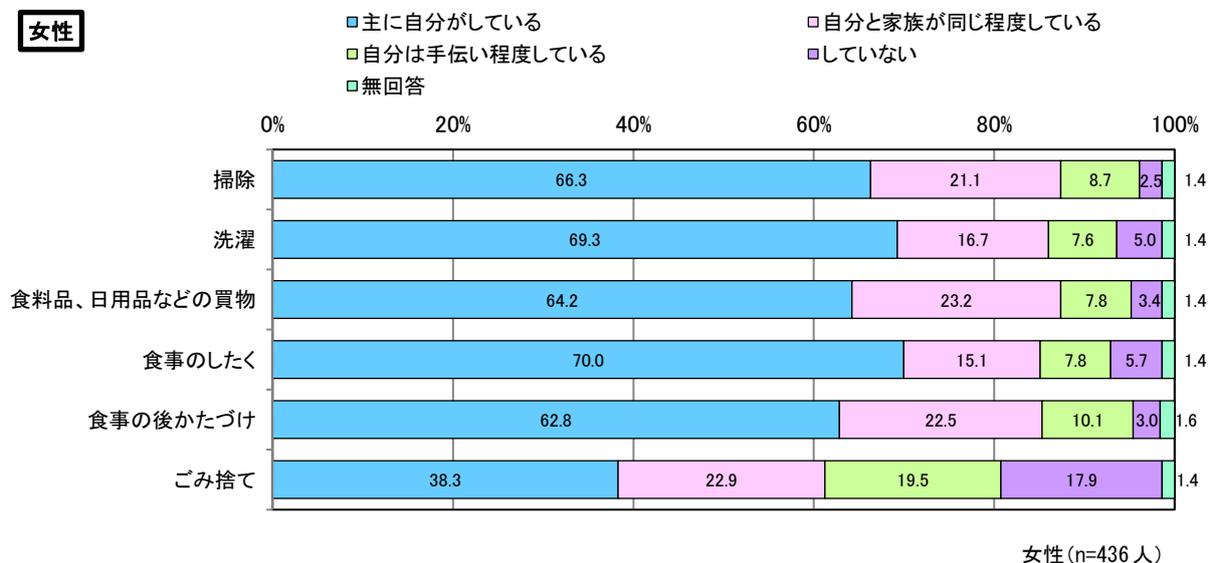
- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約4割(37.1%)となっている。次いで、「食事の後かたづけ」(13.4%)、「掃除」(12.5%)と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、7割(70.0%)となっている。次いで、「洗濯」(69.3%)、「掃除」(66.3%)となっている。

【性別】

男性



女性

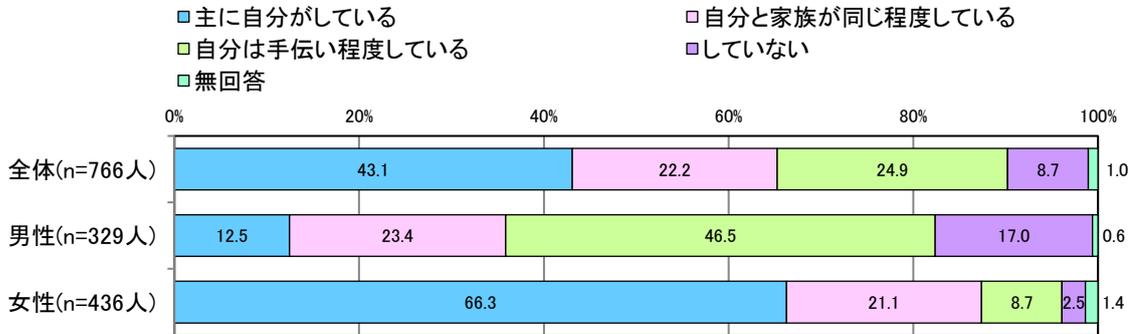


※性別の無回答者がいるため、男性と女性の合計は 766 人と一致しない。

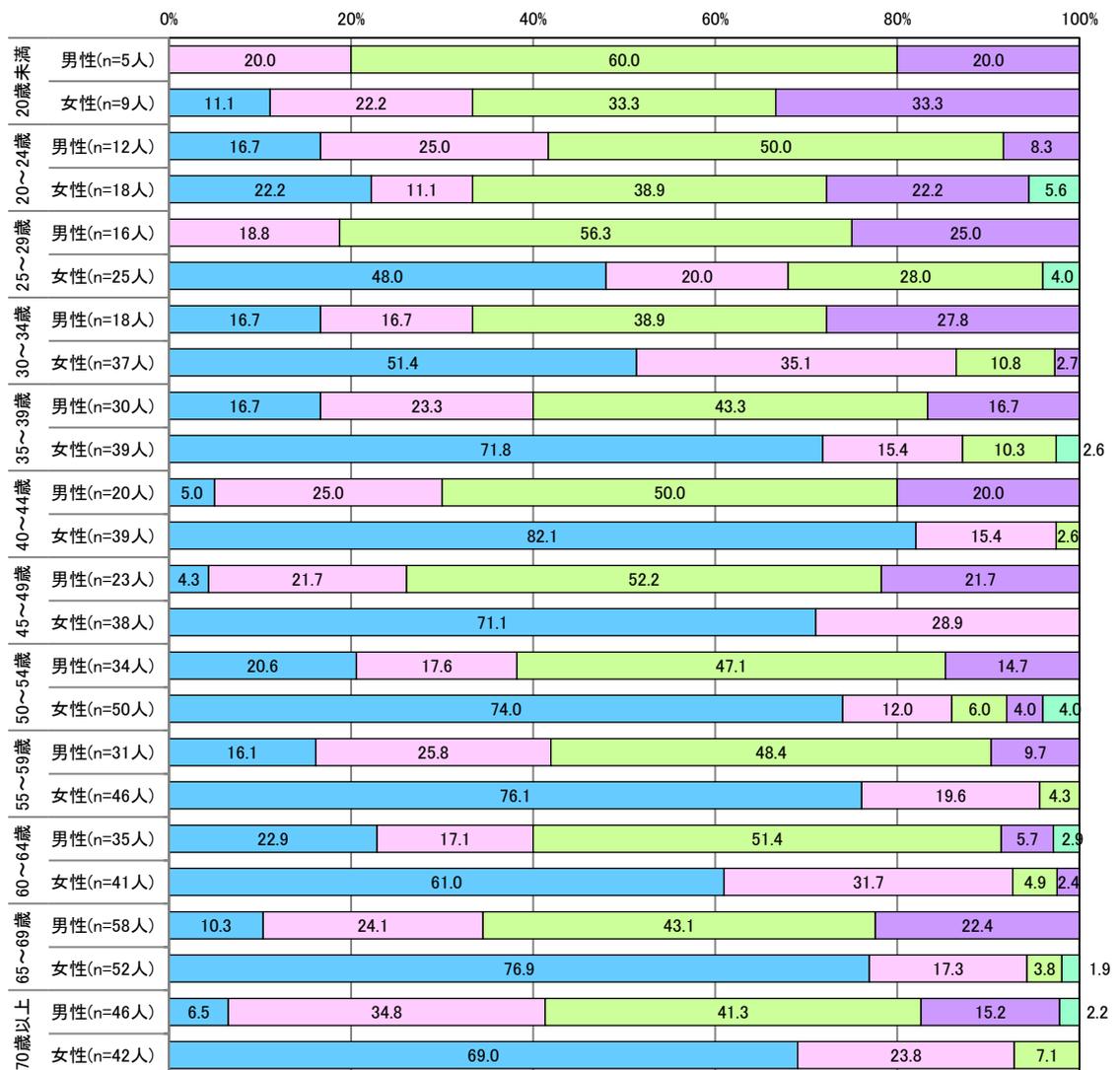
1 掃除

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(66.3%) という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(46.5%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が2割以上となる世代は、20歳未満の男女、20歳～24歳の女性、25歳～34歳の男性、40歳代の男性となっている。

【性別】

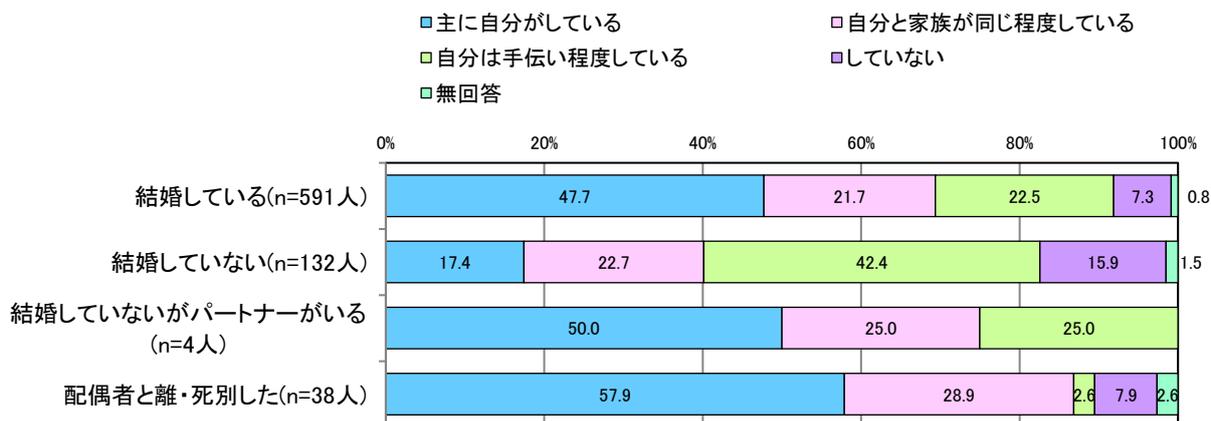


【世代別性別】

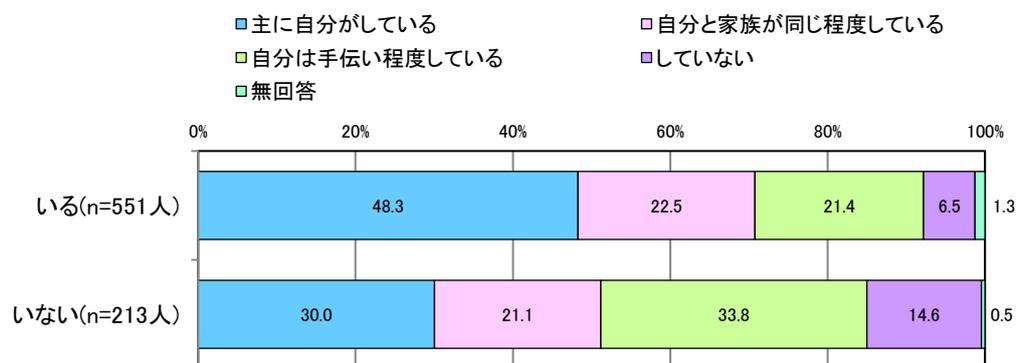


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(47.7%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(22.5%)、「自分と家族が同じ程度している」(21.7%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(42.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.7%)、「主に自分がしている」(17.4%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(50.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(25.0%)と「自分は手伝い程度している」(25.0%)が同率となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(57.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.9%)、「していない」(7.9%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.3%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.5%)、「自分は手伝い程度している」(21.4%)となっている。「いない」では、「自分は手伝い程度している」(33.8%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(30.0%)、「自分と家族が同じ程度している」(21.1%)となっている。

【配偶者の有無】

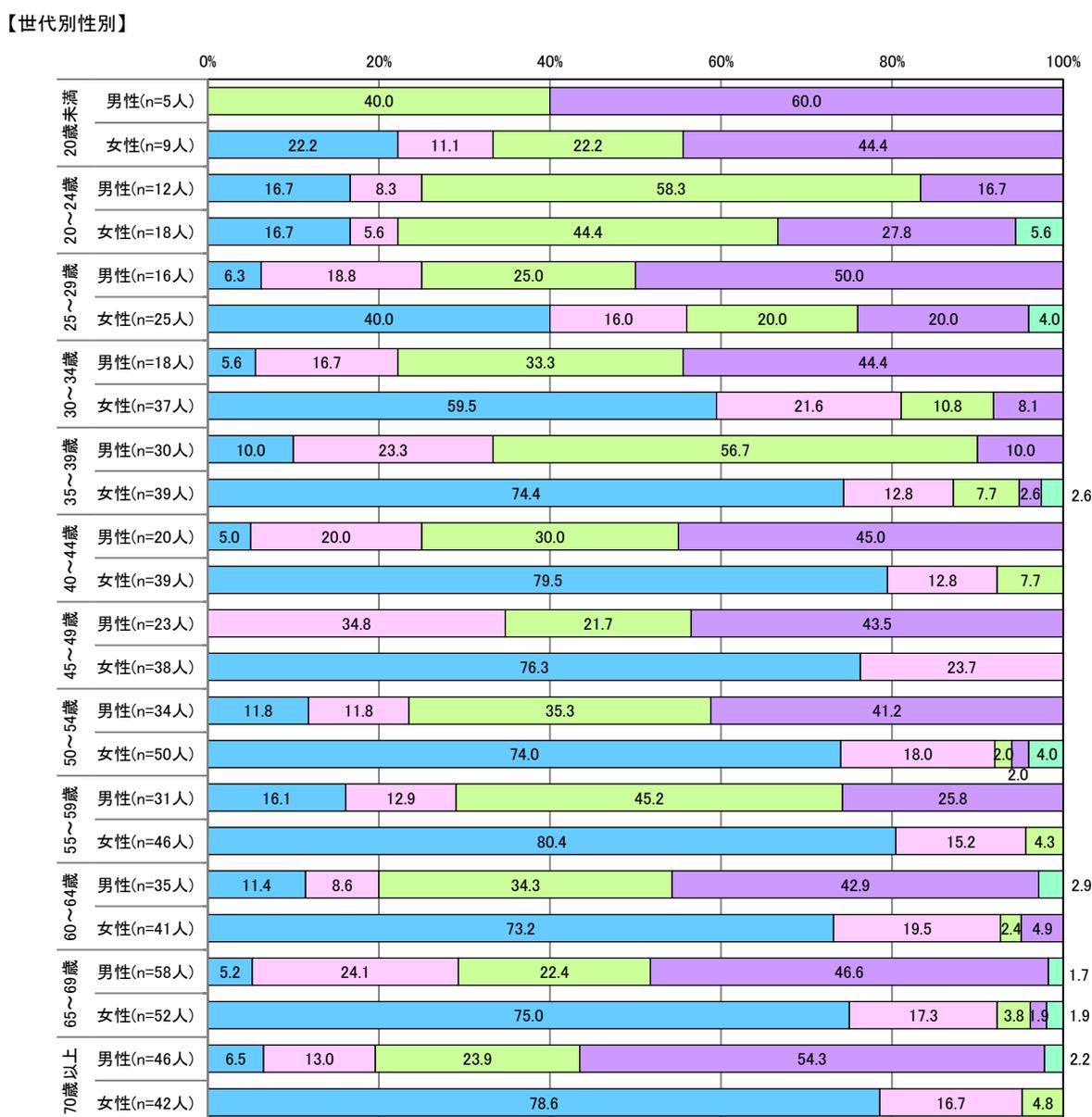
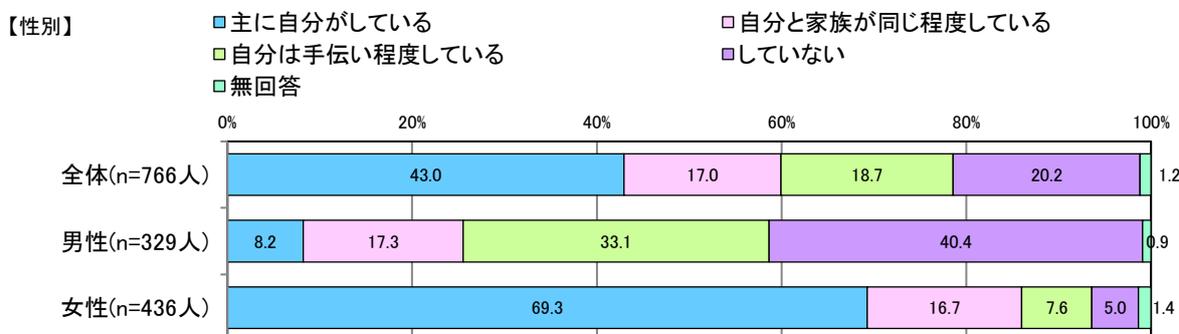


【子の有無】



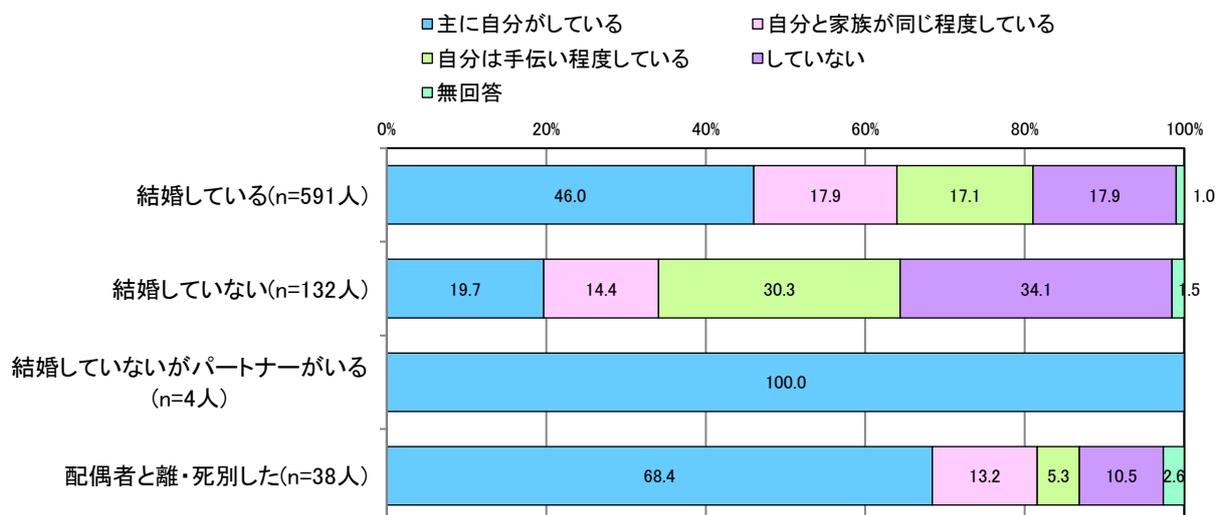
2 洗濯

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(69.3%) という回答が最も多く、男性は「していない」(40.4%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男女、25歳～34歳、40歳～54歳、60歳以上の男性では、「していない」という回答割合が4割以上となっている。

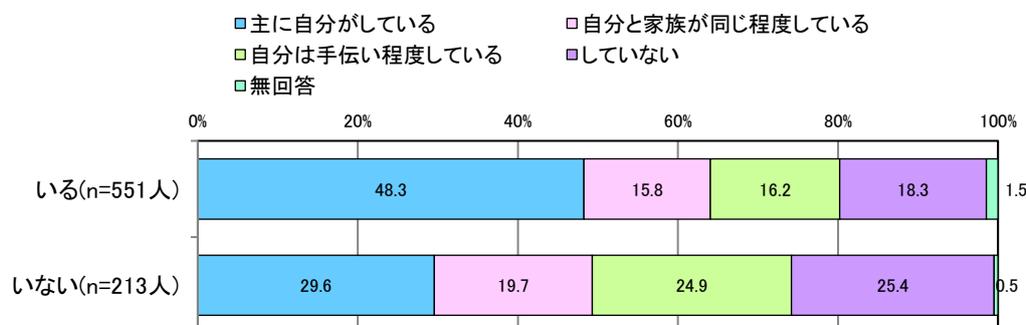


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(46.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(17.9%)、「していない」(17.9%)が同率となり、「自分は手伝い程度している」(17.1%)と続いている。「結婚していない」では、「していない」(34.1%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(30.3%)、「主に自分がしている」(19.7%)、となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、全員が「主に自分がしている」(100.0%)という回答となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(68.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(13.2%)、「していない」(10.5%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.3%)という回答が最も多く、次いで「していない」(18.3%)、「自分は手伝い程度している」(16.2%)、「自分と家族が同じ程度している」(15.8%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(29.6%)という回答が最も多く、次いで「していない」(25.4%)、「自分は手伝い程度している」(24.9%)、「自分と家族が同じ程度している」(19.7%)となっている。

【配偶者の有無】



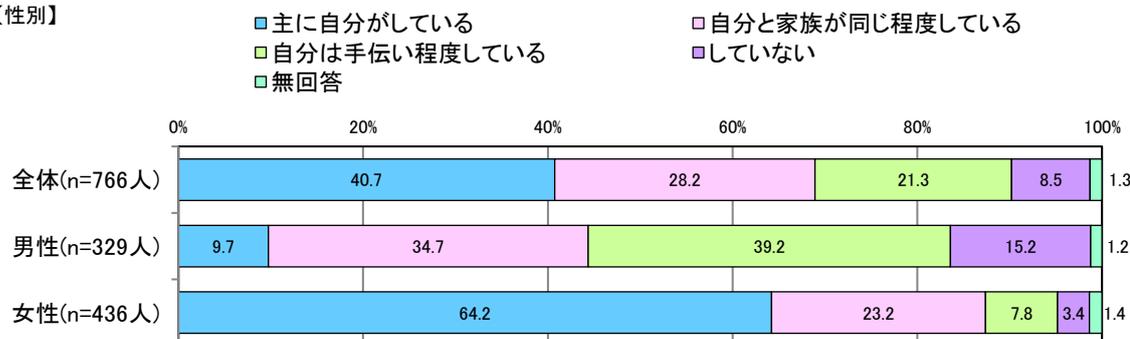
【子の有無】



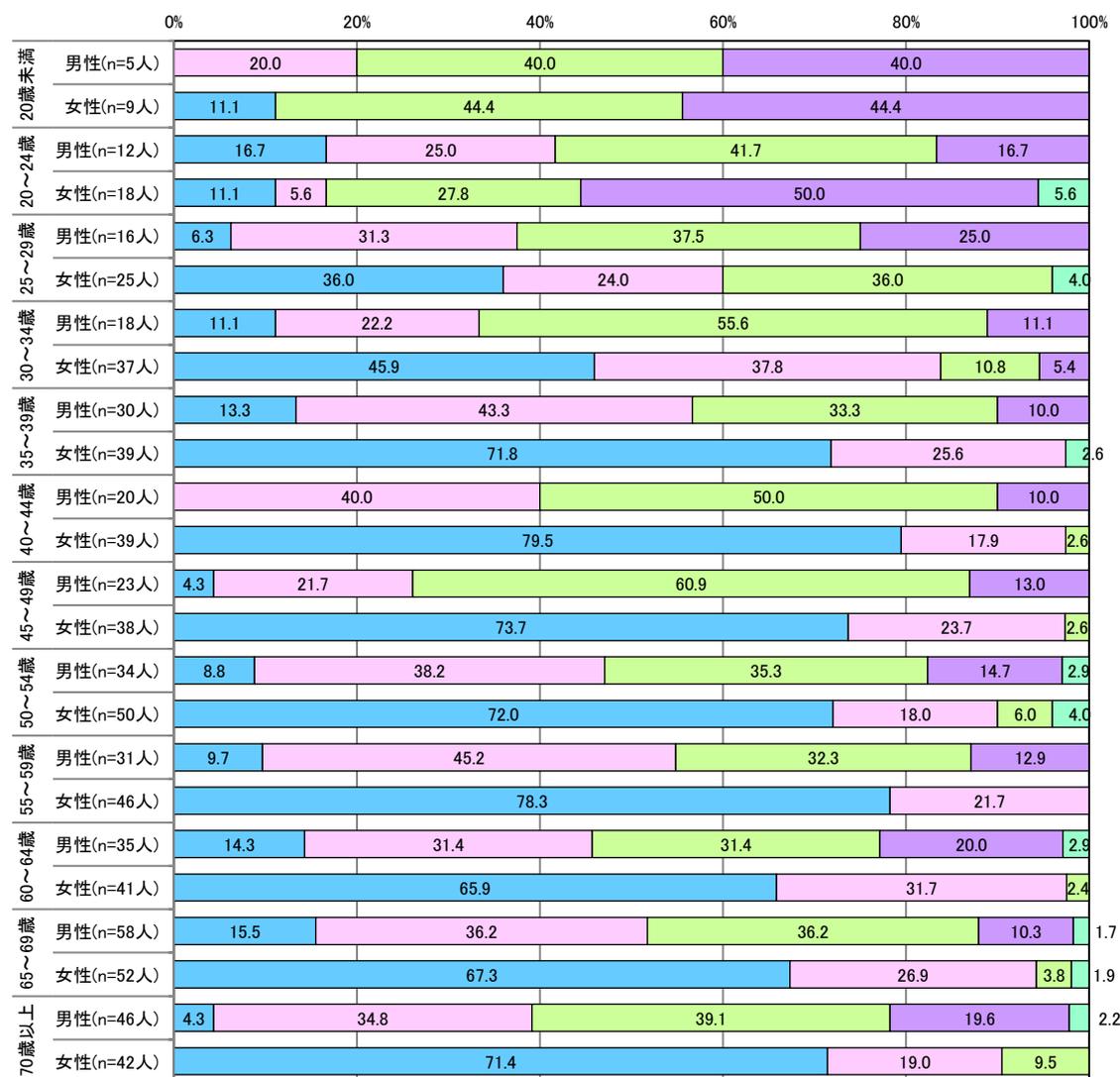
3 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(64.2%) という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(39.2%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～34歳、40歳代の男性では、「自分は手伝い程度している」という回答が5割以上となっている。一方30歳以上の女性では、「主に自分がしている」という回答が、4割以上と最も多くなっている。

【性別】

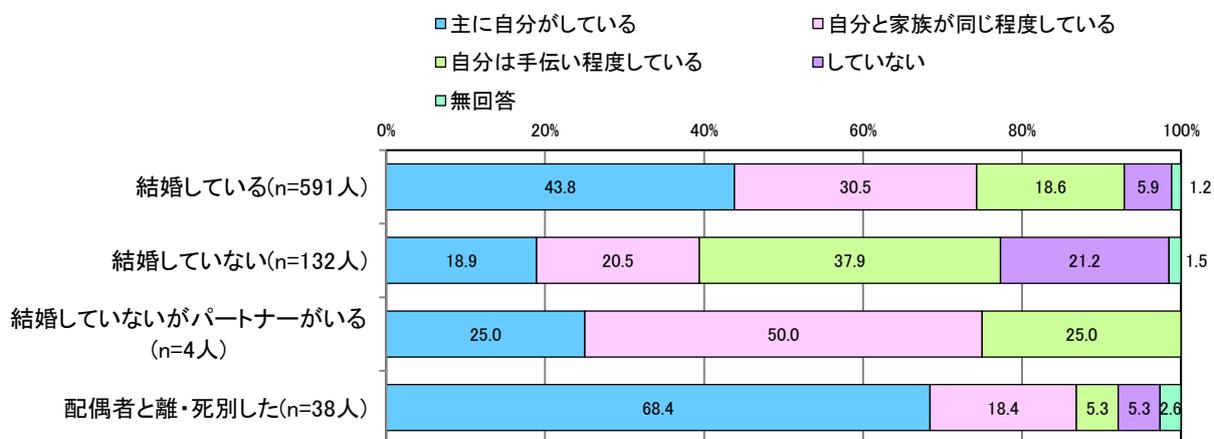


【世代別性別】

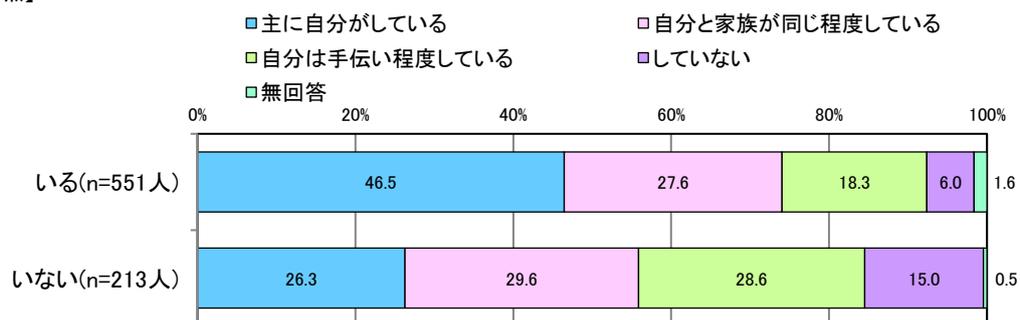


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(43.8%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(30.5%)、「自分は手伝い程度している」(18.6%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(37.9%)という回答が最も多く、次いで「していない」(21.2%)、「自分と家族が同じ程度している」(20.5%)、「主に自分がしている」(18.9%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「自分と家族が同じ程度している」(50.0%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(68.4%)という回答が最も多くなっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(46.5%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(27.6%)、「自分は手伝い程度している」(18.3%)となっている。「いない」では、「自分と家族が同じ程度している」(29.6%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(28.6%)、「主に自分がしている」(26.3%)となっている。

【配偶者の有無】



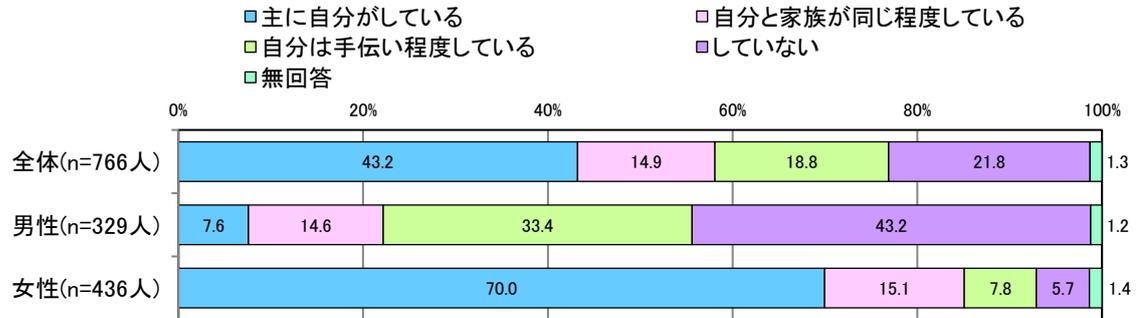
【子の有無】



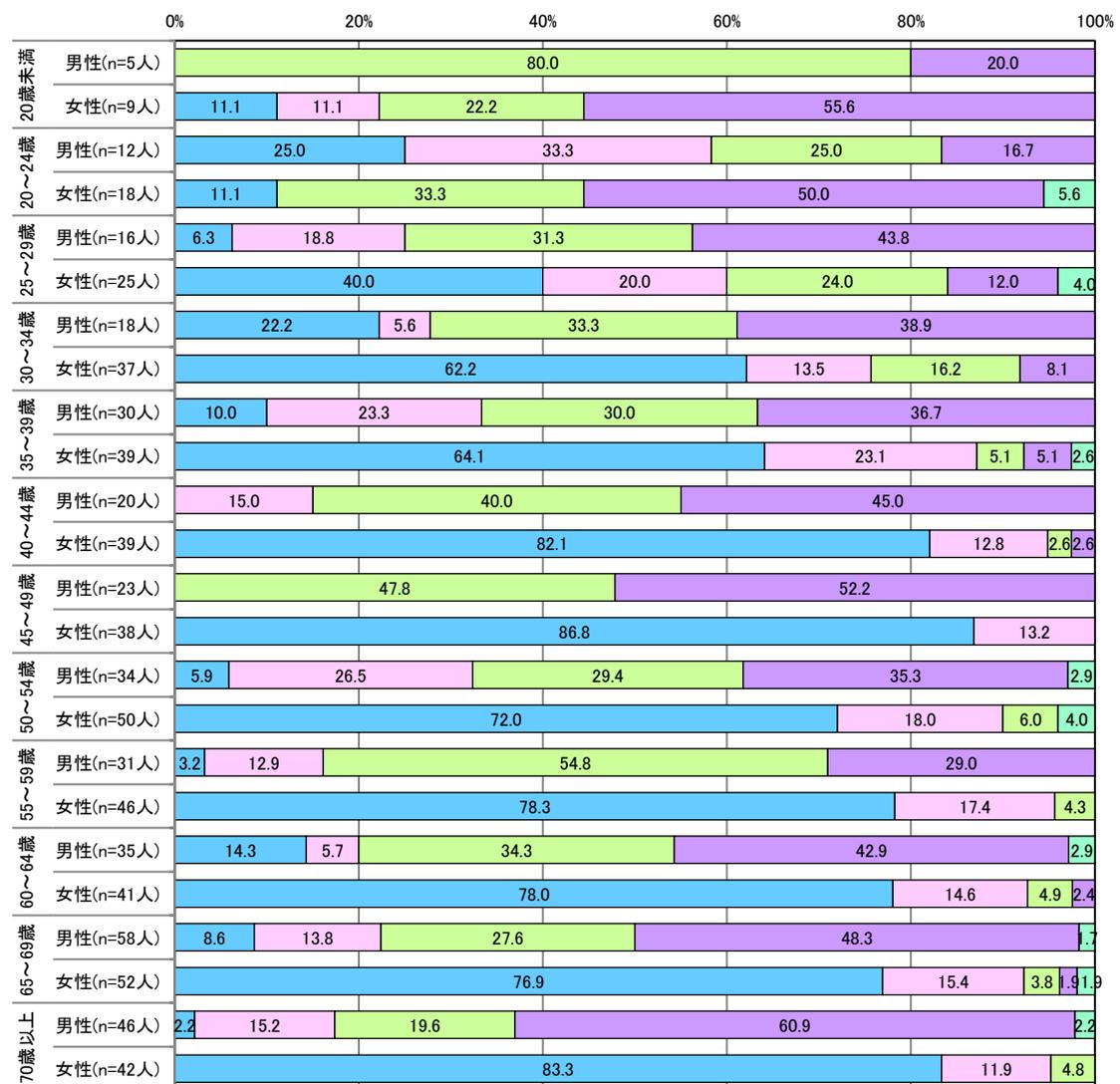
4 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(70.0%) という回答が最も多く、男性は「していない」(43.2%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満、55歳～59歳の男性を除く全ての男性と24歳以下の女性で、「していない」という回答が最も多い。

【性別】

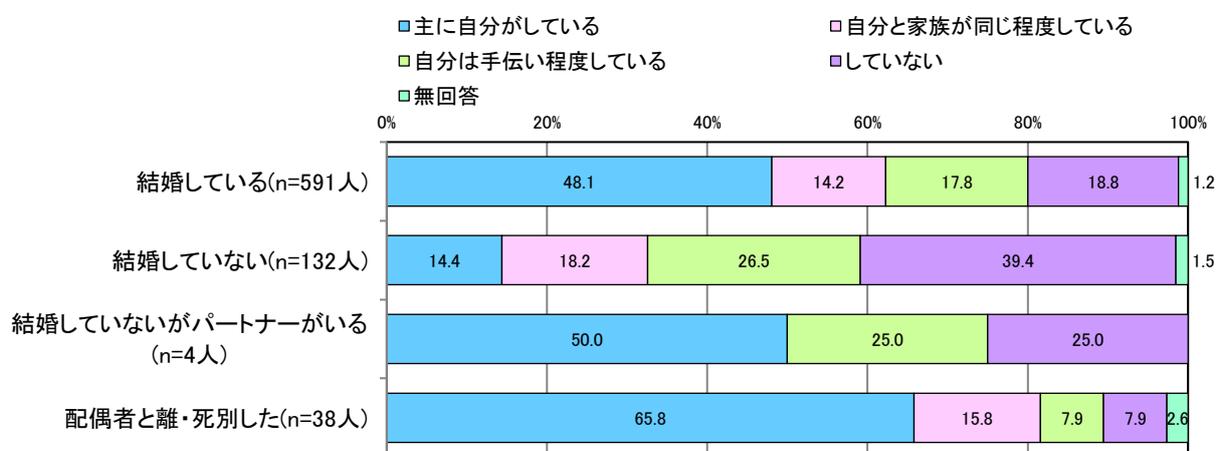


【世代別性別】

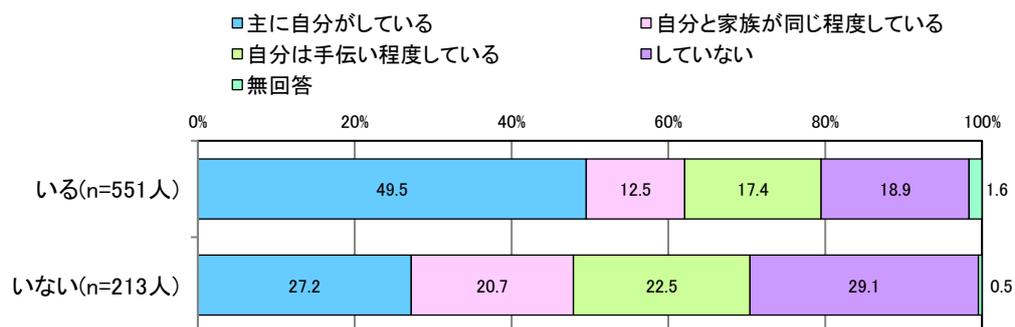


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(48.1%)という回答が最も多く、次いで「していない」(18.8%)、「自分は手伝い程度している」(17.8%)となっている。「結婚していない」では、「していない」(39.4%)という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」(26.5%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(50.0%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(65.8%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(15.8%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(49.5%)という回答が最も多く、次いで「していない」(18.9%)、「自分は手伝い程度している」(17.4%)となっている。「いない」では、「していない」(29.1%)という回答が最も多く、次いで、「主に自分がしている」(27.2%)、「自分は手伝い程度している」(22.5%)となっている。

【配偶者の有無】



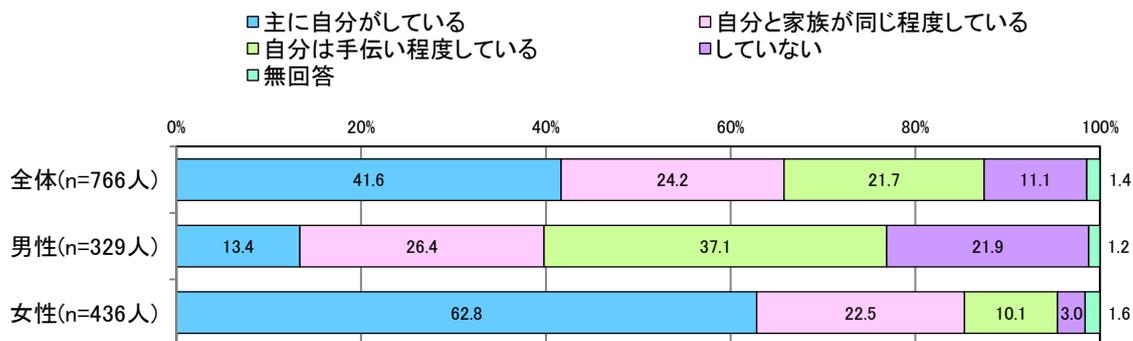
【子の有無】



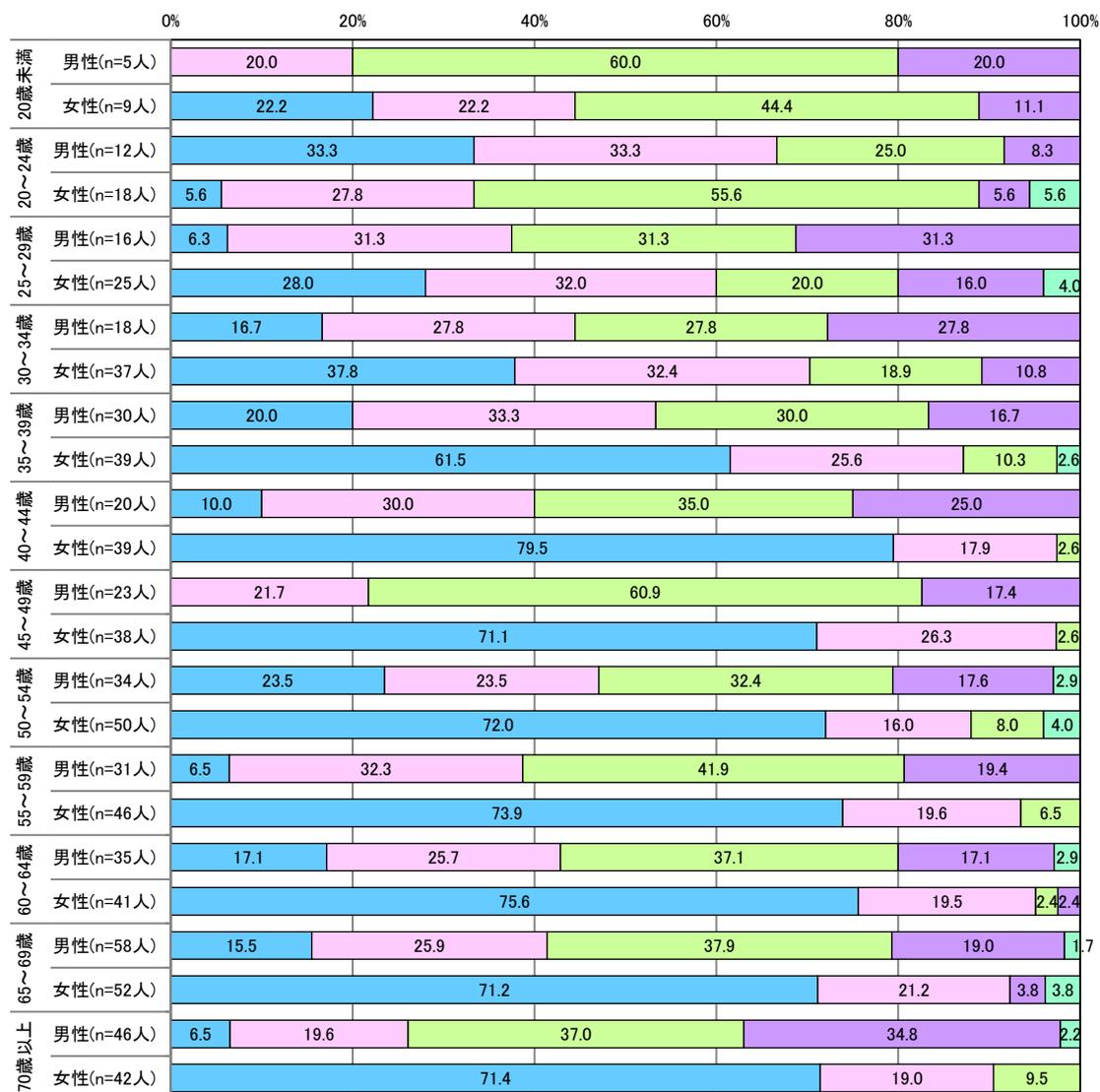
5 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(62.8%) という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(37.1%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満、45歳～49歳の男性で「主に自分がしている」という回答がなしとなっている。

【性別】

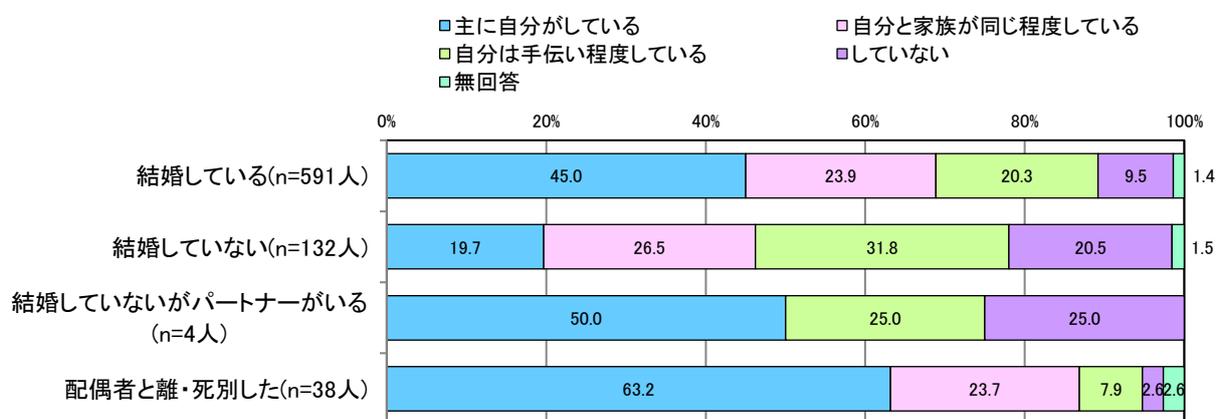


【世代別性別】

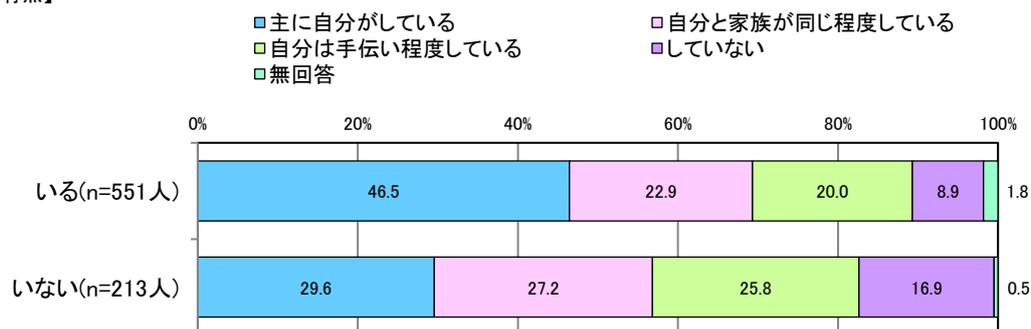


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(45.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(23.9%)、「自分は手伝い程度している」(20.3%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(31.8%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(26.5%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(50.0%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(63.2%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(23.7%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(46.5%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.9%)、「自分は手伝い程度している」(20.0%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(29.6%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(27.2%)、「自分は手伝い程度している」(25.8%)となっている。

【配偶者の有無】

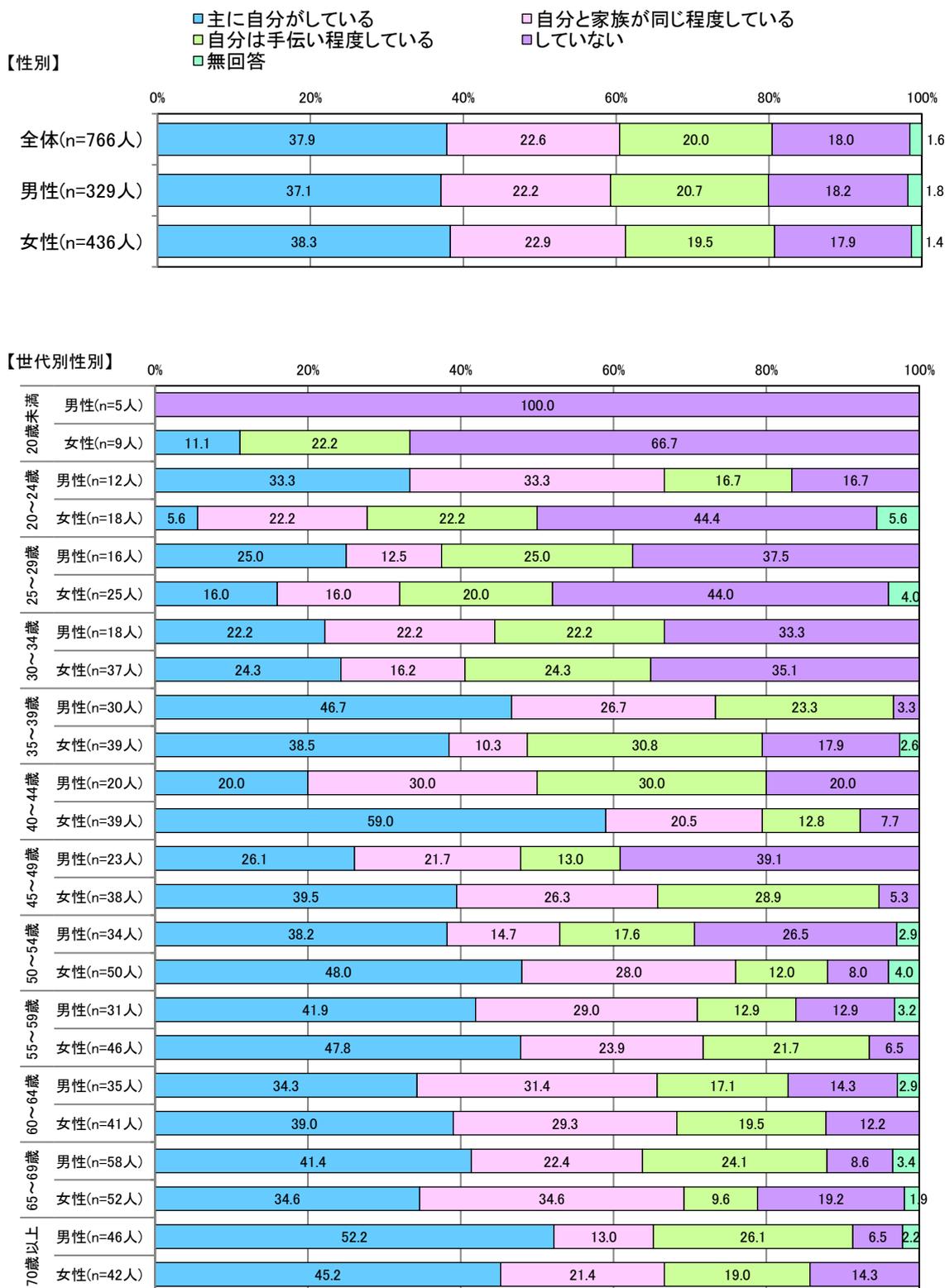


【子の有無】



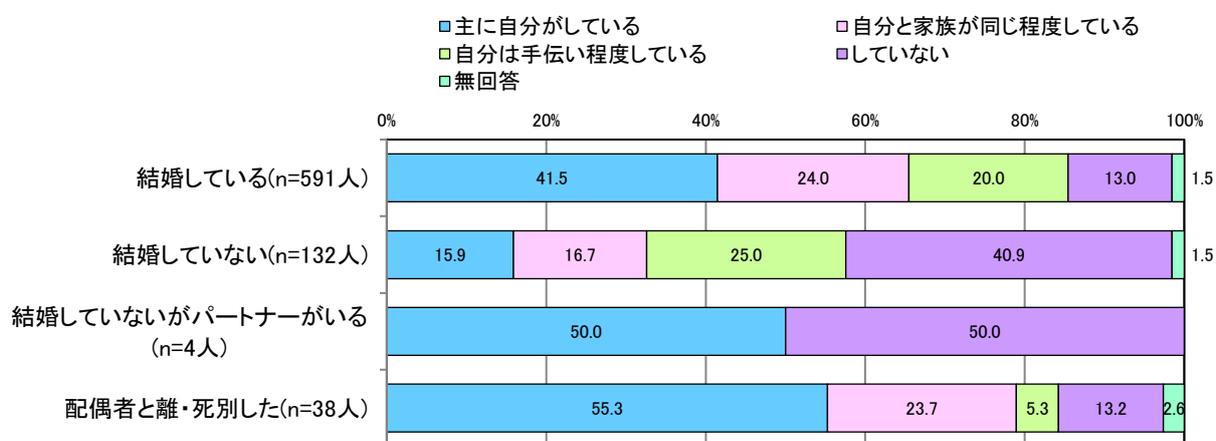
6 ごみ捨て

- 性別で見ると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は38.3%、男性は37.1%となっている。
- 世代別性別で見ると、20歳未満の男女、20歳～24歳の女性、25歳～34歳の男女、40歳代の男性では、「主に自分がしている」という回答が3割未満と、他よりも少ない傾向にある。

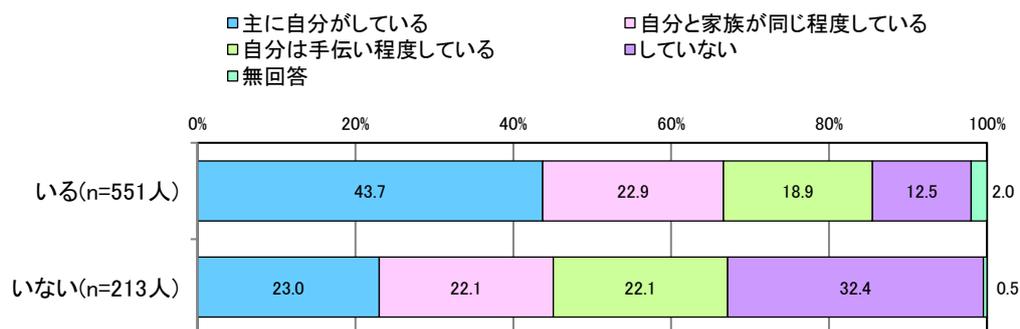


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(41.5%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(24.0%)、「自分は手伝い程度している」(20.0%)となっている。「結婚していない」では、「していない」(40.9%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(25.0%)、「自分と家族が同じ程度している」(16.7%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(50.0%)と「していない」(50.0%)という回答が同率となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(55.3%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(23.7%)、「していない」(13.2%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(43.7%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.9%)、「自分は手伝い程度している」(18.9%)となっている。「いない」では、「していない」(32.4%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(23.0%)となり、「自分と家族が同じ程度している」(22.1%)と「自分は手伝い程度している」(22.1%)が同率で続いている。

【配偶者の有無】



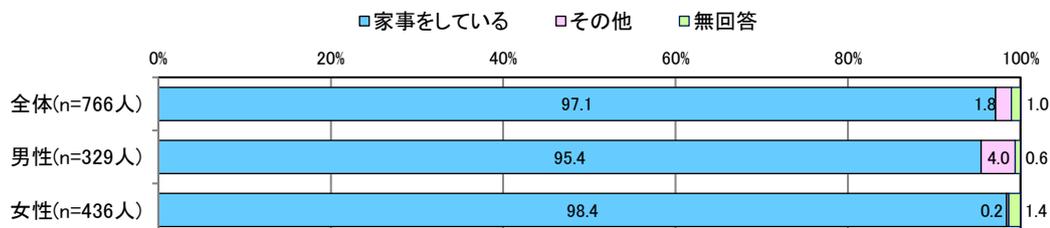
【子の有無】



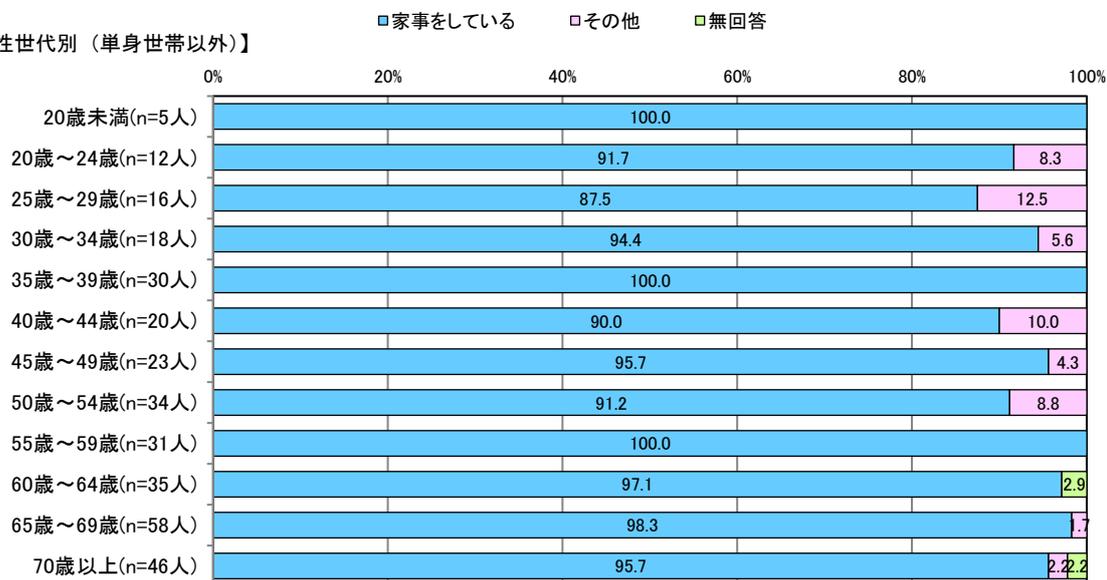
<家事への参画度>

- ・問 19 の 1 ～ 6 の家事について、いずれか 1 つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 97.1%がいずれかの「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、男性では 95.4%、女性は 98.4%の方が「家事をしている」となっており、男性と女性の差が少なくなっている。

【性別】



【男性世代別（単身世帯以外）】



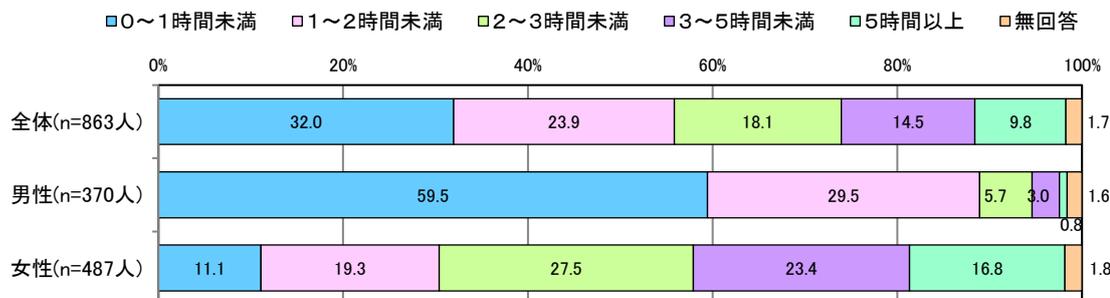
【女性世代別（単身世帯以外）】



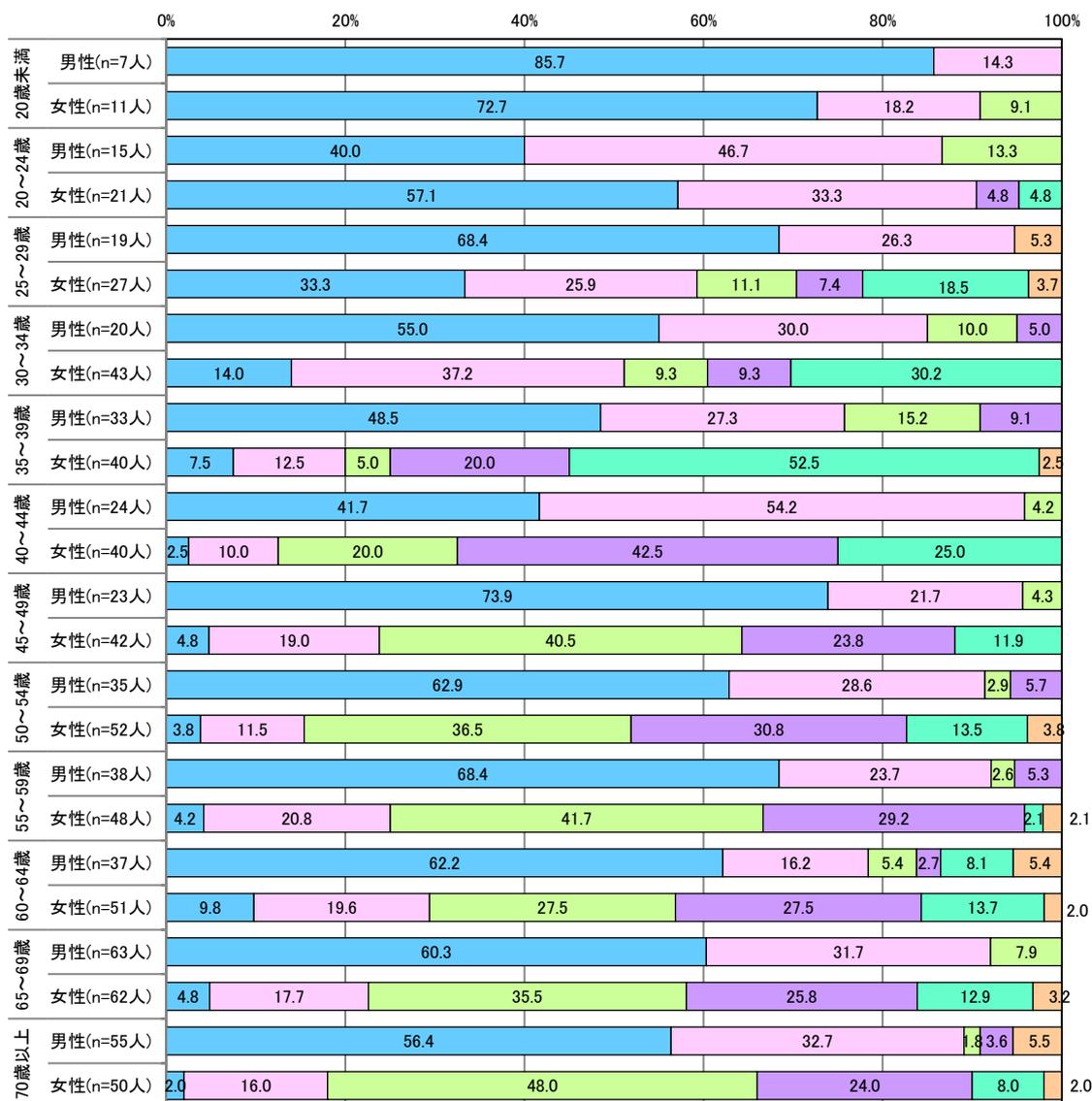
問 20 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
 当てはまる番号を1つお選びください。

- ・性別で見ると、男性は「0～1時間未満」（59.5%）という回答が最も多くなっている。一方、女性の「0～1時間未満」という回答は11.1%となっており、男女で大きな差がある。
- ・世代別性別で見ると、20歳未満の男女、25歳～34歳と45歳以上の男性の世代で「0～1時間未満」という回答が5割を超えている。

【性別】

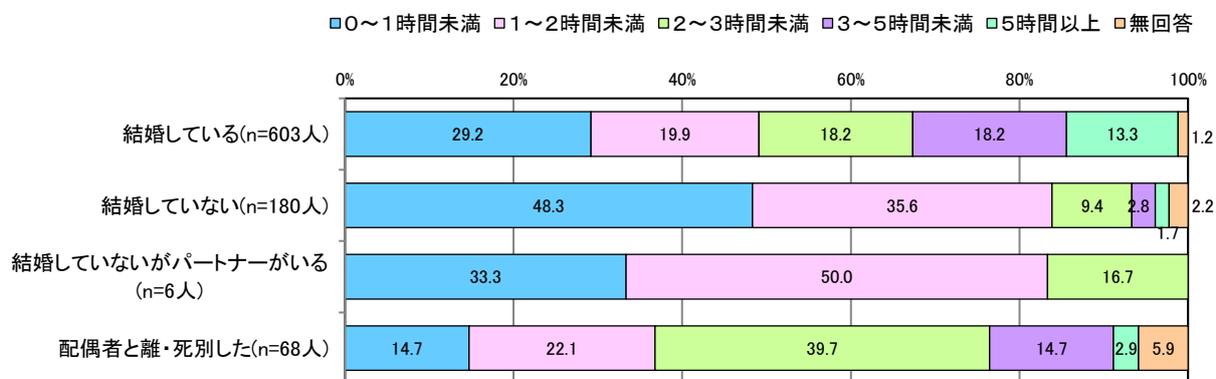


【世代別性別】

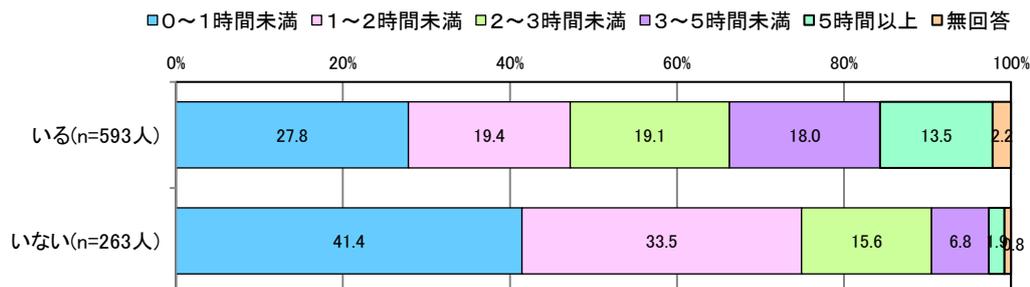


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「0～1時間未満」(29.2%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(19.9%)、「2～3時間未満」(18.2%)と「3～5時間未満」(18.2%)が同率となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(48.3%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(35.6%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「1～2時間未満」(50.0%)という回答が最も多く、次いで「0～1時間未満」(33.3%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(39.7%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(22.1%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「0～1時間未満」(27.8%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(19.4%)、「2～3時間未満」(19.1%)、「3～5時間未満」(18.0%)となっている。「いない」では、「0～1時間未満」(41.4%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(33.5%)、「2～3時間未満」(15.6%)となっている。

【配偶者の有無】



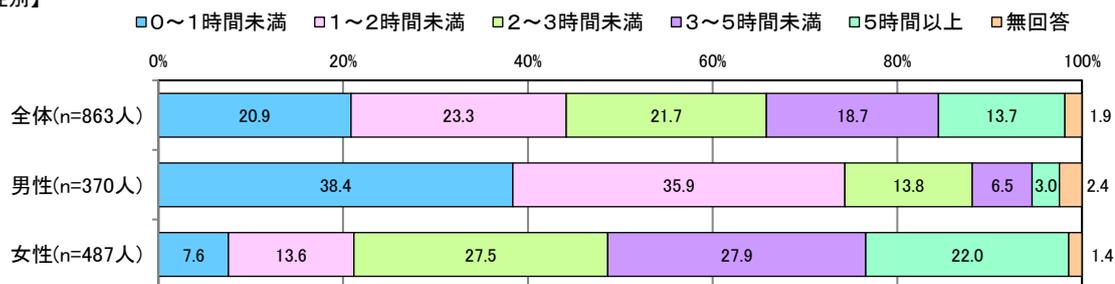
【子の有無】



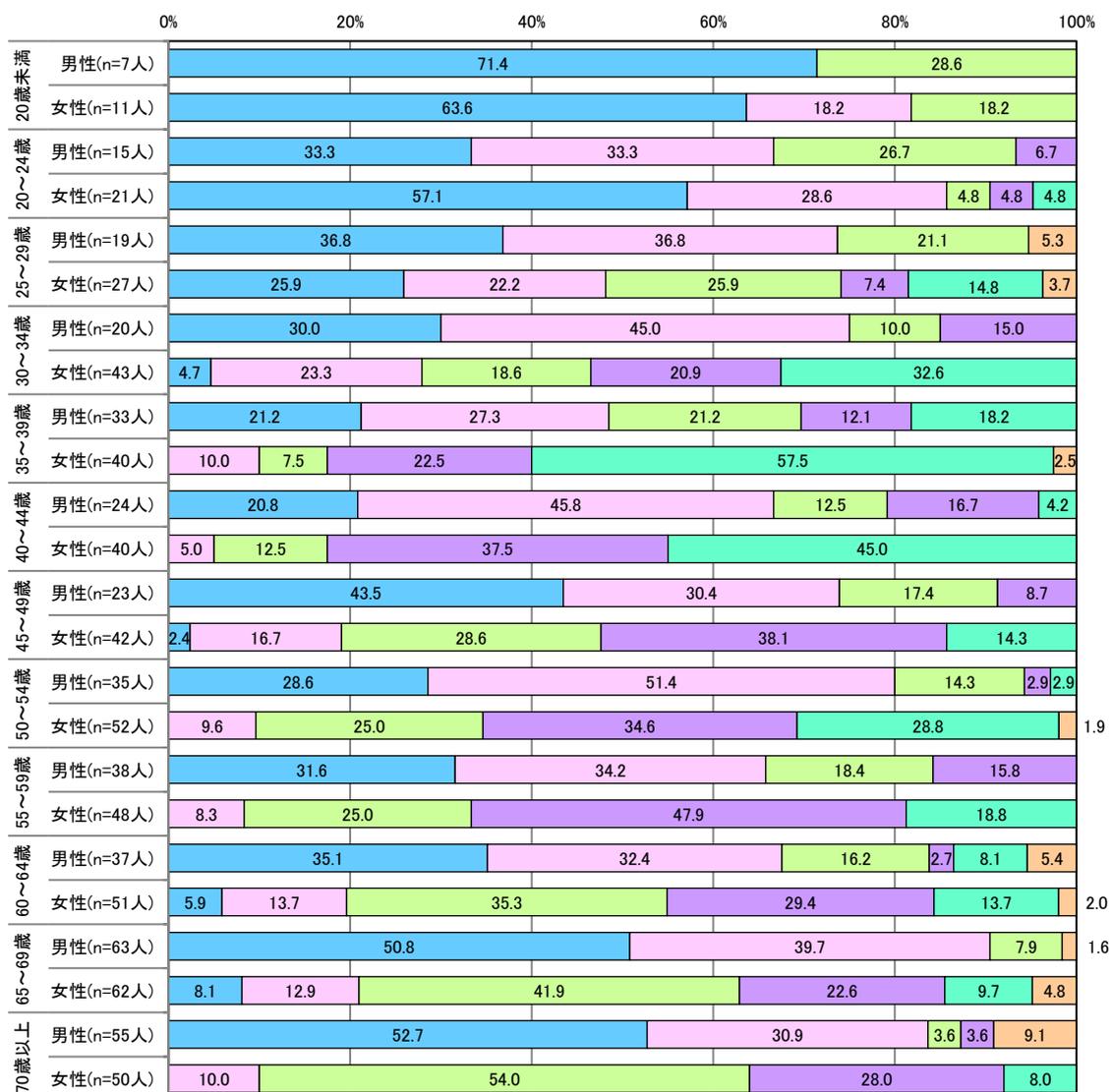
問 21 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
 当てはまる番号を1つお選びください。

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（38.4%）という回答が最も多く、次に「1～2時間未満」（35.9%）となっている。女性は「3～5時間未満」（27.9%）という回答が最も多く、次に「2～3時間未満」（27.5%）、「5時間以上」（22.0%）となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男女、20歳～24歳の女性、45歳～49歳と65歳以上の男性で、「0～1時間未満」という回答が4割を超えている。一方、40歳～59歳の女性で、「3～5時間未満」という回答が3割を超えている。

【性別】

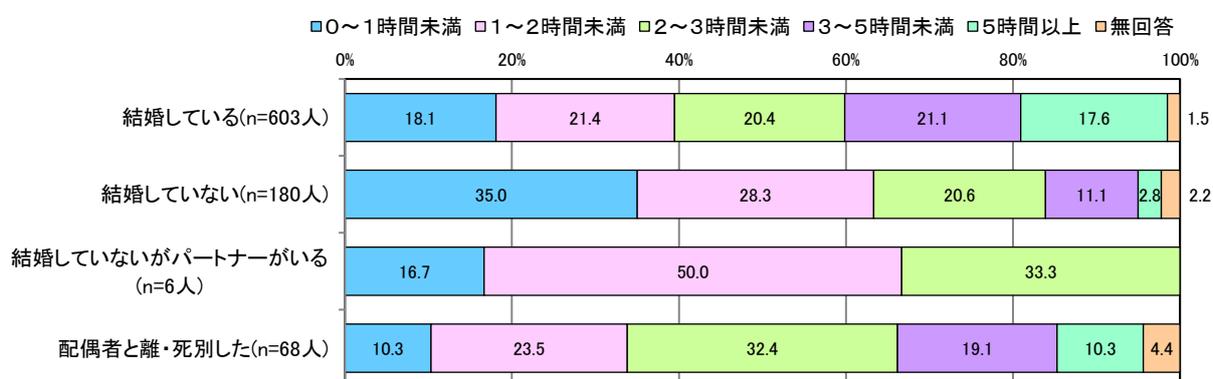


【世代別性別】

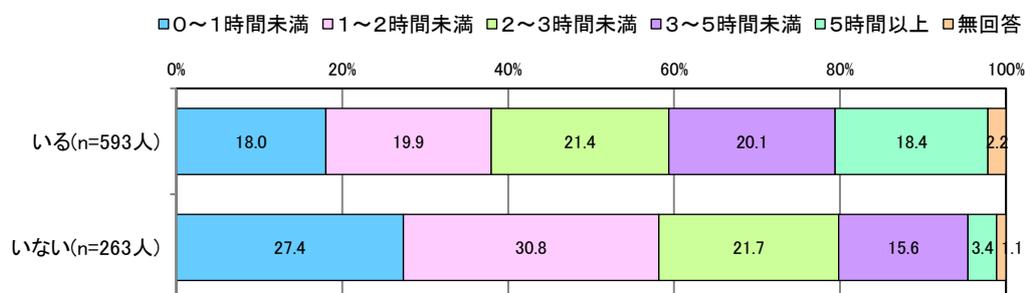


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「1～2時間未満」(21.4%)という回答が最も多く、次いで、「3～5時間未満」(21.1%)、「2～3時間未満」(20.4%)、「0～1時間未満」(18.1%)となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(35.0%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(28.3%)、「2～3時間未満」(20.6%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「1～2時間未満」(50.0%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(32.4%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(23.5%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「2～3時間未満」(21.4%)という回答が最も多く、次いで「3～5時間未満」(20.1%)、「1～2時間未満」(19.9%)となっている。「いない」では、「1～2時間未満」(30.8%)という回答が最も多く、次いで、「0～1時間未満」(27.4%)、「2～3時間未満」(21.7%)となっている。

【配偶者の有無】



【子の有無】

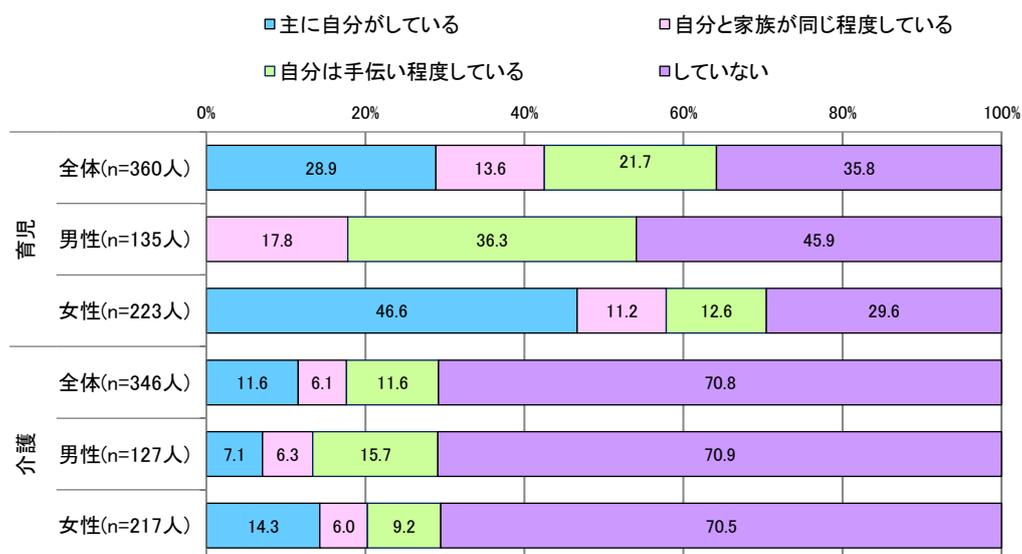


身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問 22 あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答が約5割（46.6%）で、男性の回答なしと比べ大きな差がある。
- ・介護では、男性は、「自分は手伝い程度している」（15.7%）が約2割となっている。一方、女性は「自分が主にしている」（14.3%）が1割を超えている。また、男性の「自分が主にしている」（7.1%）は1割に満たなく、女性が男性より高い割合となっている。（※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

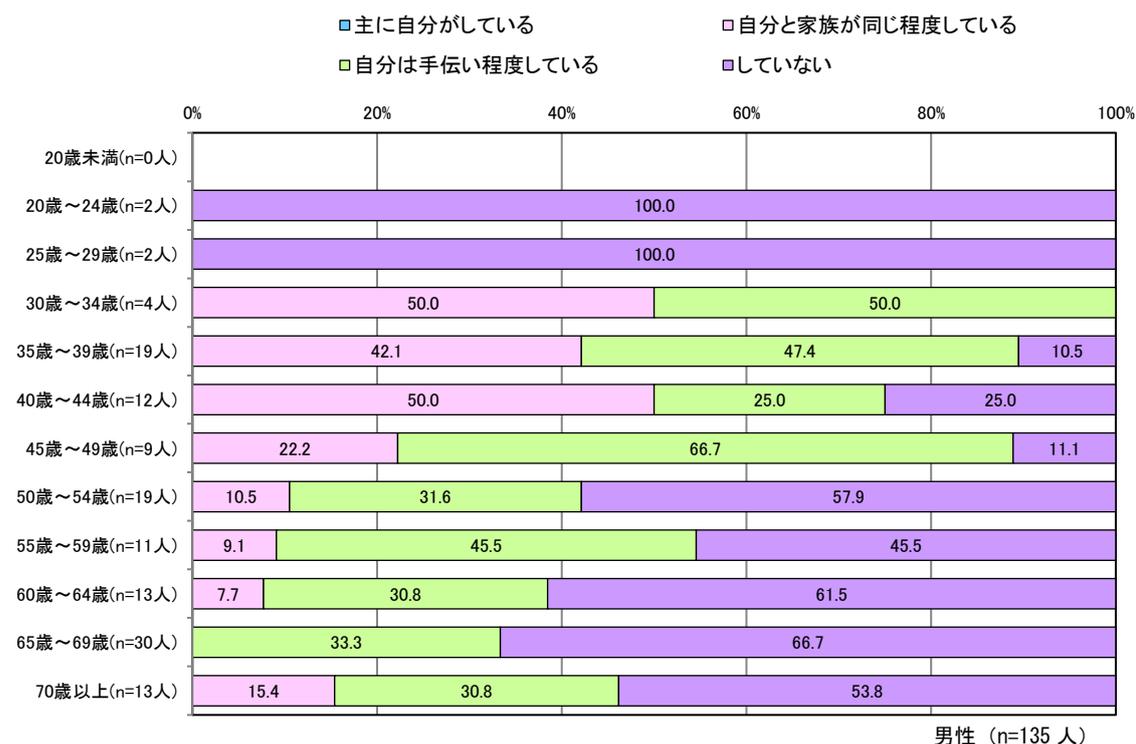
【全分野】



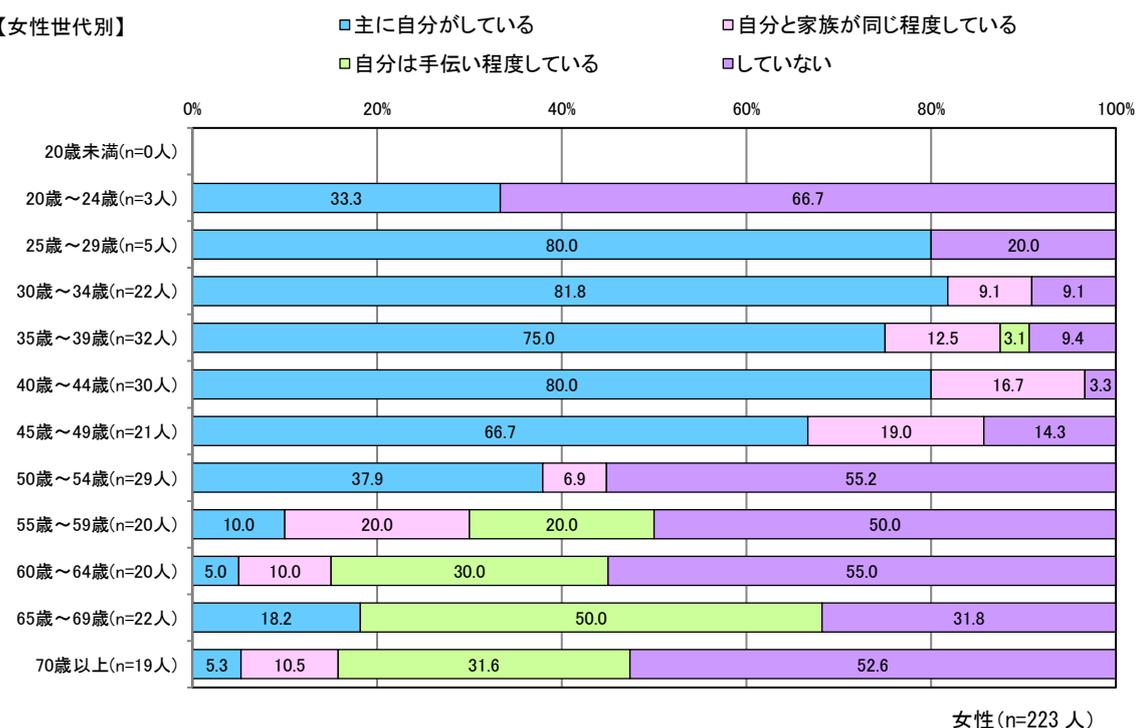
1 育児（お孫さんを含む）

- ・男性では30歳～44歳で、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合が4割を超えている。45歳～49歳では約2割となるものの、50歳以上では約1割となっている。「主に自分がしている」という回答は、いずれの世代でもなしとなっている。
- ・一方、女性では25歳～44歳で、「主に自分がしている」という回答割合が約8割となる。45歳～49歳では約7割、50歳～54歳で約4割となっている。「していない」という回答割合は、20歳～24歳、50歳～64歳、70歳以上で、5割以上となっている。

【男性世代別】



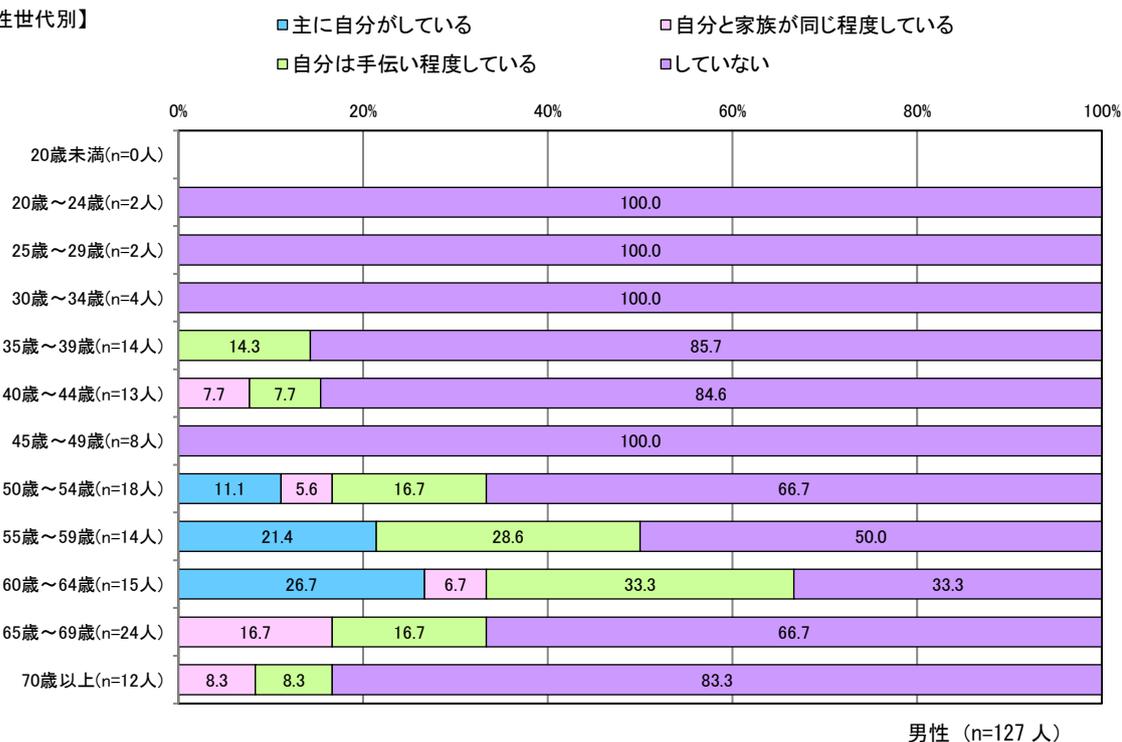
【女性世代別】



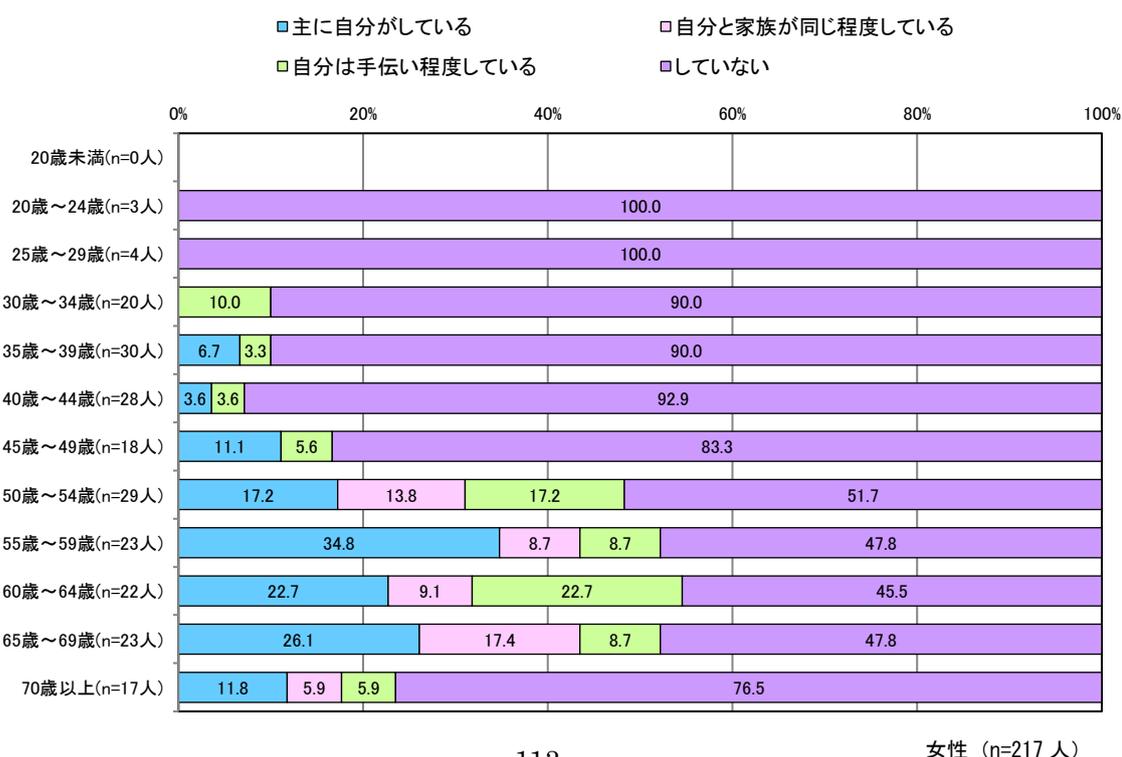
2 介護

- ・性別でみると、男性では、35歳～44歳と50歳以上で、介護に関わっている。特に、50歳～69歳では3割を超えている。
- ・女性では、30歳以上で介護に関わっている。男性同様、50歳以上の年代から介護に関わる人の割合が多くなっている。
- ・「主に自分がしている」という回答は、55歳～59歳では、男性に比べ女性の方が多くなっている。一方、60歳代では男女の回答割合がほぼ同じとなり、2割を超えている。

【男性世代別】

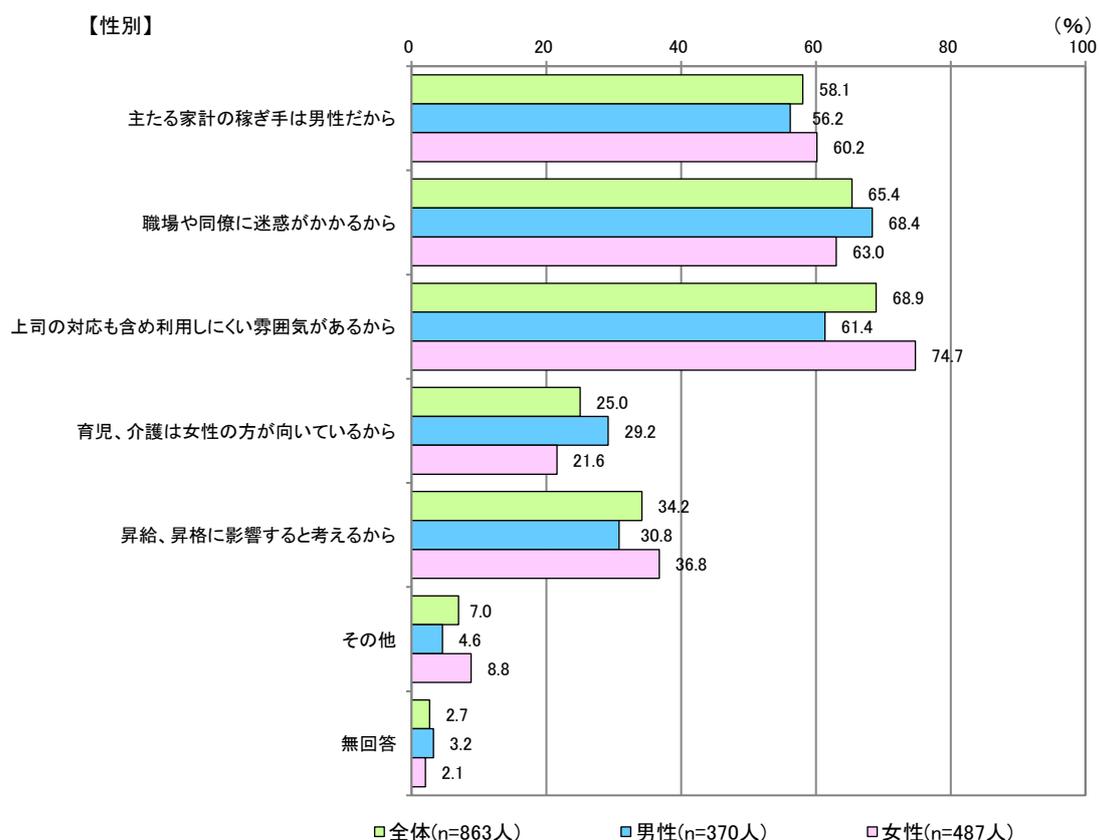


【女性世代別】



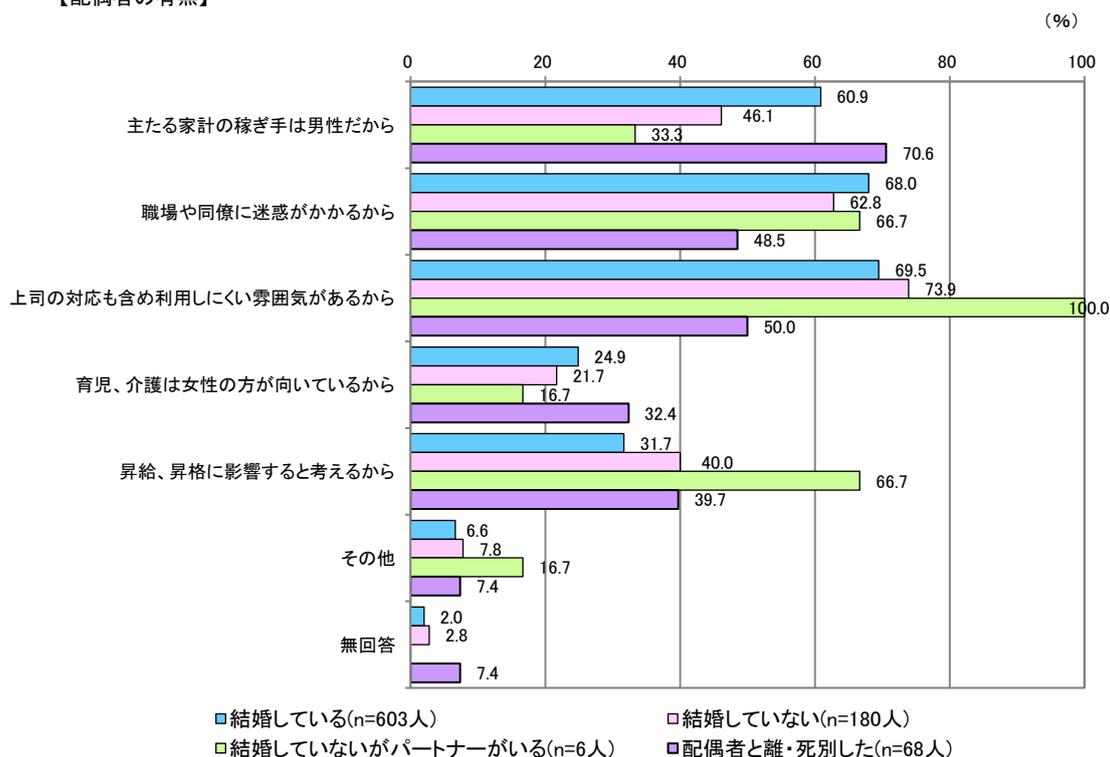
問 23 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多いのは、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(68.9%)で、約7割となっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(65.4%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(58.1%)となっている。
- ・性別でみると、男性では「職場や同僚に迷惑がかかるから」(68.4%)、次いで「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(61.4%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(56.2%)となっている。
- ・女性では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(74.7%)が最も多くなっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(63.0%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(60.2%)となっている。

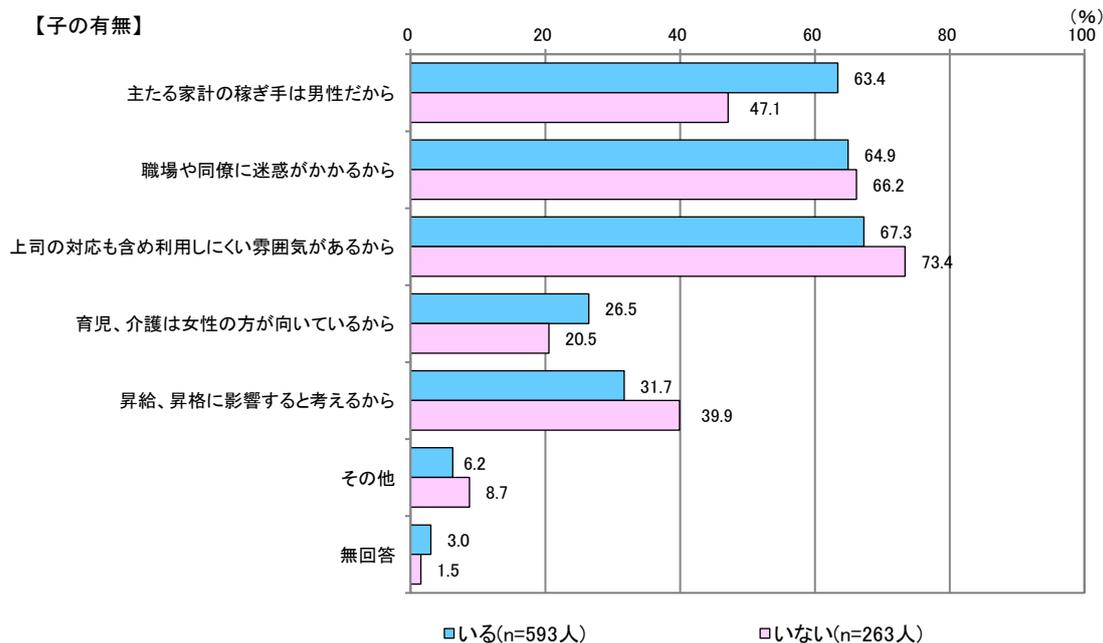


- ・配偶者の有無でみると、「配偶者と離・死別した」では、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(70.6%)が最も高く、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(48.5%)、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(50.0%)は他より回答割合がやや低い傾向となっている。一方、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」では、「配偶者と離・死別した」で70.6%となっており、他より回答割合がやや高い傾向となっている。また、「昇給、昇格に影響すると考えるから」では、「結婚していないがパートナーがいる」で66.7%とやや高い回答割合となっている。
- ・子の有無でみると、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」では、「いる」が63.4%と「いない」47.1%となり回答割合が高くなっている。一方、「昇給、昇格に影響すると考えるから」という回答では、「いない」が39.9%となり、「いる」では31.7%と意識に差がある。

【配偶者の有無】



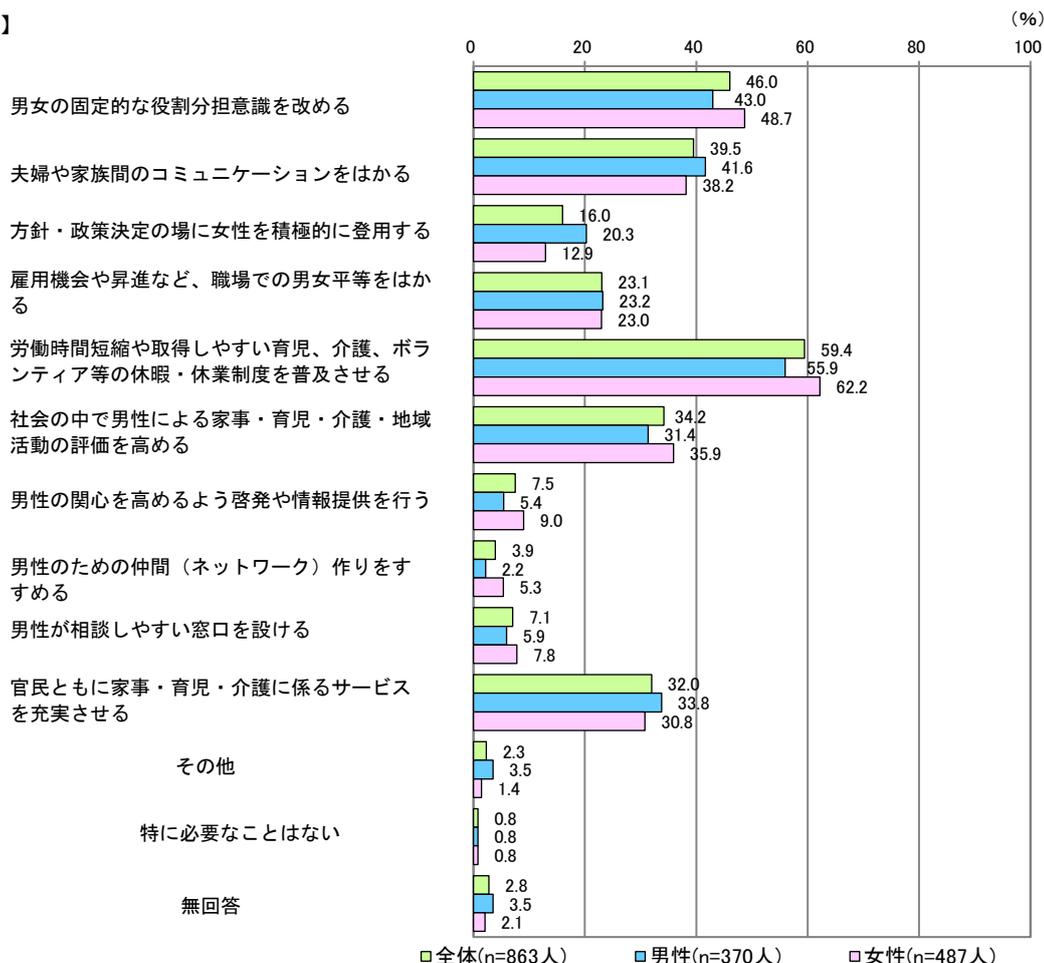
【子の有無】



問 24 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

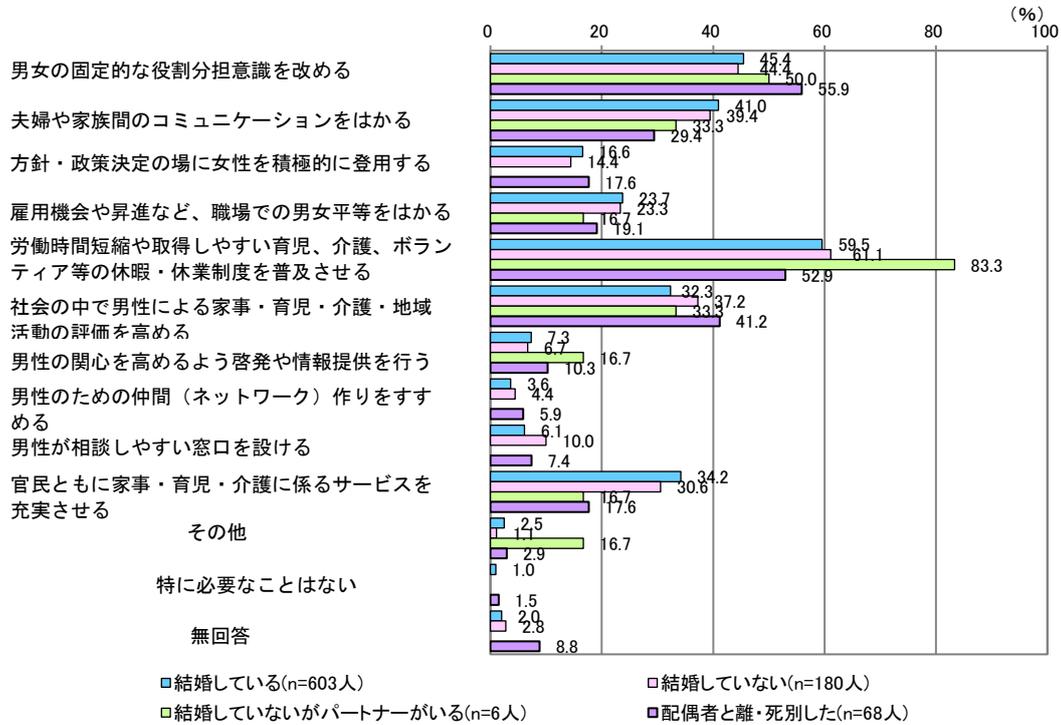
- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(59.4%)が最も多く、約6割となっている。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(46.0%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(39.5%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(34.2%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(32.0%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(55.9%)が最も多く、約6割となっている。次いで、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(43.0%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(41.6%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(33.8%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(31.4%)の順となる。女性も、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(62.2%)という回答が最も多い。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(48.7%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(38.2%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(35.9%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(30.8%)の順となっている。

【性別】

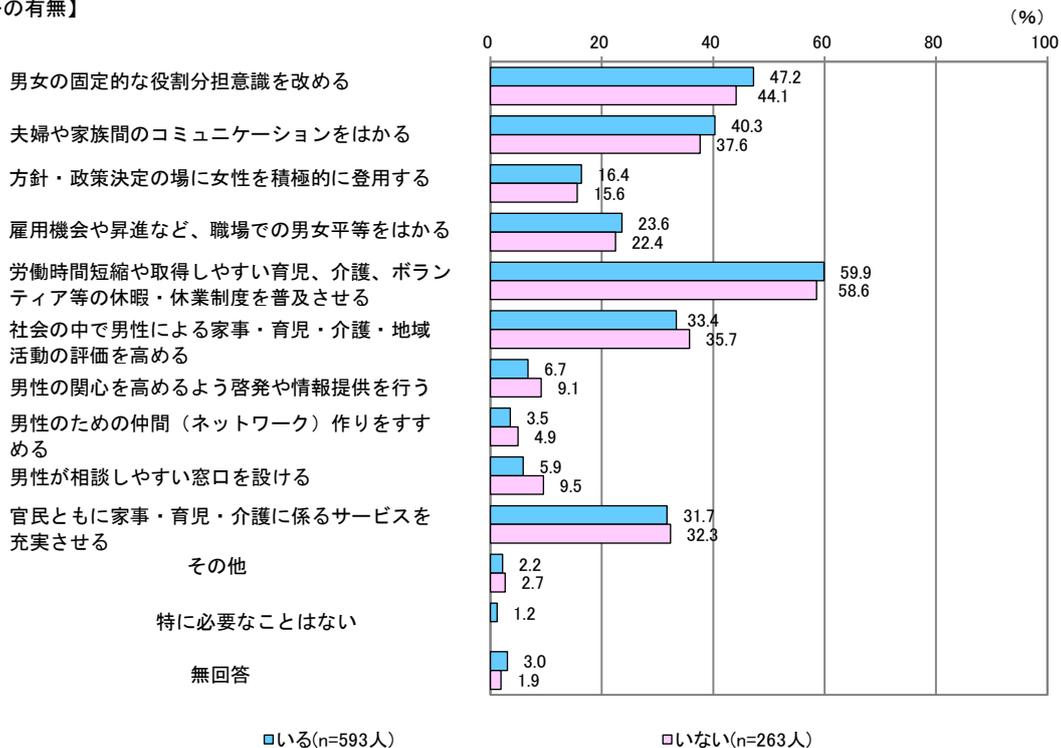


- ・配偶者の有無でみると、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」という回答が、「結婚している」、「結婚していない」、「結婚していないがパートナーがいる」で約6割を超え、高い回答割合となっている。一方、「男女の固定的な役割分担意識を改める」では、「配偶者と離・死別した」で約6割と、高い回答割合となっている。
- ・子の有無でみると、大きな意識の差は少ない結果となっている。

【配偶者の有無】



【子の有無】

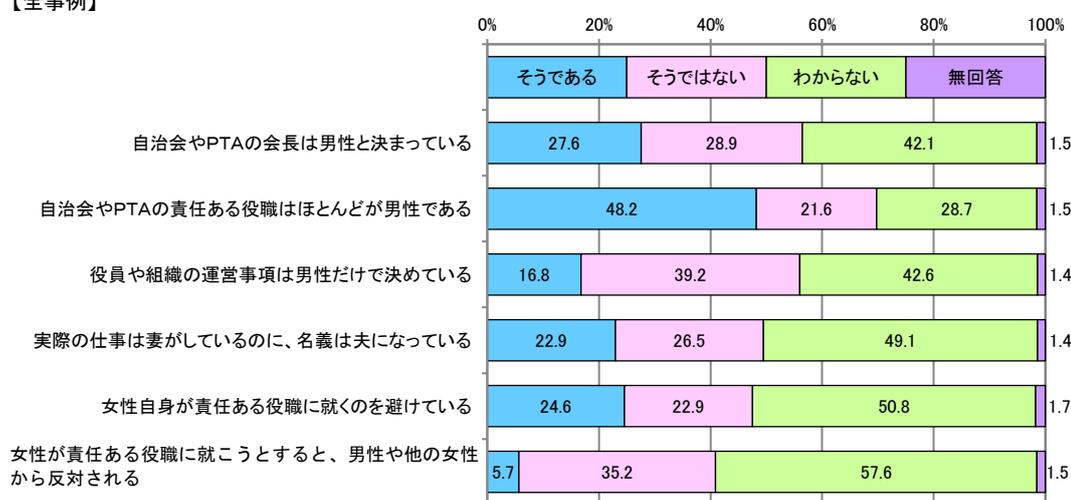


地域社会に関することについて

問 25 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」が最も多く、約5割（48.2%）となっている。次いで「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（27.6%）、「女性自身が責任ある役職に就くのを避けている」（24.6%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」（39.2%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」（35.2%）、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（28.9%）と続いている。

【全事例】

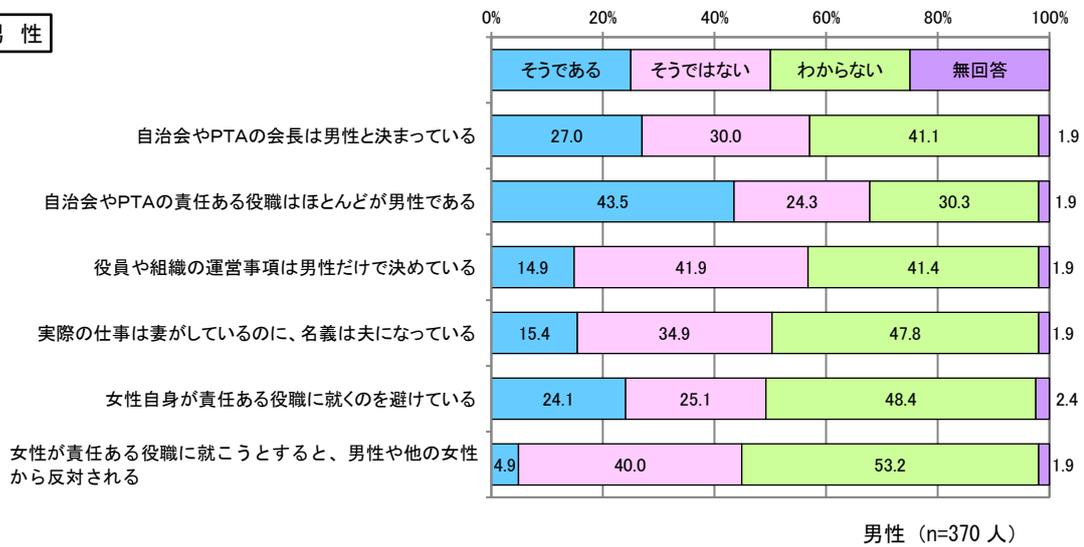


全体 (n=863人)

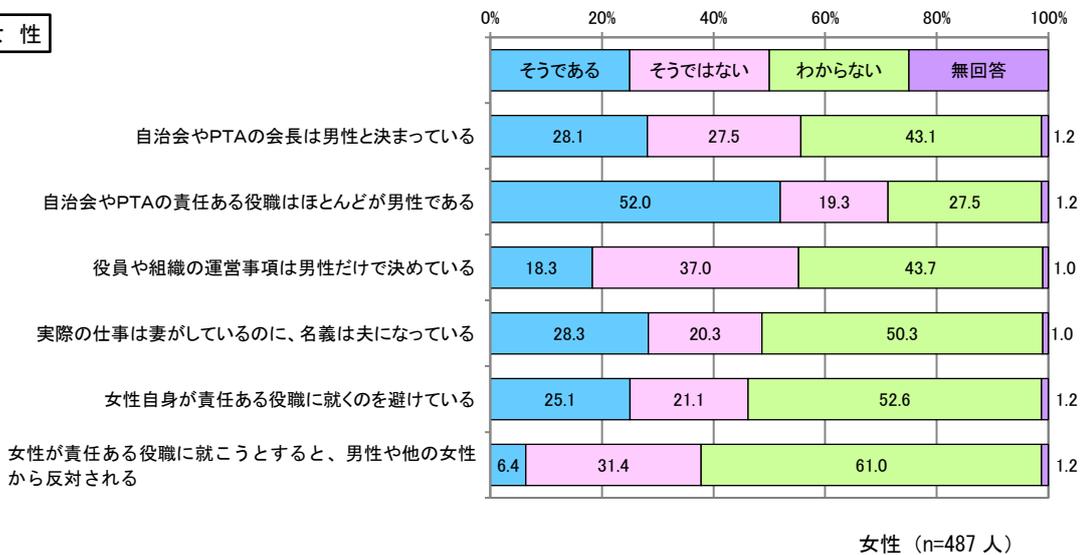
- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっているものの、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」では、女性の回答割合 28.3%が男性の 15.4%よりもやや高い。また、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」でも、女性の回答割合 52.0%が男性の 43.5%とよりもやや高くなっている。

【性別】

男性

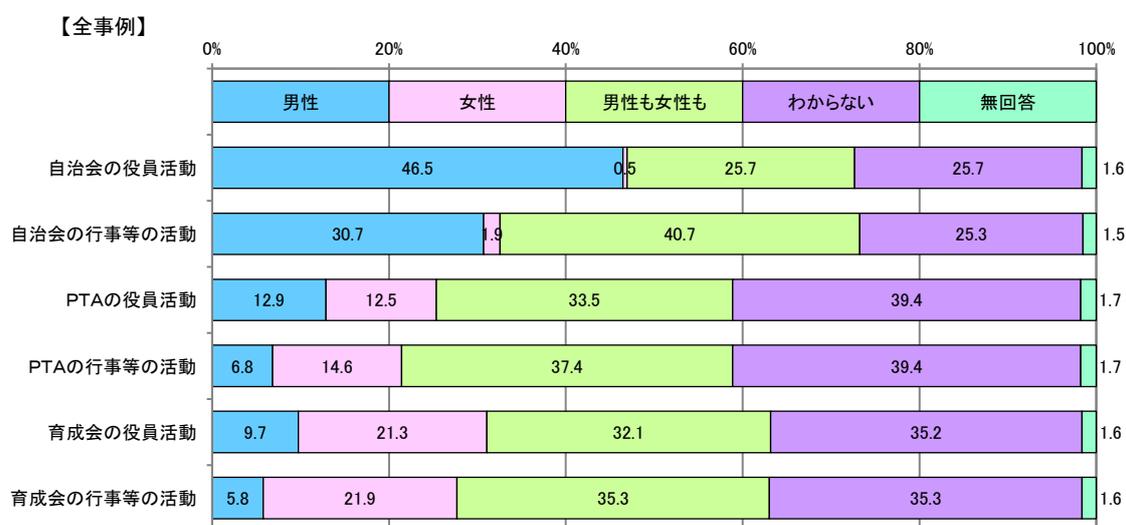


女性



問 26 あなたが住んでいる地域では、次の 1 から 6 の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。あてはまる番号をそれぞれ 1 つずつお選びください。

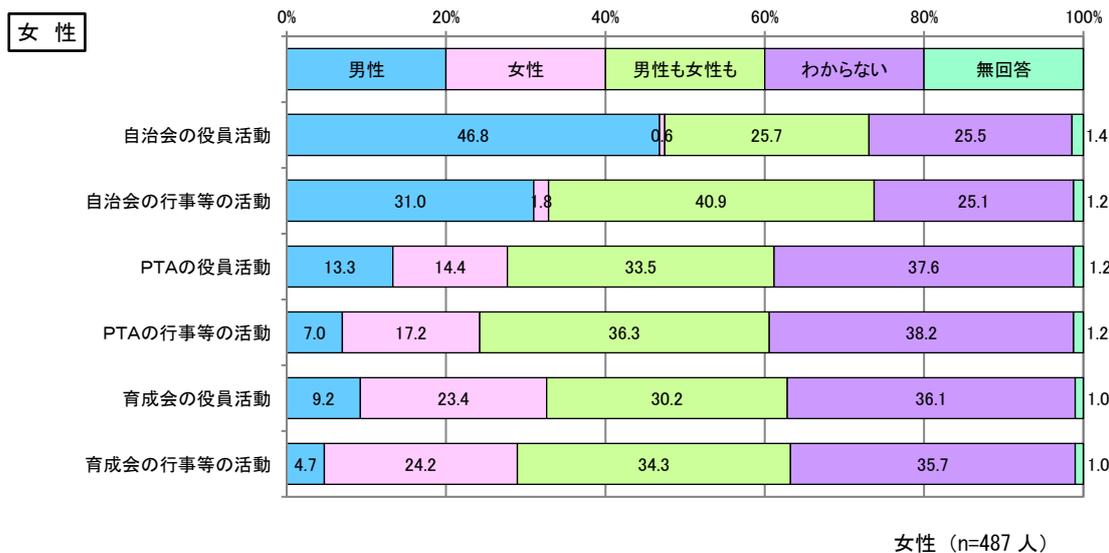
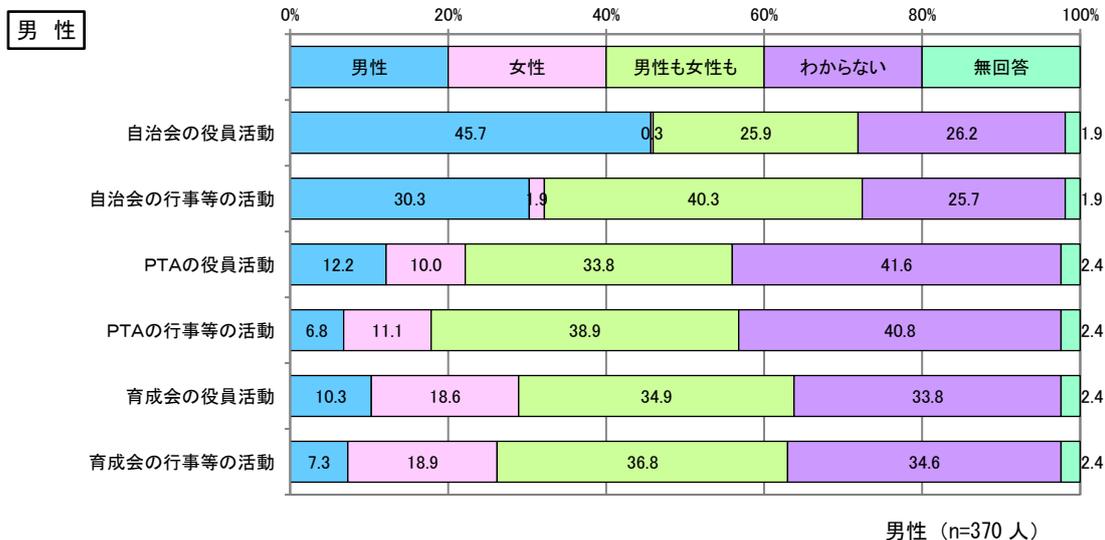
- ・「男性」という回答でみると、「自治会の役員活動」が最も多く、約 5 割（46.5%）となっている。次に、「自治会の行事等の活動」（30.7%）、「PTA の役員活動」（12.9%）と続いている。
- ・一方、「女性」という回答は、「育成会の行事等の活動」（21.9%）と「育成会の役員活動」（21.3%）が約 2 割となっている。次いで「PTA の行事等の活動」（14.6%）と続いている。
- ・「男性も女性も」という回答でみると、「自治会の行事等の活動」（40.7%）が最も多く、約 4 割となっている。次に「PTA の行事等の活動」（37.4%）、「育成会の行事等の活動」（35.3%）、「PTA の役員活動」（33.5%）と続いている。



全体 (n=863 人)

- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

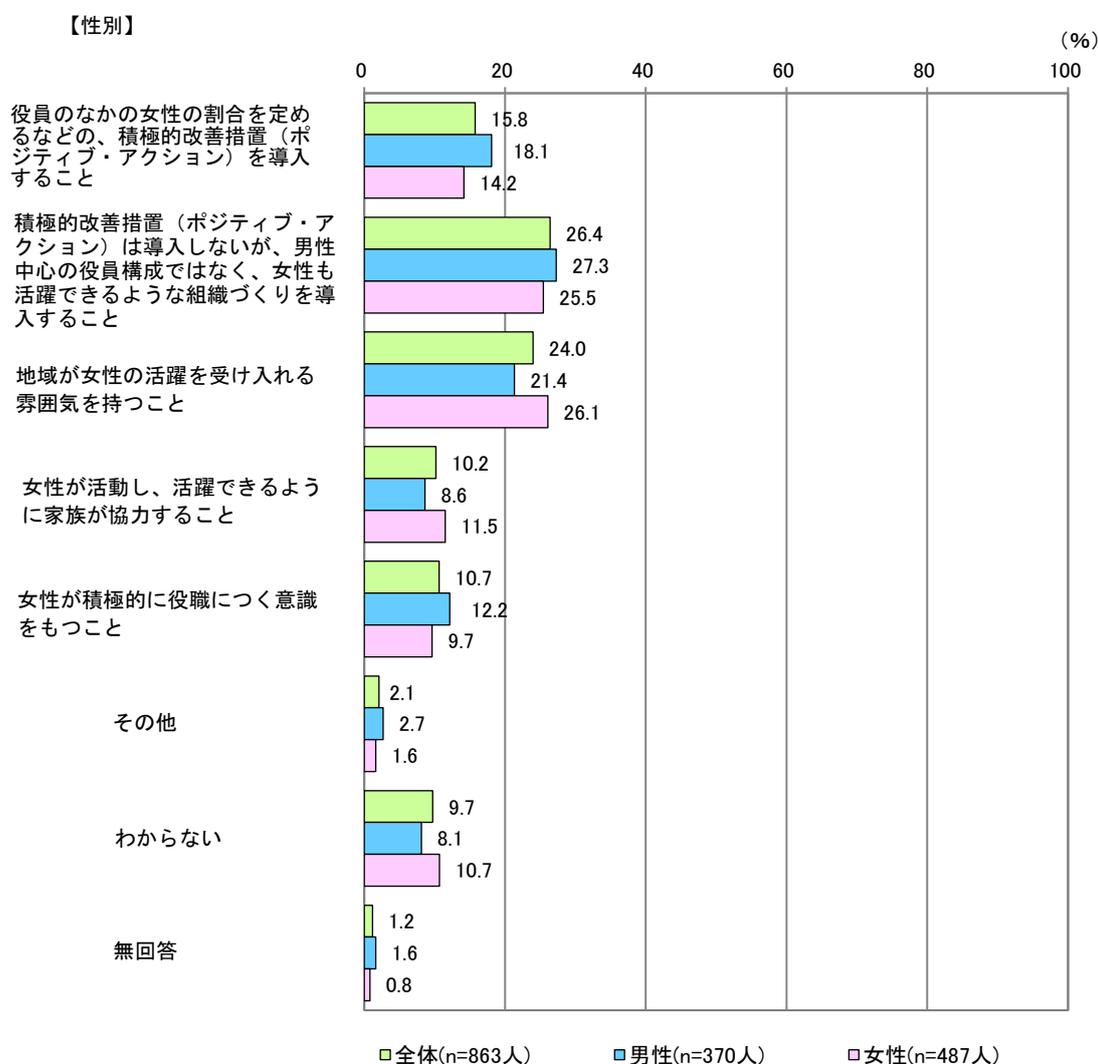
【性別】



問 27 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

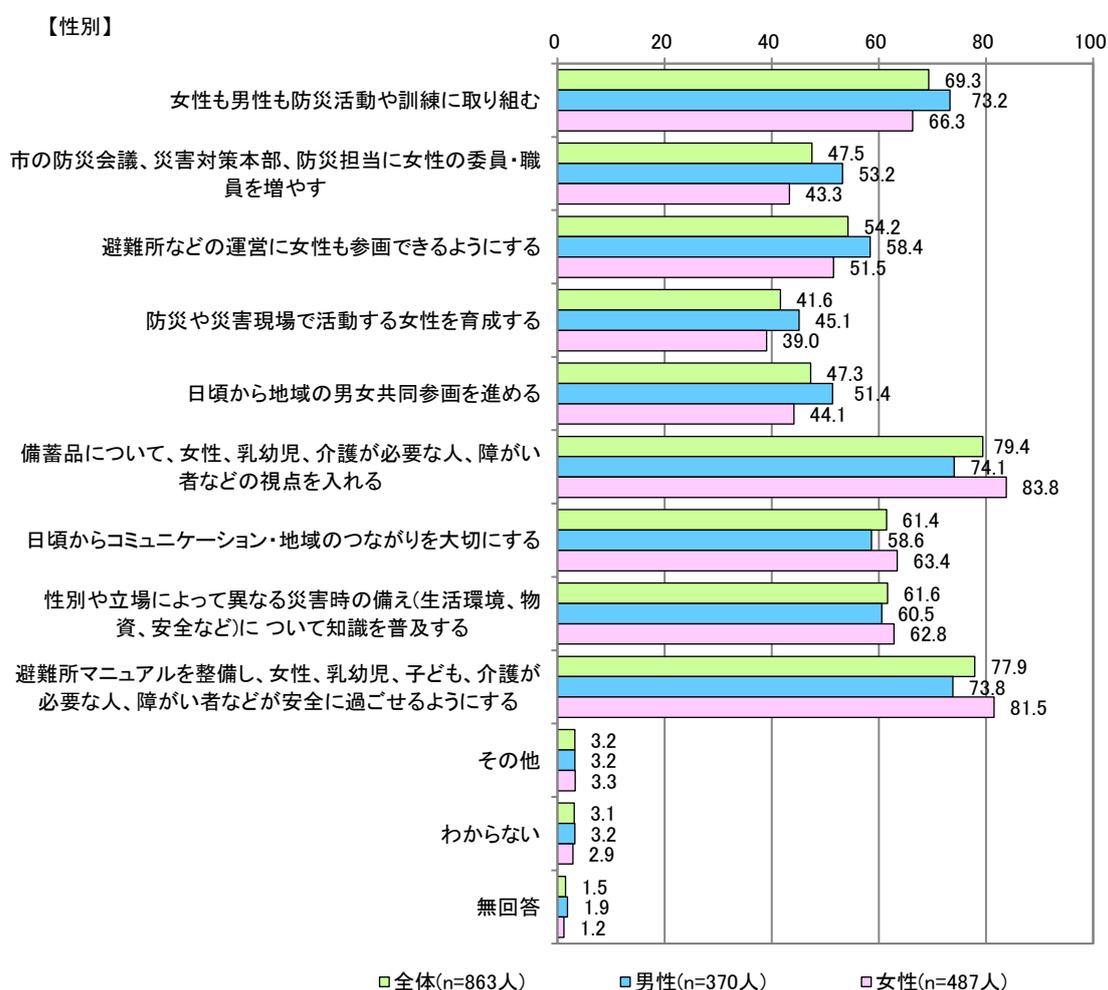
あなたは、どうすればそれが可能になるとおもいますか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」（26.4%）が最も多く、約3割となっている。次に、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気をもつこと」（24.0%）、「役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（15.8%）、「女性が積極的に役職につく意識をもつこと」（10.7%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多く、次いで「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」となっている。



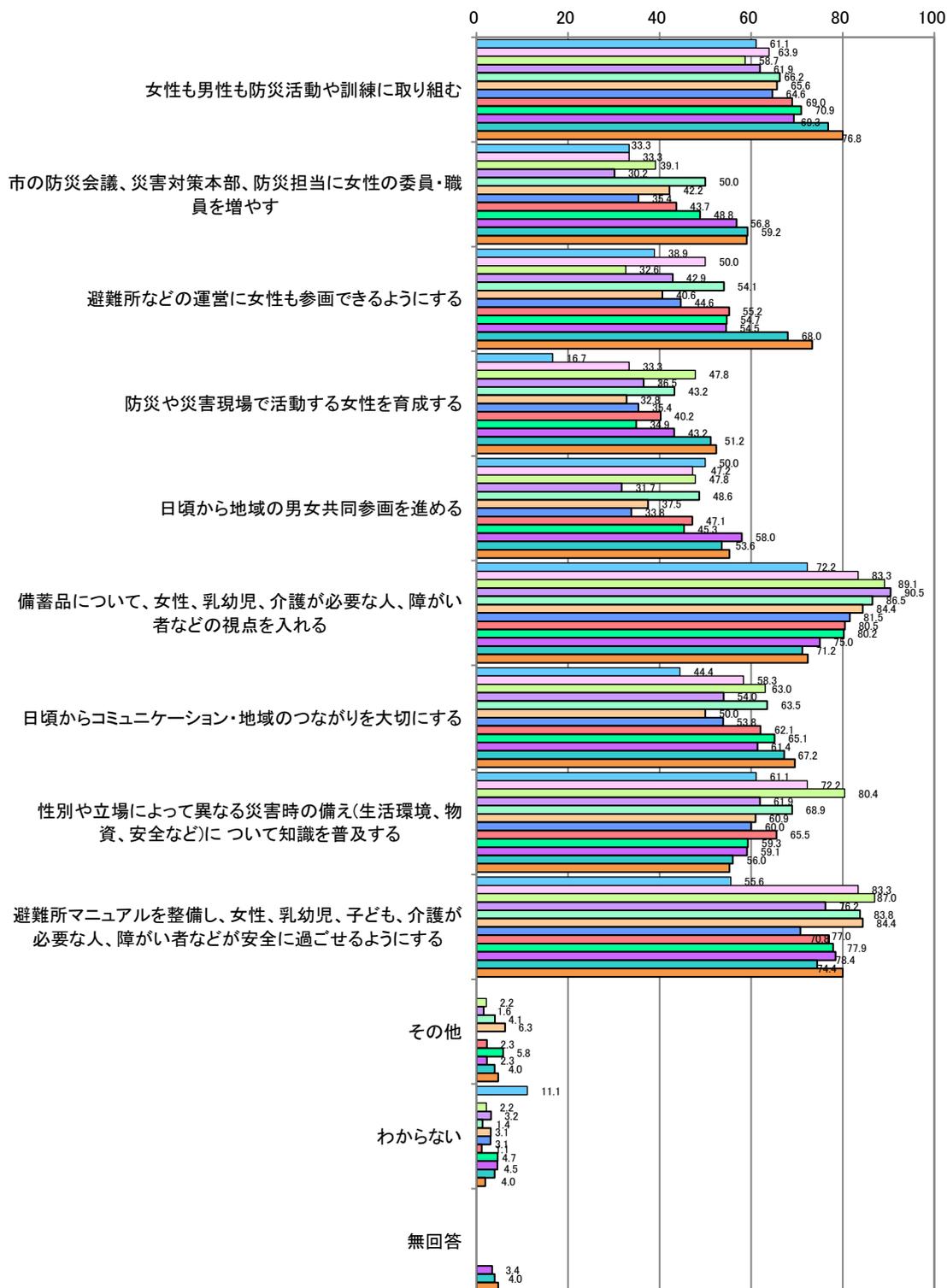
問 28 東日本大震災以降も様々な自然災害が起こる中で、本市においても令和元年東日本台風災害による甚大な被害が発生しました。これらの教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点も必要だと指摘されています。
 災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを、すべてお選びください。

- ・全体でみると、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる」(79.4%) が最も多く、約8割となっている。次に、「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする」(77.9%)、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(69.3%) と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる」が最も多く、次いで「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする」となっている。



・年代別で見ると、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる」では、20歳～59歳の年代で回答割合が8割を超えている。特に、20歳～34歳では約9割となっている。一方、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」では、65歳以上の年代で回答割合が約8割と、他の世代よりもやや高くなっている。

【年代別】



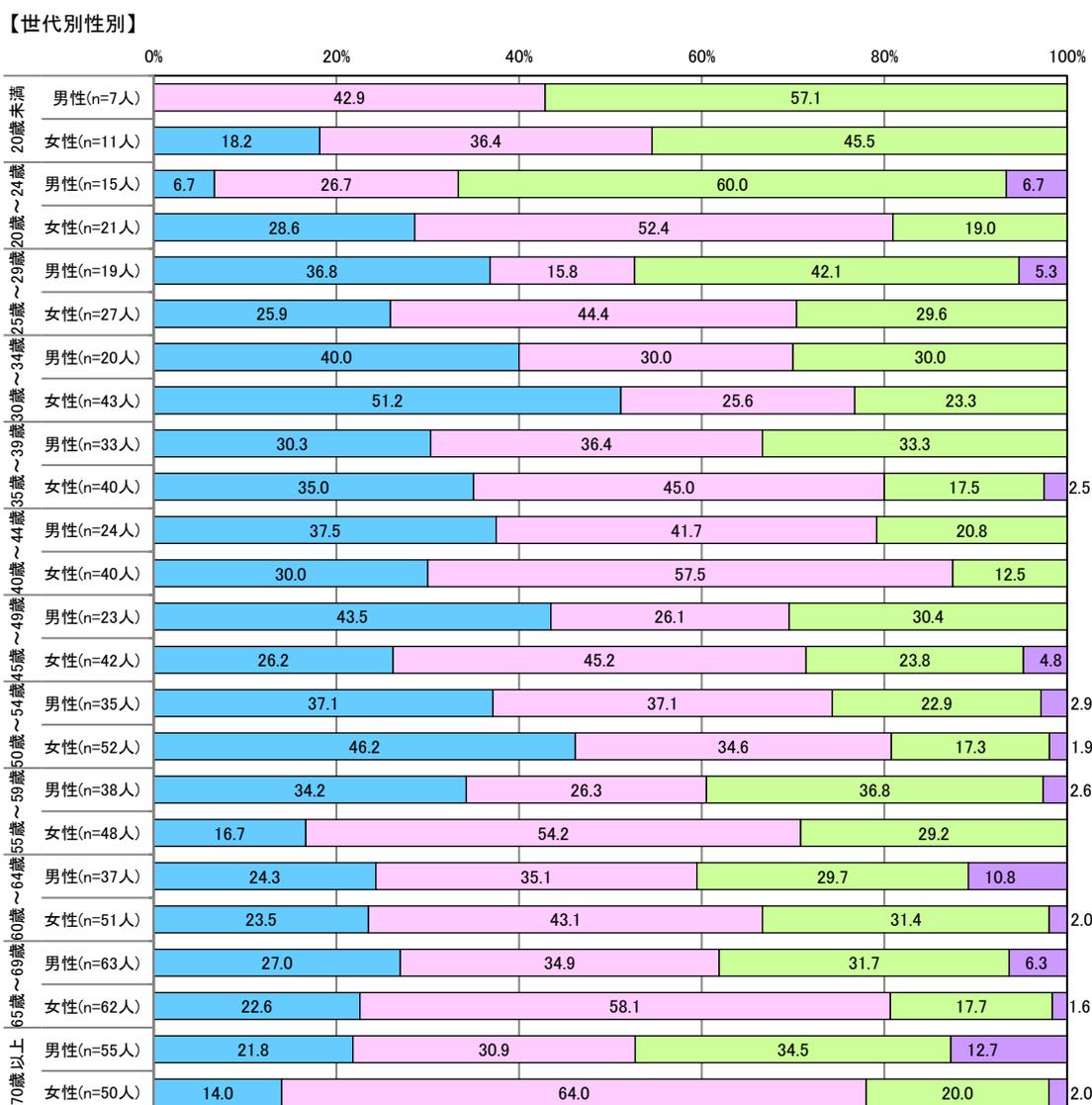
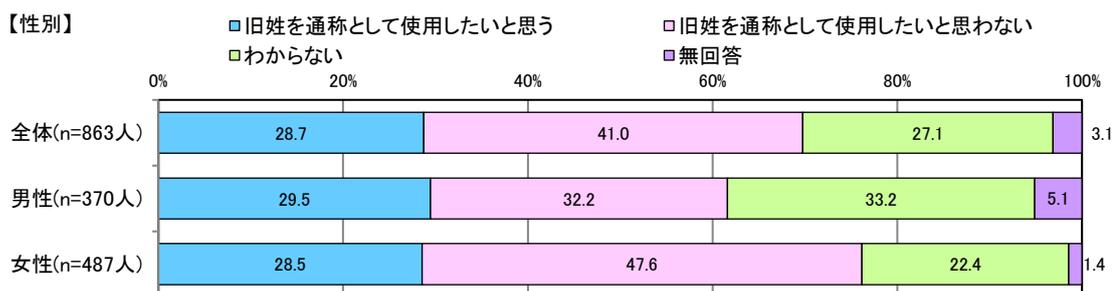
■20歳未満(n=18人) ■20歳～24歳(n=36人) ■25歳～29歳(n=46人) ■30歳～34歳(n=63人)
 ■35歳～39歳(n=74人) ■40歳～44歳(n=64人) ■45歳～49歳(n=65人) ■50歳～54歳(n=87人)
 ■55歳～59歳(n=86人) ■60歳～64歳(n=88人) ■65歳～69歳(n=125人) ■70歳以上(n=105人)

旧姓使用に関することについて

問 29 あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字（姓）が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思いますか。

あなたが結婚している、いないに関わらず、1つお選びください。

- ・性別で見ると、男性では、「わからない」(33.2%)が最も多く、次いで「旧姓を通称として使用したいと思わない」(32.2%)となっている。一方、女性では、「旧姓を通称として使用したいと思わない」(47.6%)が約5割と最も多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、30歳～34歳の男女、45歳～49歳の男性、50歳～54歳の女性で、「旧姓を通称として使用したいと思う」が4割以上となっている。一方、25歳～29歳、35歳～49歳、55歳以上の女性では、「旧姓を通称として使用したいと思わない」が4割を超えている。



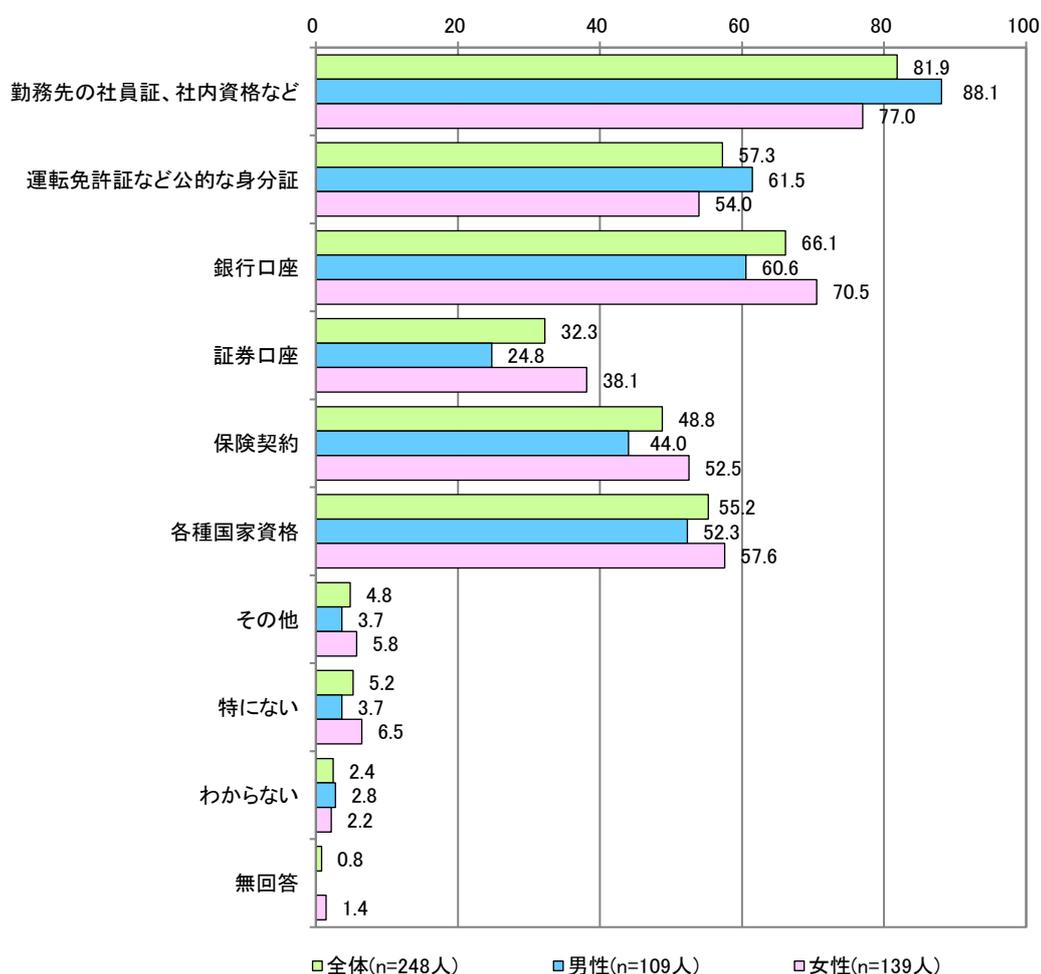
問 30 問 29 で「1」を選ばれた方におたずねします。

住民票やマイナンバーカードに希望者は旧姓を記載することができますが、これ以外に、あなたが旧姓を通称として使用するときに、どのようなものに旧姓が使用できるとよいと思いますか。

あてはまるものを、すべてお選びください。

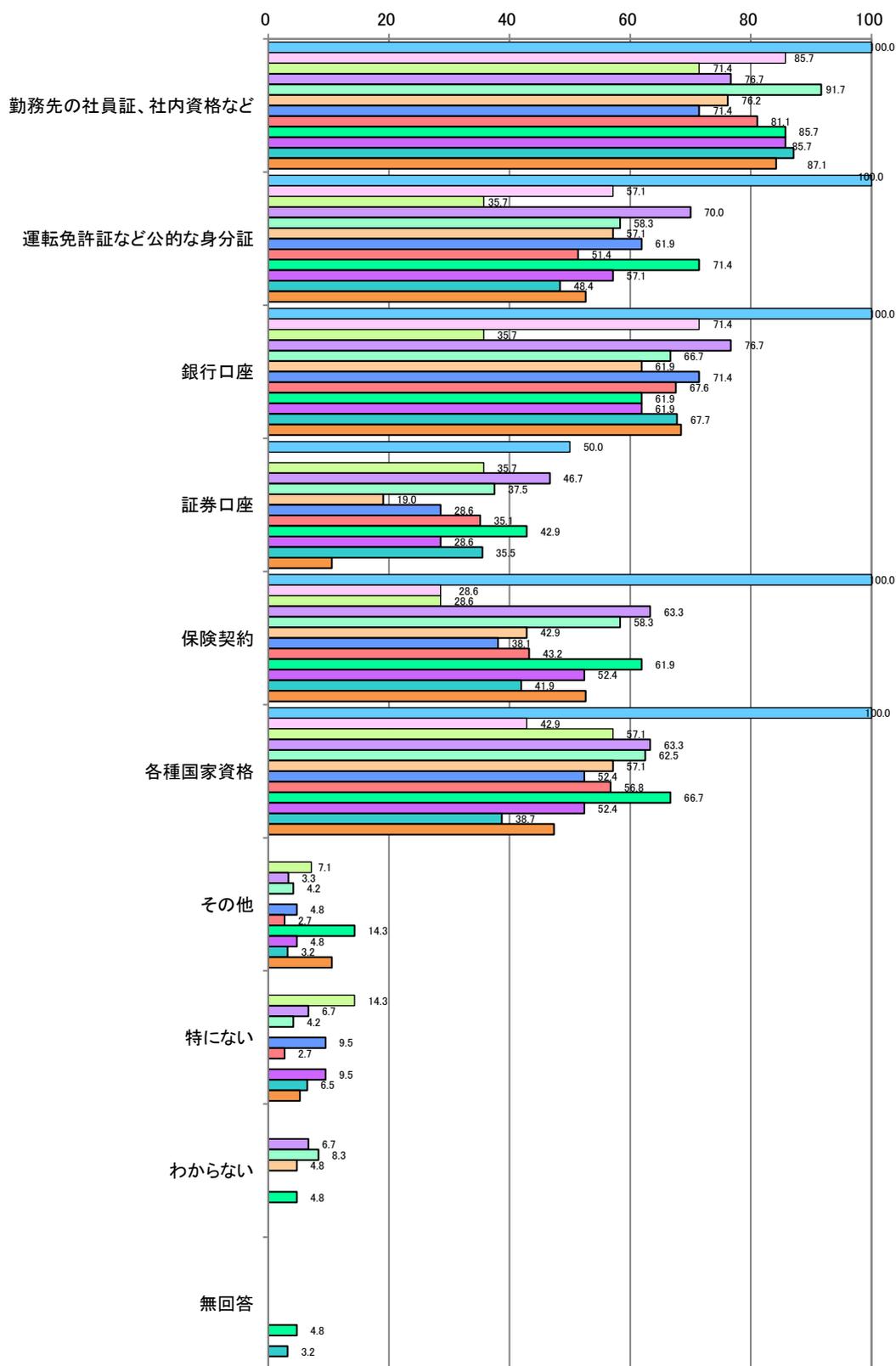
- ・全体でみると、「勤務先の社員証、社内資格など」(81.9%) が最も多く、約 8 割となっている。次に、「銀行口座」(66.1%)、「運転免許証など公的な身分証」(57.3%)、「各種国家資格」(55.2%) と続いている。
- ・性別でみると、「勤務先の社員証、社内資格など」、「運転免許証など公的な身分証」では、男性の回答割合が女性よりもやや高くなっている。一方、「銀行口座」、「証券口座」、「保険契約」、「各種国家資格」では、女性の回答割合が男性よりもやや高くなっている。

【性別】



・年代別でみると、回答数が限られているため、大きな差はないといえる。

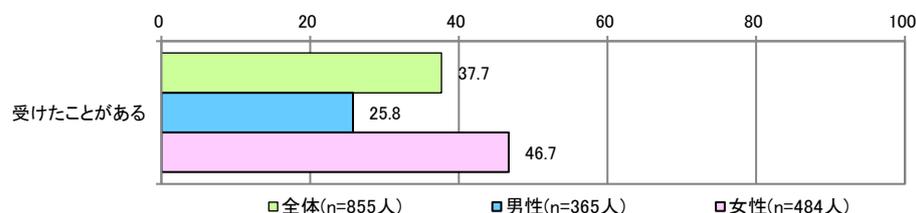
【年代別】



男女の人権に関することについて

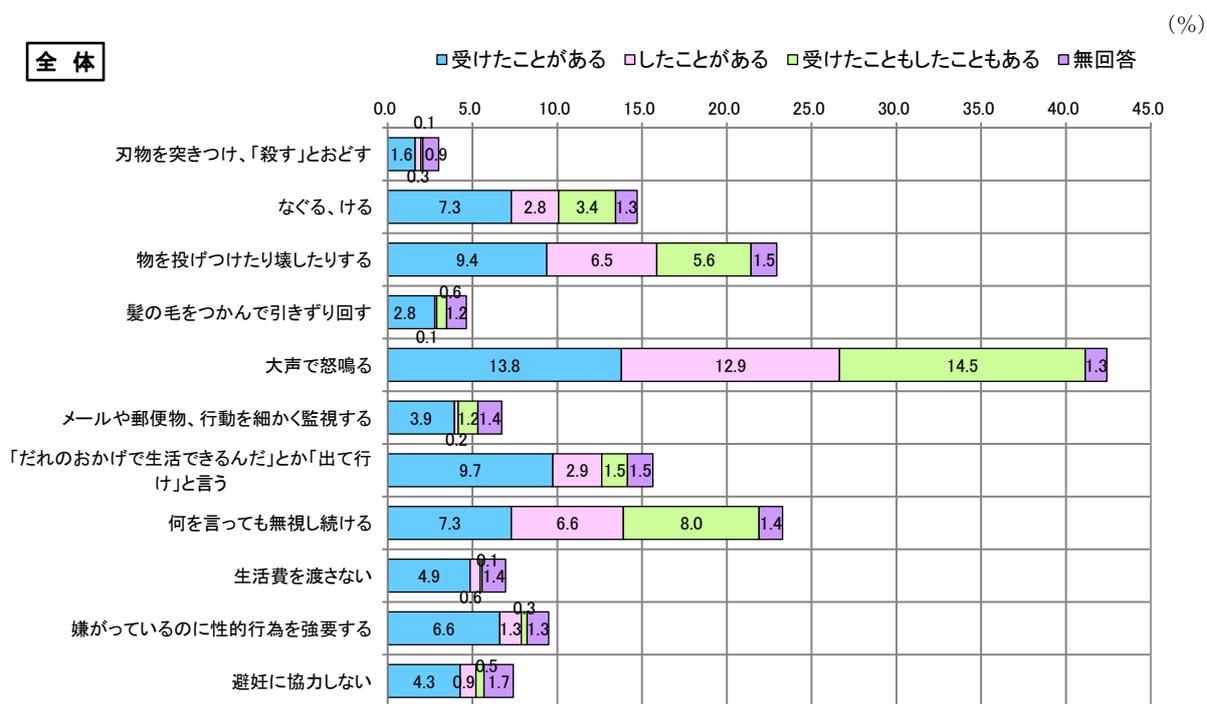
問 31 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を、それぞれ1つずつお選びください。

- ・いずれかを「受けたことがある」という回答は、全体では37.7%となっている。
- ・性別でみると、男性では25.8%、女性では46.7%となっている。



- ・具体的な内容としては、全体でみると、「受けたことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(13.8%)が最も多くなっており、次いで『だれのおかげで生活できるんだ』とか『出て行け』と言う(9.7%)、「物を投げたり壊したりする」(9.4%)と続いている。「したことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(12.9%)が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(6.6%)、「物を投げつけたり壊したりする」(6.5%)と続いている。「受けたこともしたこともある」という回答では、「大声で怒鳴る」(14.5%)が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(8.0%)、「物を投げつけたり壊したりする」(5.6%)と続いている。

全体



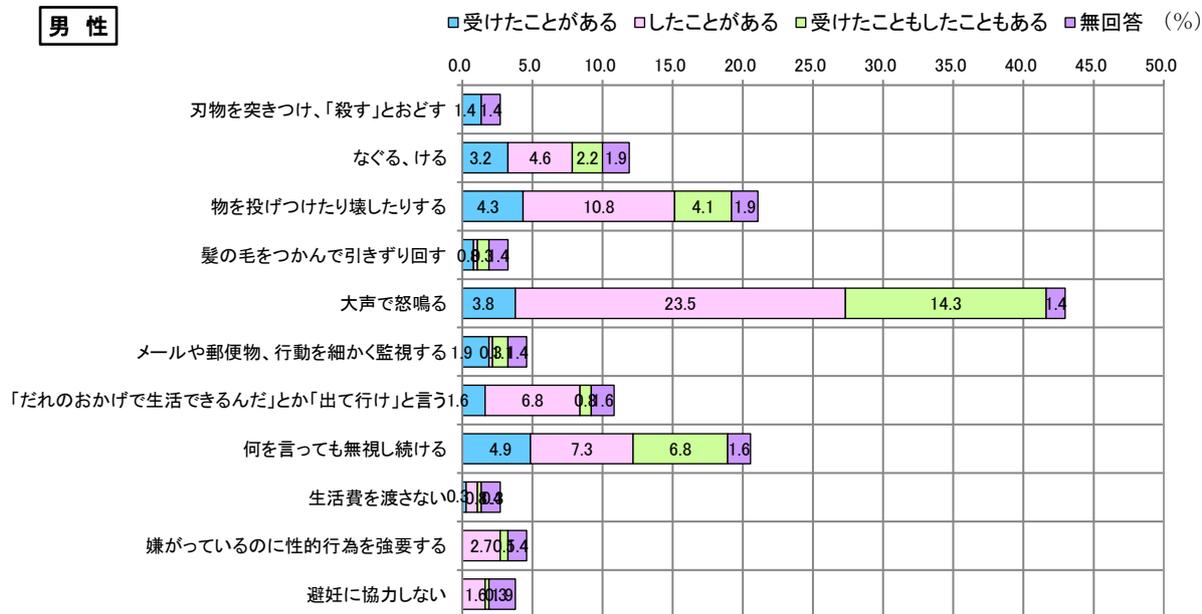
全体 (n=863人)

※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

- ・性別でみると、「受けたこともしたこともない」という回答がほとんどの項目で大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性よりも女性がやや多くなっている。

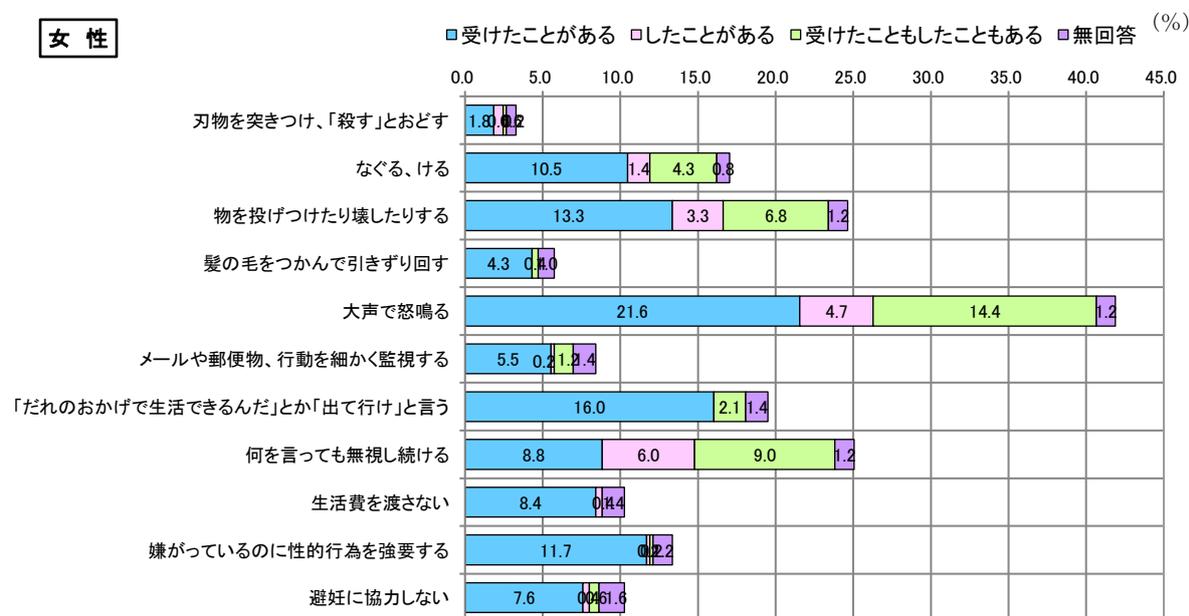
【性別】

男性



男性 (n=370 人)

女性



女性 (n=487 人)

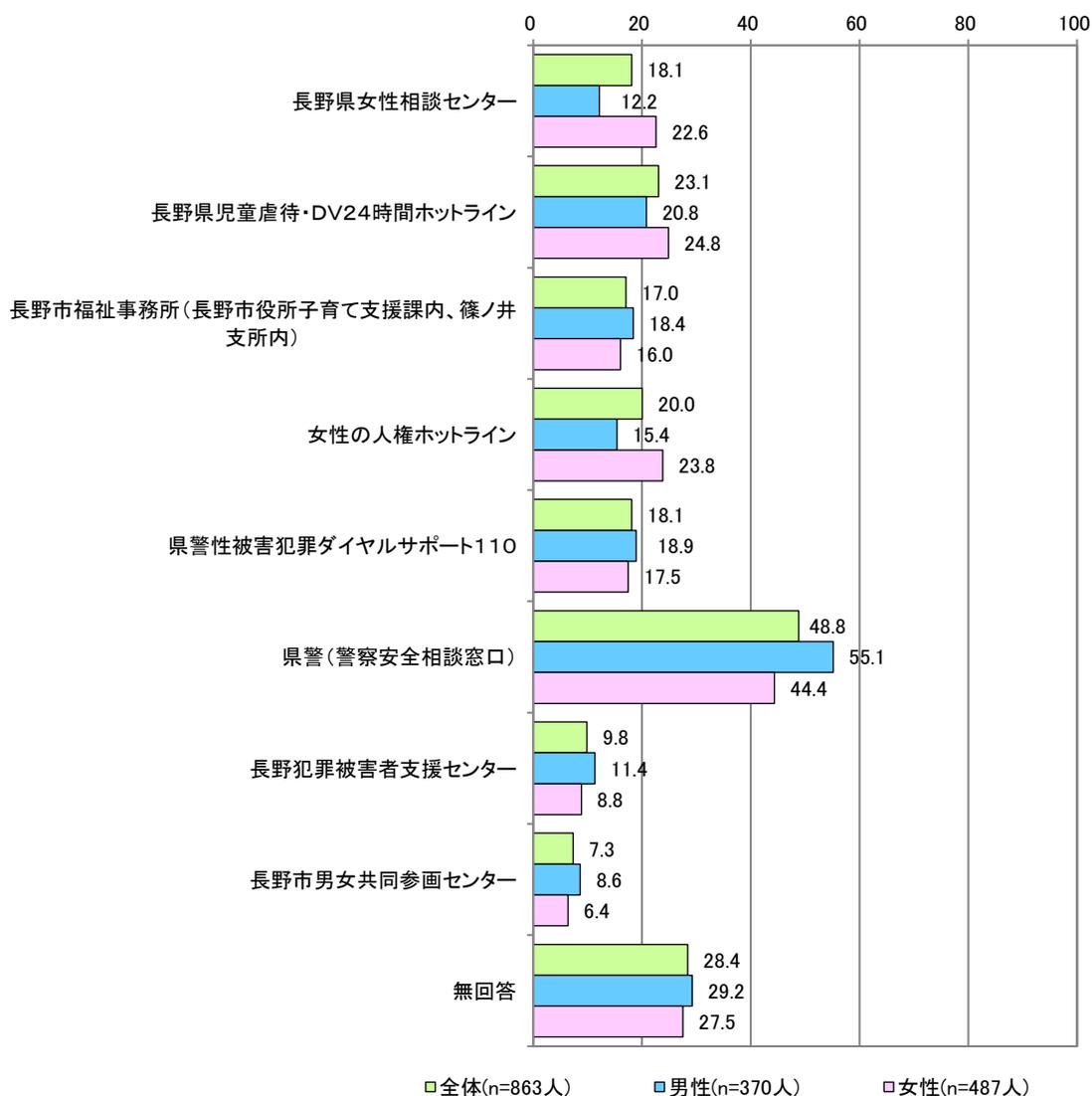
※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問 32 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「県警（警察安全相談窓口）」（48.8%）で、約5割となっている。次いで、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」（23.1%）、「女性の人権ホットライン」（20.0%）、「長野県女性相談センター」（18.1%）、「県警性被害犯罪ダイヤルサポート110」（18.1%）、「長野市福祉事務所」（17.0%）と続いている。
- ・性別でみると、男性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（55.1%）が5割を超えて最も多くなっている。次に、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」（20.8%）、「長野県性被害犯罪ダイヤルサポート110」（18.9%）の順となる。
- ・一方、女性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（44.4%）が最も多く、次に、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」（24.8%）、「女性の人権ホットライン」（23.8%）となっており、上位2番目と3番目が異なり男性の回答と認知度に差がある。

【性別】

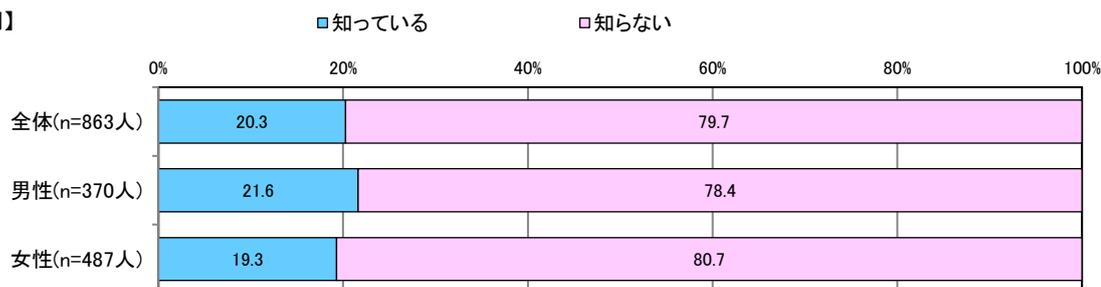
(%)



<DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

- ・問 32 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、約 2 割（20.3%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、「男性」（21.6%）の方が「女性」（19.3%）よりやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男女とも 65 歳以上で、「知っている」回答割合が 3 割を超えている。また、55 歳～59 歳でも約 3 割となっている。

【性別】



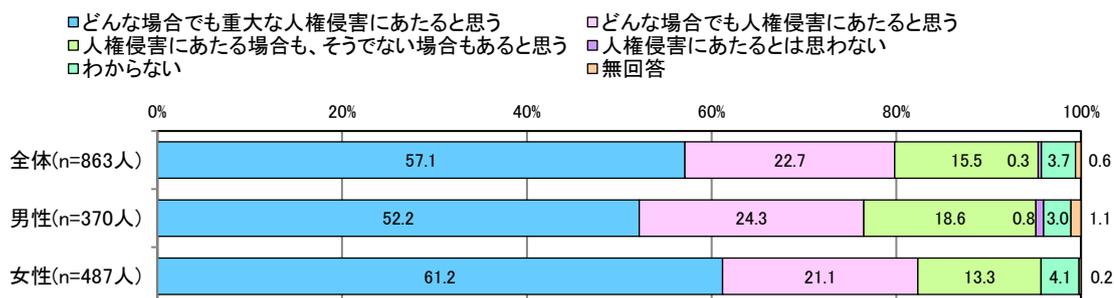
【世代別性別】



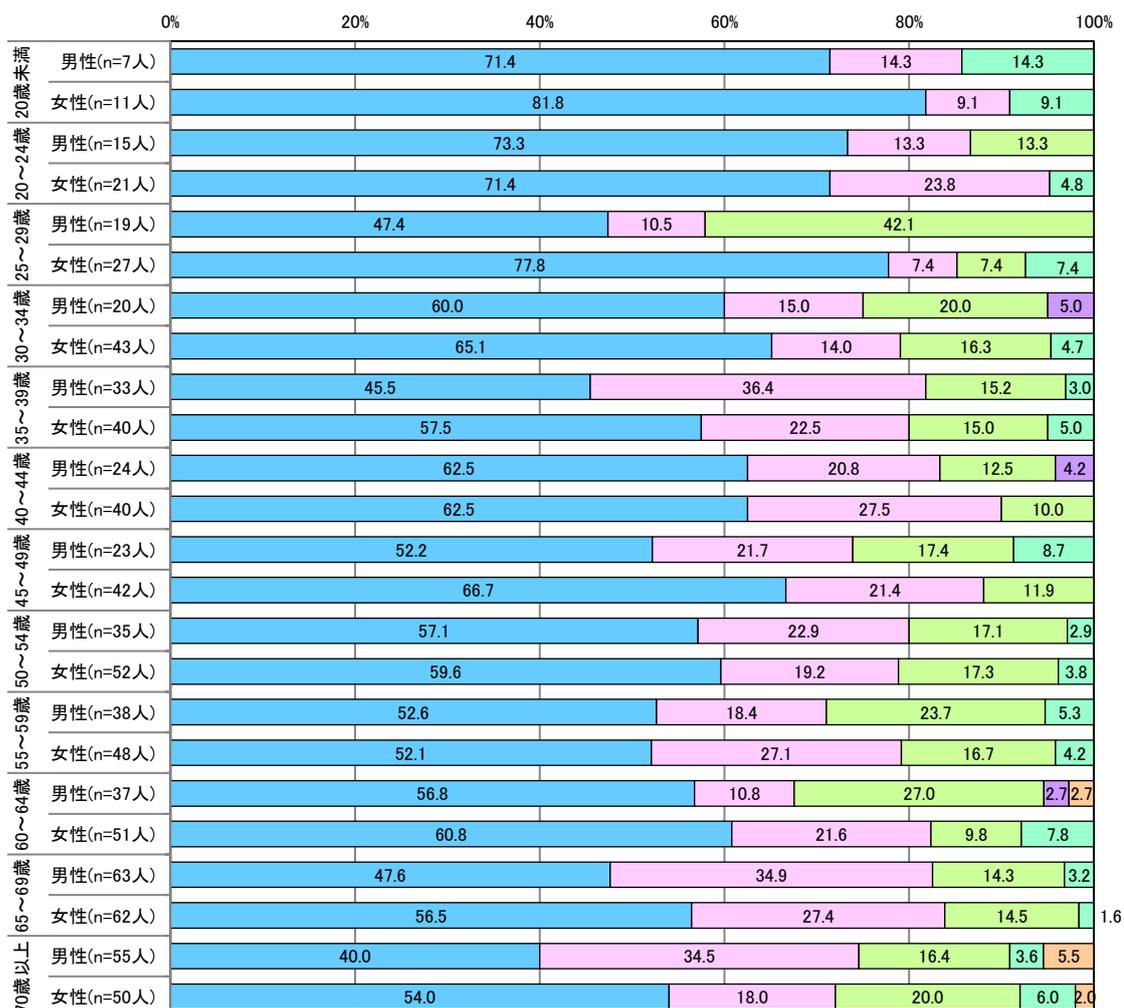
問 33 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのは
 どれですか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」（57.1%）が最も多い回答となっており、約6割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（22.7%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（15.5%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」となり、次に「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」という回答は、いずれの年代でも4割以上と最も多い回答となっている。特に、24歳以下の男女、25歳～29歳の女性では、7割を超えている。

【性別】



【世代別性別】

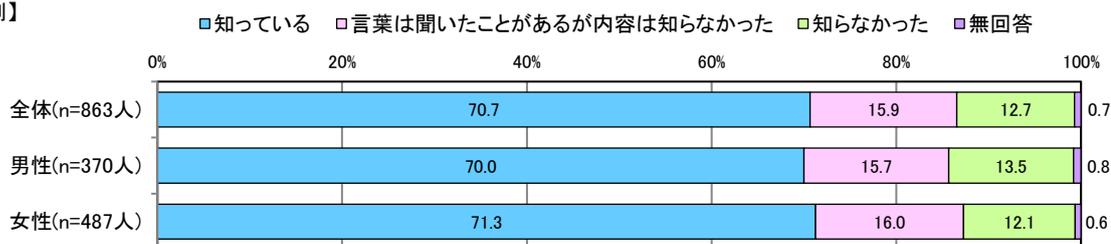


性の多様性に関することについて

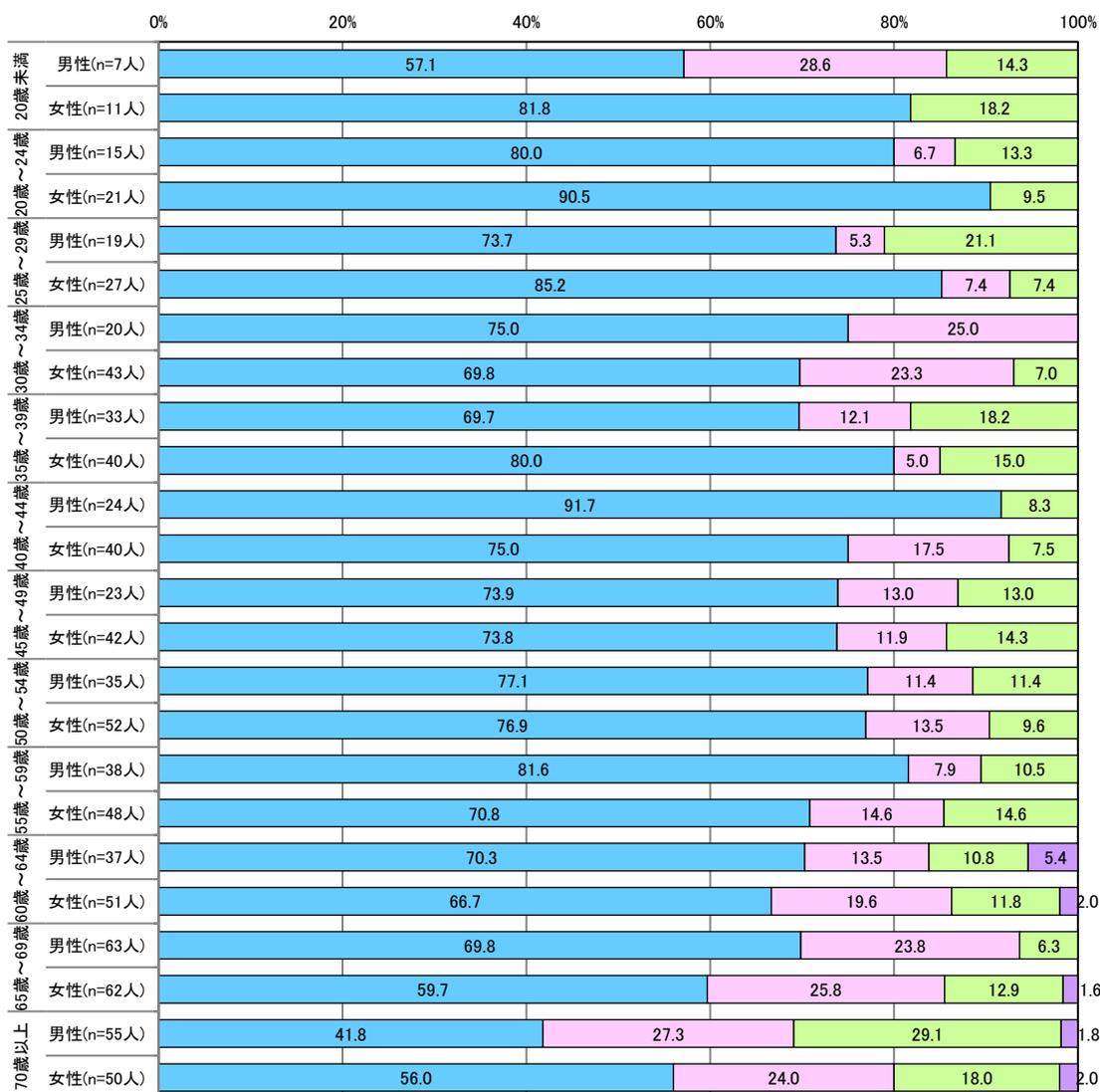
問 34 あなたは「性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）※1」または「LGBT※2」という言葉（どちらか一方でも）を知っているか、または聞いたことがありますか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「知っている」(70.7%)が最も多く、約7割となっている。一方、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らなかった」(15.9%)、「知らなかった」(12.7%)となっている。
- ・性別でみると、男女とも、同じ傾向にととなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代も「知っている」が4割を超え、最も多い。20歳未満の男性、65歳～69歳の女性、70歳以上の男女では、6割未満の回答割合となっている。

【性別】



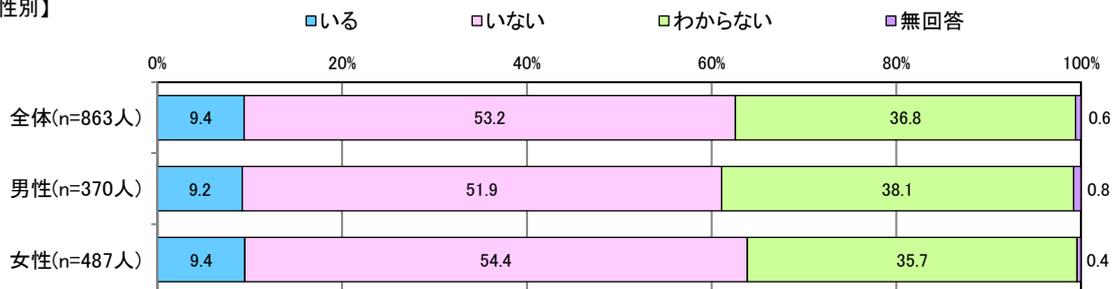
【世代別性別】



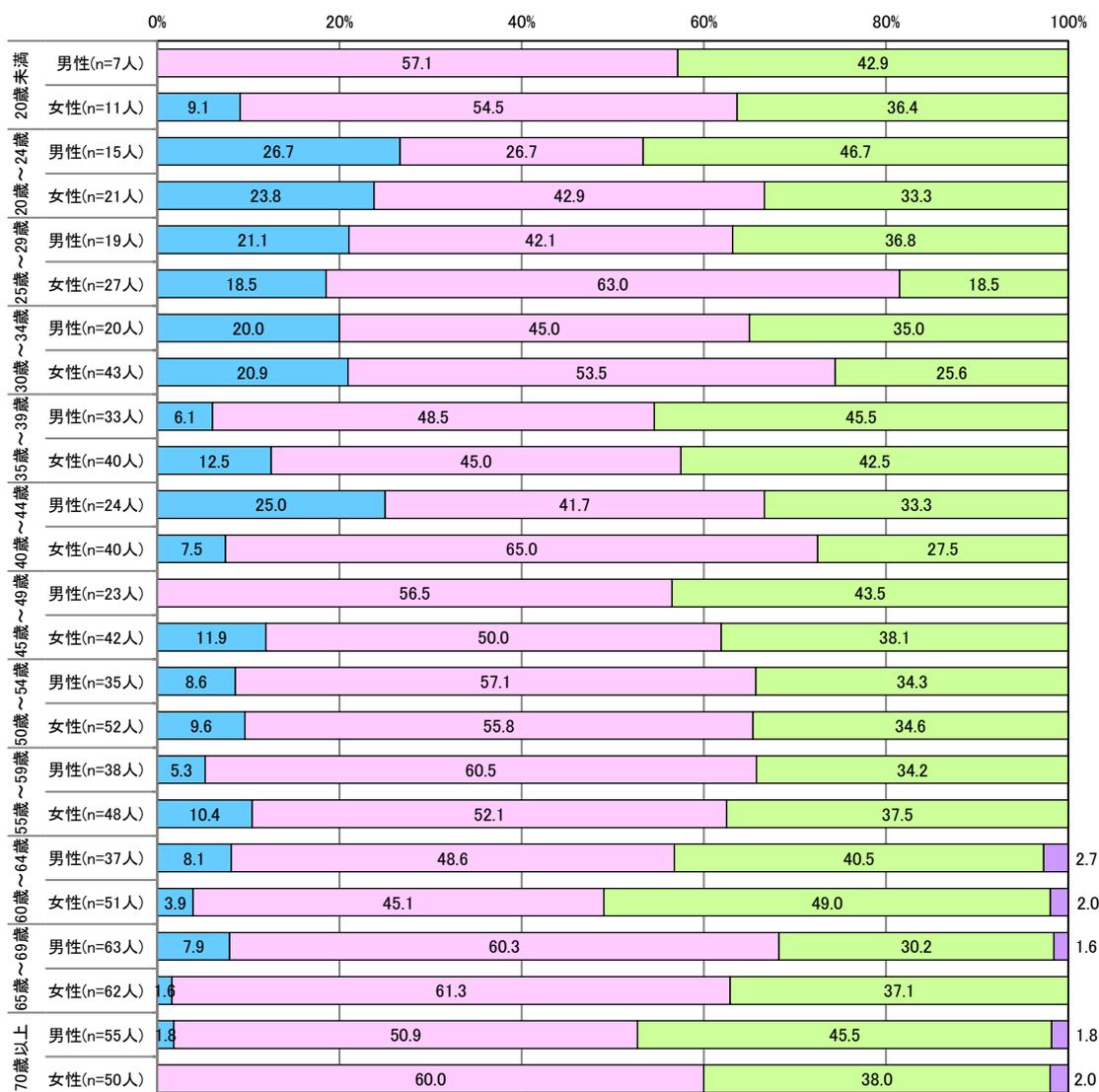
問 35 あなたの周りに、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）の方はいますか。次の中から1つお選びください

- ・全体でみると、「いない」(53.2%) が最も多く、約5割となっている。次に、「わからない」(36.8%)、「いる」(9.4%) と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「いない」が5割を超え、最も多く、「いる」は1割に満たない。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性を除き、いずれの世代でも「いない」という回答が最も多い。一方、「いる」という回答は、20歳～34歳の男女、40歳～44歳の男性で約2割以上となっている。

【性別】



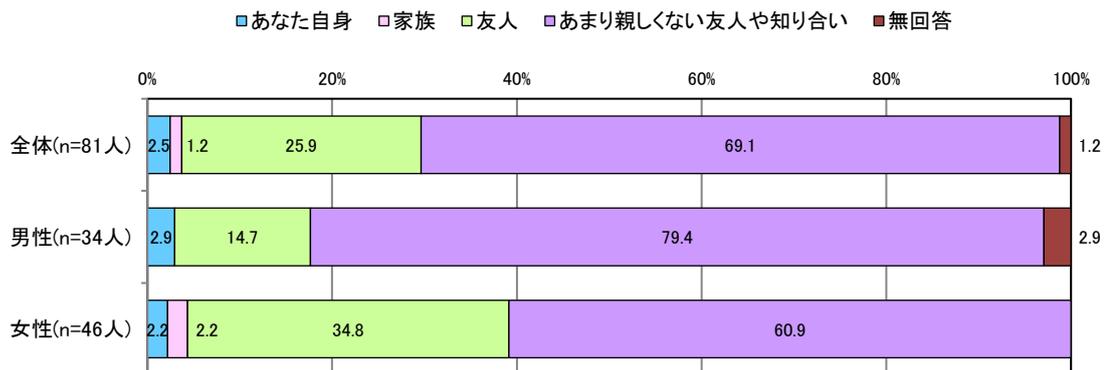
【世代別性別】



問 35 で「1」を選ばれた方におたずねします。

問 36 あなたの周りの性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）は、どなたですか。

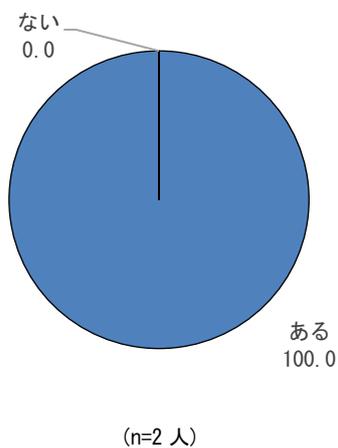
- 全体で見ると、「あまり親しくない友人や知り合い」（69.1%）が最も多く、約7割となっている。次に、「友人」（25.9%）、「あなた自身」（2.5%）、「家族」（1.2%）と続いている。
- 性別で見ると、男性では、「あまり親しくない友人や知り合い」（79.4%）が約8割と最も多く、次いで「友人」（14.7%）となっている。女性は、「あまり親しくない友人や知り合い」（60.9%）が約6割と最も多く、次いで「友人」（34.8%）と、男性よりも「友人」という回答割合がやや高くなっている。



問 36 で「1」を選ばれた方におたずねします。

問 37 あなたはこれまでに、カミングアウトや相談をしたことがありますか。

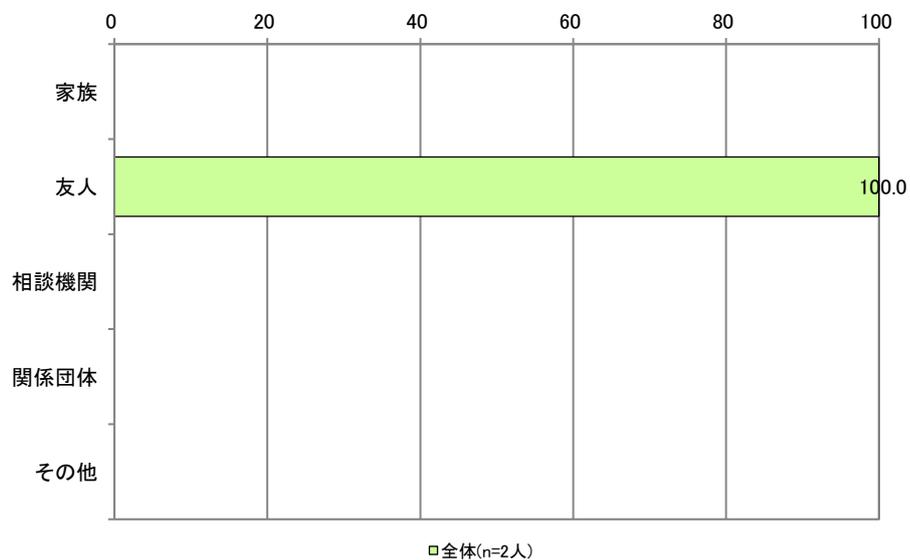
- ・自分自身が性的少数者であると回答した方は2人となる。2人とも、カミングアウトや相談をしたことがあると回答している。



問 37 で「1」を選ばれた方におたずねします。

問 38 あなたが、カミングアウトや相談をした相手先をすべてお選びください。

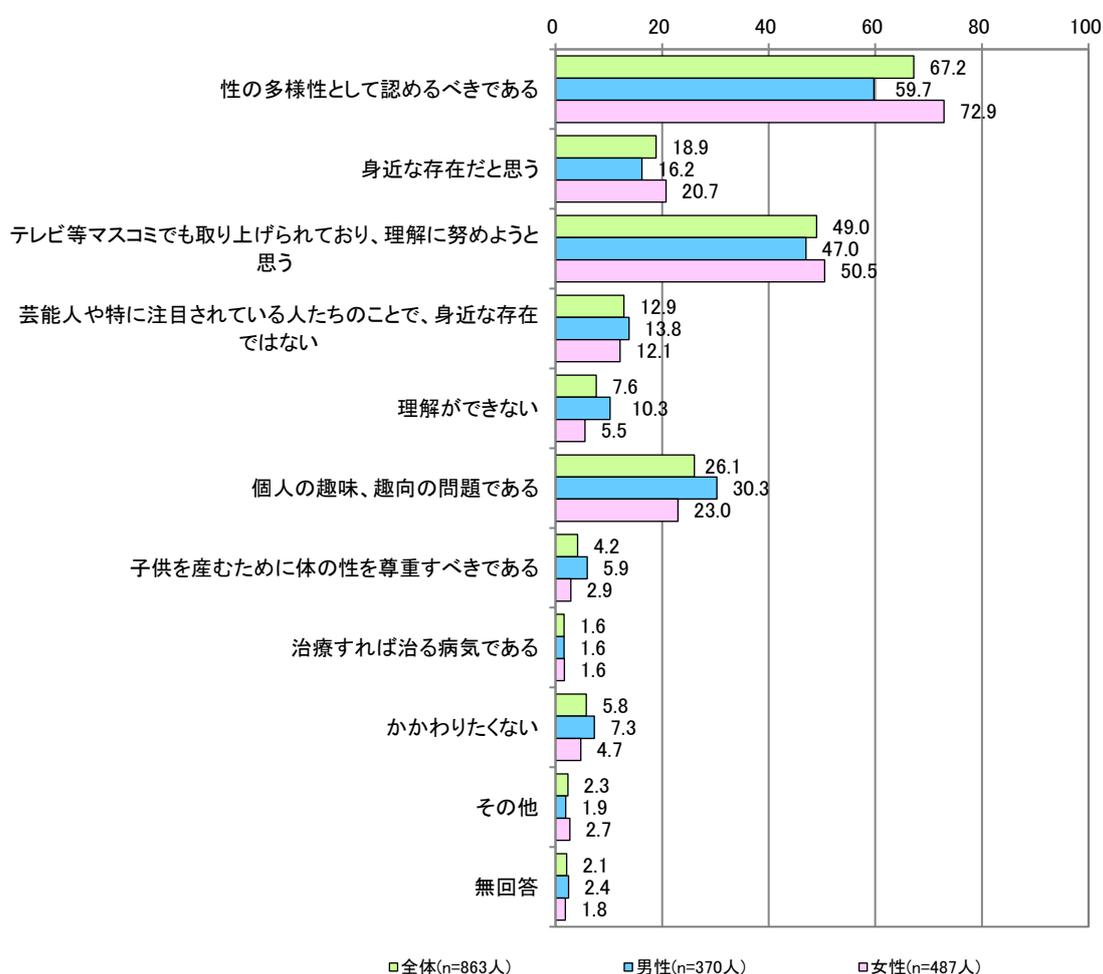
- ・カミングアウトや相談の相手は、「友人」(100%)のみとなっている。



問 39 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。
 あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

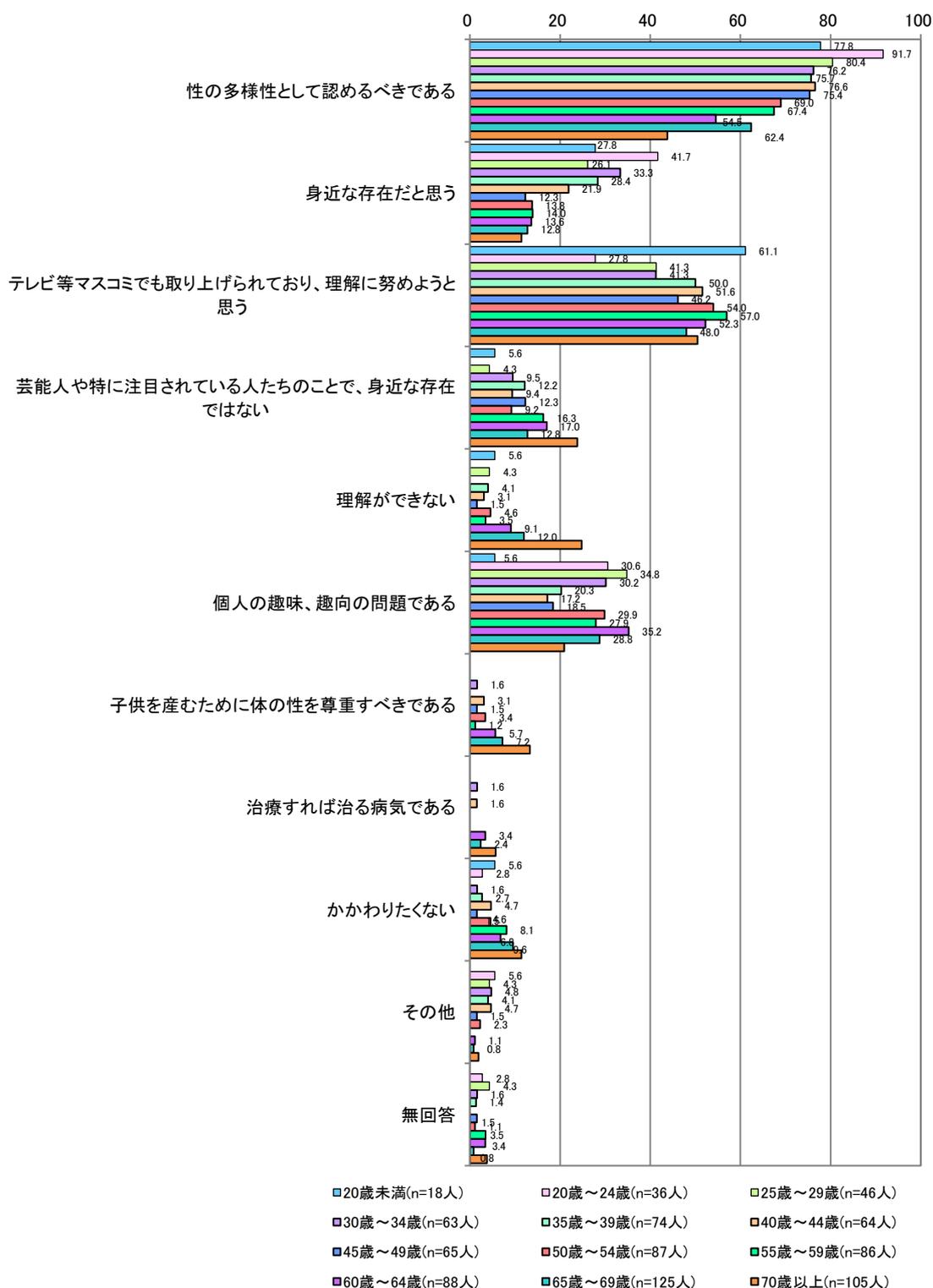
- ・全体でみると、「性の多様性として認めるべきである」（67.2%）が最も多く、約7割となっている。次に、「テレビ等マスコミでも取り上げられており、理解に努めようと思う」（49.0%）、「個人の趣味、趣向の問題である」（26.1%）、「身近な存在だと思う」（18.9%）と続いている。
- ・性別でみると、「性の多様性として認めるべきである」では、男性は59.7%、女性は72.9%と、女性の回答割合が高くなっている。一方、「個人の趣味、趣向の問題である」では、男性が30.3%、女性が23.0%と、男性の回答割合が高くなっている。

【性別】



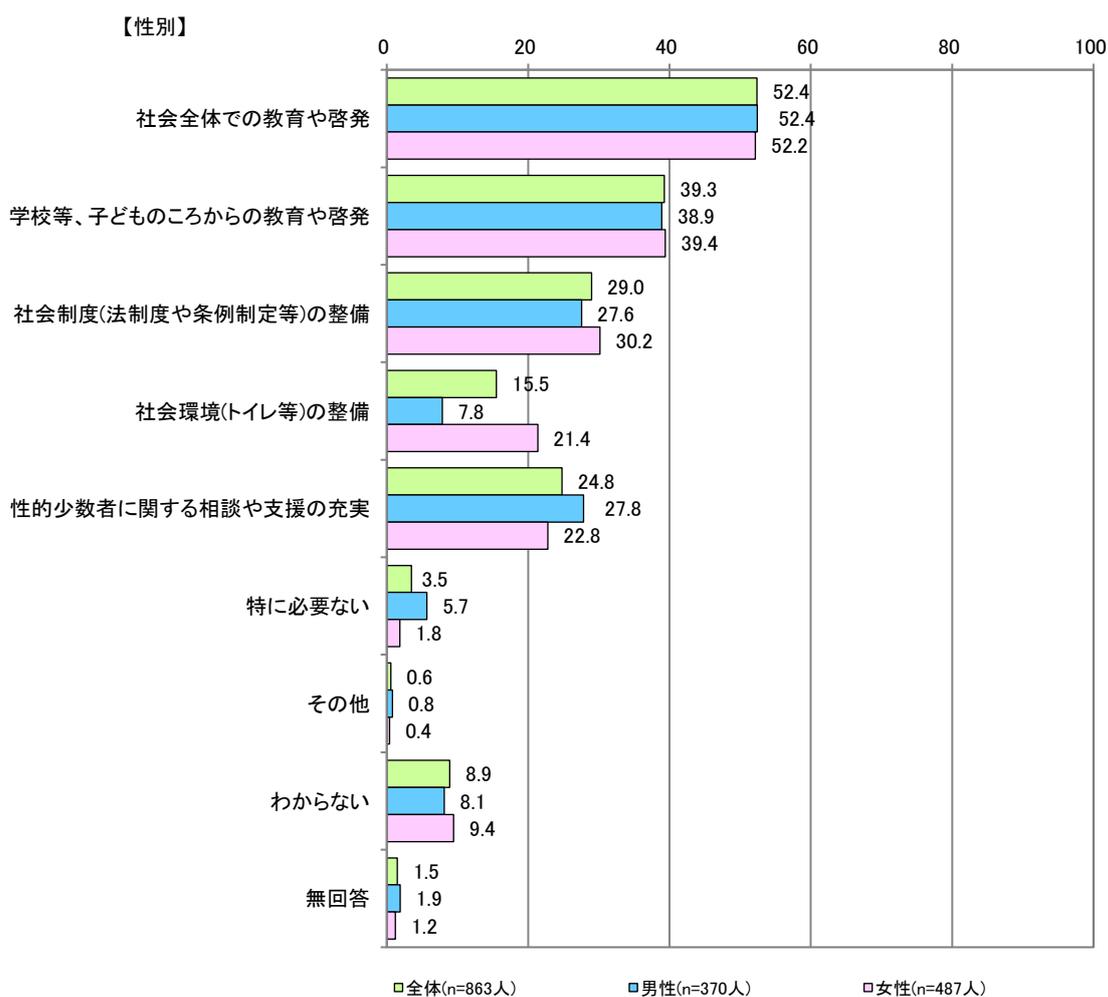
・年代別でみると、「性の多様性として認めるべきである」では、49歳以下では7割を超えているものの、50歳以上では回答割合が低くなり、年代が高くなるほど、回答割合が低くなる傾向にある。また、「身近な存在だと思う」という回答も同様の傾向となっている。一方、「テレビ等マスコミでも取り上げられており、理解に努めようと思う」は、年代が高くなるほど、回答割合が高くなる傾向にある。また、「個人の趣味、趣向の問題である」は、35歳～49歳で回答割合が低くなっている。

【年代別】



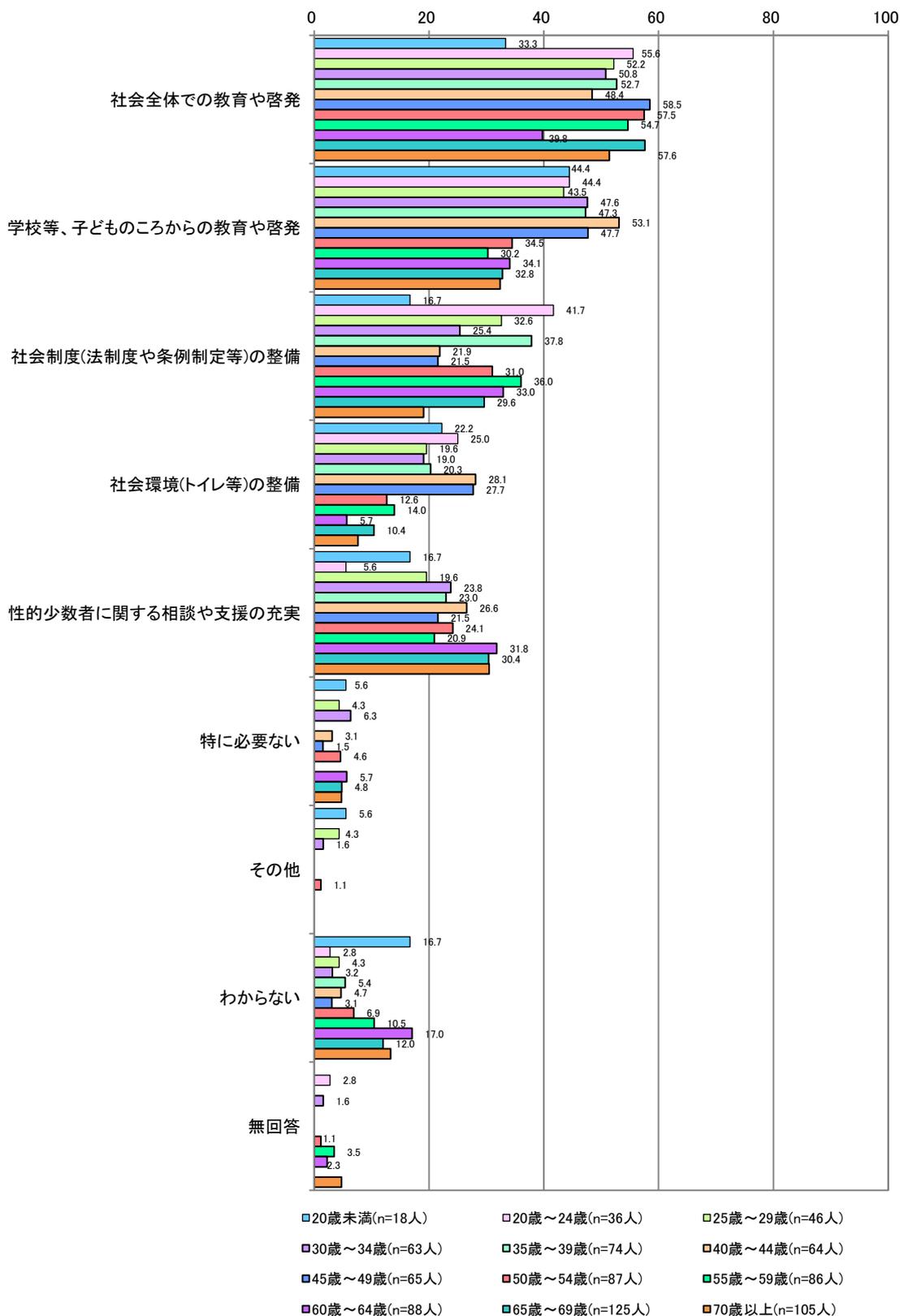
問 40 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から2つまでお選びください。

- 全体で見ると、「社会全体での教育や啓発」(52.4%)が最も多く、約5割となっている。次に、「学校等、子どものころからの教育や啓発」(39.3%)、「社会制度(法制度や条例制定等)の整備」(29.0%)、「性的少数者に関する相談や支援の充実」(24.8%)と続いている。
- 性別で見ると、男女とも比較的同じ傾向にある。しかし、「性的少数者に関する相談や支援の充実」では、男性が27.8%、女性が22.8%と、男性の回答割合がやや高くなっている。一方、「社会環境(トイレ等)の整備」では、男性が7.8%、女性が21.4%と、女性の回答割合が高くなっている。



・年代別でみると、「学校等、子どものころからの教育や啓発」では、49歳以下では4割を超え、50歳以上よりも回答割合が高くなっている。一方、「性的少数者に関する相談や支援の充実」では、60歳以上では3割を超え、59歳以下よりも回答割合がやや高くなっている。

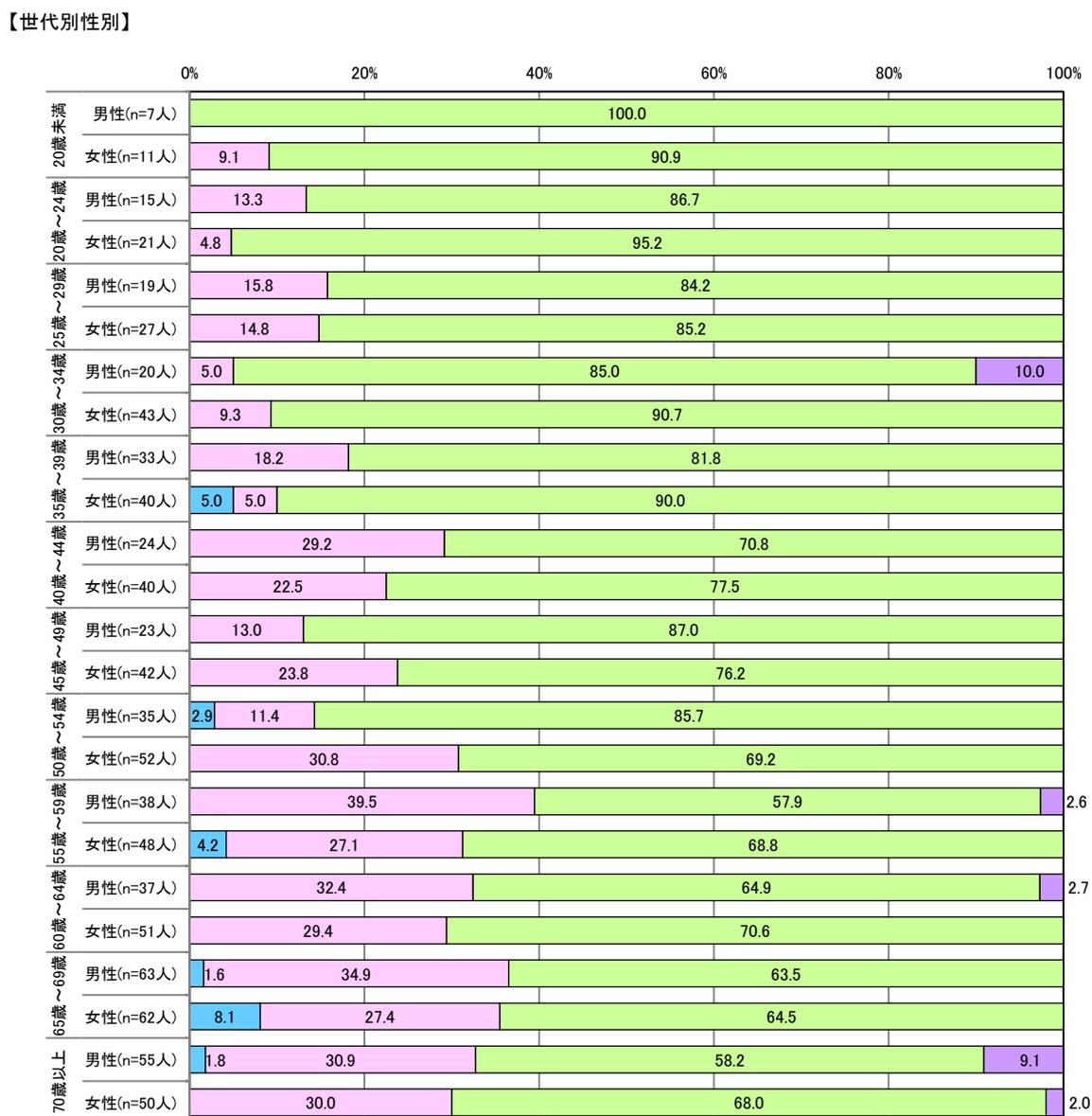
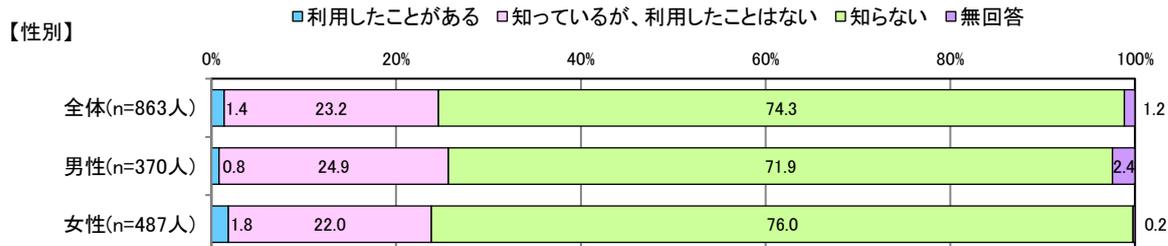
【年代別】



男女共同参画施策に関することについて

問 41 あなたは、長野市の男女共同参画推進の拠点施設「長野市男女共同参画センター」を利用したことがありますか。次の中から1つお選びください。

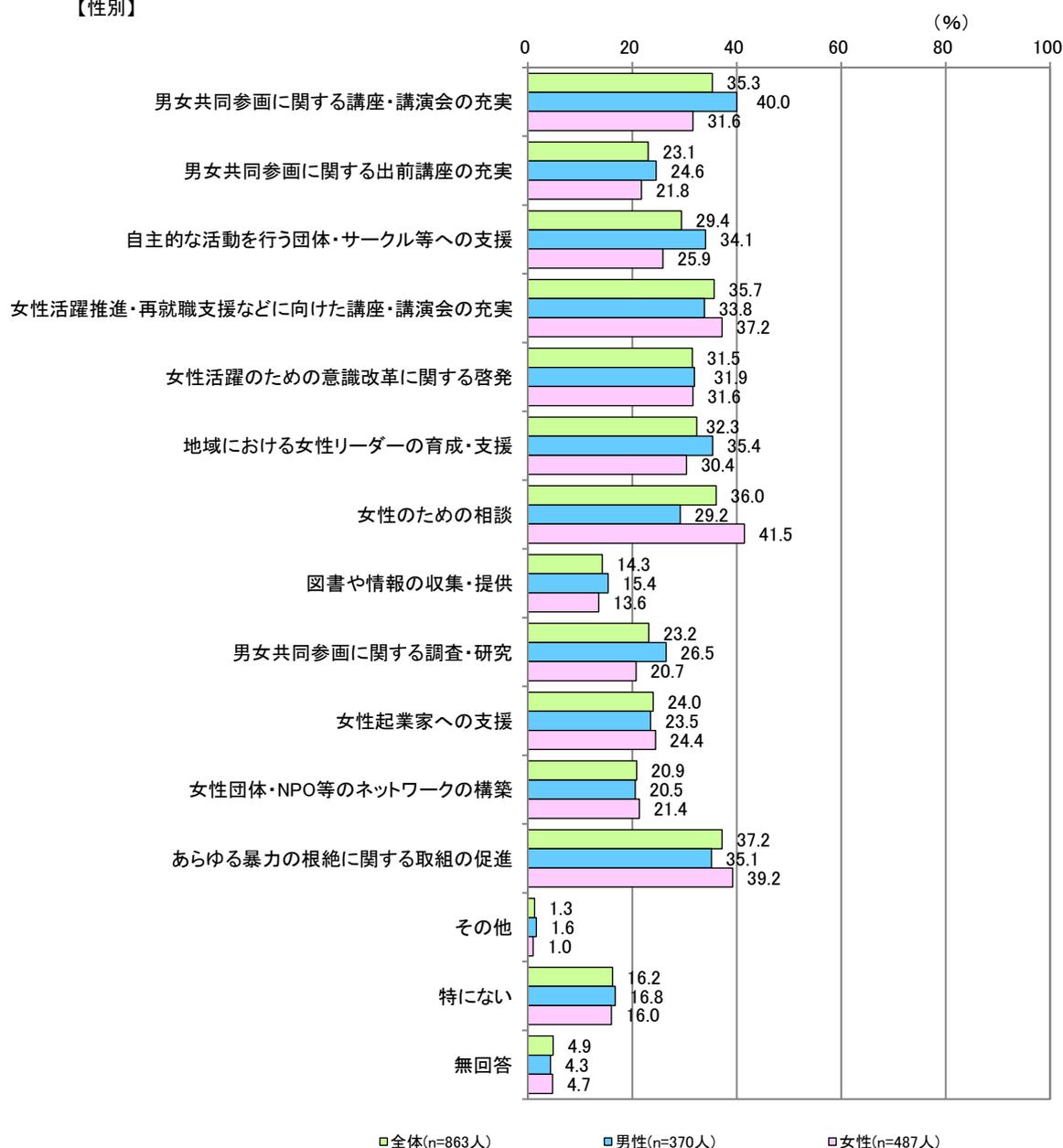
- ・全体でみると、「知らない」(74.3%)が約7割と、最も多くなっている。次いで、「知っているが、利用したことはない」(23.2%)、「利用したことがある」(1.4%)となっている。
- ・性別では、「利用したことがある」では、女性の回答割合がやや高い。一方、「知っているが、利用したことはない」では、男性の回答割合がやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、「知っているが、利用したことはない」では、40歳以上の女性と40歳～44歳、55歳以上の男性で、回答割合が2割を超えている。



問 42 あなたは「長野市男女共同参画センター」に、どのような役割を期待しますか。あてはまる番号をすべてお選びください。

- ・全体で見ると、「あらゆる暴力の根絶に関する取組の促進」(37.2%)が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性のための相談」(36.0%)、「女性活躍推進・再就職支援などに向けた講座・講演会の充実」(35.7%)、「男女共同参画に関する講座・講演会の充実」(35.3%)の順が続いている。
- ・性別で見ると、男性では、「男女共同参画に関する講座・講演会の充実」(40.0%)が最も多い回答となる。次いで、「地域における女性リーダーの育成・支援」(35.4%)、「あらゆる暴力の根絶に関する取組の促進」(35.1%)となる。女性では、「女性のための相談」(41.5%)という回答が最も多い。次に、「あらゆる暴力の根絶に関する取組の促進」(39.2%)、「女性活躍推進・再就職支援などに向けた講座・講演会の充実」(37.2%)の順となる。

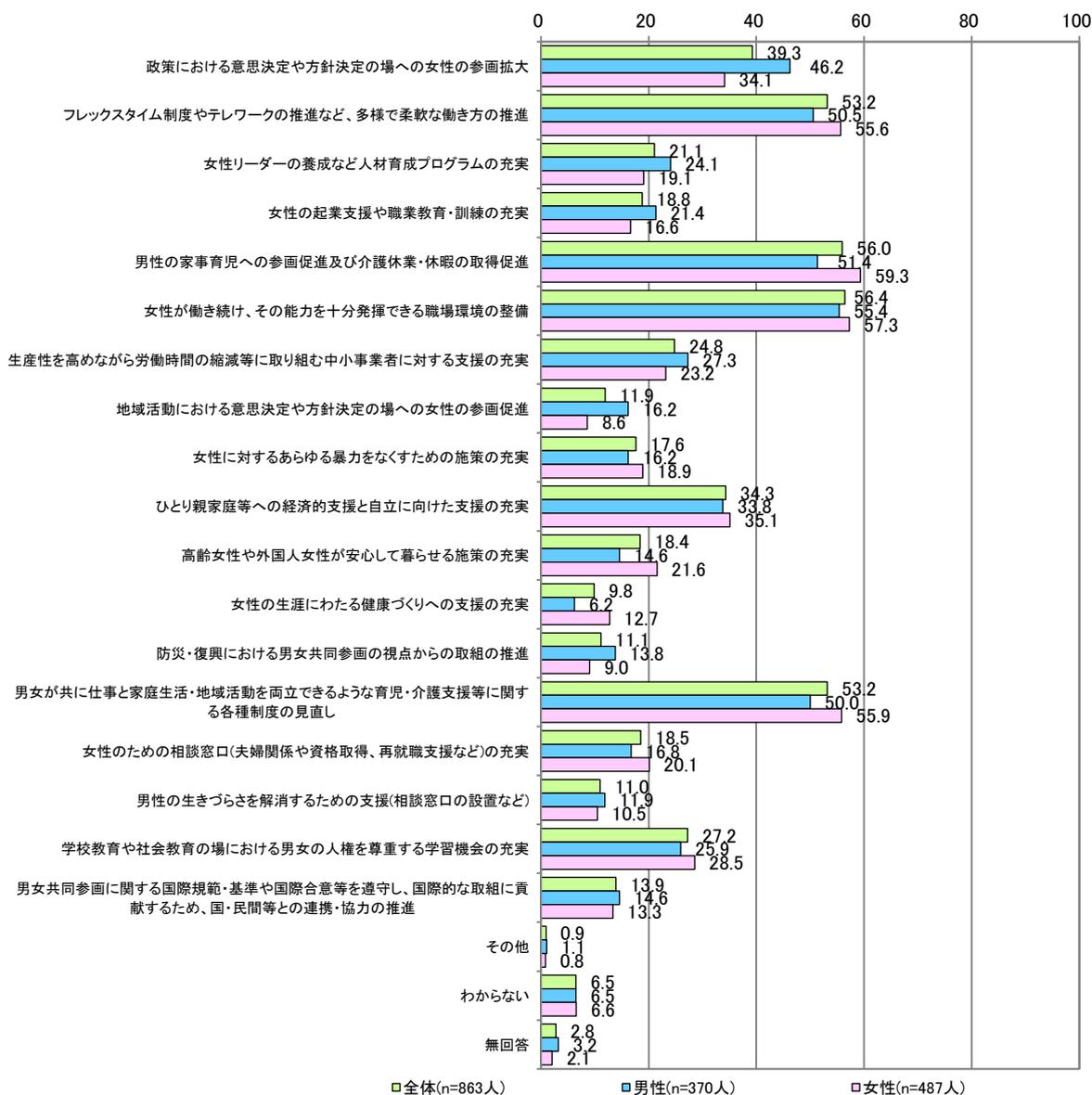
【性別】



問 43 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。
特に重要だと思うものを7つまでお選びください。

- ・全体でみると、「女性が働き続け、その能力を十分発揮できる職場環境の整備」(56.4%)が最も多く、約6割となっている。次いで、「男性の家事育児への参画促進及び介護休業・休暇の取得促進」(56.0%)となる。
- ・性別でみると、男性では、「女性が働き続け、その能力を十分発揮できる職場環境の整備」(51.6%)が最も多い回答となる。次いで、「男性の家事育児への参画促進及び介護休業・休暇の取得促進」(51.4%)、「フレックスタイム制度やテレワークの推進など、多様で柔軟な働き方の推進」(50.5%)となる。女性では、「男性の家事育児への参画促進及び介護休業・休暇の取得促進」(59.3%)という回答が最も多くなっている。次に、「女性が働き続け、その能力を十分発揮できる職場環境の整備」(57.3%)、「男女が共に仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような育児・介護支援等に関する各種制度の見直し」(55.9%)の順となる。

【性別】



資 料

単純集計

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	863	43.2%

あなた自身のことについておたずねします。

A あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①男性	370	42.9%
②女性	487	56.4%
無回答	6	0.7%
合計	863	100.0%

B あなたの年齢について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①20歳未満	18	2.1%
②20歳～24歳	36	4.2%
③25歳～29歳	46	5.3%
④30歳～34歳	63	7.3%
⑤35歳～39歳	74	8.6%
⑥40歳～44歳	64	7.4%
⑦45歳～49歳	65	7.5%
⑧50歳～54歳	87	10.1%
⑨55歳～59歳	86	10.0%
⑩60歳～64歳	88	10.2%
⑪65歳～69歳	125	14.5%
⑫70歳以上	105	12.2%
無回答	6	0.7%
合計	863	100.0%

C あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	22	2.5%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	22	2.5%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	11	1.3%
④会社役員・経営者	39	4.5%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	284	32.9%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	225	26.1%
⑦家事専業者	99	11.5%
⑧学生	32	3.7%
⑨無職	114	13.2%
⑩その他	9	1.0%
無回答	6	0.7%
合計	863	100.0%

D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	87	10.1%
②一世代世帯(夫婦・カップルだけ)	250	29.0%
③二世帯世帯(親と子)	424	49.1%
④三世帯世帯(親と子と孫)	92	10.7%
⑤その他	4	0.5%
無回答	6	0.7%
合計	863	100.0%

E あなたは現在、結婚していますか。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	603	69.9%
②結婚していない	180	20.9%
③結婚していないがパートナーがいる	6	0.7%
④配偶者と離・死別した	68	7.9%
無回答	6	0.7%
合計	863	100.0%

F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる	593	68.7%
②いない	263	30.5%
無回答	7	0.8%
合計	863	100.0%

結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

G 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる(正規社員)	268	44.0%
②いる(非正規:勤務時間は正規社員と同じ)	43	7.1%
③いる(非正規:パート)	103	16.9%
④いない	156	25.6%
⑤その他	37	6.1%
無回答	2	0.3%
合計	609	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。

あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	271	31.4%
②女性が優位	92	10.7%
③平等である	398	46.1%
④わからない	89	10.3%
無回答	13	1.5%
合計	863	100.0%

2 学校教育の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	137	15.9%
②女性が優位	26	3.0%
③平等である	430	49.8%
④わからない	247	28.6%
無回答	23	2.7%
合計	863	100.0%

3 地域社会では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	482	55.9%
②女性が優位	17	2.0%
③平等である	205	23.8%
④わからない	144	16.7%
無回答	15	1.7%
合計	863	100.0%

4 職場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	440	51.0%
②女性が優位	29	3.4%
③平等である	238	27.6%
④わからない	135	15.6%
無回答	21	2.4%
合計	863	100.0%

5 法律や制度の上では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	332	38.5%
②女性が優位	33	3.8%
③平等である	292	33.8%
④わからない	190	22.0%
無回答	16	1.9%
合計	863	100.0%

6 慣習・しきたりでは

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	650	75.3%
②女性が優位	13	1.5%
③平等である	90	10.4%
④わからない	94	10.9%
無回答	16	1.9%
合計	863	100.0%

7 政治の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	671	77.8%
②女性が優位	2	0.2%
③平等である	72	8.3%
④わからない	102	11.8%
無回答	16	1.9%
合計	863	100.0%

8 社会全体では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	602	69.8%
②女性が優位	14	1.6%
③平等である	111	12.9%
④わからない	121	14.0%
無回答	15	1.7%
合計	863	100.0%

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
 あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	334	38.7%
②聞いたことがある	357	41.4%
③知らない	162	18.8%
無回答	10	1.2%
合計	863	100.0%

2 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	89	10.3%
②聞いたことがある	235	27.2%
③知らない	527	61.1%
無回答	12	1.4%
合計	863	100.0%

3 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	123	14.3%
②聞いたことがある	296	34.3%
③知らない	433	50.2%
無回答	11	1.3%
合計	863	100.0%

4 候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	89	10.3%
②聞いたことがある	207	24.0%
③知らない	556	64.4%
無回答	11	1.3%
合計	863	100.0%

問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	30	3.5%
②どちらかといえば賛成	242	28.0%
③どちらかといえば反対	309	35.8%
④反対	268	31.1%
無回答	14	1.6%
合計	863	100.0%

問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚するまでは職業をもつ方がよい	10	1.2%
②子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	38	4.4%
③子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	439	50.9%
④子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	257	29.8%
⑤その他	106	12.3%
無回答	13	1.5%
合計	863	100.0%

女性活躍推進法に基づく女性活躍と「就労」に関することでおたずねします。

問5 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、
あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①必要だと思う	578	67.0%
②どちらかといえば必要だと思う	252	29.2%
③必要ないと思う	17	2.0%
無回答	16	1.9%
合計	863	100.0%

現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問6 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげる
それぞれの面で性別によって差があると思いますか)。
あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 賃金

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	170	28.2%
②女性の方が優遇されている	2	0.3%
③平等である	318	52.7%
④わからない	92	15.3%
無回答	21	3.5%
合計	603	100.0%

2 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	240	39.8%
②女性の方が優遇されている	12	2.0%
③平等である	238	39.5%
④わからない	89	14.8%
無回答	24	4.0%
合計	603	100.0%

3 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	137	22.7%
②女性の方が優遇されている	58	9.6%
③平等である	294	48.8%
④わからない	91	15.1%
無回答	23	3.8%
合計	603	100.0%

4 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	98	16.3%
②女性の方が優遇されている	4	0.7%
③平等である	362	60.0%
④わからない	115	19.1%
無回答	24	4.0%
合計	603	100.0%

5 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	173	28.7%
②女性の方が優遇されている	9	1.5%
③平等である	303	50.2%
④わからない	92	15.3%
無回答	26	4.3%
合計	603	100.0%

問7 あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。

次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①積極的に推進している	173	28.7%
②積極的とは言えないが推進している	290	48.1%
③推進しているとは言えない	107	17.7%
無回答	33	5.5%
合計	603	100.0%

問8 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 あなた自身は活躍したい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	205	34.0%
②やや思う	191	31.7%
③あまり思わない	148	24.5%
④思わない	35	5.8%
無回答	24	4.0%
合計	603	100.0%

2 現在の生活や仕事に満足している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	133	22.1%
②やや思う	253	42.0%
③あまり思わない	123	20.4%
④思わない	71	11.8%
無回答	23	3.8%
合計	603	100.0%

3 女性が社会で働くには不利な点が多い

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	173	28.7%
②やや思う	224	37.1%
③あまり思わない	142	23.5%
④思わない	41	6.8%
無回答	23	3.8%
合計	603	100.0%

4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	184	30.5%
②やや思う	185	30.7%
③あまり思わない	141	23.4%
④思わない	67	11.1%
無回答	26	4.3%
合計	603	100.0%

5 管理職への打診があれば受けてみたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	111	18.4%
②やや思う	90	14.9%
③あまり思わない	178	29.5%
④思わない	186	30.8%
無回答	38	6.3%
合計	603	100.0%

6 退職して仕事に就かない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	46	7.6%
②やや思う	83	13.8%
③あまり思わない	148	24.5%
④思わない	296	49.1%
無回答	30	5.0%
合計	603	100.0%

現在職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問9 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんでしょうか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 女性を管理職へ積極的に登用する

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	288	33.4%
②まあ重要だと思う	379	43.9%
③重要だと思わない	85	9.8%
④わからない	32	3.7%
無回答	79	9.2%
合計	863	100.0%

2 女性職員の採用拡大

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	335	38.8%
②まあ重要だと思う	360	41.7%
③重要だと思わない	59	6.8%
④わからない	31	3.6%
無回答	78	9.0%
合計	863	100.0%

3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	445	51.6%
②まあ重要だと思う	253	29.3%
③重要だと思わない	63	7.3%
④わからない	25	2.9%
無回答	77	8.9%
合計	863	100.0%

4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	464	53.8%
②まあ重要だと思う	256	29.7%
③重要だと思わない	40	4.6%
④わからない	26	3.0%
無回答	77	8.9%
合計	863	100.0%

5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	550	63.7%
②まあ重要だと思う	194	22.5%
③重要だと思わない	22	2.5%
④わからない	20	2.3%
無回答	77	8.9%
合計	863	100.0%

6 企業内託児所や学童保育所などの設置

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	519	60.1%
②まあ重要だと思う	206	23.9%
③重要だと思わない	35	4.1%
④わからない	25	2.9%
無回答	78	9.0%
合計	863	100.0%

離職されている女性の方におたずねします。

問10 再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①正規社員	42	19.7%
②非正規社員	21	9.9%
③パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)	76	35.7%
無回答	74	34.7%
合計	213	100.0%

問10で「2」または「3」を選ばれた方におたずねします。

問11 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものを2つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家事や育児で家族の協力や理解が得られないから	6	6.2%
②正規社員で雇用する企業が少ないから	14	14.4%
③仕事より家庭生活を優先したいから	52	53.6%
④時間外勤務や休日出勤を避けたいから	38	39.2%
⑤配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから	23	23.7%
⑥積極的に仕事に就くつもりがないから	37	
⑦その他	10	10.3%
無回答	0	0.0%
対象数	97	-

離職経験のある方におたずねします。

問12 離職の原因(理由)としてあてはまるものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚	139	30.6%
②出産	133	29.3%
③育児	102	22.5%
④看護	5	1.1%
⑤介護	32	7.0%
⑥転職・起業	125	27.5%
⑦配偶者の転勤	26	5.7%
⑧健康上の理由	96	21.1%
⑨給料が少ない	90	19.8%
⑩解雇等職場の都合	84	18.5%
⑪特に理由はない	33	7.3%
⑫その他	74	16.3%
対象数	454	-

問13 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家事・育児と仕事の両立が難しい	726	84.1%
②女性が就ける仕事に限られている	179	20.7%
③活躍したいと思える仕事がない	61	7.1%
④活躍を望む女性が少ない	144	16.7%
⑤お手本となる「活躍する女性」が身近にいない	120	13.9%
⑥結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い	505	58.5%
⑦上司・同僚の男性の認識、理解が不十分	399	46.2%
⑧家族の理解が不十分	200	23.2%
⑨その他	31	3.6%

無回答	13	1.5%
対象数	863	-

問14 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	189	21.9%
②能力開発、自己啓発	123	14.3%
③働き方改革の推進	266	30.8%
④福利厚生の充実	244	28.3%
⑤賃金の男女平等	206	23.9%
⑥非常勤職員の正規職員化	85	9.8%
⑦家族の理解や協力	262	30.4%
⑧職場の理解や協力	359	41.6%
⑨経営者・管理職の意識改革	192	22.2%
⑩女性自身の意識改革	145	16.8%
⑪育児・介護に関する制度の充実	367	42.5%
⑫ロールモデル(自分が目指したい事を実践している手本となる人)	37	4.3%
⑬その他	13	1.5%
無回答	10	1.2%
対象数	863	-

問15 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	554	64.2%
②求人情報や就職ガイダンスの充実	115	13.3%
③就職に関する相談体制の充実	215	24.9%
④再就職のための講座やセミナーの充実	104	12.1%
⑤子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	763	88.4%
⑥保育所などの保育施設の充実	605	70.1%
⑦その他	34	3.9%
無回答	13	1.5%
対象数	863	-

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問16 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	314	36.4%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	251	29.1%
③知らない	283	32.8%
無回答	15	1.7%
合計	863	100.0%

問17 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について
 あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	24	2.8%
②「家庭生活」優先	157	18.2%
③「地域活動・個人の生活」優先	28	3.2%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	307	35.6%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	30	3.5%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	92	10.7%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	213	24.7%
無回答	12	1.4%
合計	863	100.0%

問18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について
 あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	239	27.7%
②「家庭生活」優先	208	24.1%
③「地域活動・個人の生活」優先	37	4.3%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	211	24.4%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	29	3.4%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	68	7.9%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	52	6.0%
無回答	19	2.2%
合計	863	100.0%

問19 あなたは次にあげる家事をしていますか。
 あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 掃除

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	330	43.1%
②自分と家族が同じ程度している	170	22.2%
③自分は手伝い程度している	191	24.9%
④していない	67	8.7%
無回答	8	1.0%
合計	766	100.0%

2 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	329	43.0%
②自分と家族が同じ程度している	130	17.0%
③自分は手伝い程度している	143	18.7%
④していない	155	20.2%
無回答	9	1.2%
合計	766	100.0%

3 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	312	40.7%
②自分と家族が同じ程度している	216	28.2%
③自分は手伝い程度している	163	21.3%
④していない	65	8.5%
無回答	10	1.3%

合計	766	100.0%
----	-----	--------

4 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	331	43.2%
②自分と家族が同じ程度している	114	14.9%
③自分は手伝い程度している	144	18.8%
④していない	167	21.8%
無回答	10	1.3%
合計	766	100.0%

5 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	319	41.6%
②自分と家族が同じ程度している	185	24.2%
③自分は手伝い程度している	166	21.7%
④していない	85	11.1%
無回答	11	1.4%
合計	766	100.0%

6 ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	290	37.9%
②自分と家族が同じ程度している	173	22.6%
③自分は手伝い程度している	153	20.0%
④していない	138	18.0%
無回答	12	1.6%
合計	766	100.0%

問20 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	276	32.0%
②1～2時間未満	206	23.9%
③2～3時間未満	156	18.1%
④3～5時間未満	125	14.5%
⑤5時間以上	85	9.8%
無回答	15	1.7%
合計	863	100.0%

問21 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	180	20.9%
②1～2時間未満	201	23.3%
③2～3時間未満	187	21.7%
④3～5時間未満	161	18.7%
⑤5時間以上	118	13.7%
無回答	16	1.9%
合計	863	100.0%

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問22 あなたは育児または介護をどの程度していますか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	104	28.9%
②自分と家族が同じ程度している	49	13.6%
③自分は手伝い程度している	78	21.7%
④していない	129	35.8%
合計	360	100.0%

2 介護

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	40	11.6%
②自分と家族が同じ程度している	21	6.1%
③自分は手伝い程度している	40	11.6%
④していない	245	70.8%
合計	346	100.0%

問23 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。

あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	501	58.1%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	564	65.4%
③上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから	595	68.9%
④育児、介護は女性の方が向いているから	216	25.0%
⑤昇給、昇格に影響すると考えるから	295	34.2%
⑥その他	60	7.0%
無回答	23	2.7%
対象数	863	-

問24 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、

どのようなことが重要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	397	46.0%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	341	39.5%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	138	16.0%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	199	23.1%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	513	59.4%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	295	34.2%
⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	65	7.5%
⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	34	3.9%
⑨男性が相談しやすい窓口を設ける	61	7.1%
⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	276	32.0%
⑪その他	20	2.3%
⑫特に必要なことはない	7	0.8%
無回答	24	2.8%
対象数	863	-

「地域社会」に関することでおたずねします。

問25 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において
次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	238	27.6%
②そうではない	249	28.9%
③わからない	363	42.1%
無回答	13	1.5%
合計	863	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	416	48.2%
②そうではない	186	21.6%
③わからない	248	28.7%
無回答	13	1.5%
合計	863	100.0%

3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	145	16.8%
②そうではない	338	39.2%
③わからない	368	42.6%
無回答	12	1.4%
合計	863	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	198	22.9%
②そうではない	229	26.5%
③わからない	424	49.1%
無回答	12	1.4%
合計	863	100.0%

5 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	212	24.6%
②そうではない	198	22.9%
③わからない	438	50.8%
無回答	15	1.7%
合計	863	100.0%

6 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	49	5.7%
②そうではない	304	35.2%
③わからない	497	57.6%
無回答	13	1.5%
合計	863	100.0%

問26 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。
 あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 自治会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	401	46.5%
②女性	4	0.5%
③男性も女性も	222	25.7%
④わからない	222	25.7%
無回答	14	1.6%
合計	863	100.0%

2 自治会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	265	30.7%
②女性	16	1.9%
③男性も女性も	351	40.7%
④わからない	218	25.3%
無回答	13	1.5%
合計	863	100.0%

3 PTAの役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	111	12.9%
②女性	108	12.5%
③男性も女性も	289	33.5%
④わからない	340	39.4%
無回答	15	1.7%
合計	863	100.0%

4 PTAの行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	59	6.8%
②女性	126	14.6%
③男性も女性も	323	37.4%
④わからない	340	39.4%
無回答	15	1.7%
合計	863	100.0%

5 育成会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	84	9.7%
②女性	184	21.3%
③男性も女性も	277	32.1%
④わからない	304	35.2%
無回答	14	1.6%
合計	863	100.0%

6 育成会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	50	5.8%
②女性	189	21.9%
③男性も女性も	305	35.3%
④わからない	305	35.3%
無回答	14	1.6%
合計	863	100.0%

問27 女性も地域の重要な方針決定の場に出いていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	136	15.3%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	228	25.7%
③地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと	207	23.4%
④女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	88	9.9%
⑤女性が積極的に役職につく意識をもつこと	92	10.4%
⑥その他	18	2.0%
⑦わからない	84	9.5%
無回答	33	3.7%
合計	886	100.0%

問28 東日本大震災以降も様々な自然災害が起こる中で、本市においても令和元年東日本台風災害による甚大な被害が発生しました。これらの教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点も必要だと指摘されています。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを、すべてお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	598	69.3%
②市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす	410	47.5%
③避難所などの運営に女性も参画できるようにする	468	54.2%
④防災や災害現場で活動する女性を育成する	359	41.6%
⑤日頃から地域の男女共同参画を進める	408	47.3%
⑥備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる	685	79.4%
⑦日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする	530	61.4%
⑧性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境、物資、安全など)について知識を普及する	532	61.6%
⑨避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする	672	77.9%
⑩その他	28	3.2%
⑪わからない	27	3.1%
無回答	13	1.5%
対象数	863	-

「旧姓使用」に関することでおたずねします。

問29 あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字(姓)が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思いますか。
あなたが結婚している、していないに関わらず、1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①旧姓を通称として使用したいと思う	248	28.7%
②旧姓を通称として使用したいと思わない	354	41.0%
③わからない	234	27.1%
無回答	27	3.1%
合計	863	100.0%

問29で「1」を選ばれた方におたずねします。

問30 住民票やマイナンバーカードに希望者は旧姓を記載することができますが、これ以外に、あなたが旧姓を通称として使用するときに、どのようなものに旧姓が使用できるとよいと思いますか。
あてはまるものを、すべてお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①勤務先の社員証、社内資格など	203	81.9%
②運転免許証など公的な身分証	142	57.3%
③銀行口座	164	66.1%
④証券口座	80	32.3%
⑤保険契約	121	48.8%
⑥各種国家資格	137	55.2%
⑦その他	12	4.8%
⑧特にない	13	5.2%
⑨わからない	6	2.4%
無回答	2	0.8%
対象数	248	-

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問31 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。次にあげる行為は、DVIにあたる行為です。
あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。
あてはまる番号を、それぞれ1つずつお選びください。

1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	14	1.6%
②したことがある	3	0.3%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	837	97.0%
無回答	8	0.9%
合計	863	100.0%

2 なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	63	7.3%
②したことがある	24	2.8%
③受けたこともしたこともある	29	3.4%
④受けたこともしたこともない	736	85.3%
無回答	11	1.3%
合計	863	100.0%

3 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	81	9.4%
②したことがある	56	6.5%
③受けたこともしたこともある	48	5.6%
④受けたこともしたこともない	665	77.1%
無回答	13	1.5%
合計	863	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	24	2.8%
②したことがある	1	0.1%
③受けたこともしたこともある	5	0.6%
④受けたこともしたこともない	823	95.4%
無回答	10	1.2%
合計	863	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	119	13.8%
②したことがある	111	12.9%
③受けたこともしたこともある	125	14.5%
④受けたこともしたこともない	497	57.6%
無回答	11	1.3%
合計	863	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	34	3.9%
②したことがある	2	0.2%
③受けたこともしたこともある	10	1.2%
④受けたこともしたこともない	805	93.3%
無回答	12	1.4%
合計	863	100.0%

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	84	9.7%
②したことがある	25	2.9%
③受けたこともしたこともある	13	1.5%
④受けたこともしたこともない	728	84.4%
無回答	13	1.5%
合計	863	100.0%

8 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	63	7.3%
②したことがある	57	6.6%
③受けたこともしたこともある	69	8.0%
④受けたこともしたこともない	662	76.7%
無回答	12	1.4%
合計	863	100.0%

9 生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	42	4.9%
②したことがある	5	0.6%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	803	93.0%
無回答	12	1.4%
合計	863	100.0%

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	57	6.6%
②したことがある	11	1.3%
③受けたこともしたこともある	3	0.3%
④受けたこともしたこともない	781	90.5%
無回答	11	1.3%
合計	863	100.0%

11 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	37	4.3%
②したことがある	8	0.9%
③受けたこともしたこともある	4	0.5%
④受けたこともしたこともない	799	92.6%
無回答	15	1.7%
合計	863	100.0%

問32 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。
知っている相談窓口すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①長野県女性相談センター	156	18.1%
②長野県児童虐待・DV24時間ホットライン	199	23.1%
③長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)	147	17.0%
④女性の人権ホットライン	173	20.0%
⑤県警性被害犯罪ダイヤルサポート110	156	18.1%
⑥県警(警察安全相談窓口)	421	48.8%
⑦長野犯罪被害者支援センター	85	9.8%
⑧長野市男女共同参画センター	63	7.3%
無回答	245	28.4%
対象数	863	-

問33 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	493	57.1%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	196	22.7%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	134	15.5%
④人権侵害にあたるとは思わない	3	0.3%
⑤わからない	32	3.7%
無回答	5	0.6%
合計	863	100.0%

「性」の多様性に関することでおたずねします。

問34 あなたは「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)※1」または「LGBT※2」という言葉(どちらか一方でも)を知っているか、または聞いたことがありますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	610	70.7%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らなかった	137	15.9%
③知らなかった	110	12.7%
無回答	6	0.7%
合計	863	100.0%

問35 あなたの周りに、性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)の方はいますか。次の中から1つお選びください

選択肢	回答数	回答割合
①いる	81	9.4%
②いない	459	53.2%
③わからない	318	36.8%
無回答	5	0.6%
合計	863	100.0%

問35で「1」を選ばれた方におたずねします。

問36 あなたの周りの性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)は、どなたですか。

選択肢	回答数	回答割合
①あなた自身	2	2.5%
②家族	1	1.2%
③友人	21	25.9%
④あまり親しくない友人や知り合い	56	69.1%
無回答	1	1.2%
合計	81	100.0%

問36で「1」を選ばれた方におたずねします。

問37 あなたはこれまでに、カミングアウトや相談をしたことがありますか。

選択肢	回答数	回答割合
①ある	2	100.0%
②ない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	2	100.0%

問37で「1」を選ばれた方におたずねします。

問38 あなたが、カミングアウトや相談をした相手先をすべてお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家族	0	0.0%
②友人	2	100.0%
③相談機関	0	0.0%
④関係団体	0	0.0%
⑤その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
対象数	2	-

問39 性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。
あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①性の多様性として認めるべきである	580	67.2%
②近な存在だと思う	163	18.9%
③テレビ等マスコミでも取り上げられており、理解に努めようと思う	423	49.0%
④芸能人や特に注目されている人たちのことで、身近な存在ではない	111	12.9%
⑤理解ができない	66	7.6%
⑥個人の趣味、趣向の問題である	225	26.1%
⑦子供を産むために体の性を尊重すべきである	36	4.2%
⑧治療すれば治る病気である	14	1.6%
⑨かかわりたくない	50	5.8%
⑩その他	20	2.3%
無回答	18	2.1%
対象数	863	-

問40 性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを次の中から2つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①社会全体での教育や啓発	452	52.4%
②学校等、子どものところからの教育や啓発	339	39.3%
③社会制度(法制度や条例制定等)の整備	250	29.0%
④社会環境(トイレ等)の整備	134	15.5%
⑤性的少数者に関する相談や支援の充実	214	24.8%
⑥特に必要ない	30	3.5%
⑦その他	5	0.6%
⑧わからない	77	8.9%
無回答	13	1.5%
対象数	863	-

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問41 あなたは、長野市の男女共同参画推進の拠点施設「長野市男女共同参画センター」を利用したことがありますか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①利用したことがある	12	1.4%
②知っているが、利用したことはない	200	23.2%
③知らない	641	74.3%
無回答	10	1.2%
合計	863	100.0%

問42 あなたは、「長野市男女共同参画センター」に、どのような役割を期待しますか。
あてはまる番号すべてお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女共同参画に関する講座・講演会の充実	305	35.3%
②男女共同参画に関する出前講座の充実	199	23.1%
③自主的な活動を行う団体・サークル等への支援	254	29.4%
④女性活躍推進・再就職支援などに向けた講座・講演会の充実	308	35.7%
⑤女性活躍のための意識改革に関する啓発	272	31.5%
⑥地域における女性リーダーの育成・支援	279	32.3%
⑦女性のための相談	311	36.0%
⑧図書や情報の収集・提供	123	14.3%
⑨男女共同参画に関する調査・研究	200	23.2%
⑩女性起業家への支援	207	24.0%
⑪女性団体・NPO等のネットワークの構築	180	20.9%
⑫あらゆる暴力の根絶に関する取組の促進	321	37.2%
⑬その他	11	1.3%
⑭特になし	140	16.2%
無回答	42	4.9%
対象数	863	-

問43 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。
あなたが特に重要だと思うものを7つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①政策における意思決定や方針決定の場への女性の参画拡大	339	39.3%
②フレックスタイム制度やテレワークの推進など、多様で柔軟な働き方の推進	459	53.2%
③女性リーダーの養成など人材育成プログラムの充実	182	21.1%
④女性の起業支援や職業教育・訓練の充実	162	18.8%
⑤男性の家事育児への参画促進及び介護休業・休暇の取得促進	483	56.0%
⑥女性が働き続け、その能力を十分発揮できる職場環境の整備	487	56.4%
⑦生産性を高めながら労働時間の縮減等に取り組む中小事業者に対する支援の充実	214	24.8%
⑧地域活動における意思決定や方針決定の場への女性の参画促進	103	11.9%
⑨女性に対するあらゆる暴力をなくすための施策の充実	152	17.6%
⑩ひとり親家庭等への経済的支援と自立に向けた支援の充実	296	34.3%
⑪高齢女性や外国人女性が安心して暮らせる施策の充実	159	18.4%
⑫女性の生涯にわたる健康づくりへの支援の充実	85	9.8%
⑬防災・復興における男女共同参画の視点からの取組の推進	96	11.1%
⑭男女が共に仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような育児・介護支援等に関する各種制度の見直し	459	53.2%
⑮女性のための相談窓口(夫婦関係や資格取得、再就職支援など)の充実	160	18.5%
⑯男性の生きづらさを解消するための支援(相談窓口の設置など)	95	11.0%
⑰学校教育や社会教育の場における男女の人権を尊重する学習機会の充実	235	27.2%
⑱男女共同参画に関する国際規範・基準や国際合意等を遵守し、国際的な取組に貢献するため、国・民間等との連携・協力の推進	120	13.9%
⑲その他	8	0.9%
⑳わからない	56	6.5%
無回答	24	2.8%
対象数	863	-

問44 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①文章回答あり	106	12.3%
②文章回答無し	757	87.7%
合計	863	100.0%

調査票

各 位



長野市男女共同参画シンボルマーク

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」ご協力をお願い

平素から、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、心豊かで生きがいのある社会を形成するために、男女が社会の対等な構成員として喜びと責任を共に分かちあい、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現のため、講座やセミナーの開催、推進活動の支援、相談事業などさまざまな施策を進めています。

この調査は、男女共同参画や女性活躍推進などの各種施策の基礎資料とするため、令和2年9月1日現在、市内にお住いの18歳以上75歳未満の市民の皆様から男女2,000人を年齢により、年代別に無作為によって選ばせていただいた中のお一人としてお願いするものです。

なお、この調査は無記名で行い、お答えはすべて数値に置き換え、統計的に処理した上で分析します。今後の施策推進や啓発のために使用し、集計結果として公表することはありますが、皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和2年9月

長野市長 加藤久雄

ご記入にあたってのお願い

- ☆ お答えは、当てはまる番号を、設問右側の回答欄へお書きください。
- ☆ 「その他」に当てはまる場合は、お手数をおかけしますが〔 〕内になるべく具体的に記入してください。
- ☆ 一部の方だけお答えいただく設問もあります。
- ☆ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに令和2年9月30日(水)までにポストに投函してください。

この調査についてのお問い合わせは

長野市地域・市民生活部人権・男女共同参画課

電 話 : 224-5428(直通)

ファクス : 224-7547

担当: 北澤までお願いします。

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」調査票

あなた自身のことについておたずねします。

A あなたの性別※を教えてください。

- 1 男性 2 女性

※戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

A

B あなたの年齢について教えてください。

- 1 20歳未満 2 20歳～24歳 3 25歳～29歳 4 30歳～34歳
5 35歳～39歳 6 40歳～44歳 7 45歳～49歳 8 50歳～54歳
9 55歳～59歳 10 60歳～64歳 11 65歳～69歳 12 70歳以上

B

C あなたの職業を教えてください。

- 1 農林漁業の自営業主・家族従業者
2 農林漁業以外の自営業主・家族従業者
3 自由業（開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など）
4 会社役員・経営者
5 正社員・正職員などの正規雇用者
6 パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者
7 家事専業者
8 学生
9 無職
10 その他〔具体的に

C

D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

- 1 単身世帯(含単身赴任) 2 一世代世帯(夫婦・カップルだけ)
3 二世帯世帯(親と子) 4 三世帯世帯(親と子と孫)
5 その他〔具体的に

D

E あなたは現在、結婚していますか。

- 1 結婚している 2 結婚していない
3 結婚していないがパートナーがいる 4 配偶者と離・死別した

E

F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

- 1 いる 2 いない

F

結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

G 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

- 1 いる（正規社員） 2 いる（非正規：勤務時間は正規社員と同じ）
3 いる（非正規：パート） 4 いない
5 その他〔具体的に

G

女性活躍推進法に基づく「女性活躍と就労」に関することでおたずねします。

問5 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 必要だと思う
- 2 どちらかといえば必要だと思う
- 3 必要ないと思う

問5

現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問6 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	わからない	
1 賃金	1	2	3	4	→
2 昇進や昇格	1	2	3	4	→
3 仕事の内容	1	2	3	4	→
4 研修の機会や内容	1	2	3	4	→
5 経験や能力を発揮する機会	1	2	3	4	→

問6

問7 あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 積極的に推進している
- 2 積極的とは言えないが推進している
- 3 推進しているとは言えない

問7

問8 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
1 あなた自身は活躍したい	1	2	3	4	→
2 現在の生活や仕事に満足している	1	2	3	4	→
3 女性が社会で働くには不利な点が多い	1	2	3	4	→
4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい	1	2	3	4	→
5 管理職への打診があれば受けてみたい	1	2	3	4	→
6 退職して仕事に就かない	1	2	3	4	→

問8

現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問9 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんでしょうか。
あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	とても重要 だと思う	まあ重要 だと思う	重要だど 思わない	わからない		問9
1 女性を管理職へ積極的に登用する	1	2	3	4	→	
2 女性職員の採用拡大	1	2	3	4	→	
3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善	1	2	3	4	→	
4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化	1	2	3	4	→	
5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入	1	2	3	4	→	
6 企業内託児所や学童保育所などの設置	1	2	3	4	→	

離職されている方におたずねします。

問10 再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

- 1 正規社員
- 2 非正規社員
- 3 パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）

問10

問10で「2」または「3」を選ばれた方におたずねします。

問11 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものを2つまでお選びください。

- 1 家事や育児で家族の協力や理解が得られないから
- 2 正規社員で雇用する企業が少ないから
- 3 仕事より家庭生活を優先したいから
- 4 時間外勤務や休日出勤を避けたいから
- 5 配偶者（特別）控除の範囲内で働きたいから
- 6 積極的に仕事に就くつもりがないから
- 7 その他〔具体的に

問11

離職経験のある方におたずねします。

問12 離職の原因(理由)としてあてはまるものを3つまでお選びください。

- | | | |
|-------------|------------|----------|
| 1 結婚 | 2 出産 | 3 育児 |
| 4 看護 | 5 介護 | 6 転職・起業 |
| 7 配偶者の転勤 | 8 健康上の理由 | 9 給料が少ない |
| 10 解雇等職場の都合 | 11 特に理由はない | |
| 12 その他〔具体的に | | |

問12

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問13 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 家事・育児と仕事の両立が難しい
- 2 女性が就ける仕事に限られている
- 3 活躍したいと思える仕事がない
- 4 活躍を望む女性が少ない
- 5 お手本となる「活躍する女性」が身近にいない
- 6 結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い
- 7 上司・同僚の男性の認識、理解が不十分
- 8 家族の理解が不十分
- 9 その他〔具体的に

問13

問14 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 女性の積極的登用
- 2 能力開発、自己啓発
- 3 働き方改革の推進
- 4 福利厚生の充実
- 5 賃金の男女平等
- 6 非常勤職員の正規職員化
- 7 家族の理解や協力
- 8 職場の理解や協力
- 9 経営者・管理職の意識改革
- 10 女性自身の意識改革
- 11 育児・介護に関する制度の充実
- 12 ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人）
- 13 その他〔具体的に

問14

問15 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 離職しても同一企業に再雇用されるようにすること
- 2 求人情報や就職ガイダンスの充実
- 3 就職に関する相談体制の充実
- 4 再就職のための講座やセミナーの充実
- 5 子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備
- 6 保育所などの保育施設の充実
- 7 その他〔具体的に

問15

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問16 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問16

問17 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について
あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問17

問18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について
あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問18

問19 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族 が同じ程度 している	自分は手伝 い程度して いる	していない		問19
1 掃除	1	2	3	4	→	
2 洗濯	1	2	3	4	→	
3 食料品、日用品など の買物	1	2	3	4	→	
4 食事のしたく	1	2	3	4	→	
5 食事の後かたづけ	1	2	3	4	→	
6 ごみ捨て	1	2	3	4	→	

問20 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つお選びください。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 0～1時間未満 | 2 1～2時間未満 |
| 3 2～3時間未満 | 4 3～5時間未満 |
| 5 5時間以上 | |

問20

問21 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つお選びください。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 0～1時間未満 | 2 1～2時間未満 |
| 3 2～3時間未満 | 4 3～5時間未満 |
| 5 5時間以上 | |

問21

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問22 あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族が 同じ程度して いる	自分は手伝い 程度している	していない	
1 育児(お孫さんを含む)	1	2	3	4	→
2 介護	1	2	3	4	→

問22

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問23 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。
あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

- 1 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
- 2 職場や同僚に迷惑がかかるから
- 3 上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
- 4 育児、介護は女性の方が向いているから
- 5 昇給、昇格に影響すると考えるから
- 6 その他〔具体的に

問23

問24 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、
どのようなことが重要だと思いますか。

あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

- 1 男女の固定的な役割分担意識を改める
- 2 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
- 3 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
- 5 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 6 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
- 7 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる
- 9 男性が相談しやすい窓口を設ける
- 10 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
- 11 その他〔具体的に
- 12 特に必要なことはない

問24

「地域社会」に関することでおたずねします。

問25 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	そうである	そうではない	わからない		問25
1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている	1	2	3	→	
2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である	1	2	3	→	
3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている	1	2	3	→	
4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3	→	
5 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている	1	2	3	→	
6 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3	→	

問26 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	男性	女性	男性も女性も	わからない		問26
1 自治会の役員活動	1	2	3	4	→	
2 自治会の行事等の活動	1	2	3	4	→	
3 PTAの役員活動	1	2	3	4	→	
4 PTAの行事等の活動	1	2	3	4	→	
5 育成会の役員活動	1	2	3	4	→	
6 育成会の行事等の活動	1	2	3	4	→	

問27 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 役員の中での女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）*を導入すること
- 2 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
- 3 地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと
- 4 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
- 5 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
- 6 その他〔具体的に _____ 〕
- 7 わからない

問27

* 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)・・・男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいいます。

問28 東日本大震災以降も様々な自然災害が起こる中で、本市においても令和元年東日本台風災害による甚大な被害が発生しました。これらの教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点も必要だと指摘されています。
災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを、すべてをお選びください。

- 1 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
- 2 市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす
- 3 避難所などの運営に女性も参画できるようにする
- 4 防災や災害現場で活動する女性を育成する
- 5 日頃から地域の男女共同参画を進める
- 6 備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる
- 7 日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする
- 8 性別や立場によって異なる災害時の備え（生活環境、物資、安全など）について知識を普及する
- 9 避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする
- 10 その他〔具体的に 〕
- 11 わからない

問28	

「旧姓使用」に関することでおたずねします。

問29 あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字(姓)が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思いますか。
あなたが結婚している、いないに関わらず、1つお選びください。

- 1 旧姓を通称として使用したいと思う
- 2 旧姓を通称として使用したいと思わない
- 3 わからない

問 29

問29で「1」を選ばれた方におたずねします。

問30 住民票やマイナンバーカードに希望者は旧姓を記載することができますが、これ以外に、あなたが旧姓を通称として使用するとき、どのようなものに旧姓が使用できるとよいと思いますか。
あてはまるものを、すべてお選びください。

- 1 勤務先の社員証、社内資格など
- 2 運転免許証など公的な身分証
- 3 銀行口座
- 4 証券口座
- 5 保険契約
- 6 各種国家資格
- 7 その他〔具体的に 〕
- 8 特にない
- 9 わからない

問 30	

ここからは、再び全員の方におたずねします。

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問31 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)※として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。

あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。

あてはまる番号を、それぞれ1つずつお選びください。

※DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為をいいます。

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない		問31
1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす	1	2	3	4	→	
2 なぐる、ける	1	2	3	4	→	
3 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4	→	
4 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4	→	
5 大声で怒鳴る	1	2	3	4	→	
6 メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4	→	
7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4	→	
8 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	→	
9 生活費を渡さない	1	2	3	4	→	
10 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	→	
11 避妊に協力しない	1	2	3	4	→	

問32 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- 1 長野県女性相談センター
- 2 長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン
- 3 長野市福祉事務所（長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内）
- 4 女性の人権ホットライン
- 5 県警性被害犯罪ダイヤルサポート110
- 6 県警（警察安全相談窓口）
- 7 長野犯罪被害者支援センター
- 8 長野市男女共同参画センター

問32	

問33 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 2 どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 3 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 4 人権侵害にあたるとは思わない
- 5 わからない

問33

「性」の多様性に関することでおたずねします。

問34 あなたは「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)*1」または「LGBT*2」という言葉(どちらか一方でも)を知っているか、または聞いたことがありますか。
次の中から1つお選びください。

- 1 知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らなかった
- 3 知らなかった

問34

※1 「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)」とは、性的志向(どの性別を恋愛・性愛の対象とするか)あるいは性自認(自己をどの性別と認識するか)に関する少数派の人たちのことを指します。
※2 「LGBT」とは、性的少数者の一部である「L:レズビアン(女性同性愛者)」「G:ゲイ(男性同性愛者)」「B:バイセクシュアル(両性愛者)」「T:トランスジェンダー(性別違和)」の頭文字を並べた略称のことです。

問35 あなたの周りに、性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)の方はいますか。次の中から1つお選びください。

- 1 いる
- 2 いない
- 3 わからない

問35

問35で「1」を選ばれた方におたずねします。

問36 あなたの周りの性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)は、どなたですか。

- 1 あなた自身
- 2 家族
- 3 友人
- 4 あまり親しくない友人や知り合い

問36

問36で「1」を選ばれた方におたずねします。

問37 あなたはこれまでに、カミングアウトや相談をしたことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない

問37

問37で「1」を選ばれた方におたずねします。

問38 あなたが、カミングアウトや相談をした相手先をすべてお選びください。

- 1 家族
- 2 友人
- 3 相談機関
- 4 関係団体
- 5 その他〔具体的に

問38

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問39 性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

- 1 性の多様性として認めるべきである
- 2 身近な存在だと思う
- 3 テレビ等マスコミでも取り上げられており、理解に努めようと思う
- 4 芸能人や特に注目されている人たちのことで、身近な存在ではない
- 5 理解ができない
- 6 個人の趣味、趣向の問題である
- 7 子供を産むために体の性を尊重すべきである
- 8 治療すれば治る病気である
- 9 かかわりたくない
- 10 その他〔具体的に

問39

問40 性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から2つまでお選びください。

- 1 社会全体での教育や啓発
- 2 学校等、子どもたちからの教育や啓発
- 3 社会制度（法制度や条例制定等）の整備
- 4 社会環境（トイレ等）の整備
- 5 性的少数者に関する相談や支援の充実
- 6 特に必要ない
- 7 その他〔具体的に
- 8 わからない

問40

「男女共同参画施策」に関することにおたずねします。

問41 あなたは、長野市の男女共同参画推進の拠点施設「長野市男女共同参画センター」を利用したことがありますか。次の中から1つお選びください。

- 1 利用したことがある
- 2 知っているが、利用したことはない
- 3 知らない

問41

--

問42 あなたは「長野市男女共同参画センター」に、どのような役割を期待しますか。あてはまる番号をすべてお選びください。

- 1 男女共同参画に関する講座・講演会の充実
- 2 男女共同参画に関する出前講座の充実
- 3 自主的な活動を行う団体・サークル等への支援
- 4 女性活躍推進・再就職支援などに向けた講座・講演会の充実
- 5 女性活躍のための意識改革に関する啓発
- 6 地域における女性リーダーの育成・支援
- 7 女性のための相談
- 8 図書や情報の収集・提供
- 9 男女共同参画に関する調査・研究
- 10 女性起業家への支援
- 11 女性団体・NPO等のネットワークの構築
- 12 あらゆる暴力の根絶に関する取組の促進
- 13 その他〔具体的に
- 14 特にない

問42

問43 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。
あなたが特に重要だと思うものを7つまでお選びください。

- | | 問43 |
|--|-----|
| 1 政策における意思決定や方針決定の場への女性の参画拡大 | |
| 2 フレックスタイム制度やテレワークの推進など、多様で柔軟な働き方の推進 | |
| 3 女性リーダーの養成など人材育成プログラムの充実 | |
| 4 女性の起業支援や職業教育・訓練の充実 | |
| 5 男性の家事育児への参画促進及び介護休業・休暇の取得促進 | |
| 6 女性が働き続け、その能力を十分発揮できる職場環境の整備 | |
| 7 生産性を高めながら労働時間の縮減等に取り組む中小事業者に対する支援の充実 | |
| 8 地域活動における意思決定や方針決定の場への女性の参画促進 | |
| 9 女性に対するあらゆる暴力をなくすための施策の充実 | |
| 10 ひとり親家庭等への経済的支援と自立に向けた支援の充実 | |
| 11 高齢女性や外国人女性が安心して暮らせる施策の充実 | |
| 12 女性の生涯にわたる健康づくりへの支援の充実 | |
| 13 防災・復興における男女共同参画の視点からの取組の推進 | |
| 14 男女が共に仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような育児・介護支援等に関する各種制度の見直し | |
| 15 女性のための相談窓口（夫婦関係や資格取得、再就職支援など）の充実 | |
| 16 男性の生きづらさを解消するための支援（相談窓口の設置など） | |
| 17 学校教育や社会教育の場における男女の人権を尊重する学習機会の充実 | |
| 18 男女共同参画に関する国際規範・基準や国際合意等を遵守し、国際的な取組に貢献するため、国・民間等との連携・協力の推進 | |
| 19 その他〔具体的に | 〕 |
| 20 わからない | |

問44 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入漏れ等を確認いただき、同封の返信用封筒に調査票を入れ9月30日(水)までにポストへご投函ください。

令和2年12月発行

発行 長野市

編集 長野市地域・市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町1613番地 電話026(224)5032(直通)

E-mail : jinken-danjo@city.nagano.lg.jp

集計 協同組合長野シーアイ開発センター